

# 草津市男女共同参画についてのアンケート

## 報告書

平成 21（2009）年 3 月

草津市



# 目 次

<b>1</b>	<b>調査概要</b> .....	<b>1</b>
	(1) 調査目的 .....	1
	(2) 調査内容 .....	1
	(3) 調査対象 .....	1
	(4) 調査方法 .....	2
	(5) 回収結果 .....	2
	(6) 調査結果の表示方法 .....	2
<b>2</b>	<b>調査結果</b> .....	<b>3</b>
	(1) 家庭生活について .....	3
	(2) ワーク・ライフ・バランスについて .....	22
	(3) 介護について .....	25
	(4) ドメスティック・バイオレンスについて .....	29
	(5) 社会活動について .....	43
	(6) 地域について .....	49
	(7) 労働について .....	54
	(8) セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）について .....	64
	(9) 男女共同参画全般について .....	81
	(10) 回答者属性 .....	122
	<b>参考資料</b> .....	<b>123</b>
	(1) 調査結果表 .....	123
	(2) 調査票 .....	196



## (1) 調査目的

本調査は、「草津市男女共同参画推進条例」（平成 21 年 4 月 1 日施行）の制定を受け、市民の意識、家庭生活、職業生活等の変化と現状を把握し、新たに草津市男女共同参画推進計画を策定するための基礎資料とすることを目的として実施しました。

## (2) 調査内容

- 1 家庭生活について
- 2 ワーク・ライフ・バランスについて
- 3 介護について
- 4 ドメスティック・バイオレンスについて
- 5 社会活動について
- 6 地域について
- 7 労働について
- 8 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）について
- 9 男女共同参画全般について
- 10 属性

## (3) 調査対象

草津市内に住む 20 歳以上の男女から 3,000 人+230 人（補足標本分）を無作為抽出しました。

また、各地域の状況を平均的に見るために、人口の少ない志津南地域と常盤地域については補足標本を抽出しました。

年齢別抽出数については、男女共同参画社会の形成には子育て中の年代から孫を見る年代までの影響力が大きいと考えられることから、30 歳代から 50 歳代に比重を置きました。

男女の比率は 1 : 1 としました。

年齢	抽出数	20 歳以上年齢別人口（平成 20 年 12 月 1 日現在）		
		女性	男性	合計
20 歳代	500	7,229	8,526	15,755
30 歳代	600	9,823	10,281	20,104
40 歳代	600	7,358	7,905	15,263
50 歳代	600	7,606	7,293	14,899
60 歳代	400	7,337	7,417	14,754
70 歳代	300	4,332	3,964	8,296

#### (4) 調査方法

郵送による配布、回収。お礼状兼督促状の送付 1 回

調査期間：平成 21 年 1 月 9 日～平成 21 年 1 月 26 日（書面）

#### (5) 回収結果

	配布（件）	回収（件）	回収率（％）
本標本	3,000	1,551	51.7
補足標本	230	135	58.7
合計	3,230	1,686	52.2

#### (6) 調査結果の表示方法

- ・集計結果の％表示は、小数点以下第 2 位を四捨五入してありますので、内訳の合計がちょうど 100.0％にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、すべての比率の合計がちょうど 100.0％にならない場合があります。
- ・クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・「N」は有効回答数（件）を示します。

## (1) 家庭生活について

問1 あなたのご家庭では、日ごろ次のような役割を主に誰が行っていますか。  
(1～12のそれぞれ1つに○)

分野別で見ると、全ての分野で「主として妻・母」の割合が高くなっています。特に、他の分野に比べ「食事のしたく」、「食事の後片付け」、「掃除」、「洗濯をする」、「洗濯物を干す」では「主として妻・母」の割合が高く、7割以上を占めています。また、他の分野に比べ「近所や親類のつきあい」では「夫婦同程度」の割合が、「自治会や町内会活動」では「主として夫・父」の割合が高く、それぞれ約3割を占めています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「自治会や町内会活動」では「主として夫・父」の割合が低くなっています。

図 家庭での役割分担（平成 20 年度調査）

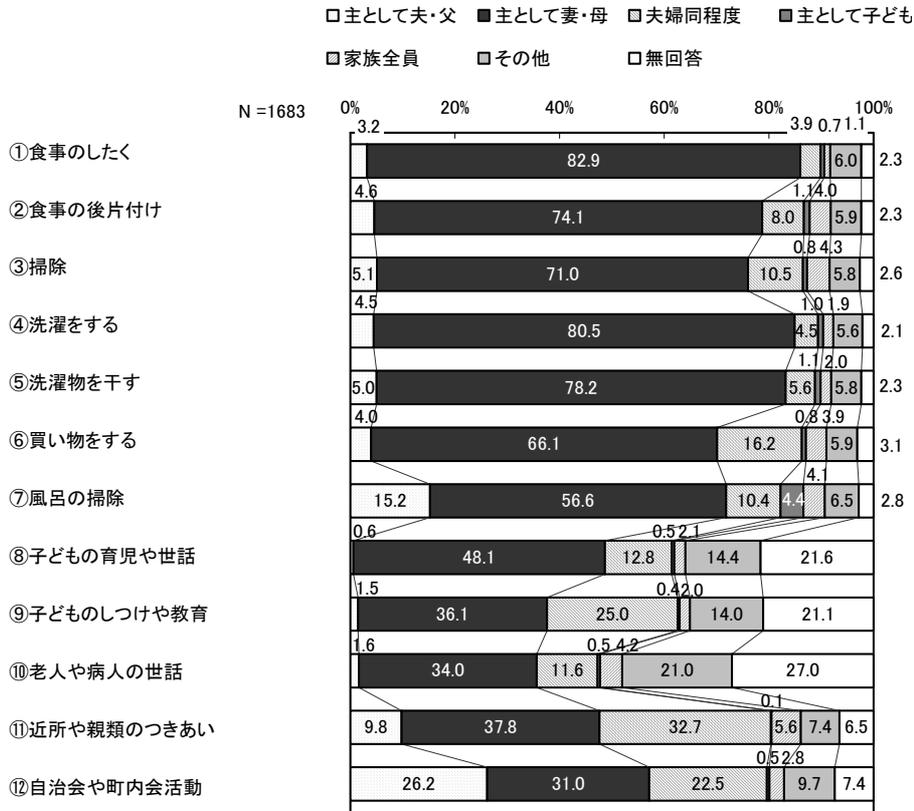
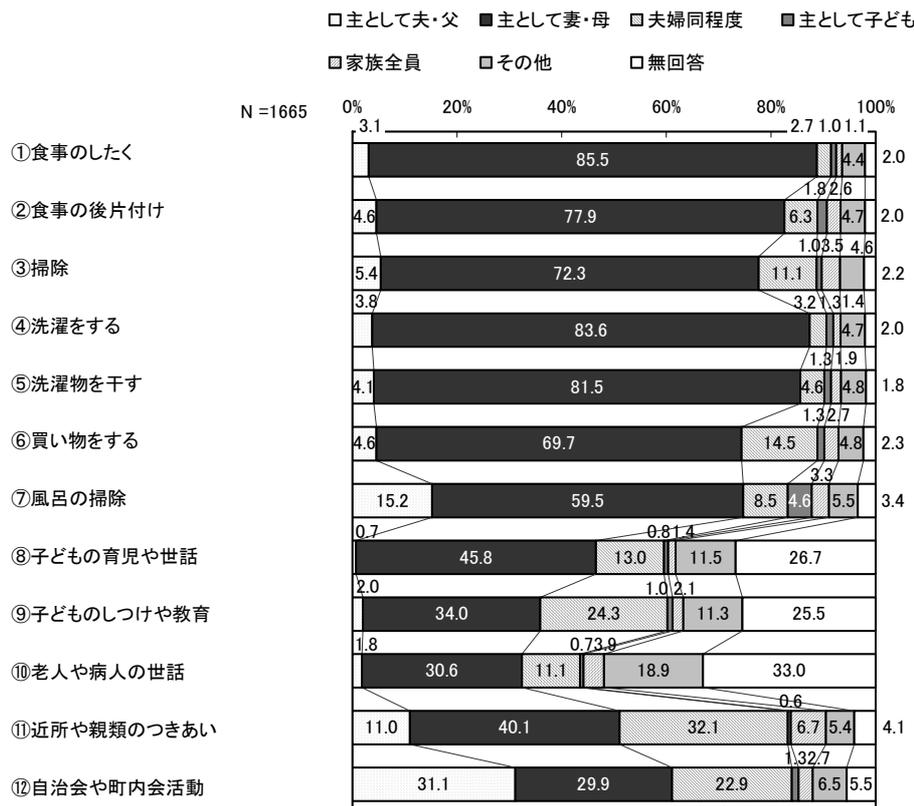


図 家庭での役割分担（平成 13 年度調査）



性別でみると、男性は、他の分野に比べ「風呂の掃除」、「近所や親類のつきあい」、「自治会や町内会活動」で「主として夫・父」の割合が高くなっています。

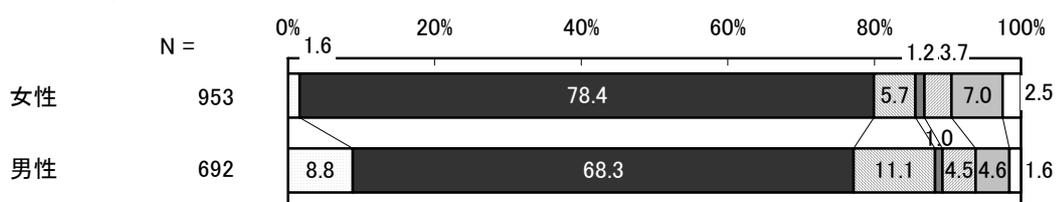
図 性別でみる家庭での役割分担

□主として夫・父 ■主として妻・母 ▨夫婦同程度 ■主として子ども  
 □家族全員 □その他 □無回答

①食事のしたく



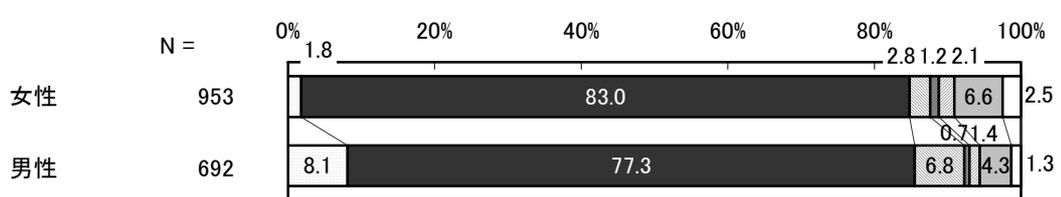
②食事の後片付け



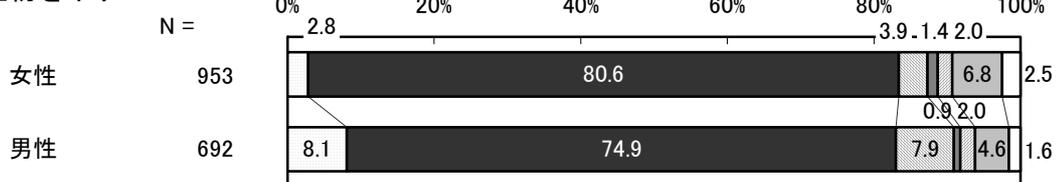
③掃除



④洗濯をする



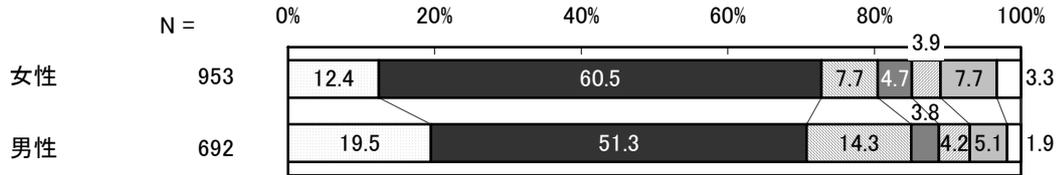
⑤洗濯物を干す



⑥買い物をする



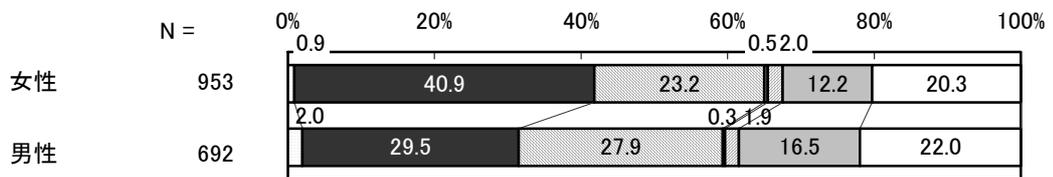
⑦風呂の掃除



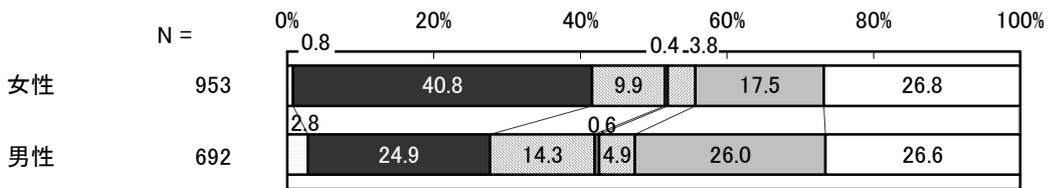
⑧子どもの育児や世話



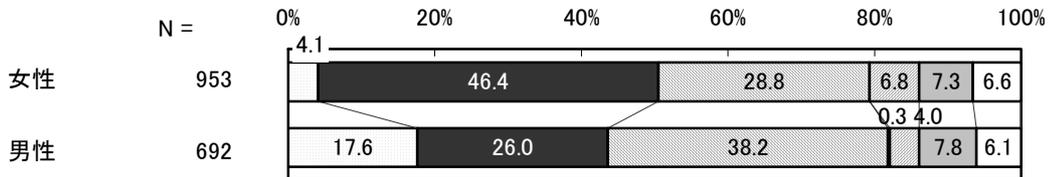
⑨子どものしつけや教育



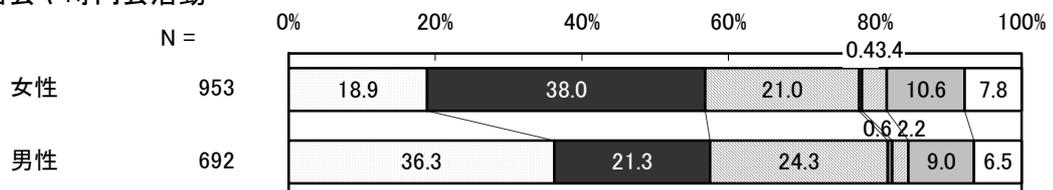
⑩老人や病人の世話



⑪近所や親類のつきあい



⑫自治会や町内会活動



性・年代別でみると、「風呂の掃除」では他の年代に比べ男性の20歳代、30歳代、60歳代以上で「主として夫・父」の割合が高く、「自治会や町内会活動」では50歳代以上で「主として夫・父」の割合が高くなっています。

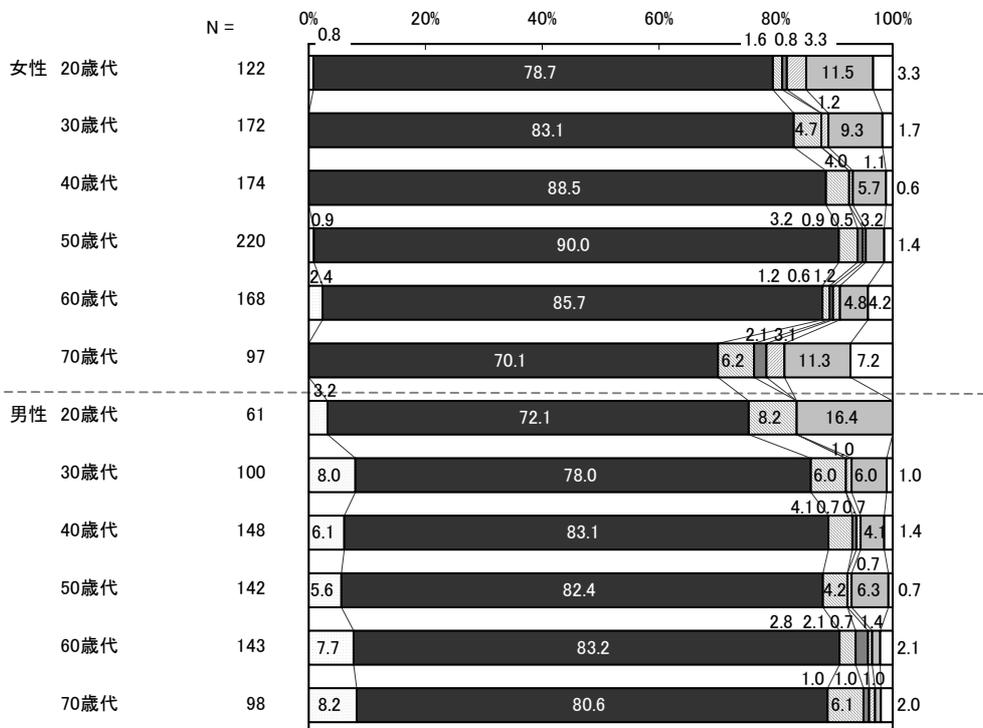
また、「掃除」、「洗濯をする」、「洗濯物を干す」、「買い物をする」、「子どもの育児や世話」、「老人や病人の世話」、「自治会や町内会活動」では他の年代に比べ女性の40歳代、50歳代で「主として妻・母」の割合が高くなっています。「食事の後片付け」、「掃除」、「洗濯をする」、「洗濯物を干す」では他の年代に比べ男性の50歳代、60歳代で「主として妻・母」の割合が高くなっています。

「子どものしつけや教育」では他の年代に比べ女性の30歳代から50歳代、男性の30歳代、40歳代で「夫婦同程度」の割合が高く、「近所や親類のつきあい」では他の年代に比べ男性の50歳代以上で「夫婦同程度」の割合が高くなっています。

図 性・年代別でみる家庭での役割分担

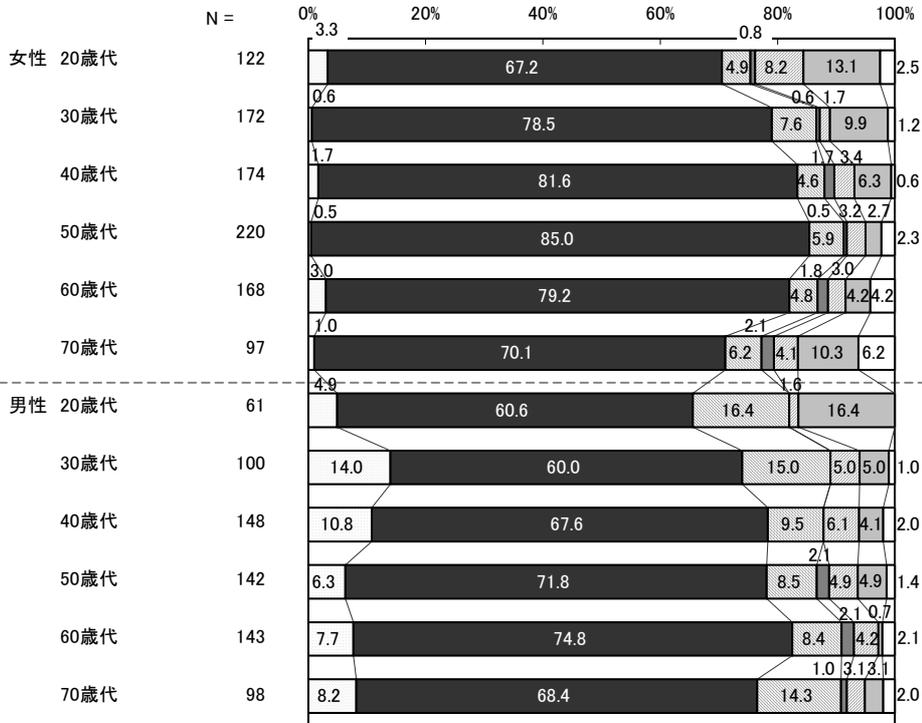
□主として夫・父 ■主として妻・母 □夫婦同程度 ■主として子ども  
 □家族全員 □その他 □無回答

①食事のしたく

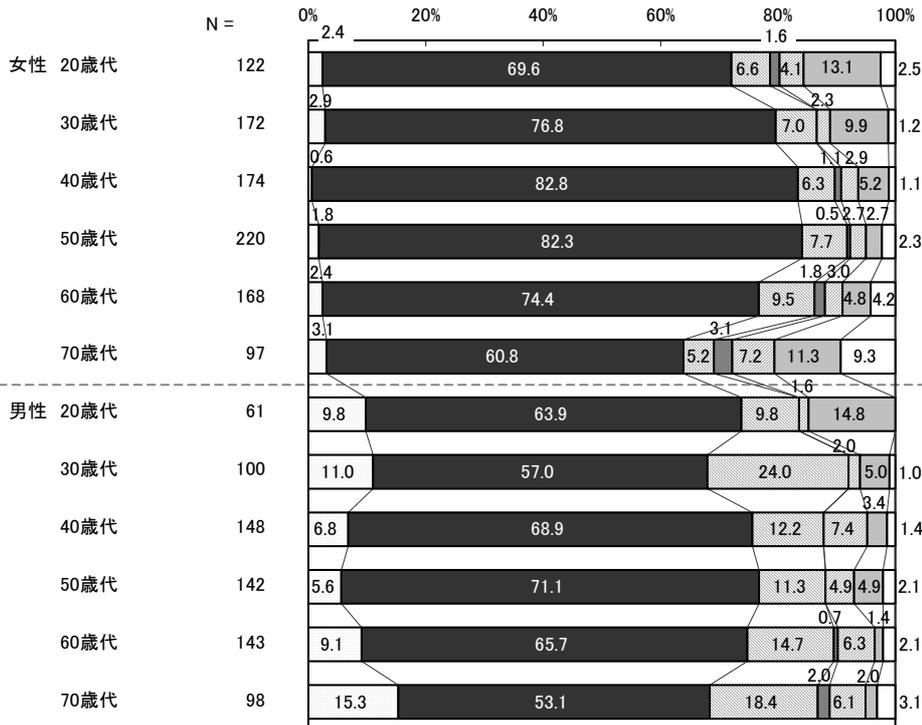


主として夫・父   主として妻・母   夫婦同程度   主として子ども  
家族全員   その他   無回答

### ②食事後片付け

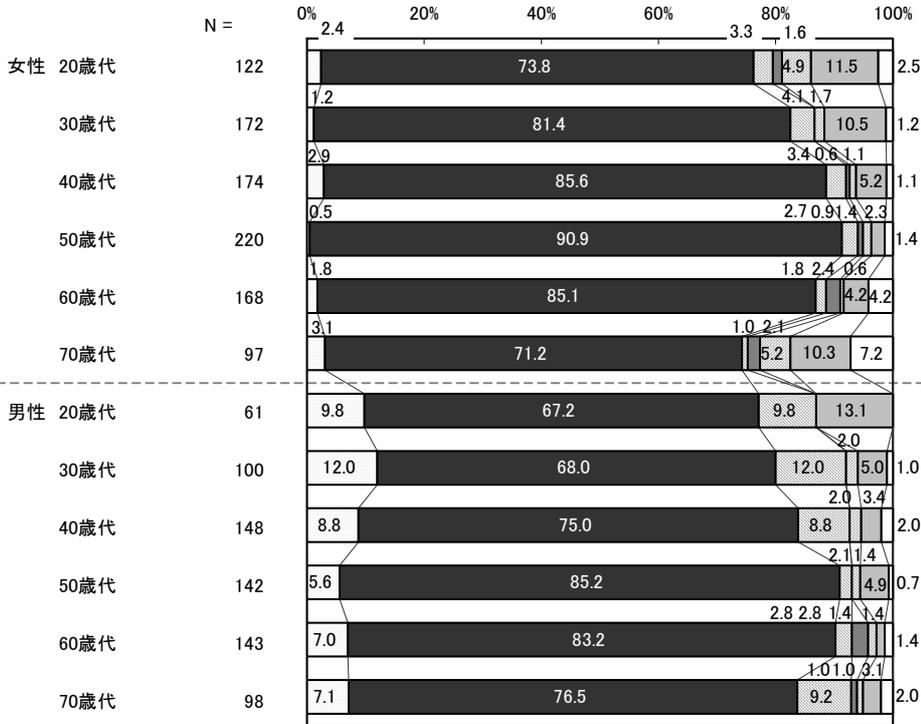


### ③掃除

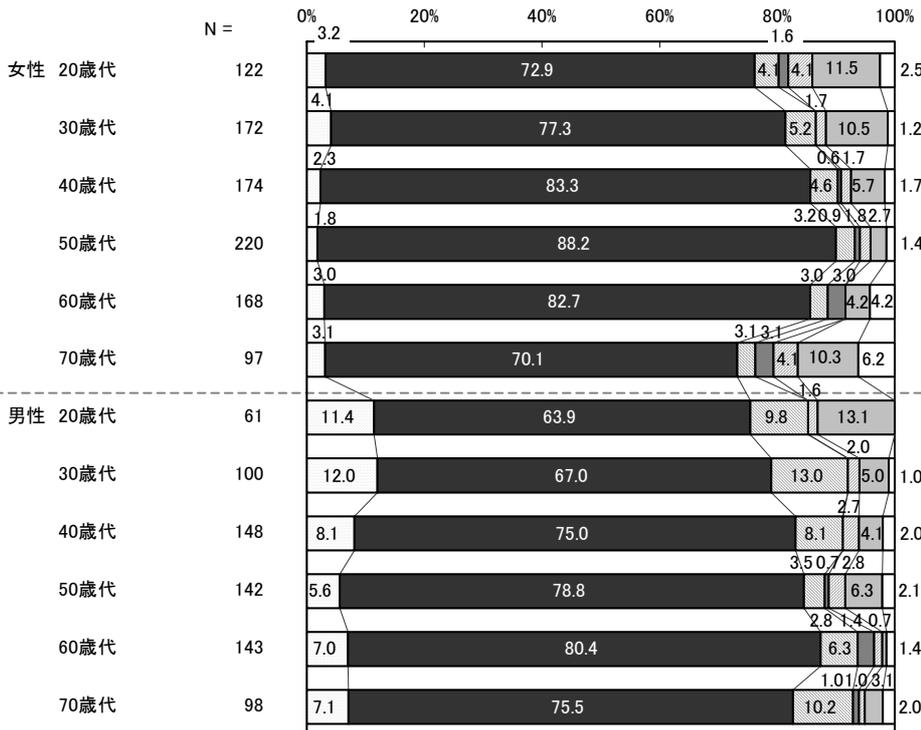


□主として夫・父 ■主として妻・母 □夫婦同程度 ■主として子ども  
 □家族全員 □その他 □無回答

④洗濯をする

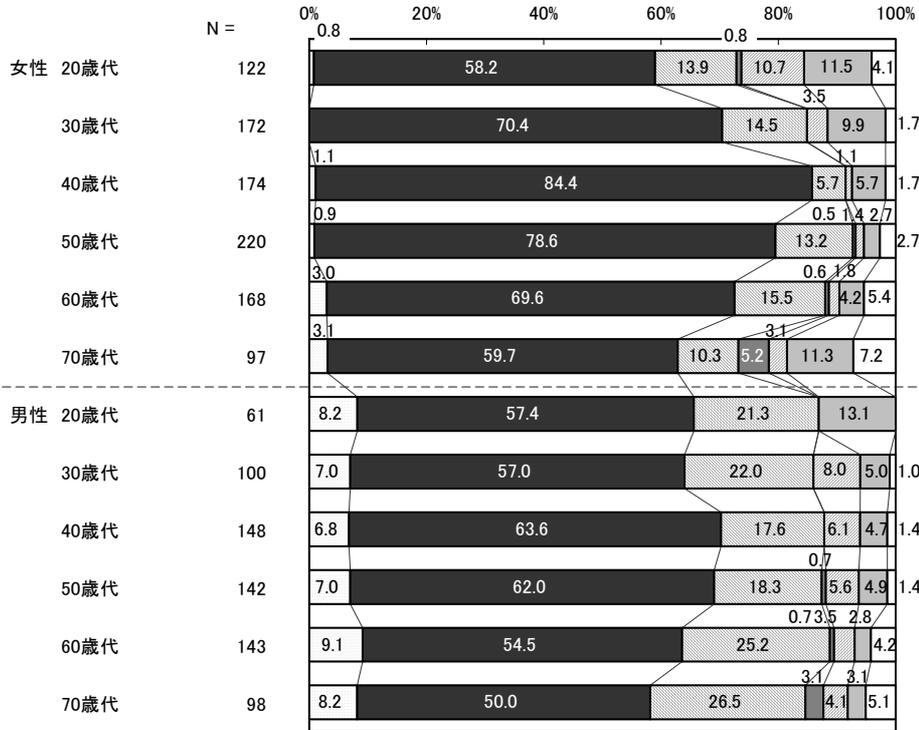


⑤洗濯物を干す

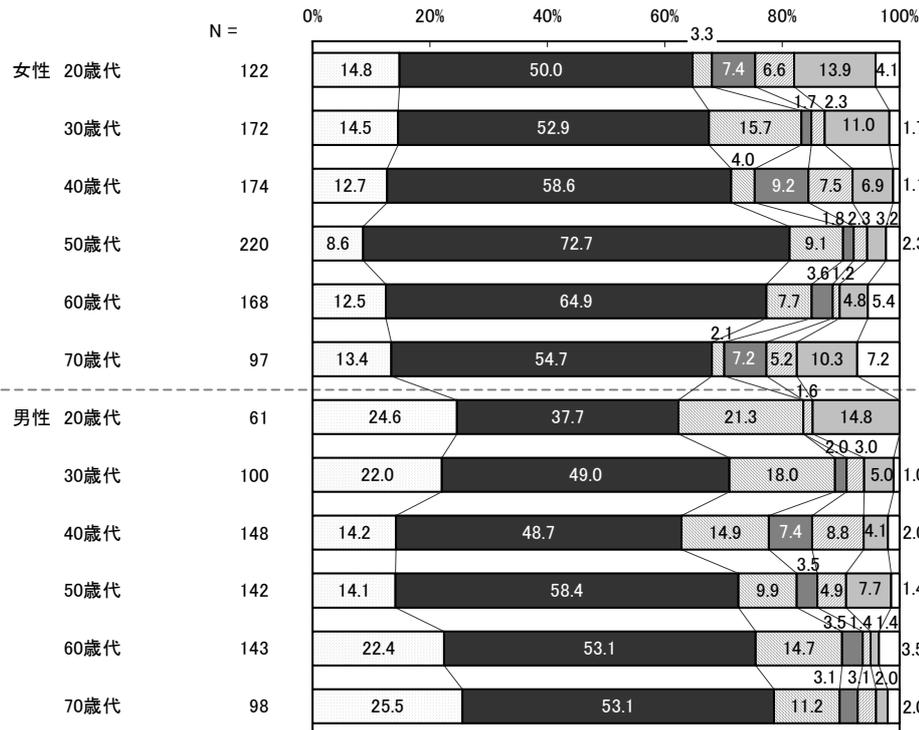


□主として夫・父 ■主として妻・母 □夫婦同程度 ■主として子ども  
 □家族全員 □その他 □無回答

⑥買い物をする

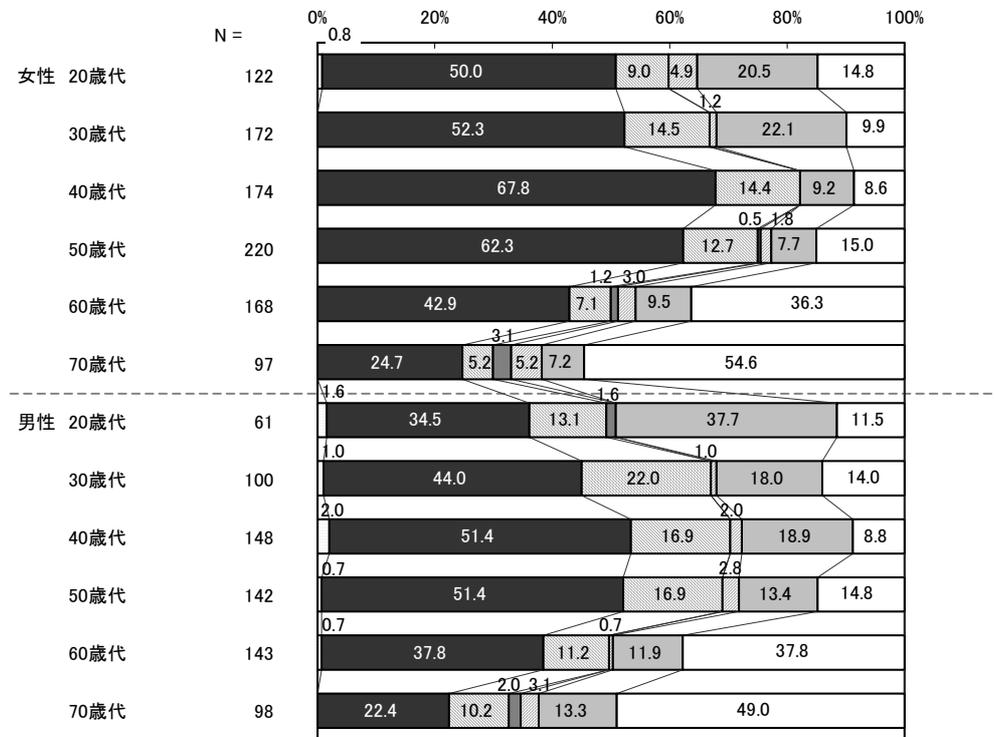


⑦風呂の掃除

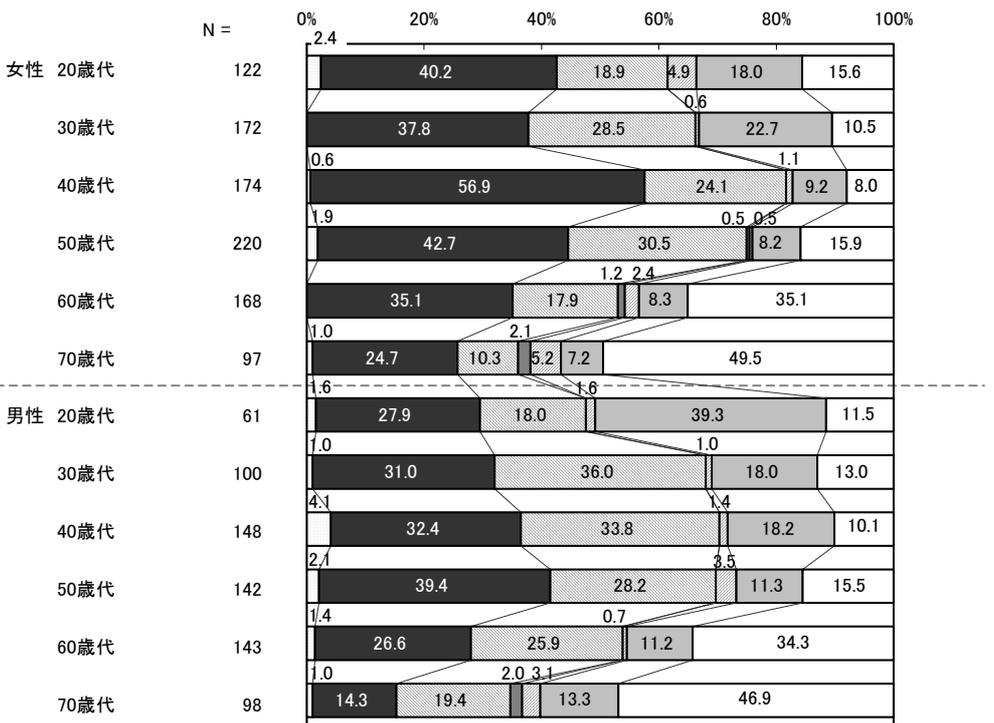


□主として夫・父 ■主として妻・母 □夫婦同程度 ■主として子ども  
 □家族全員 □その他 □無回答

### ⑧子どもの育児や世話

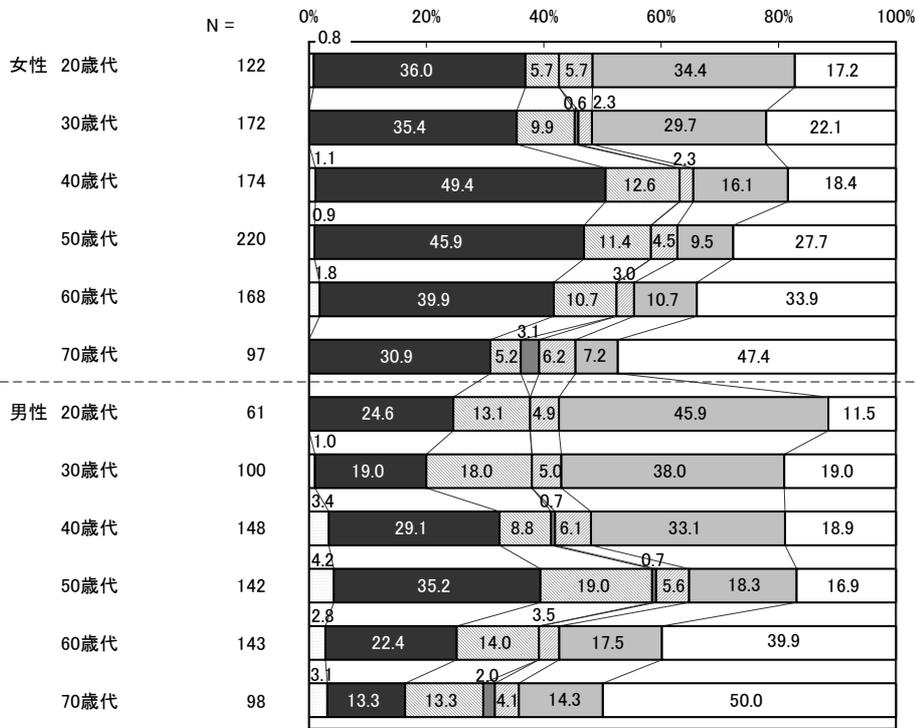


### ⑨子どものしつけや教育

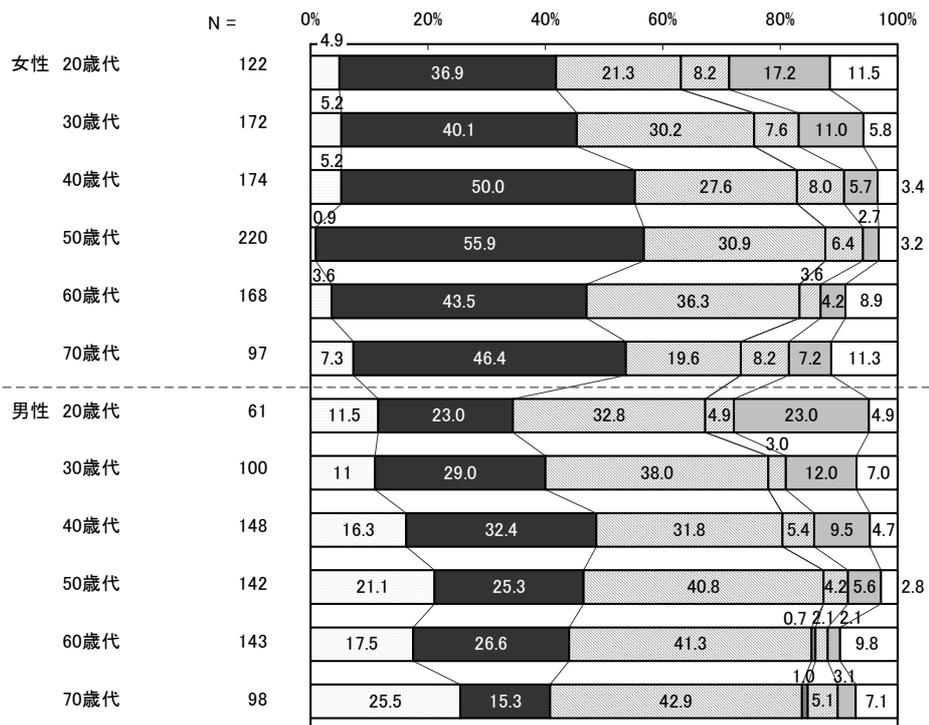


□主として夫・父 ■主として妻・母 □夫婦同程度 ■主として子ども  
 □家族全員 □その他 □無回答

⑩老人や病人の世話

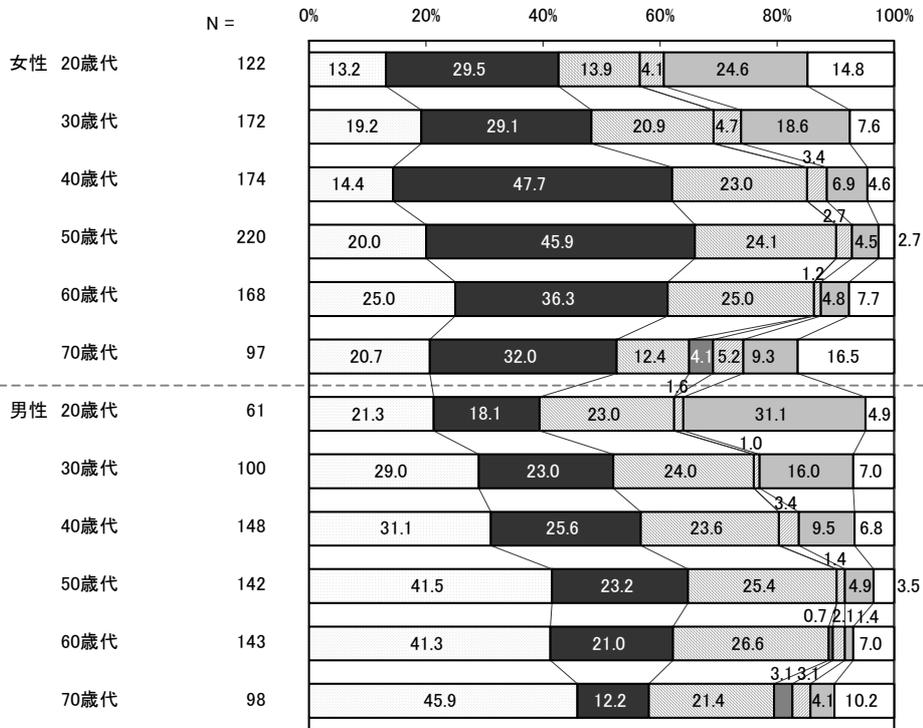


⑪近所や親類のつきあい



□主として夫・父 ■主として妻・母 □夫婦同程度 ■主として子ども  
 □家族全員 □その他 □無回答

⑫自治会や町内会活動



**問2 あなたは、毎日の生活の中で男性が家事（炊事・洗濯・掃除）・育児などをする  
ことについて、どう思いますか。（1つに○）**

男性が家事・育児をすることについては、「できるだけ家事・育児をするほうがよい」の割合が最も高く 54.5%となっており、次いで「積極的に家事・育児をすべきだ」の割合が 24.5%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性に比べ女性で「積極的に家事・育児をすべきだ」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性で年齢が高くなるにつれて「積極的に家事・育児をすべきだ」の割合が低くなる傾向があります。また、男性の30歳代で「積極的に家事・育児をすべきだ」の割合が高くなっています。

図 男性が家事・育児をすること

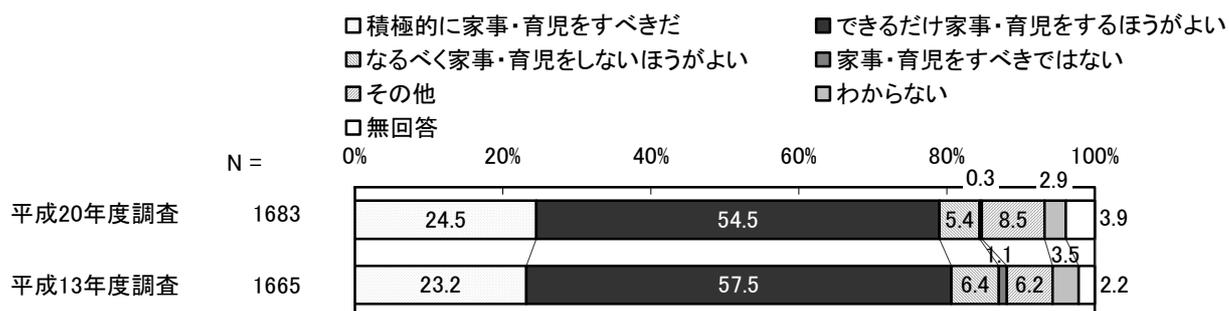


図 性別でみる男性が家事・育児をすること

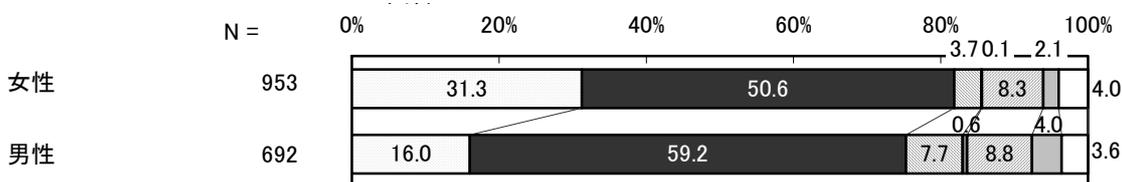
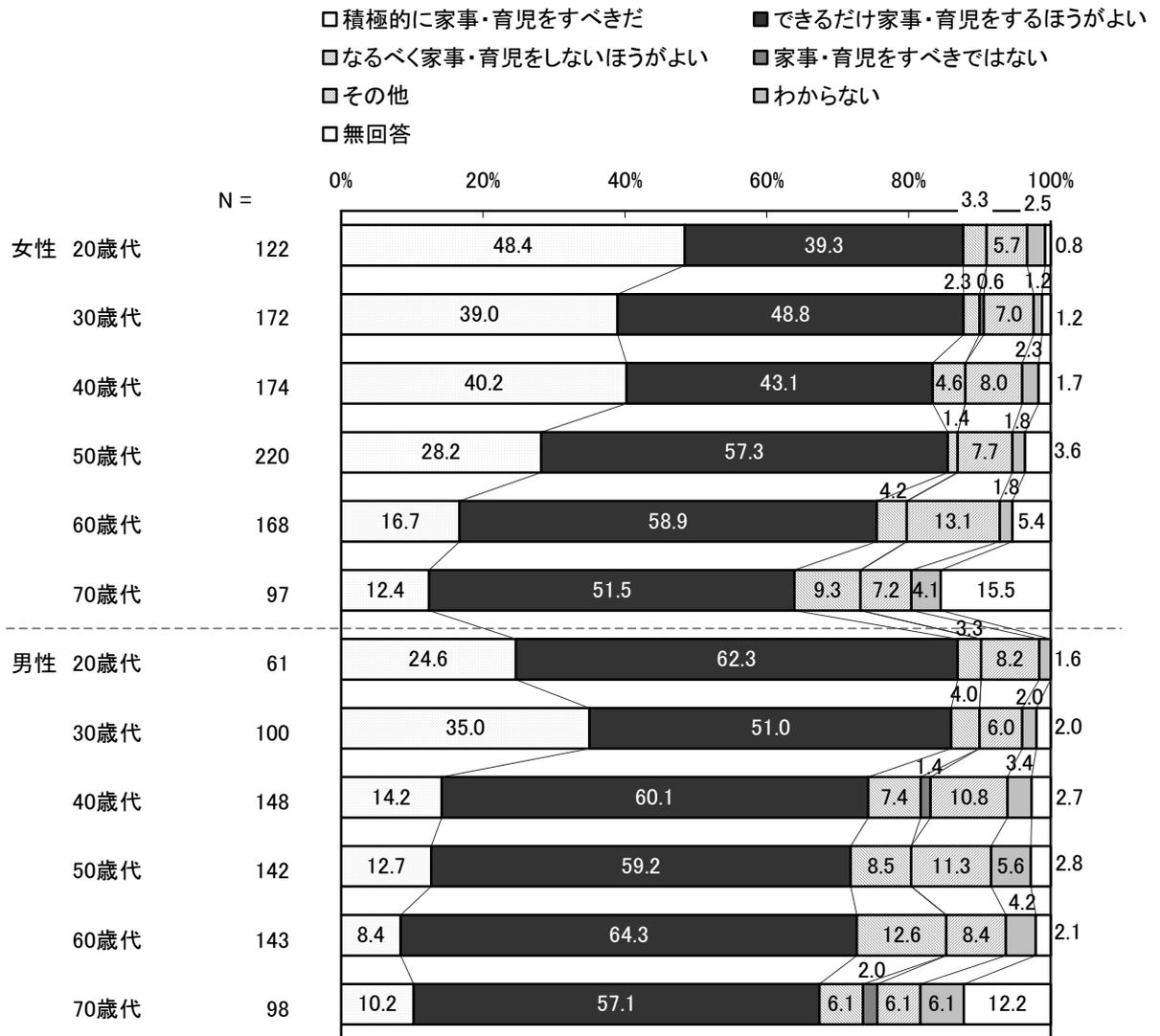


図 性・年代別でみる男性が家事・育児をすること



**問3 あなたは、子どもをどのように育てたらよいとお考えですか。  
お子さんがおられない方も、一般的なご意見で結構です。（1つに○）**

子どもの育て方については、「男の子らしく女の子らしくというより、一人ひとりの個性を尊重して育てたほうがよい」の割合が最も高く 54.8%となっており、次いで「ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」の割合が 28.3%、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」の割合が 12.5%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「男の子らしく女の子らしくというより、一人ひとりの個性を尊重して育てたほうがよい」の割合が高く、「ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「男の子らしく女の子らしくというより、一人ひとりの個性を尊重して育てたほうがよい」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の70歳代で「男の子らしく女の子らしくというより、一人ひとりの個性を尊重して育てたほうがよい」の割合が低くなっています。

図 子どもの育て方

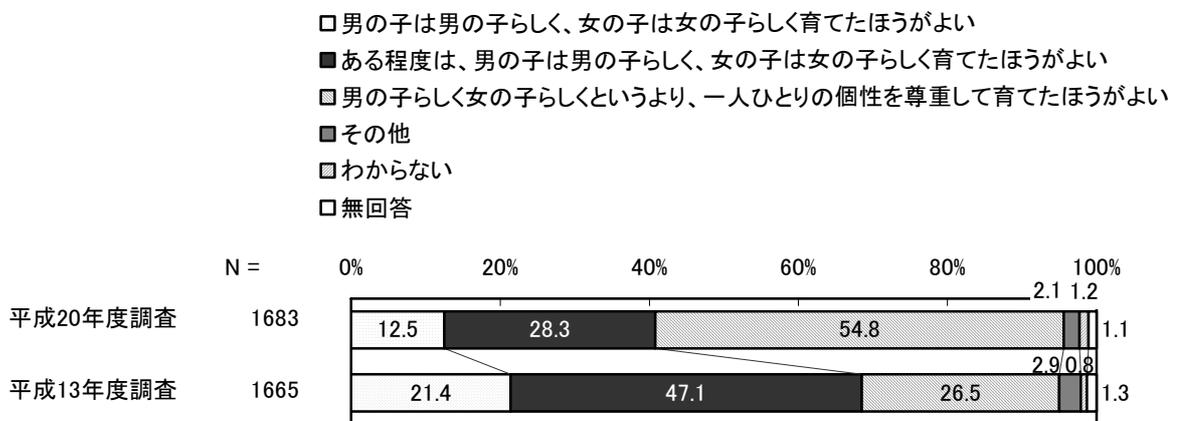


図 性別でみる子どもの育て方

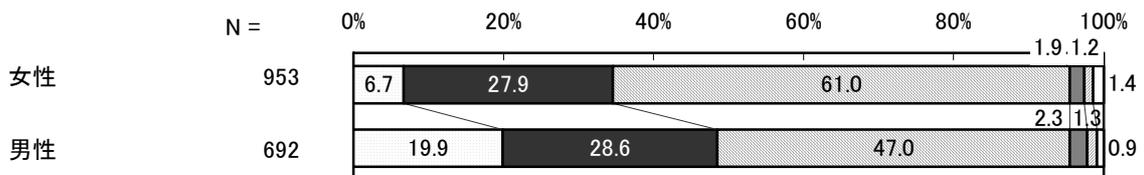
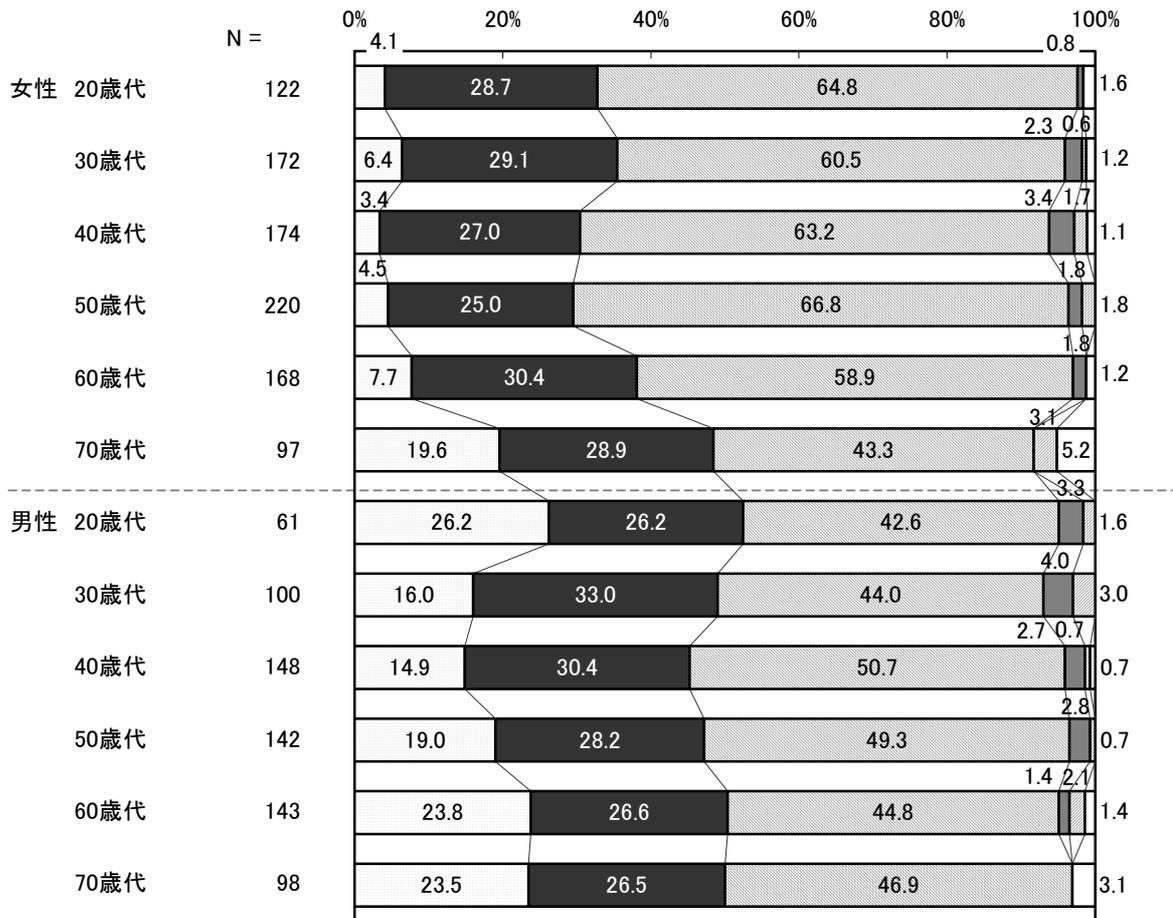


図 性・年代別でみる子どもの育て方

- 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい
- ある程度は、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい
- ▨ 男の子らしく女の子らしくというより、一人ひとりの個性を尊重して育てたほうがよい
- その他
- わからない
- 無回答



問4 あなたは、男性がより育児に参加していくために必要だと思うことは何ですか。  
(〇は2つまで)

男性が育児に参加するために必要だと思うことについては、「男性自身が育児に取り組む意識をもつこと」の割合が最も高く48.7%となっており、次いで「家族の間で育児について十分に話し合うこと」の割合が28.8%、「男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること」の割合が27.0%となっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「男性自身が育児に取り組む意識をもつこと」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「男性にとって育児休業制度が利用しやすくなること」、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の70歳代で「家族の間で育児について十分に話し合うこと」の割合が高くなっています。また、男性の20歳代、30歳代で「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと」の割合が高く、70歳代で「家族の間で育児について十分に話し合うこと」の割合が高くなっています。

図 性別でみる男性が育児に参加するために必要だと思うこと

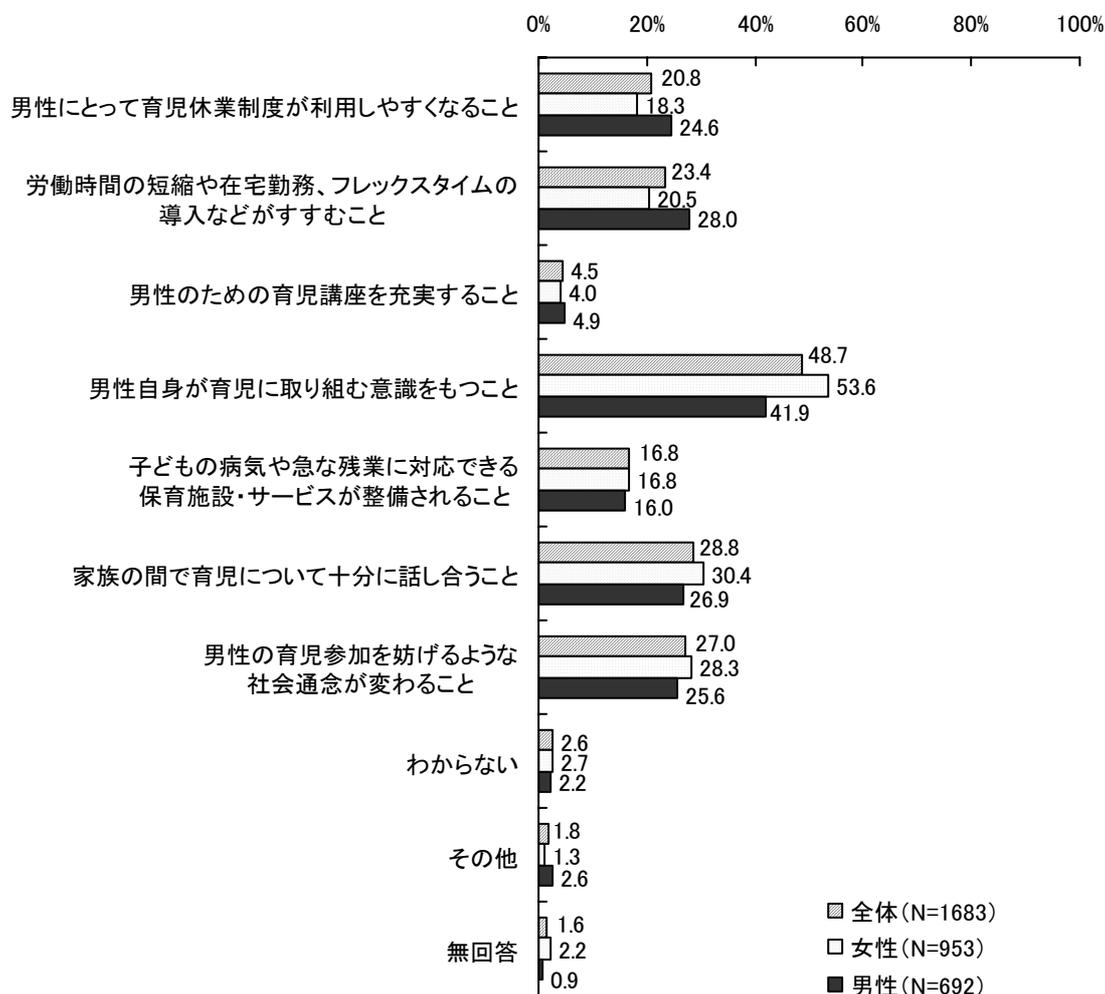
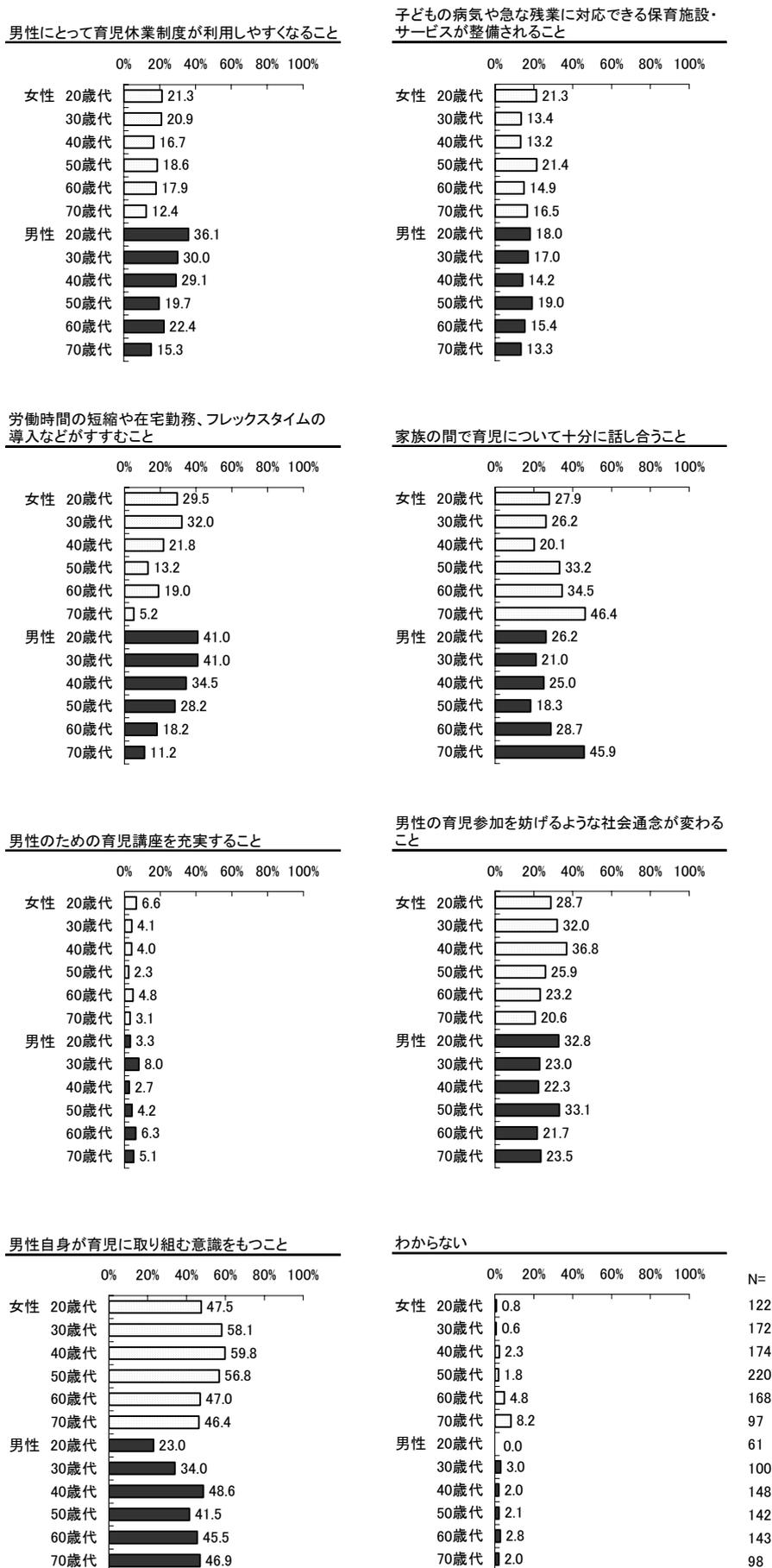


図 性・年代別でみる男性が育児に参加するために必要だと思うこと



N= 122, 172, 174, 220, 168, 97, 61, 100, 148, 142, 143, 98

問5 あなたは、男女平等の意識を育てるために、学校を中心とした教育の場ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は2つまで)

男女平等の意識を育てるために教育の場で力を入れるべき内容については、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」の割合が最も高く 54.8%となっており、次いで「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が 50.3%、「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」の割合が 18.6%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の20歳代から50歳代で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が高くなっています。また、男性の40歳代で「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」の割合が低くなっています。

図 性別でみる男女平等の意識を育てるために教育の場で力を入れるべき内容

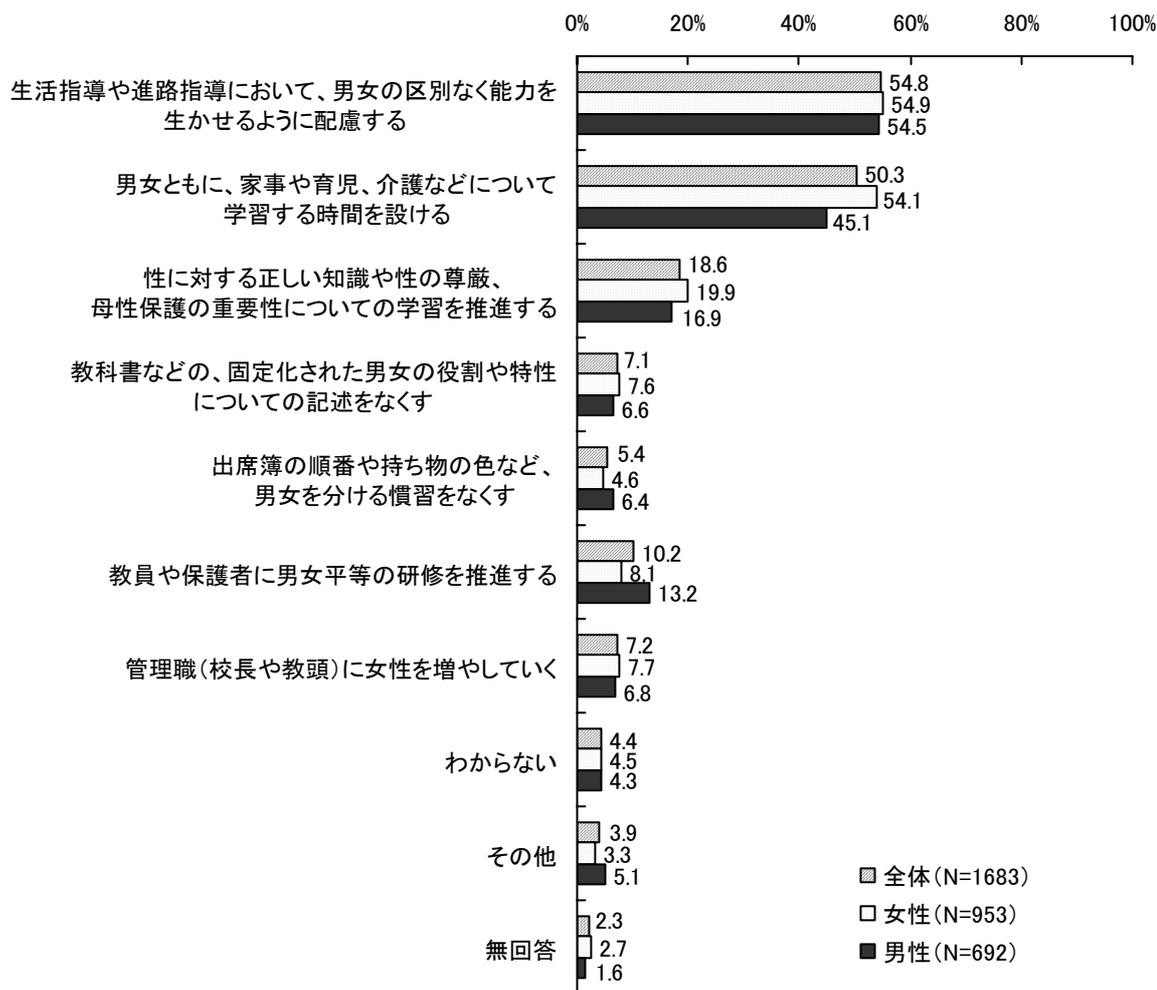
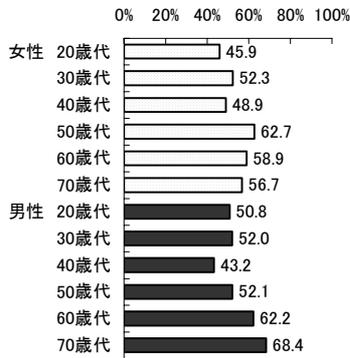
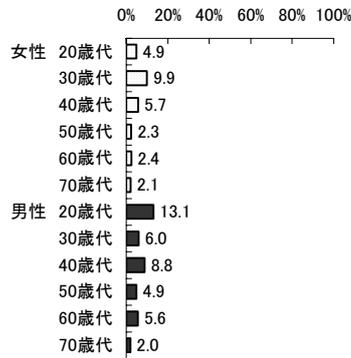


図 性・年代別でみる男女平等の意識を育てるために教育の場で力を入れるべき内容

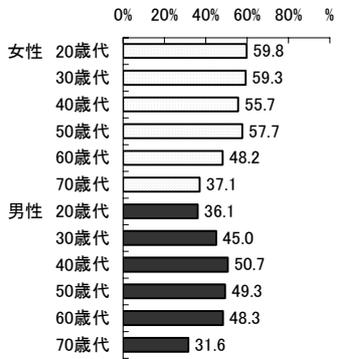
生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する



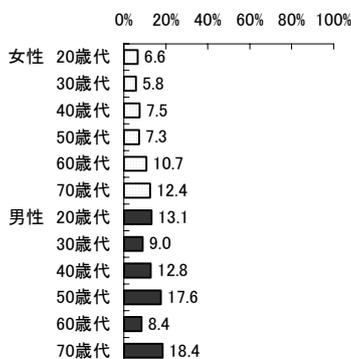
出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす



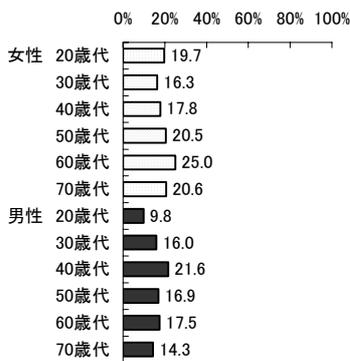
男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける



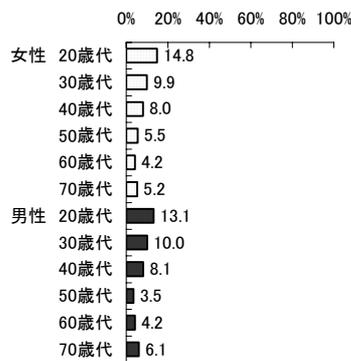
教員や保護者に男女平等の研修を推進する



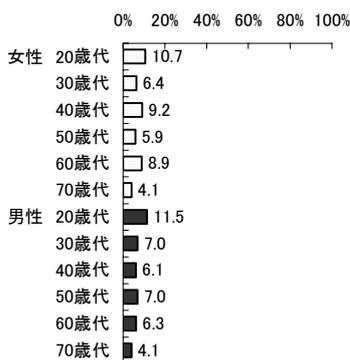
性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する



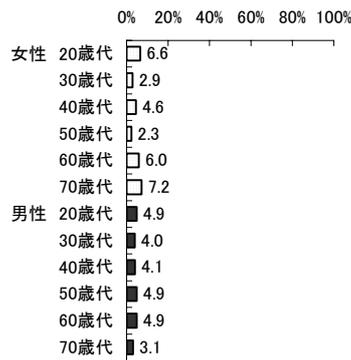
管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく



教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす



わからない



N=

122  
172  
174  
220  
168  
97  
61  
100  
148  
142  
143  
98

## (2) ワーク・ライフ・バランスについて

### 問6 あなたは、【ワーク・ライフ・バランス】について、知っていましたか。

ワーク・ライフ・バランスの認知状況については、「まったく知らなかった」の割合が最も高く60.1%となっており、次いで「ことばは、聞いたことがあった」の割合が25.0%、「ことばの内容を理解していた」の割合が12.2%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「まったく知らなかった」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「ことばは、聞いたことがあった」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の30歳代で「まったく知らなかった」の割合が高くなっています。また、男性の30歳代で「ことばの内容を理解していた」の割合が高くなっています。

図 性別でみるワーク・ライフ・バランスの認知状況

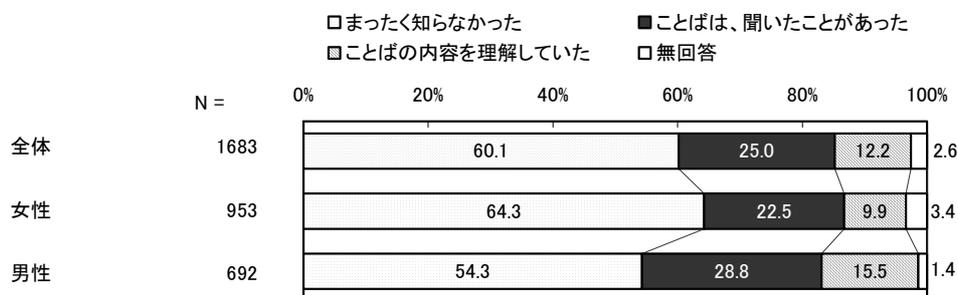
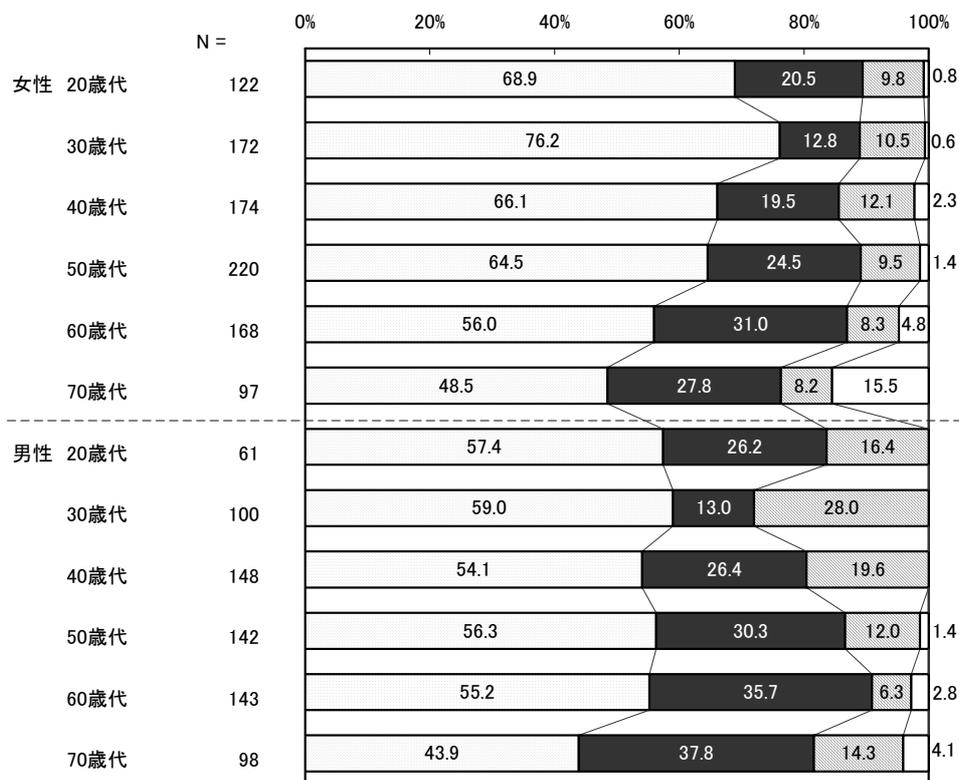


図 性・年代別でみるワーク・ライフ・バランスの認知状況



問7 生活の中での、仕事・家事（育児）・プライベートな時間（趣味など）の優先度について、あなたの【希望】の優先度と、【現実】としての優先度をお答えください。（【希望】と【現実】それぞれ1つに○）

※仕事についていない方は、家事とプライベートの関係についてお答えください。

【希望】

仕事・家事・プライベートな時間の希望の優先度については、「仕事・家事・プライベートを両立」の割合が最も高く 39.7%となっており、次いで「家事とプライベート優先」の割合が 16.2%、「プライベートな時間優先」の割合が 12.7%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「家事とプライベート優先」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「仕事とプライベート優先」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の 30 歳代、60 歳代で「家事とプライベート優先」の割合が高く、60 歳代以上で「仕事・家事・プライベートを両立」の割合が低くなっています。また、他の年代に比べ男性の 60 歳代以上で「仕事と家事優先」の割合が高く、「仕事・家事・プライベートを両立」の割合が低くなっています。

図 性別でみる仕事・家事・プライベートな時間の希望の優先度

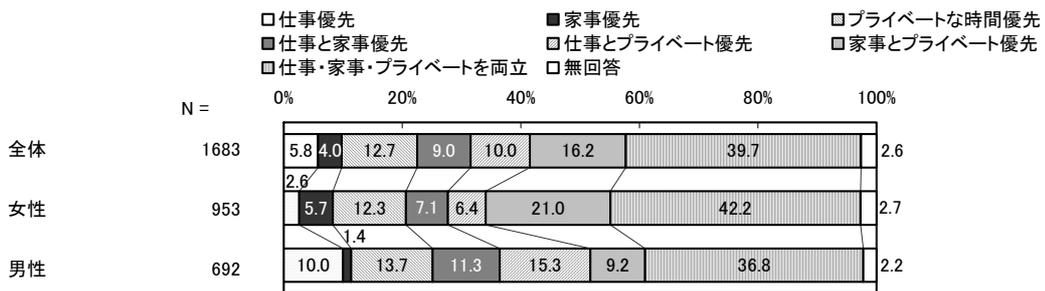
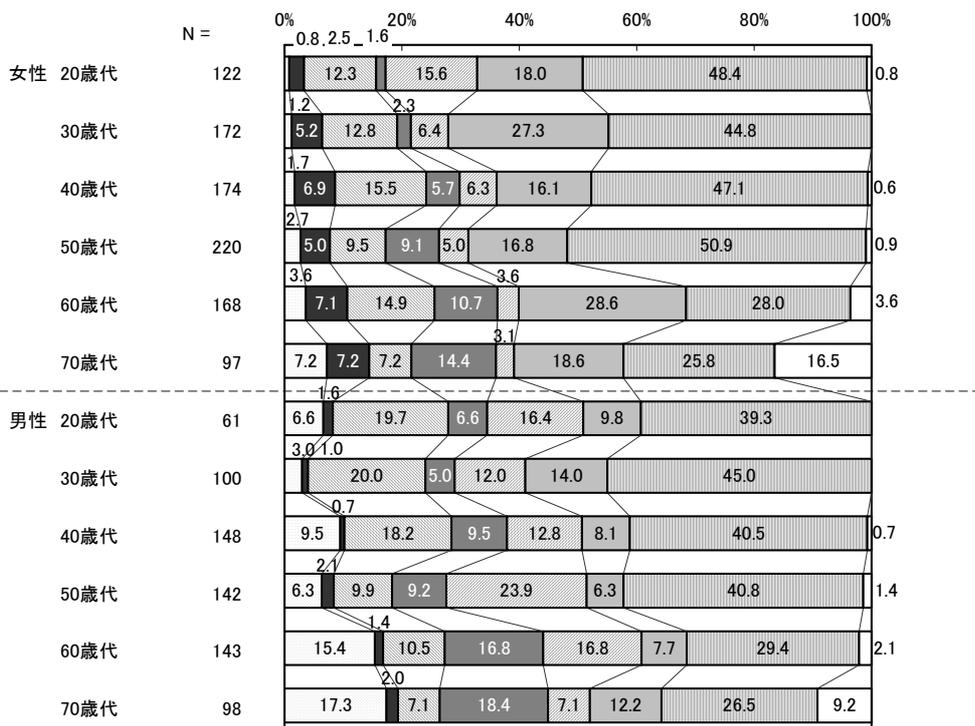


図 性・年代別でみる仕事・家事・プライベートな時間の希望の優先度



**【現実】**

仕事・家事・プライベートな時間の現実の優先度については、「仕事優先」の割合が最も高く35.3%となっており、次いで「仕事と家事優先」の割合が20.0%、「家事優先」の割合が16.0%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「家事優先」、「仕事と家事優先」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「仕事優先」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の20歳代で「仕事優先」の割合が高く、40歳代、50歳代で「仕事と家事優先」の割合が高くなっています。また、男性の40歳代以上で年齢が高くなるにつれて「仕事優先」の割合が低くなっています。

図 性別でみる仕事・家事・プライベートな時間の現実の優先度

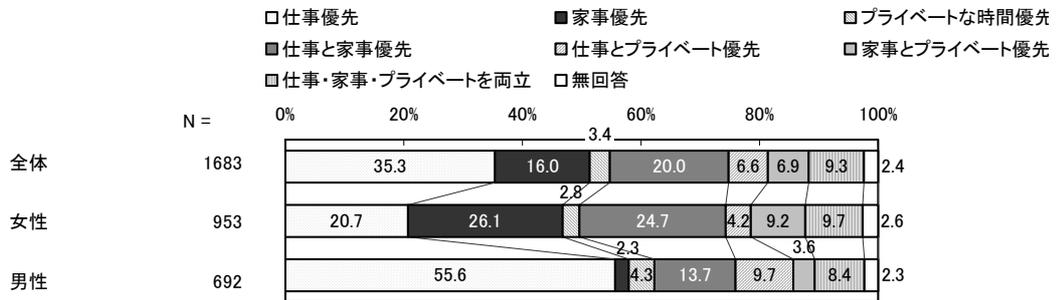
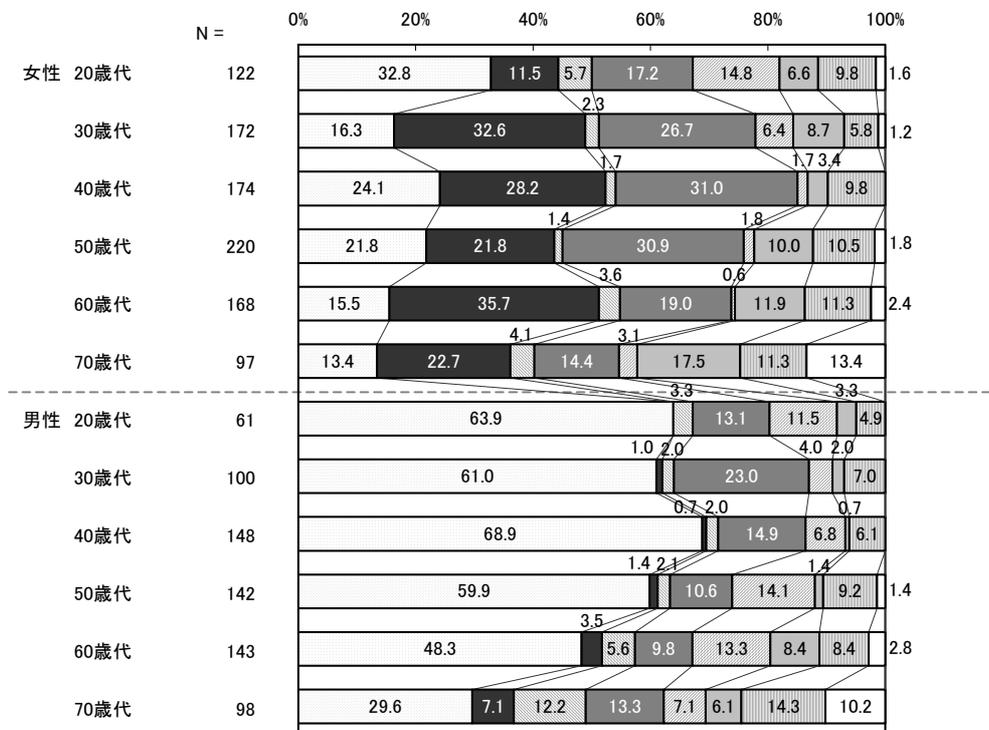


図 性・年代別でみる仕事・家事・プライベートな時間の現実の優先度



### (3) 介護について

問8 あなたは、からだが不自由になった場合、どうしてもらいたいですか。  
(1つに○)

からだが不自由になった場合の希望については、「老人ホームやケア付き住宅、療護施設など、介護職員のいる施設に入りたい」の割合が51.9%、「家庭で介護してもらいたい」の割合が42.3%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「老人ホームやケア付き住宅、療護施設など、介護職員のいる施設に入りたい」の割合が高くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「老人ホームやケア付き住宅、療護施設など、介護職員のいる施設に入りたい」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「家庭で介護してもらいたい」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の40歳代から60歳代で「家族で介護してもらいたい」の割合が低くなっています。また、男性の60歳代以上で「家庭で介護してもらいたい」の割合が高くなっています。

図 からだが不自由になった場合の希望

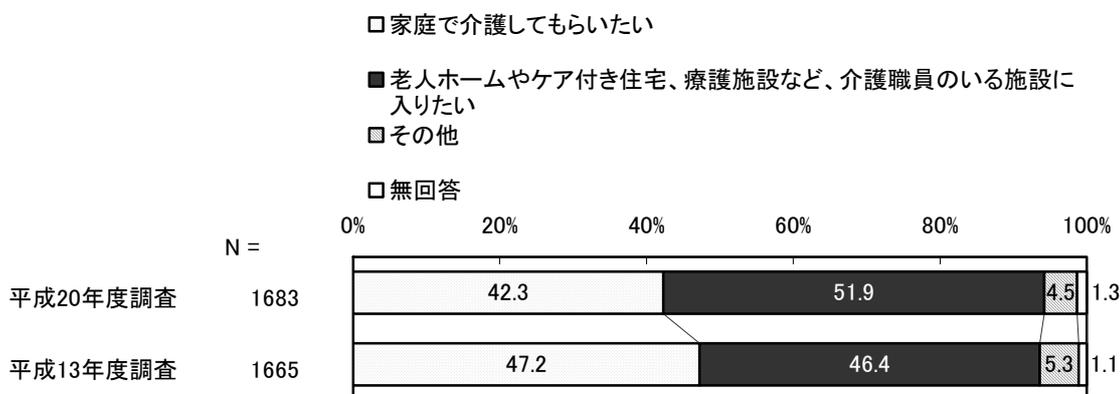


図 性別でみるからだの不自由になった場合の希望

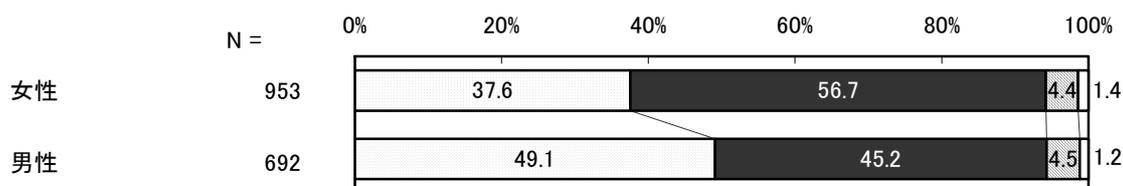
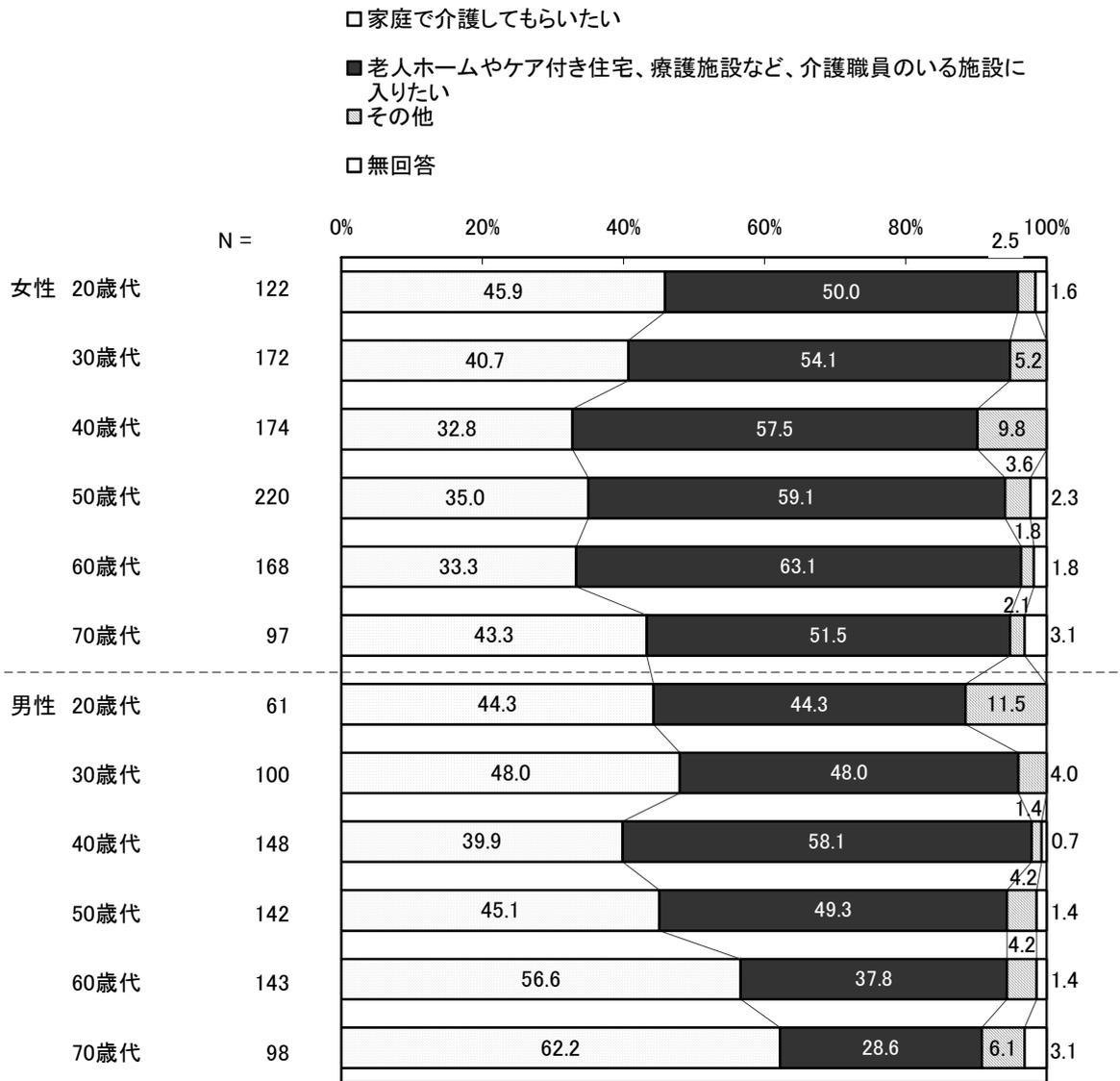


図 性・年代別でみるからだが不自由になった場合の希望



**問9 問8で「1. 家庭で介護してもらいたい」と答えた方におうかがいします。  
現状にかかわらず、あなたは誰に介護してもらいたいですか。（1つに○）**

家族の誰に介護してもらいたいかについては、「妻」の割合が最も高く 39.5%となっており、次いで「夫」の割合が24.9%、「娘」の割合が12.8%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「夫」の割合が高く、「妻」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「娘」の割合が高くなっています。また、男性で「妻」の割合が約8割を占めています。

性・年代別で見ると、女性の70歳代で「娘」、「介護ヘルパーや介護ボランティア」の割合が高くなっています。

図 家族の誰に介護してもらいたいか

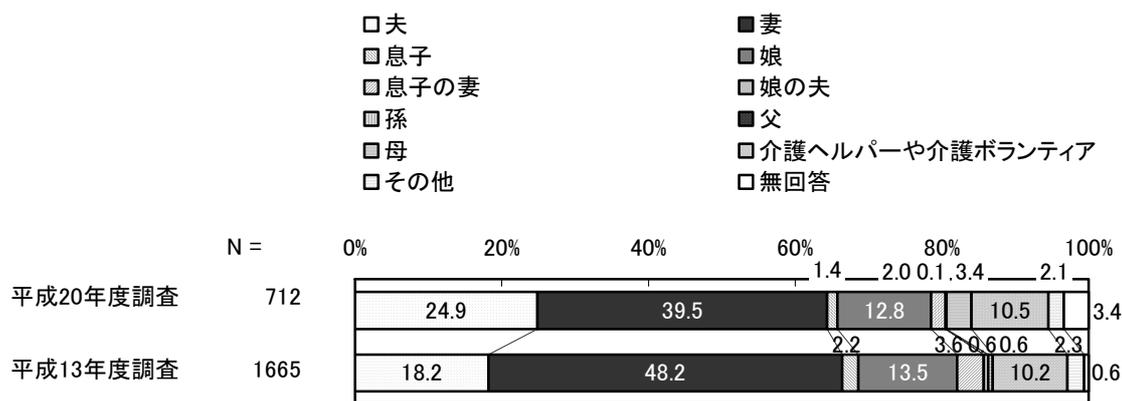


図 性別でみる家族の誰に介護してもらいたいか

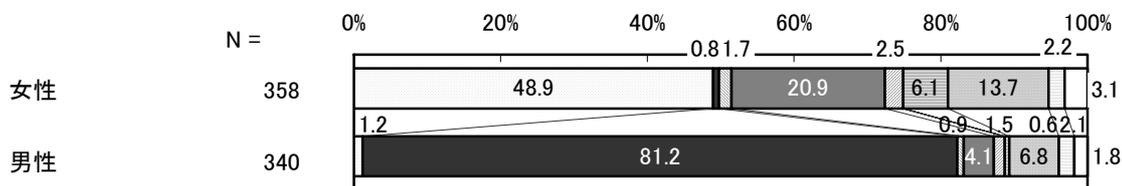
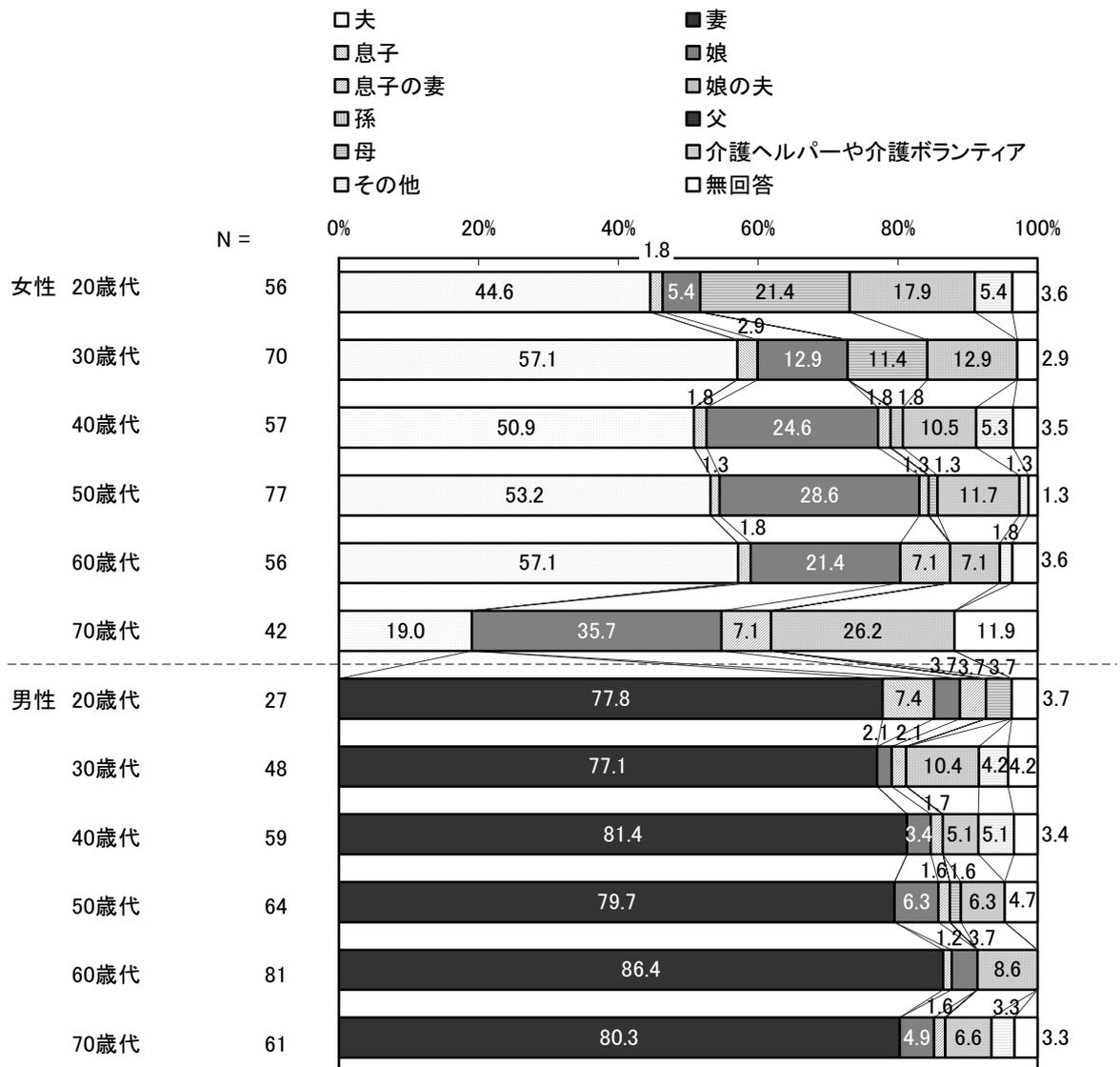


図 性・年代別でみる家族の誰に介護してもらいたいのか



#### (4) ドメスティック・バイオレンスについて

問10 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（配偶者や親しい異性（恋人など）からの暴力）を受けた経験がありますか。（1つに○）

ドメスティック・バイオレンスの経験については、「過去に暴力を受けたことがある」「現在も暴力を受けることがある」を合わせたドメスティック・バイオレンスを受けた経験のある人の割合が10.5%、「暴力を受けたことはない」の割合が87.5%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別で見ると、男性に比べ女性でドメスティック・バイオレンスを受けた経験のある人の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、他の年代に比べ女性の40歳代でドメスティック・バイオレンスを受けた経験のある人の割合が高くなっています。

図 ドメスティック・バイオレンスの経験

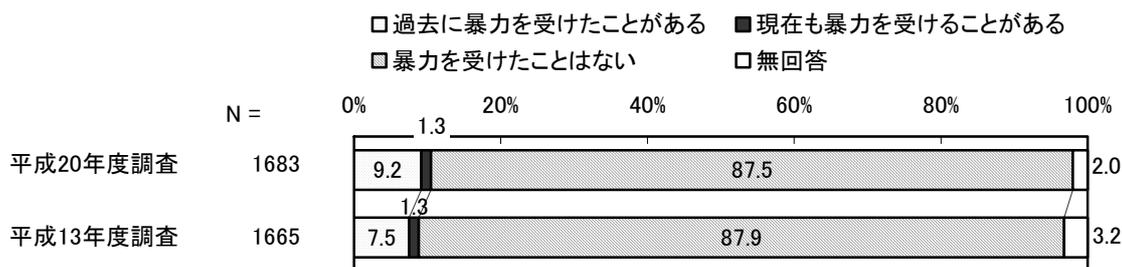


図 性別でみるドメスティック・バイオレンスの経験

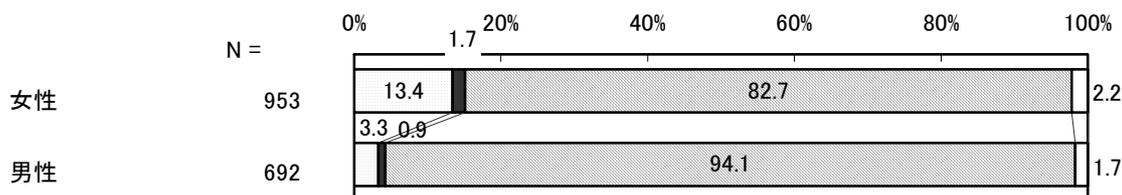
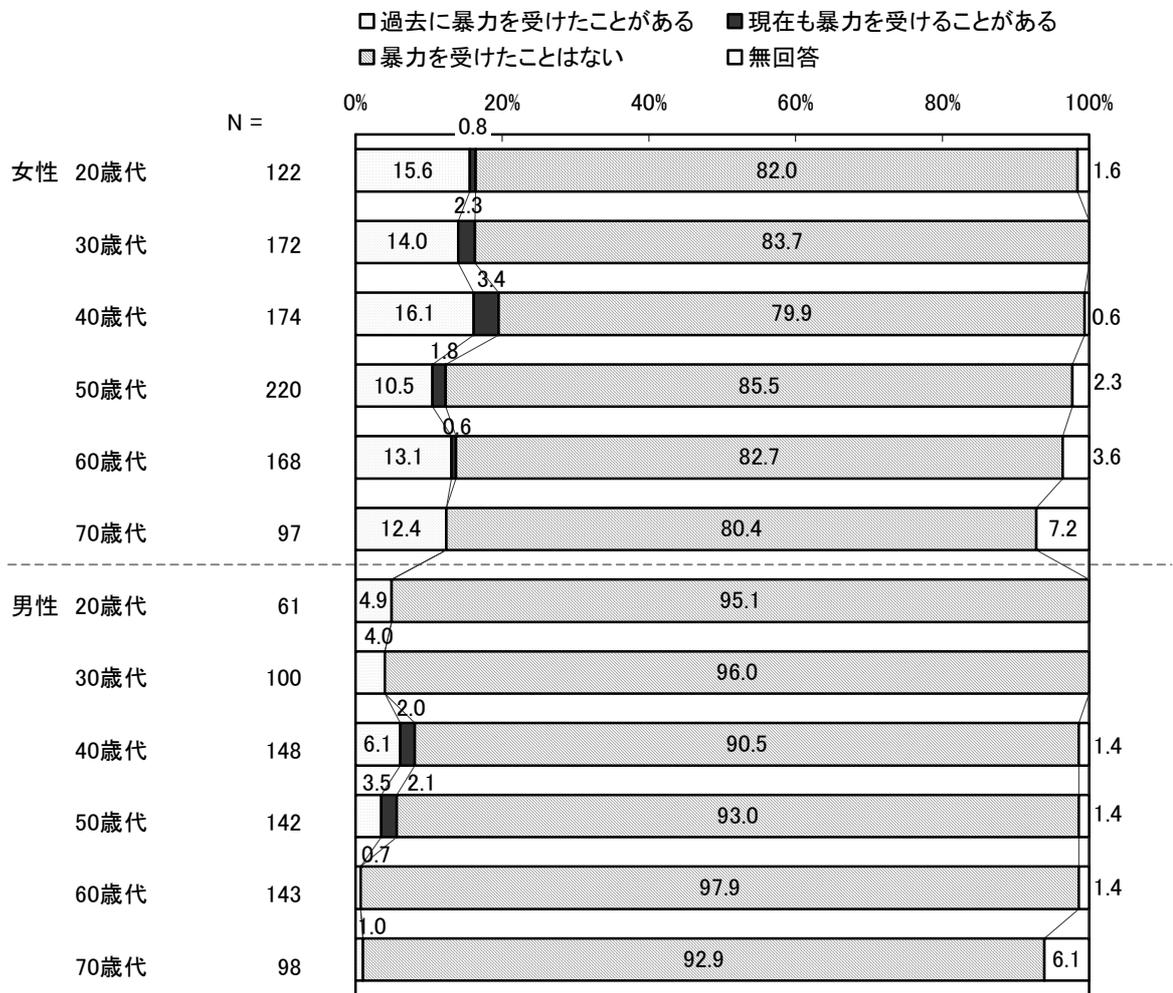


図 性・年代別でみるドメスティック・バイオレンスの経験



問 11 問 10 で「1. 過去に暴力を受けたことがある」または「2. 現在も暴力を受けることがある」と答えた方におうかがいします。

あなたは、どんな暴力を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

受けた暴力の内容については、「ことばの暴力（「甲斐性なし」「誰に食わせてもらっている」など、ののしりの言葉や何を言っても無視するなど）」の割合が最も高く 63.3%となっており、次いで「身体的暴力（平手打ち、殴る、蹴るなど）」の割合が 60.5%、「物の破壊（怒って部屋の物を壊して脅かす、大事にしているものを捨てたり、壊したりすることによって精神的打撃を与える）」の割合が 36.7%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「物の破壊（怒って部屋の物を壊して脅かす、大事にしているものを捨てたり、壊したりすることによって精神的打撃を与える）」の割合が高く、「身体的暴力（平手打ち、殴る、蹴るなど）」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「身体的暴力（平手打ち、殴る、蹴るなど）」、「性的暴力（気が進まないセックスの強要、避妊の非協力、浮気を繰り返す）」、「物の破壊（怒って部屋の物を壊して脅かす、大事にしているものを捨てたり、壊したりすることによって精神的打撃を与える）」、「経済的暴力（生活費を入れない、極度に低額しか渡さない、働くことの妨害など）」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「ことばの暴力（「甲斐性なし」「誰に食わせてもらっている」など、ののしりの言葉や何を言っても無視するなど）」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、他の年代に比べ女性の 30 歳代で「身体的暴力（平手打ち、殴る、蹴るなど）」の割合が高く、20 歳代で「性的暴力（気が進まないセックスの強要、避妊の非協力、浮気を繰り返す）」、「社会的暴力（買い物の制限、友人・実家などとの付き合いの禁止、手紙の無断開封など）」の割合が高くなっています。また、男性で年齢が高くなるにつれて「ことばの暴力（「甲斐性なし」「誰に食わせてもらっている」など、ののしりの言葉や何を言っても無視するなど）」の割合が高くなっています。また、男性の 40 歳代で「社会的暴力（買い物の制限、友人・実家などとの付き合いの禁止、手紙の無断開封など）」の割合が高くなっています。

図 受けた暴力の内容

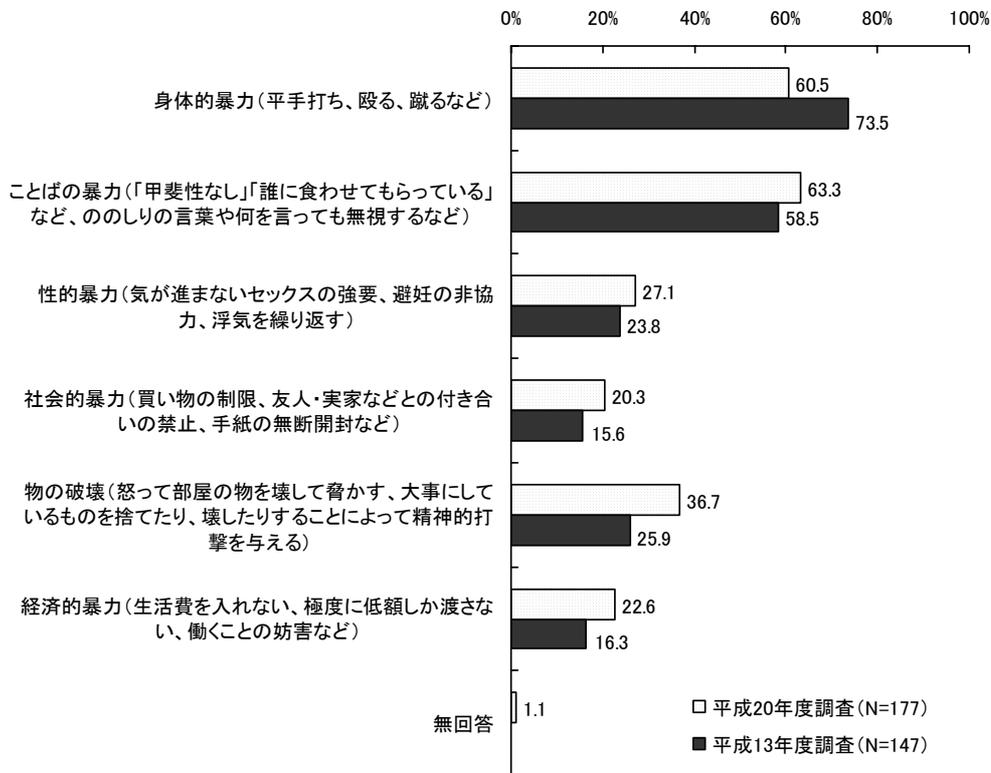


図 性別でみる受けた暴力の内容

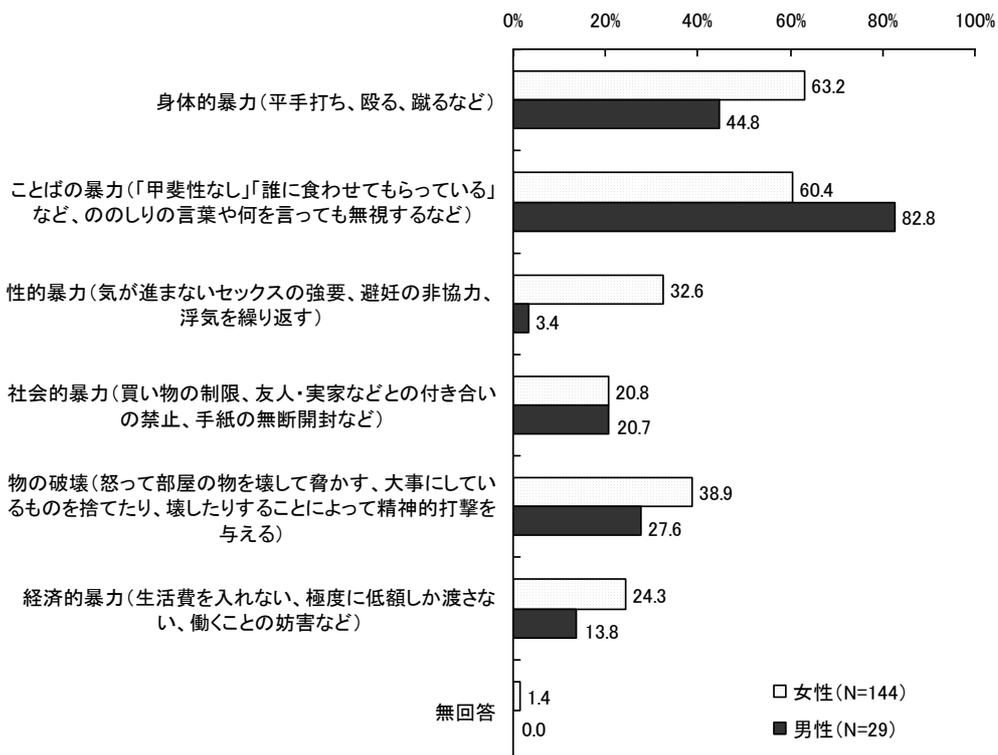
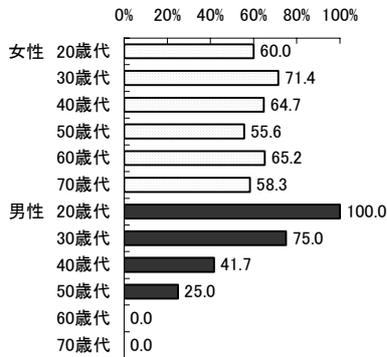
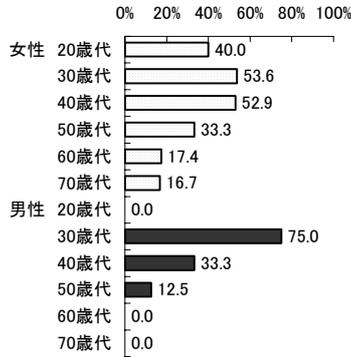


図 性・年代別でみる受けた暴力の内容

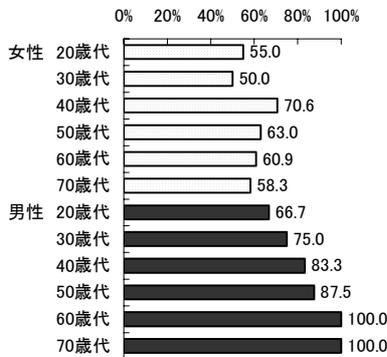
身体的暴力(平手打ち、殴る、蹴るなど)



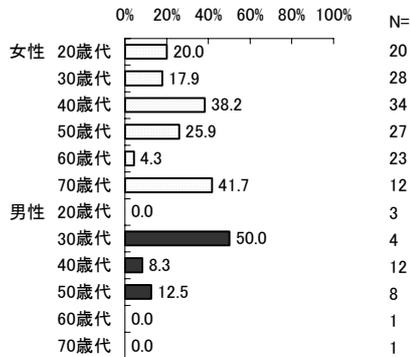
物の破壊(怒って部屋の物を壊して脅かす、大事にしているものを捨てたり、壊したりすることによって精神的打撃を与える)



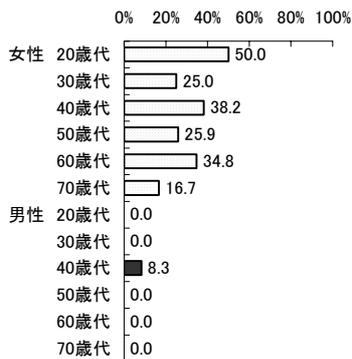
ことばの暴力(「甲斐性なし」「誰に食わせてもらっている」など、ののしりの言葉や何を言っても無視するなど)



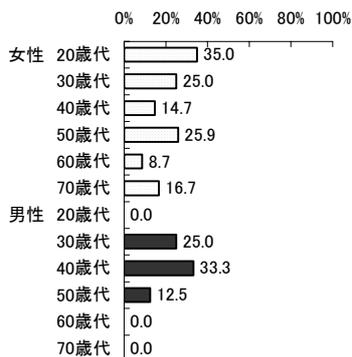
経済的暴力(生活費を入れない、極度に低額しか渡さない、働くことの妨害など)



性的暴力(気が進まないセックスの強要、避妊の非協力、浮気を繰り返す)



社会的暴力(買い物の制限、友人・実家などとの付き合いの禁止、手紙の無断開封など)



**問12 あなたは、暴力を受けたとき、どのように対処しましたか。**  
(あてはまるものすべてに○)

暴力を受けたときの対処については、「我慢した」の割合が最も高く 65.5%となっており、次いで「本人同士で話し合った」の割合が22.6%、「家族に相談した」の割合が21.5%、「友人や同僚に相談した」の割合が20.9%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「我慢した」の割合が低くなっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「本人同士で話し合った」、「友人や同僚に相談した」の割合が高くなっています。女性に比べ男性で「我慢した」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の20歳代で「友人や同僚に相談した」の割合が高くなっています。

図 暴力を受けたときの対処

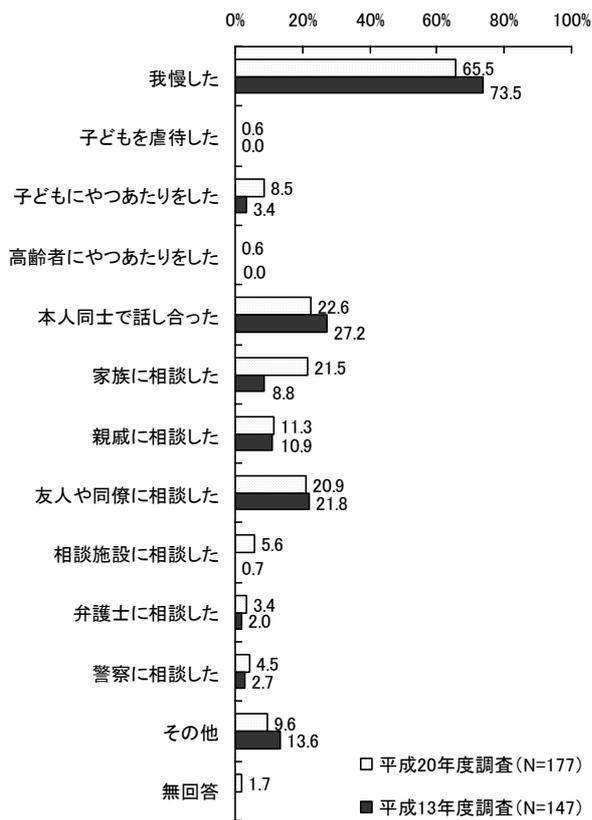


図 性別でみる暴力を受けたときの対処

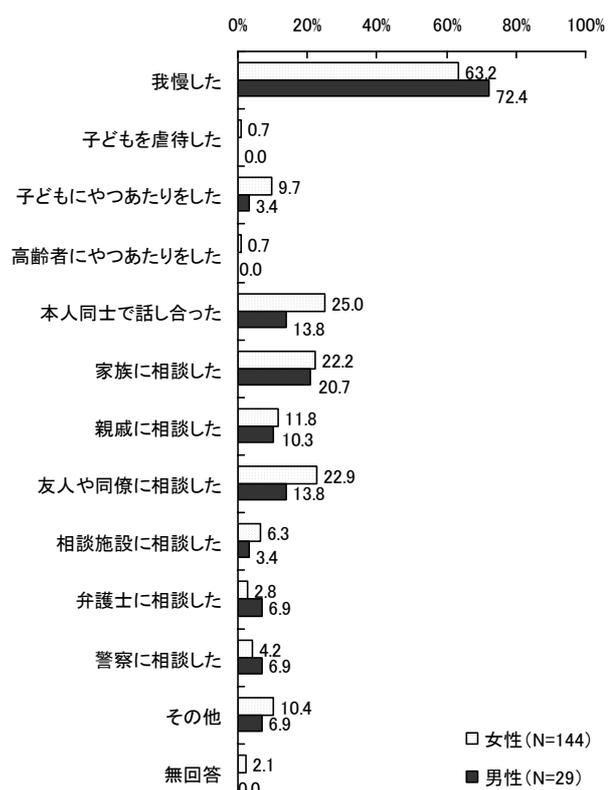
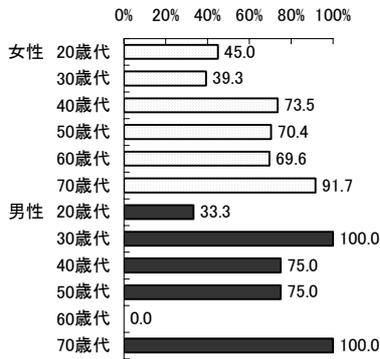
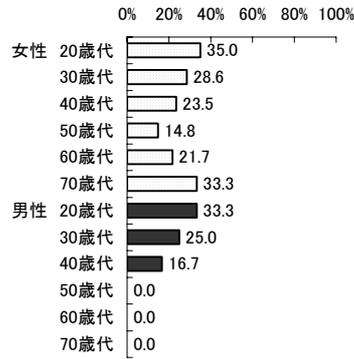


図 性・年代別でみる暴力を受けたときの対処

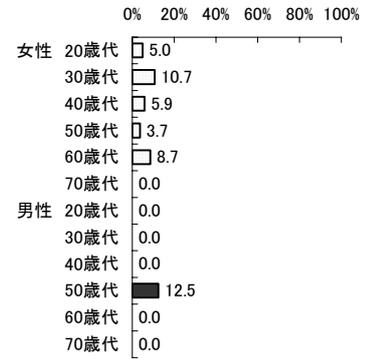
我慢した



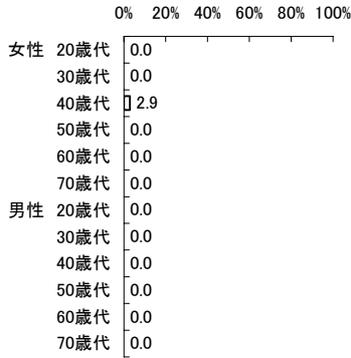
本人同士で話し合った



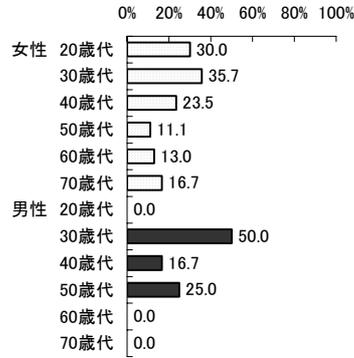
相談施設に相談した



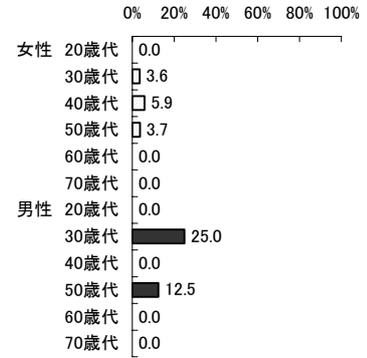
子どもを虐待した



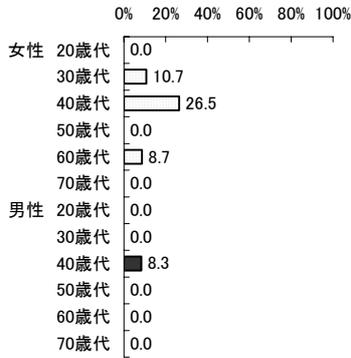
家族に相談した



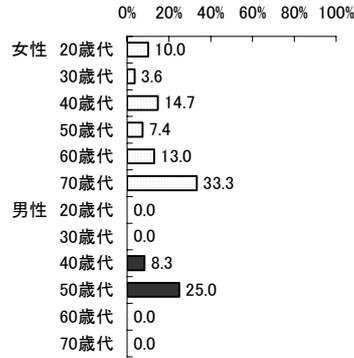
弁護士に相談した



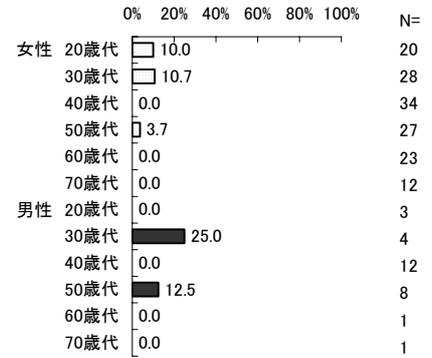
子どもにやつあたりをした



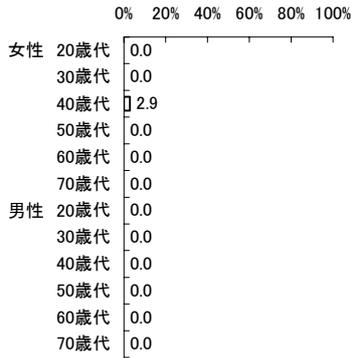
親戚に相談した



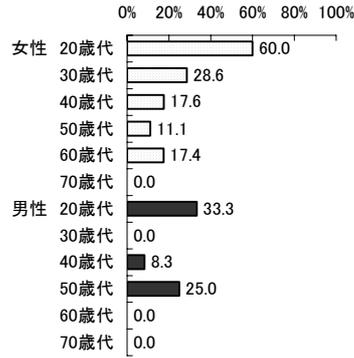
警察に相談した



高齢者にやつあたりをした



友人や同僚に相談した



**問 13 あなたは、ドメスティック・バイオレンスの被害を受けた人に対する公的な相談や援助体制が必要だと思いますか。**

ドメスティック・バイオレンスを受けた人の公的な支援の必要性については、「必要である」の割合が 83.1%となっており、「特に必要ない」の割合が 3.5%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の 70 歳代で「必要である」の割合が低くなっています。また、男性で年齢が高くなるにつれて「必要である」の割合が低くなる傾向にあります。

図 性別でみるドメスティック・バイオレンスを受けた人の公的な支援の必要性

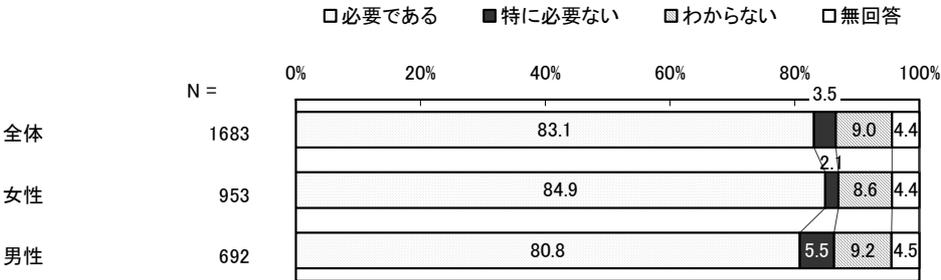
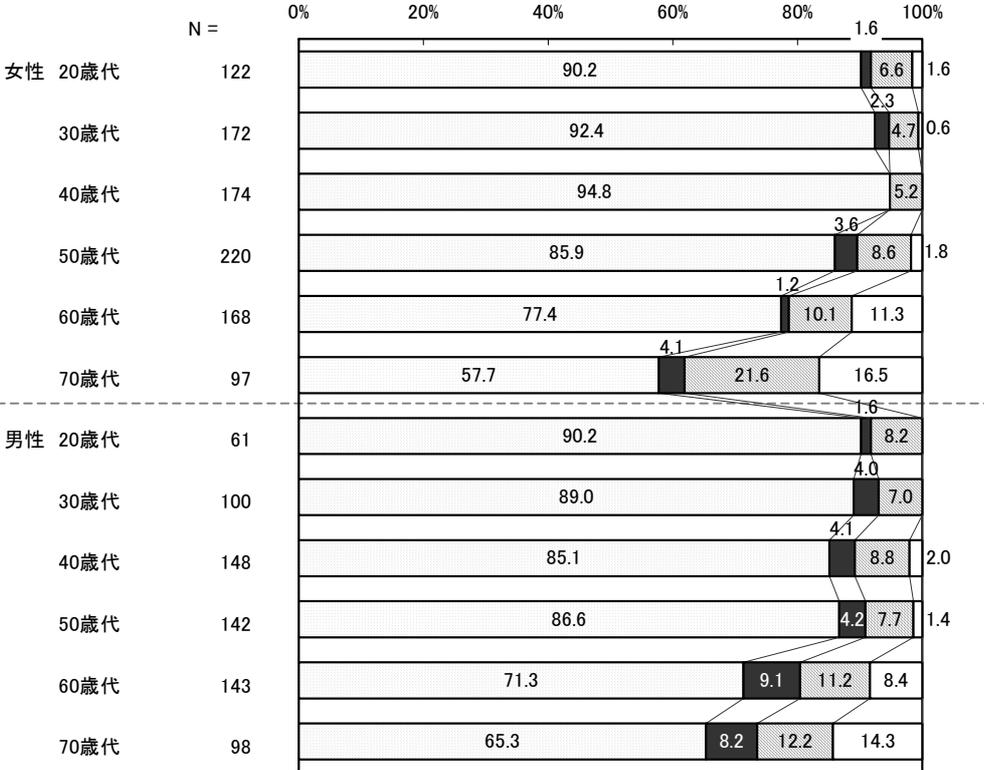


図 性・年代別でみるドメスティック・バイオレンスを受けた人の公的な支援の必要性



問 14 問 13 で「1. 必要である」と答えた方におうかがいします。  
 あなたは、どのような相談や支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

ドメスティック・バイオレンスを受けた人への支援内容については、「家庭の中のことでも気兼ねなく、うちあけられる相談窓口」の割合が最も高く 48.3%となっており、次いで「被害から逃れた方が自立して生活できるような経済的支援、就業支援など」の割合が 42.1%、「シェルター（被害から逃れるための緊急一時保護施設）などの設置」の割合が 40.8%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「シェルター（被害から逃れるための緊急一時保護施設）などの設置」、「被害から逃れた方が自立して生活できるような経済的支援、就業支援など」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「家庭の中のことでも気兼ねなく、うちあけられる相談窓口」、「被害者・加害者がいつでも電話できる相談窓口」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の 50 歳代で「被害から逃れた方が自立して生活できるような経済的支援、就業支援など」の割合が高くなっています。また、男性の 20 歳代で「法的な手続き（被害届や保護命令など）について詳しく教えてくれる窓口」の割合が高くなっています。

図 性別でみるドメスティック・バイオレンスを受けた人への支援内容

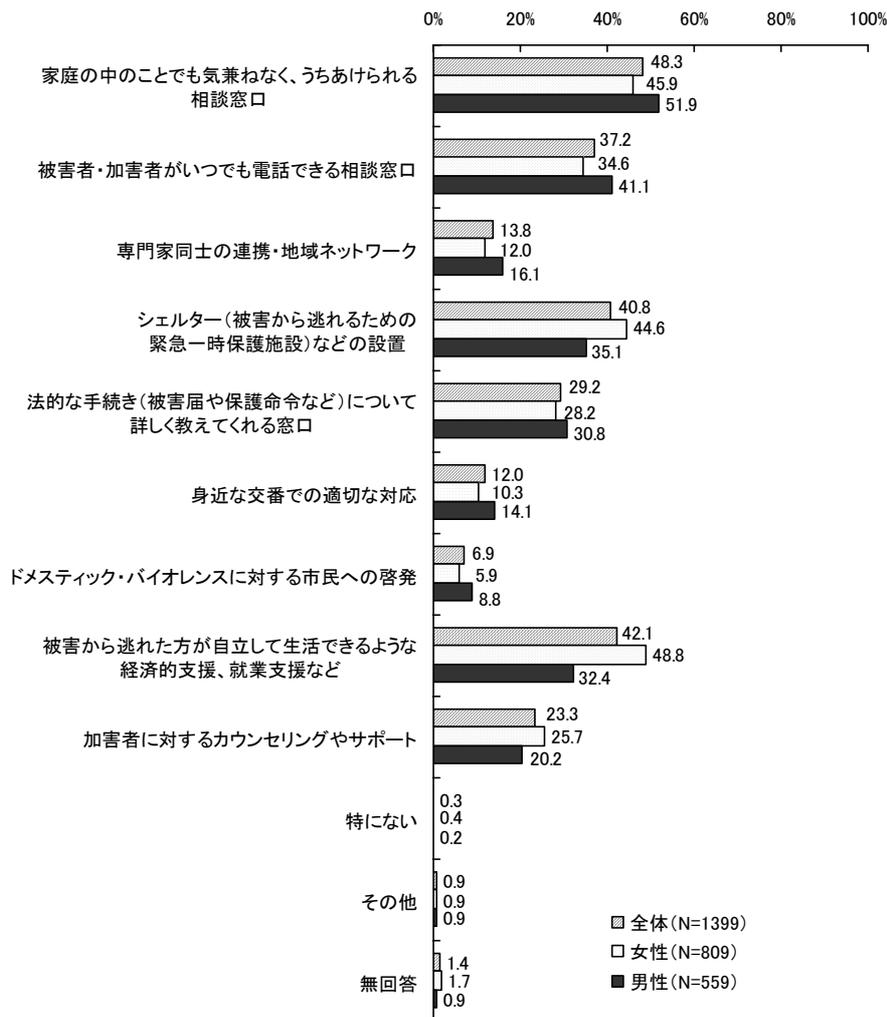
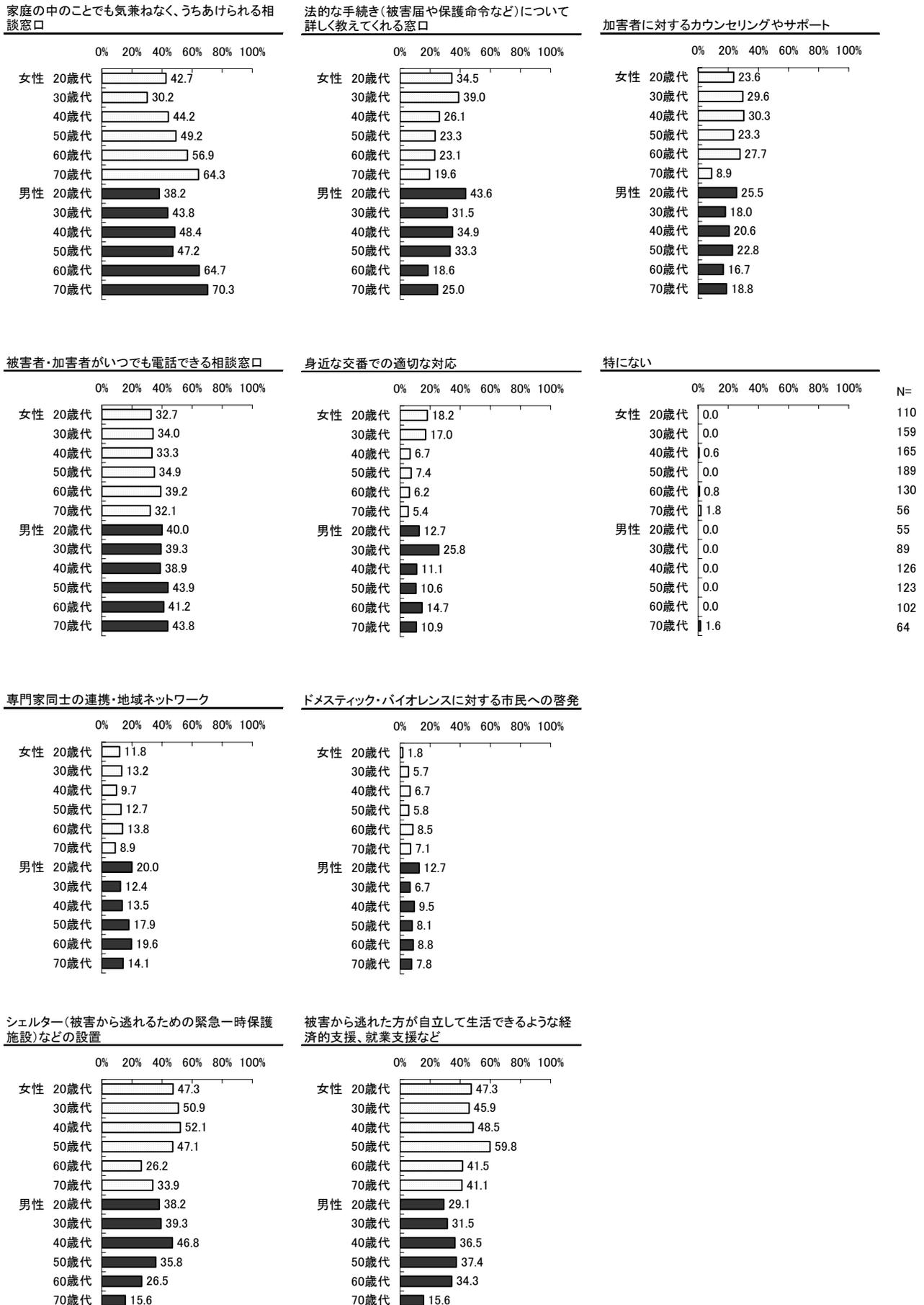


図 性・年代別でみるドメスティック・バイオレンスを受けた人への支援内容



**問 15 あなたは、ドメスティック・バイオレンスが起きる原因は、どこにあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)**

ドメスティック・バイオレンスが起きる原因については、「相手を対等な存在とみなしていない」の割合が最も高く 54.2%となっており、次いで「暴力は人権侵害であり犯罪であるという意識が低い」の割合が 45.9%、「会社など家庭外のストレスが大きい」の割合が 40.2%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「相手を対等な存在とみなしていない」、「暴力は人権侵害であり犯罪であるという意識が低い」の割合が高く、「男女間の話し合いや理解が不足している」の割合が低くなっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「暴力は人権侵害であり犯罪であるという意識が低い」、「子どもの頃から暴力があたりまえのこととして育ってきた」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「男女間の話し合いや理解が不足している」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の 30 歳代、40 歳代で「相手を対等な存在とみなしていない」の割合が高くなっています。また、男性の 20 歳代で「会社など家庭外のストレスが大きい」の割合が高くなっています。

図 ドメスティック・バイオレンスが起きる原因

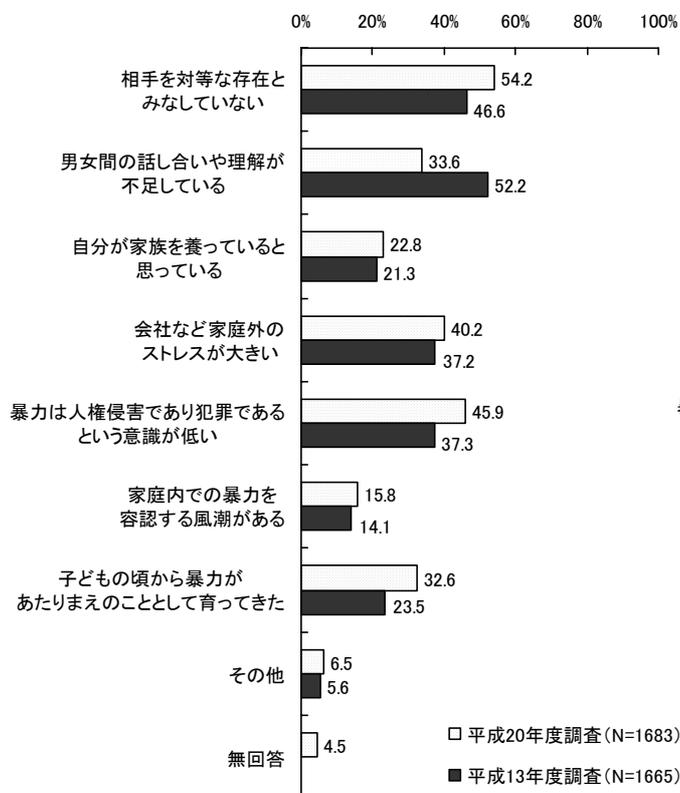


図 性別でみるドメスティック・バイオレンスが起きる原因

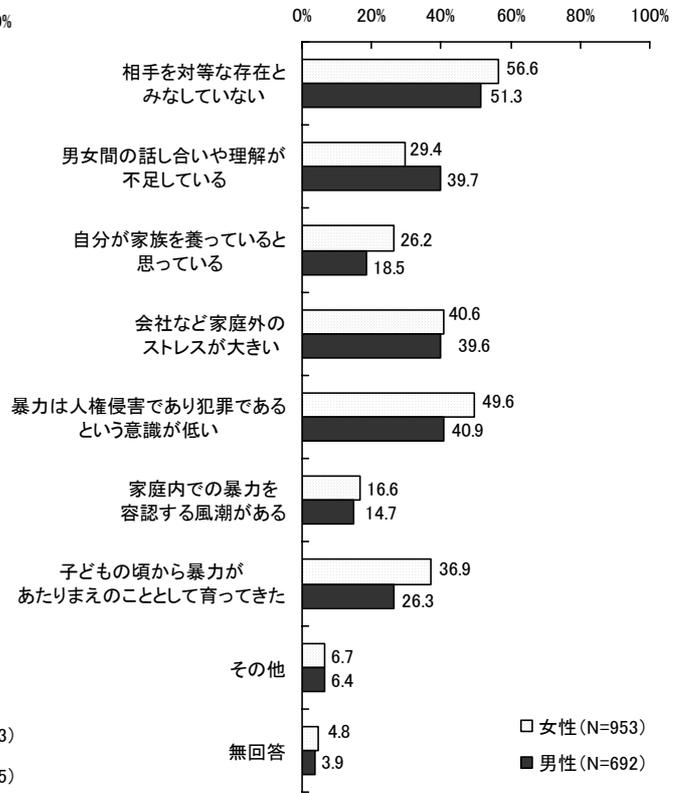
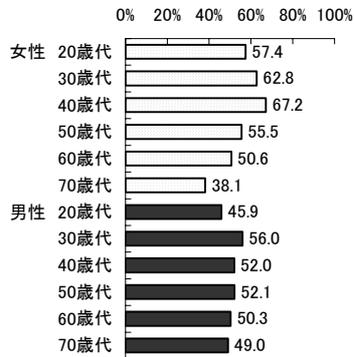
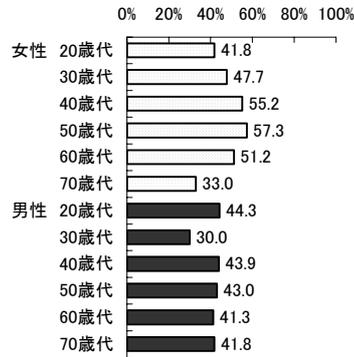


図 性・年代別でみるドメスティック・バイオレンスが起きる原因

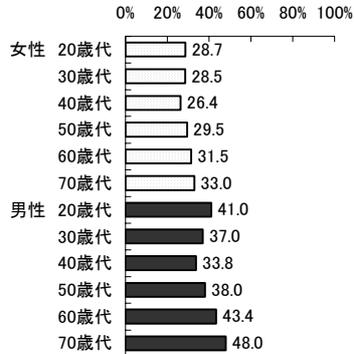
相手を対等な存在とみなしていない



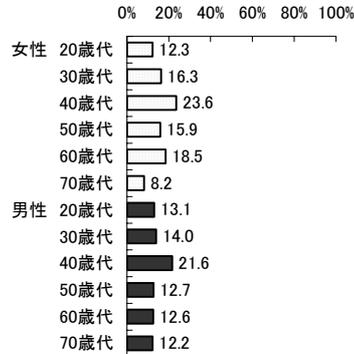
暴力は人権侵害であり犯罪であるという意識が低い



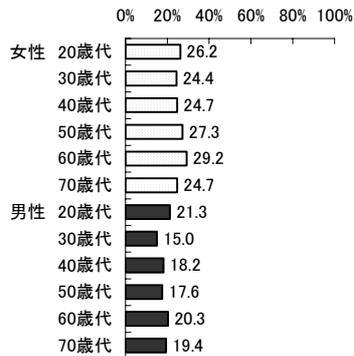
男女間の話し合いや理解が不足している



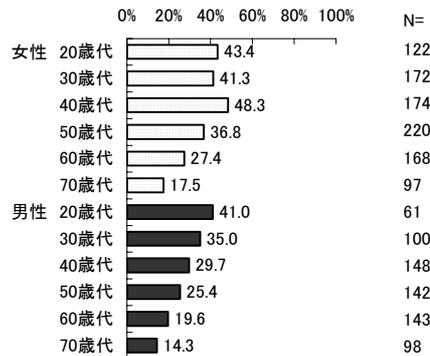
家庭内での暴力を容認する風潮がある



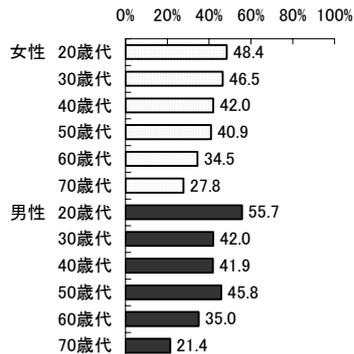
自分が家族を養っていると思っている



子どもの頃から暴力があたりまえのこととして育ってきた



会社など家庭外のストレスが大きい



**問 16 あなたは、ドメスティック・バイオレンスをなくすために、どうしたらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)**

ドメスティック・バイオレンスをなくすための方法については、「暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する」の割合が最も高く 53.1%となっており、次いで「相談やカウンセリングができる体制を整える」の割合が 48.0%、「本人同士がよく話し合い、理解を深める」の割合が 37.8%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する」、「相談やカウンセリングができる体制を整える」、「シェルター（被害から逃れるための緊急一時保護施設）を設置する」の割合が高く、「本人同士がよく話し合い、理解を深める」、「家族で暴力をふるわないように説得する」の割合が低くなっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する」、「相談やカウンセリングができる体制を整える」、「シェルター（被害から逃れるための緊急一時保護施設）を設置する」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「本人同士がよく話し合い、理解を深める」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の 70 歳代で「本人同士がよく話し合い、理解を深める」の割合が高く、「暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する」、「相談やカウンセリングができる体制を整える」の割合が低くなっています。また、男性の 20 歳代、60 歳代以上で「本人同士がよく話し合い、理解を深める」の割合が高くなっています。

図 ドメスティック・バイオレンスをなくすための方法

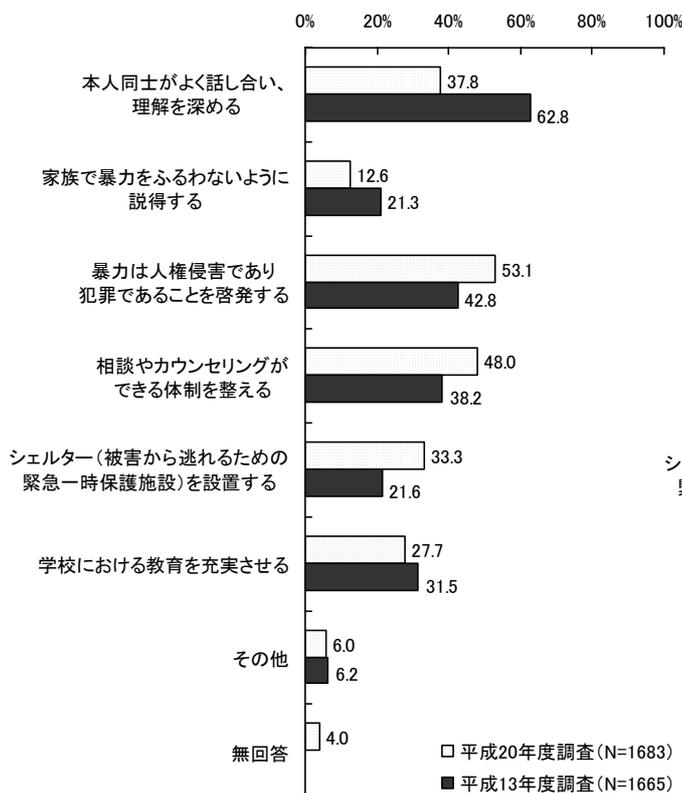


図 性別でみるドメスティック・バイオレンスをなくすための方法

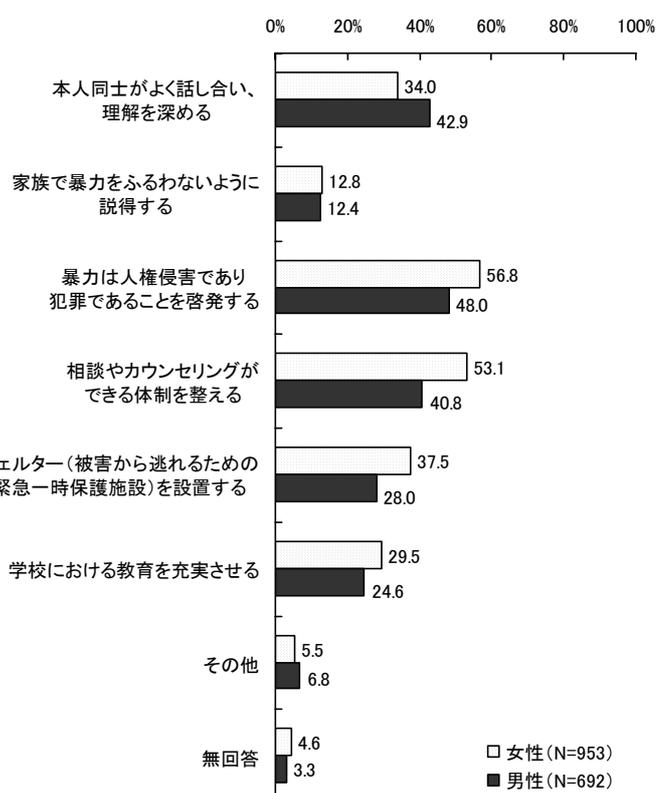
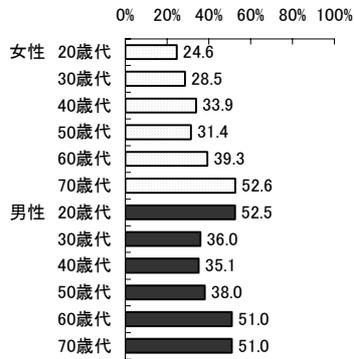
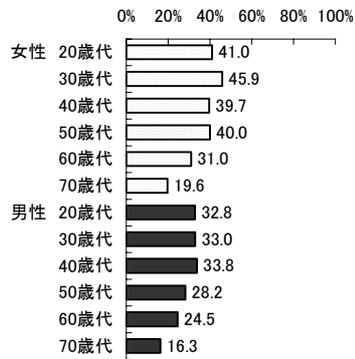


図 性・年代別でみるドメスティック・バイオレンスをなくすための方法

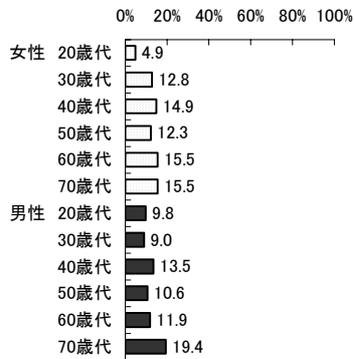
本人同士がよく話し合い、理解を深める



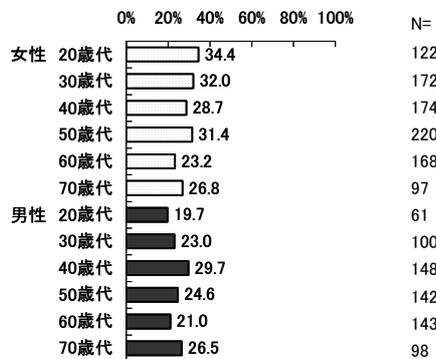
シェルター(被害から逃れるための緊急一時保護施設)を設置する



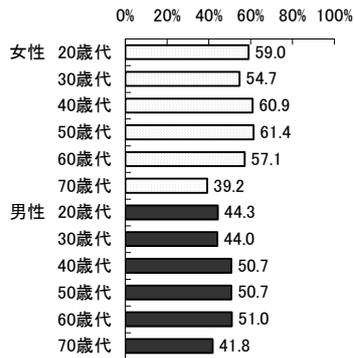
家族で暴力をふるわないように説得する



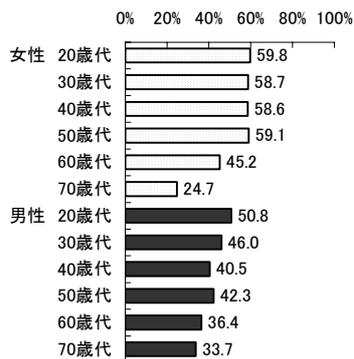
学校における教育を充実させる



暴力は人権侵害であり犯罪であることを啓発する



相談やカウンセリングができる体制を整える



## (5) 社会活動について

### 問 17 あなたは、社会活動に参加していますか。

社会活動への参加状況については、「参加している」の割合が最も高く 42.5%となっており、次いで「参加していない」の割合が 41.5%、「今は参加していないが今後参加したい」の割合が 14.0%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「参加している」の割合が高くなっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

性・年代別でみると、女性の 40 歳代で「参加している」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ男性の 20 歳代で「今は参加していないが今後参加したい」の割合が高く、50 歳代で「参加している」の割合が高くなっています。

図 社会活動への参加状況

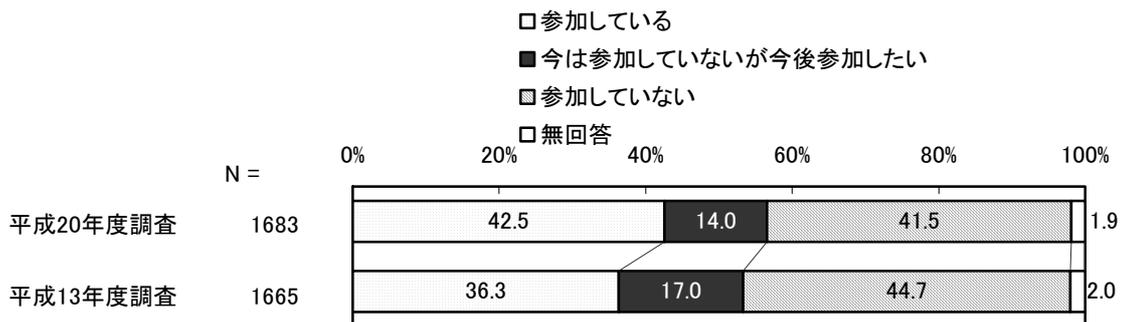


図 性別でみる社会活動への参加状況

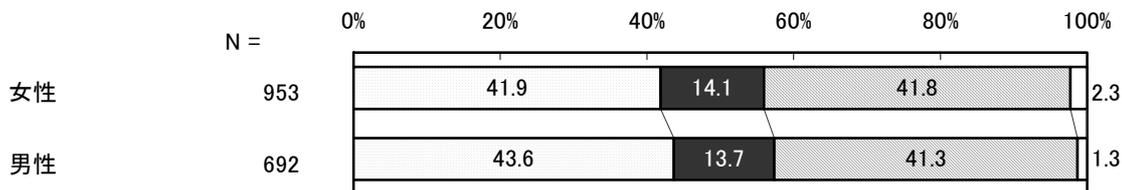
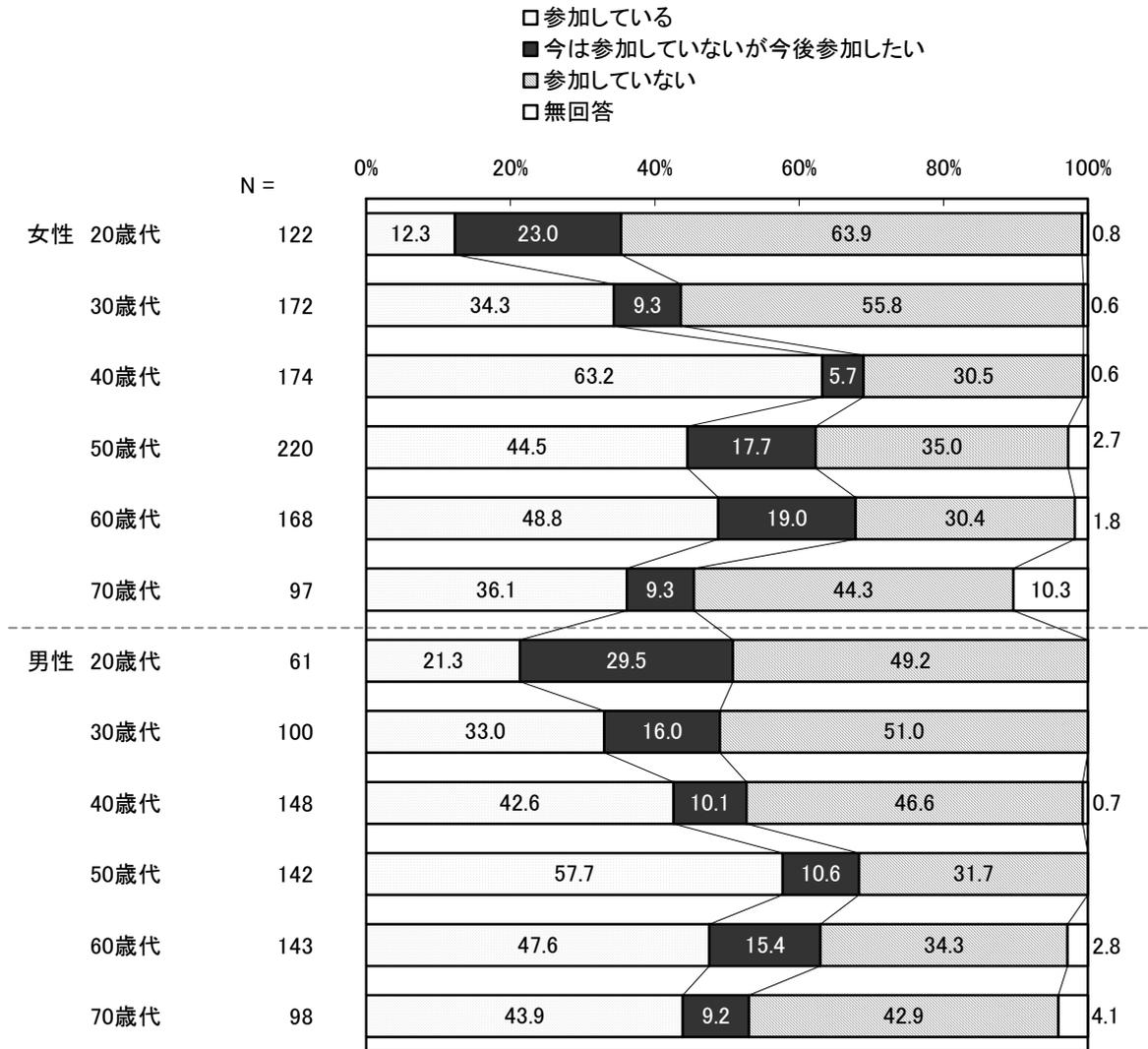


図 性・年代別でみる社会活動への参加状況



問 18 問 17 で「1. 参加している」または「2. 今は参加していないが今後参加したい」と答えた方におうかがいします。  
 あなたの参加している活動、あるいは参加したい活動はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

参加している・参加したい活動については、「町内会・自治会の活動」の割合が最も高く 69.6% となっており、次いで「ボランティアの活動」の割合が 35.6%、「PTA・子ども会の活動」の割合が 24.1%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「町内会・自治会の活動」の割合が高くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「PTA・子ども会の活動」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「町内会・自治会の活動」、「市民運動・まちづくりの活動」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の 30 歳代、40 歳代で「町内会・自治会の活動」、「PTA・子ども会の活動」の割合が高く、70 歳代で「青年会・婦人会・老人会の活動」の割合が高く、20 歳代、50 歳代、60 歳代で「ボランティアの活動」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ男性の 30 歳代以上で「町内会・自治会の活動」の割合が高く、20 歳代で「ボランティアの活動」の割合が高く、70 歳代で「青年会・婦人会・老人会の活動」、「市民運動・まちづくりの活動」の割合が高くなっています。

図 参加している・参加したい活動

図 性別でみる参加している・参加したい活動

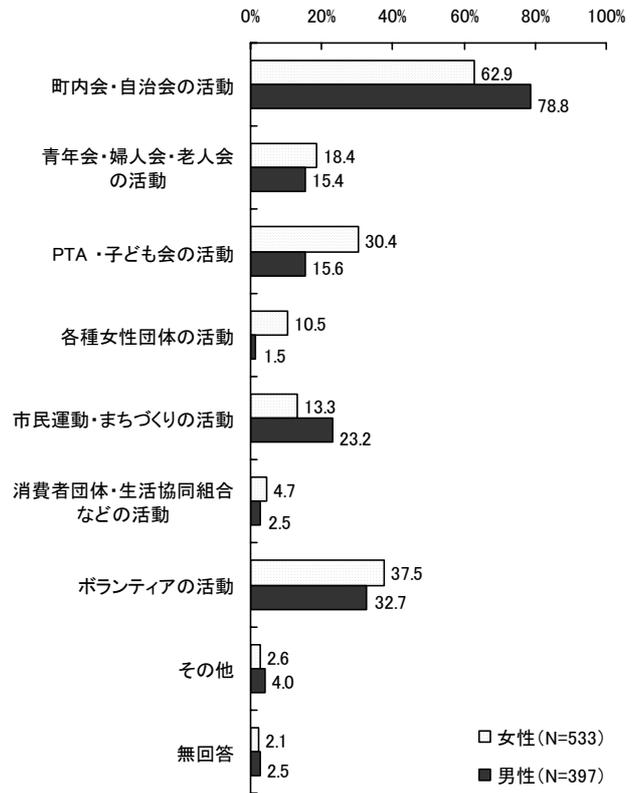
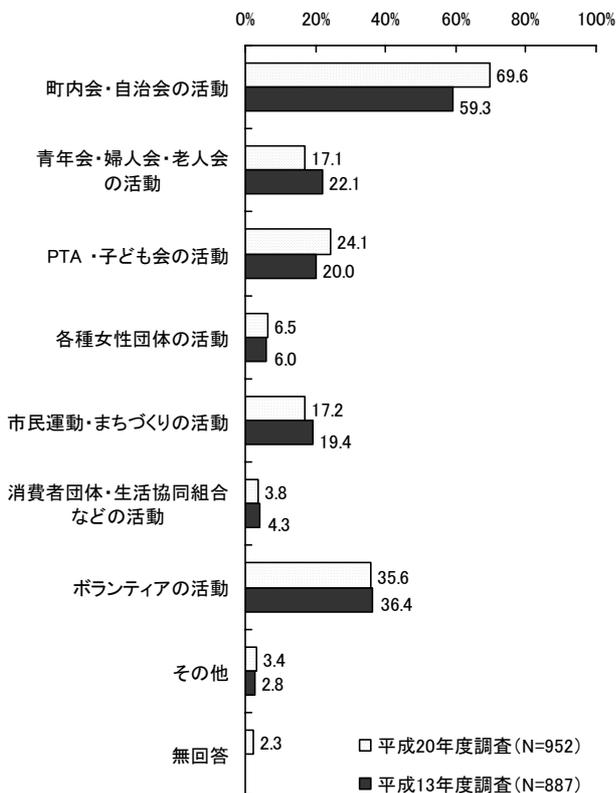
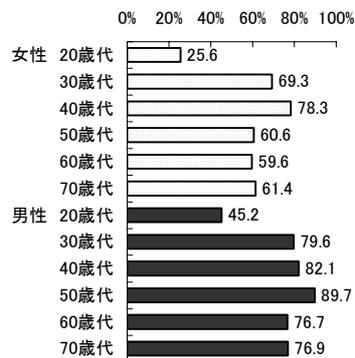
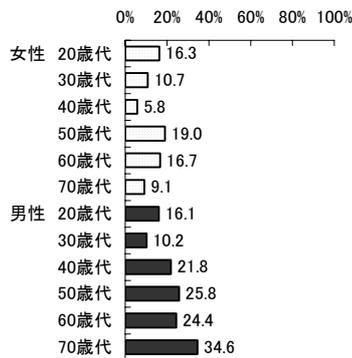


図 性・年代別でみる参加している・参加したい活動

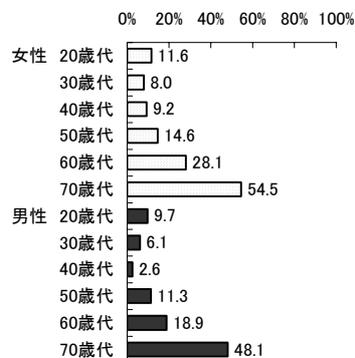
町内会・自治会の活動



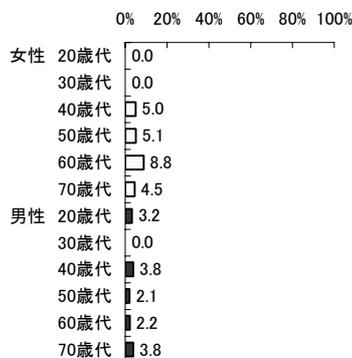
市民運動・まちづくりの活動



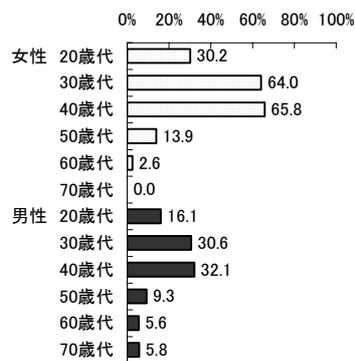
青年会・婦人会・老人会の活動



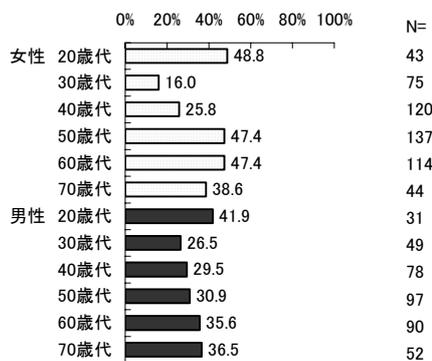
消費者団体・生活協同組合などの活動



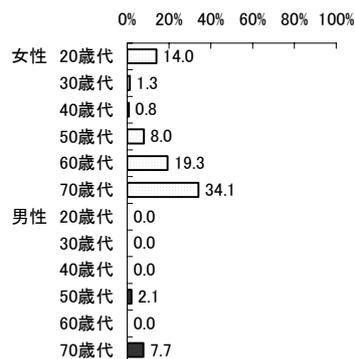
PTA・子ども会の活動



ボランティアの活動



各種女性団体の活動



**問 19 あなたが社会活動をしようとする場合、どのようなことが障害となっていたり、障害となるだろうと思われますか。(〇は2つまで)**

社会活動をする場合の障害については、「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が最も高く54.8%となっており、次いで「参加するきっかけがつかめない」の割合が25.0%、「人間関係がわずらわしい」の割合が17.9%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性に比べ女性で「子どもや高齢者、病人がおり、家をあげられない」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の30歳代で「子どもや高齢者、病人がおり、家をあげられない」の割合が高くなっています。また、男性の20歳代から50歳代で「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が高くなっています。

図 社会活動をする場合の障害

図 性別でみる社会活動をする場合の障害

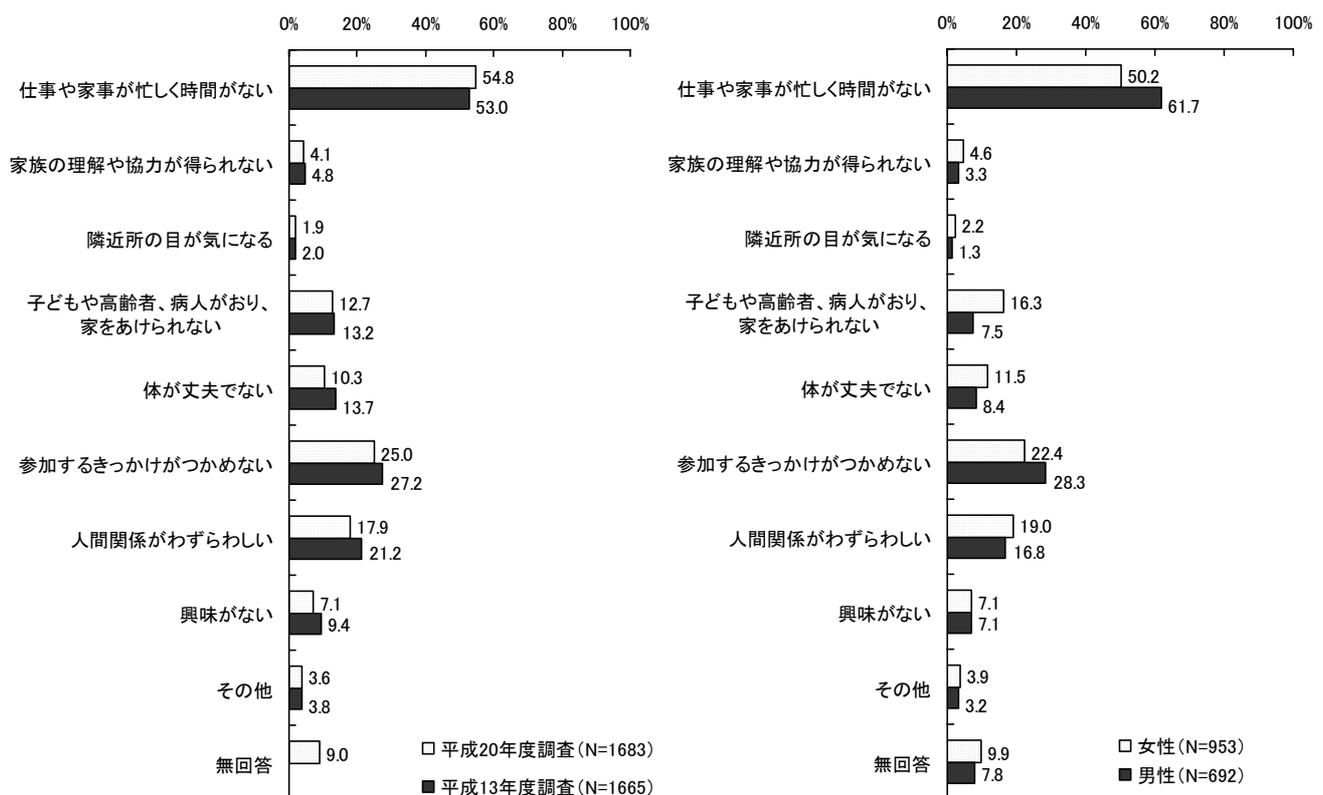
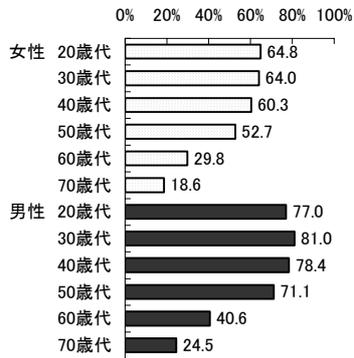
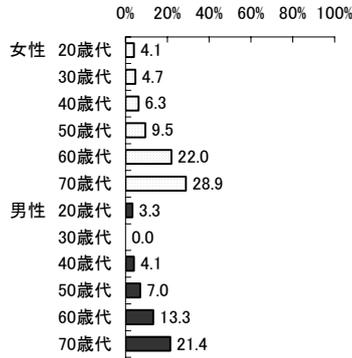


図 性・年代別でみる社会活動をする場合の障害

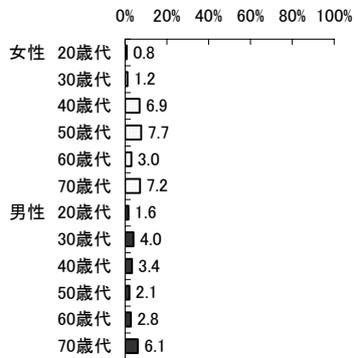
仕事や家事が忙しく時間がない



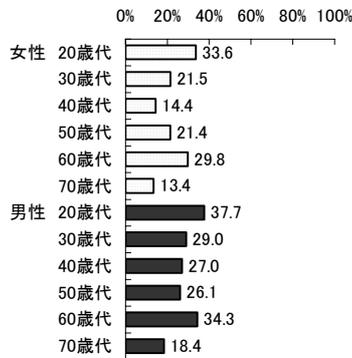
体が丈夫でない



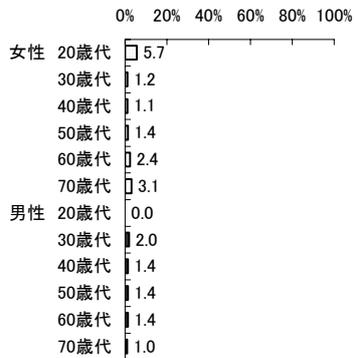
家族の理解や協力が得られない



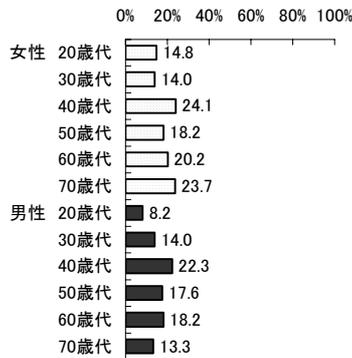
参加するきっかけがつかめない



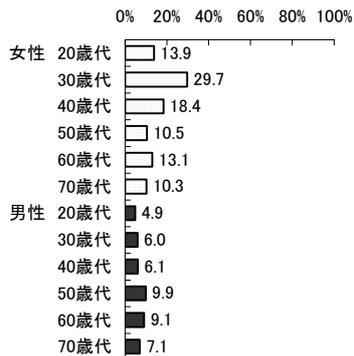
隣近所の目が気になる



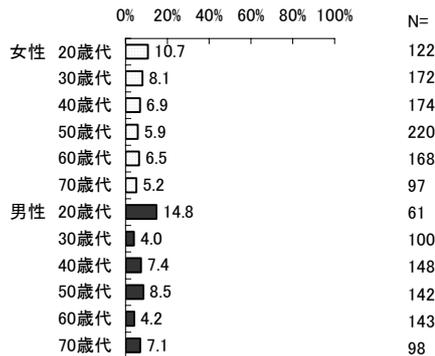
人間関係がわずらわしい



子どもや高齢者、病人がおり、家をあげられない



興味が無い



## (6) 地域について

問 20 あなたの住んでいる地域（自治会・町内会）の行事などに男女不平等なことがありますか。

住んでいる地域で男女不平等なことがあるかについては、「ある」の割合が18.7%、「ない」の割合が74.7%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、大きな差異はみられません。

性・年代別でみると、他の年代に比べ女性の40歳代で「ある」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ男性の50歳代で「ある」の割合が高くなっています。

図 住んでいる地域で男女不平等なことがあるか

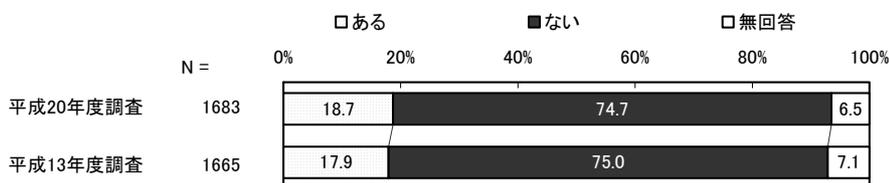


図 性別でみる住んでいる地域で男女不平等なことがあるか

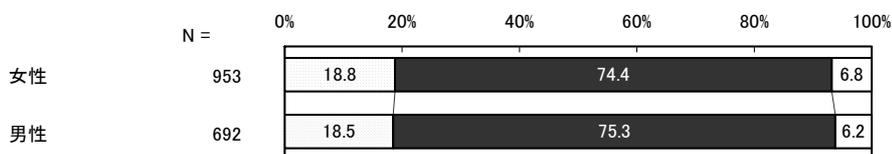
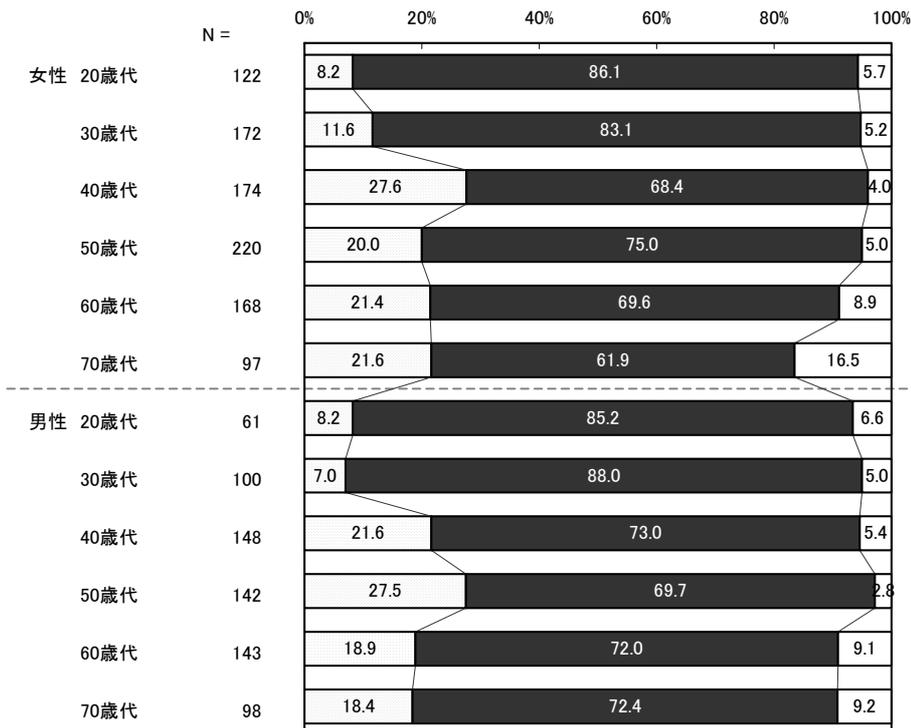


図 性・年代別でみる住んでいる地域で男女不平等なことがあるか



問 21 問 20 で「1. ある」と答えた方におうかがいします。

あなたの住んでいる地域（自治会・町内会）の行事などにどのような男女不平等なことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

住んでいる地域の男女不平等の内容については、「性別による固定的な役割分担がある」の割合が最も高く 54.0%となっており、次いで「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」の割合が 36.5%、「会議などで女性が意見を言いにくかったり、男性と差がある」の割合が 31.7%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「地域の行事・祭礼などで女性が参加できなかつたり、男性と差がある」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性に比べ男性で「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の 50 歳代以上で「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」の割合が高く、30 歳代、40 歳代で「性別による固定的な役割分担がある」の割合が高くなっています。また、男性の 40 歳代、50 歳代、70 歳代で「役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい」の割合が高くなっています。

図 住んでいる地域の男女不平等の内容

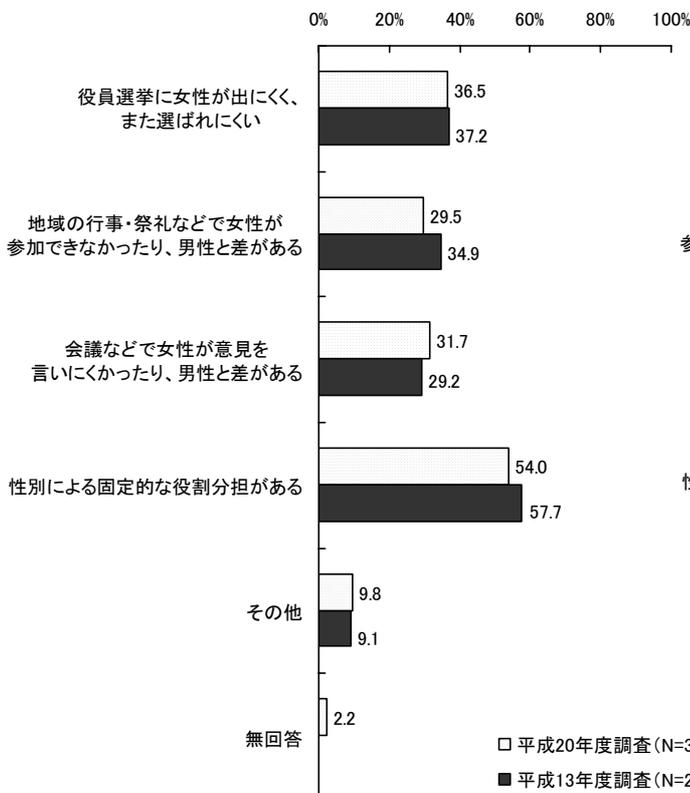


図 性別でみる住んでいる地域の男女不平等の内容

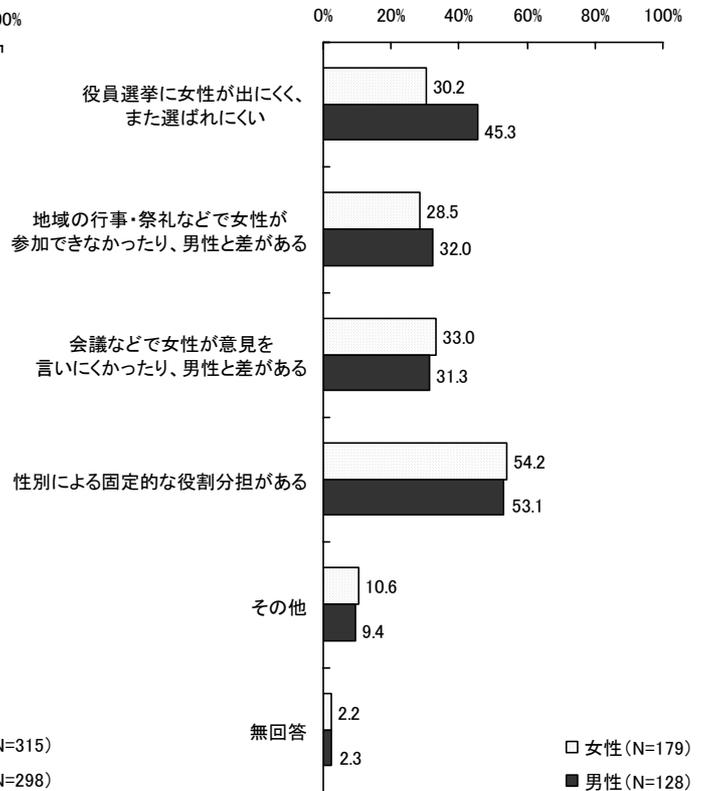
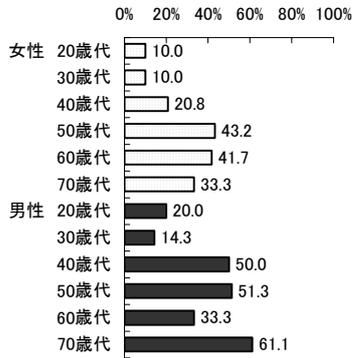
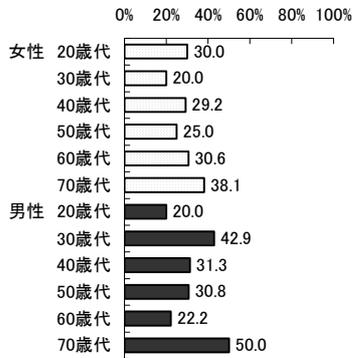


図 性・年代別でみる住んでいる地域の男女不平等の内容

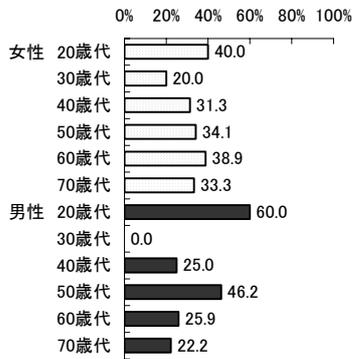
役員選挙に女性が出にくく、また選ばれにくい



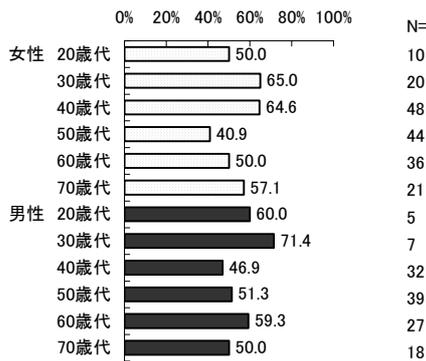
地域の行事・祭礼などで女性が参加できなかったり、男性と差がある



会議などで女性が意見を言いにくかったり、男性と差がある



性別による固定的な役割分担がある



**問 22 あなたは、地域の男女不平等の原因は、どこにあると思いますか。**  
**(あてはまるものすべてに○)**

地域の男女不平等の原因については、「社会的なしきたりやならわし」の割合が最も高く 68.3% となっており、次いで「男・女という性別によって役割が違うという意識」の割合が 60.0%、「男性の女性に対する偏見」の割合が 34.6%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、全ての項目で割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「社会的なしきたりやならわし」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「肉体的・体力的な差」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の 30 歳代、50 歳代、70 歳代で「男・女という性別によって役割が違うという意識」の割合が低くなっています。また、男性の 50 歳代で「社会的なしきたりやならわし」の割合が高くなっています。(男性の 20 歳代、30 歳代については、有効回答数が少数であり、統計上の信頼度が確保できないためコメントは差し控えます。)

図 地域の男女不平等の原因

図 性別でみる地域の男女不平等の原因

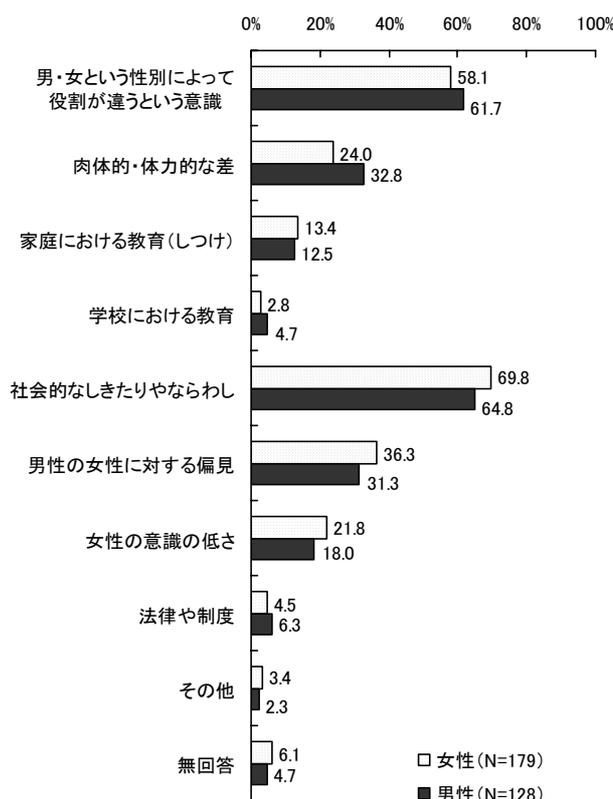
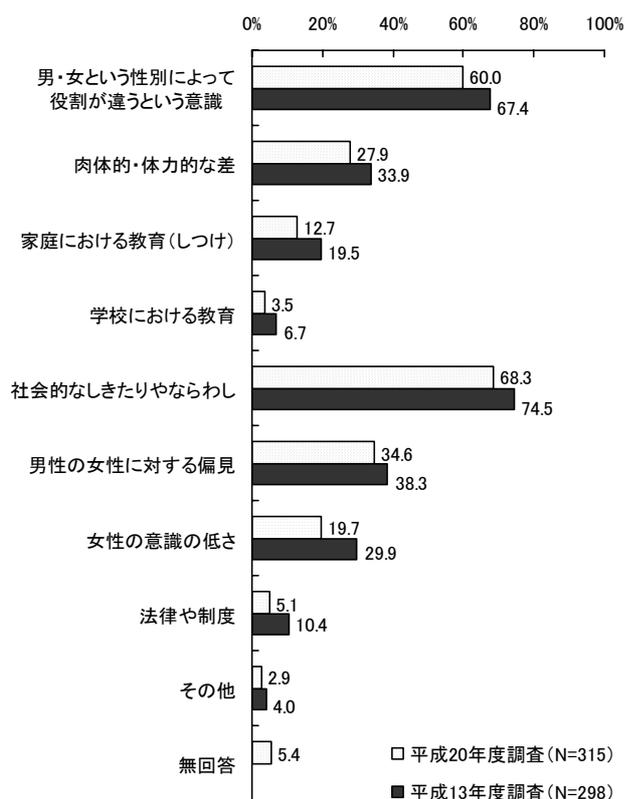
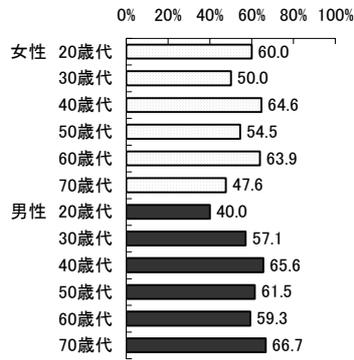
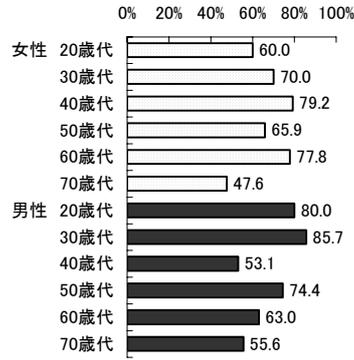


図 性・年代別でみる地域の男女不平等の原因

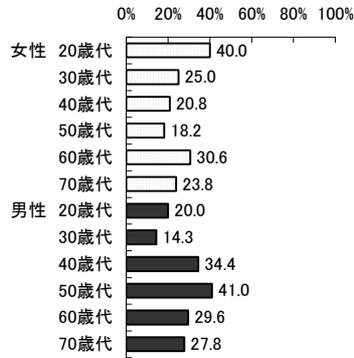
男・女という性別によって役割が違うという意識



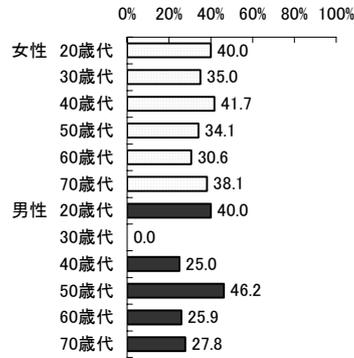
社会的なしきたりやならわし



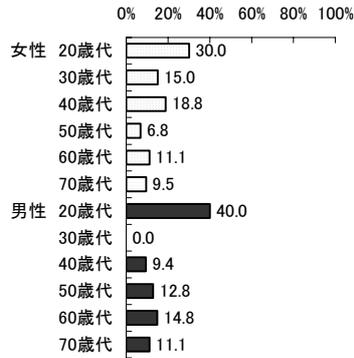
肉体的・体力的な差



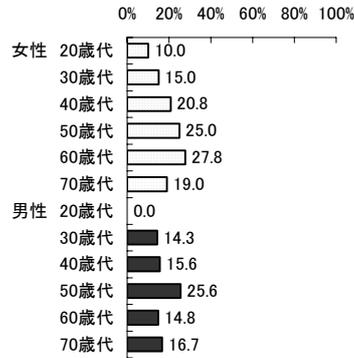
男性の女性に対する偏見



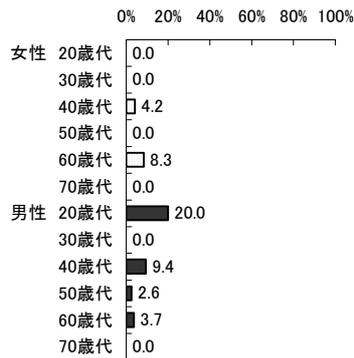
家庭における教育(しつけ)



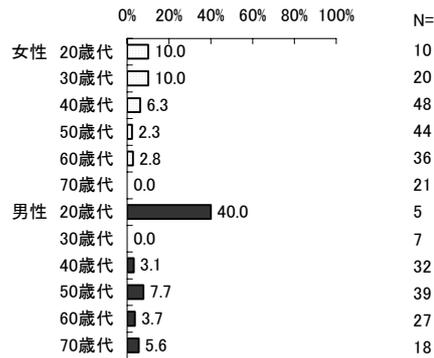
女性の意識の低さ



学校における教育



法律や制度



## (7) 労働について

問 23 あなたの現在の職業、配偶者の職業は、次のどれにあたりますか。  
 (それぞれ1つの番号を回答欄に記入、配偶者のいない方はご自身の欄のみに記入)

本人の職業については、「会社員、会社役員、公務員」の割合が最も高く 37.1%となっており、次いで「パート・アルバイトまたは内職」の割合が 13.7%、「専業主婦（夫）」の割合が 12.9%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「無職（専業主婦（夫）・学生以外）」の割合が低くなっています。

配偶者の職業については、「会社員、会社役員、公務員」の割合が最も高く 25.0%となっており、次いで「パート・アルバイトまたは内職」の割合が 9.2%、「無職（専業主婦（夫）・学生以外）」の割合が 7.7%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「専業主婦（夫）」の割合が低くなっています。

図 本人の職業

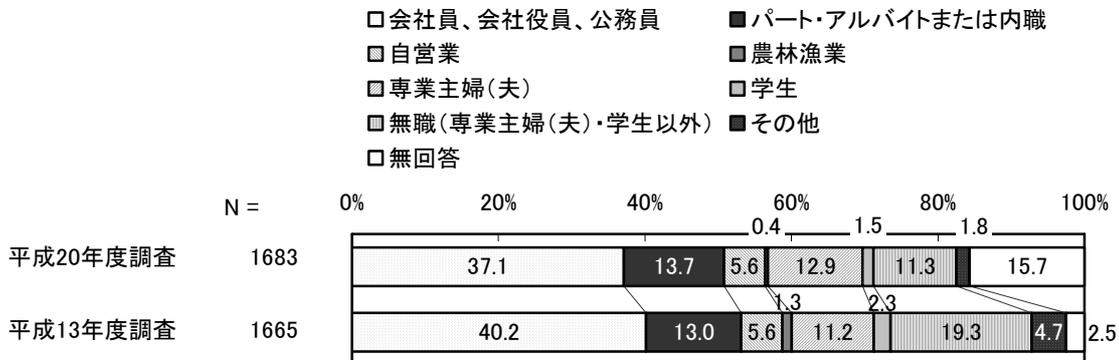
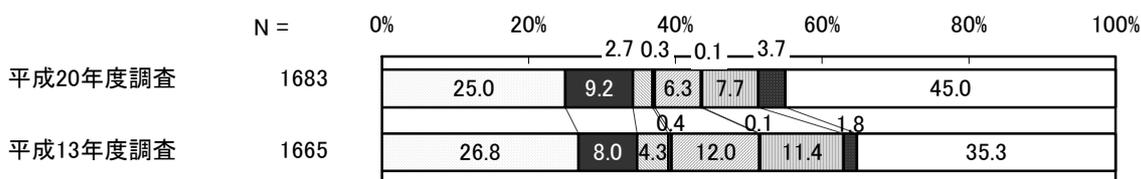


図 配偶者の職業



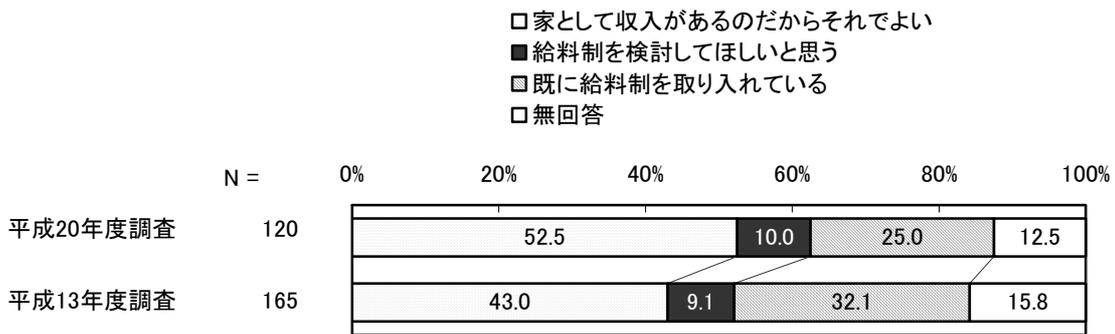
問 24 問 23 で「3. 自営業」または「4. 農林漁業」と答えた方におうかがいします。農業や商業などの自営業の場合、収入は家全体のものとして扱われ、働きに相当する分の報酬が明確となっていない場合も多くありますが、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

働きに対する報酬の明確性については、「家として収入があるのだからそれでよい」の割合が最も高く 52.5%となっており、次いで「既に給料制を取り入れている」の割合が 25.0%、「給料制を検討してほしいと思う」の割合が 10.0%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「家として収入があるのだからそれでよい」の割合が高くなっています。

有効回答数が少数であり、統計上の信頼度が確保できないためクロス集計、コメントは差し控えます。

図 働きに対する報酬の明確性



**問 25 あなたは、現在収入を得て働いていますか。**

収入を得て働いているかについては、「働いている」の割合が 65.0%、「働いていない」の割合が 33.5%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性に比べ女性で「働いていない」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、主な労働力人口である 50 歳代以下のうち、女性の 30 歳代で「働いていない」の割合が高くなっています。

図 収入を得て働いているか

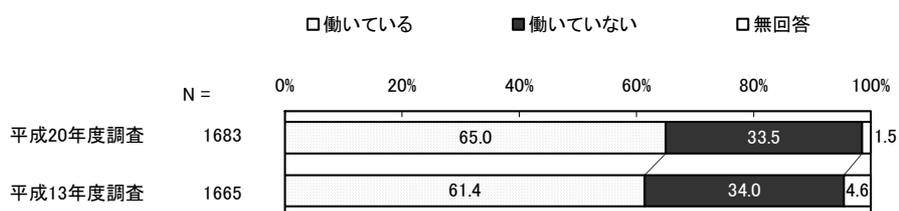


図 性別でみる収入を得て働いているか

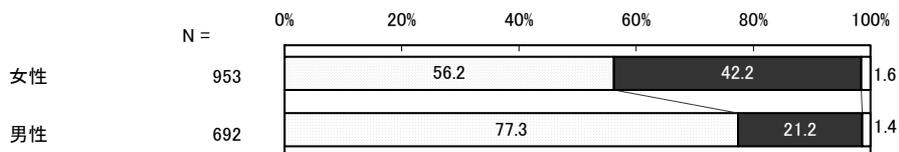
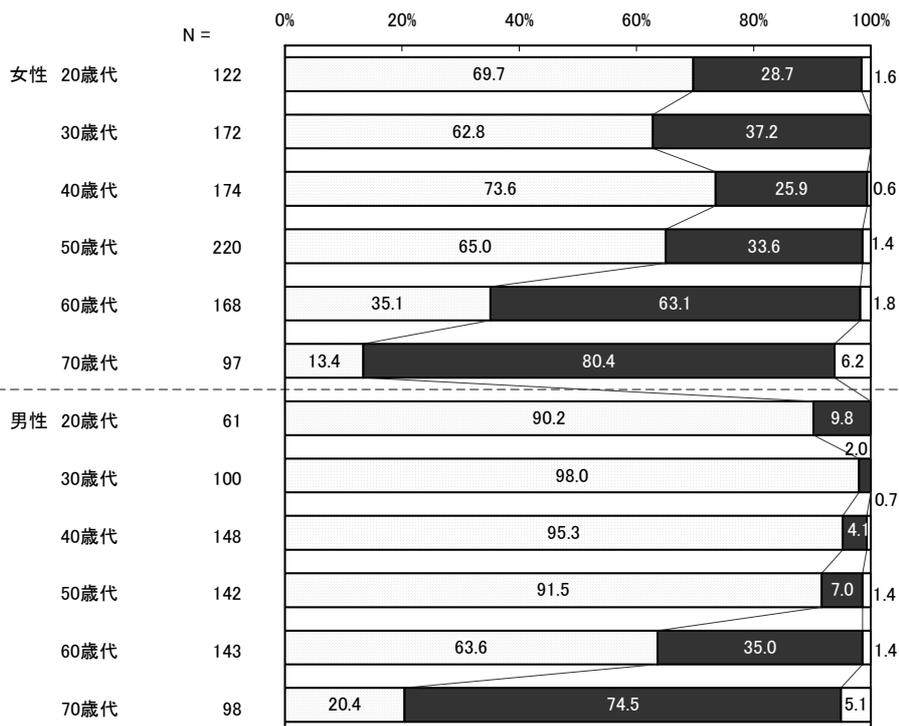


図 性・年代別でみる収入を得て働いているか



問 26 問 25 で「1.働いている」と答えた方におうかがいします。  
あなたの職場では、男女差別がありますか。

職場での男女差別の有無については、「ある」の割合が 23.7%、「ない」の割合が 75.3%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「ない」の割合が高くなっています。

性別で見ると、大きな差異はみられません。

性・年代別で見ると、他の年代に比べ女性の 20 歳代で「ある」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ男性の 20 歳代で「ある」の割合が高くなっています。

図 職場での男女差別の有無

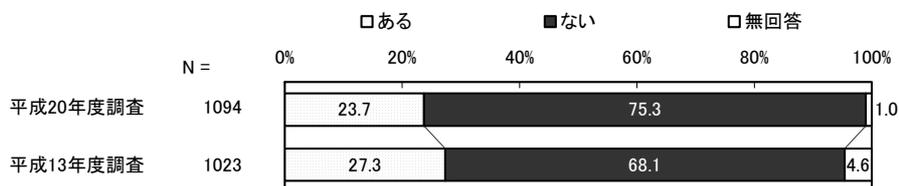


図 性別でみる職場での男女差別の有無

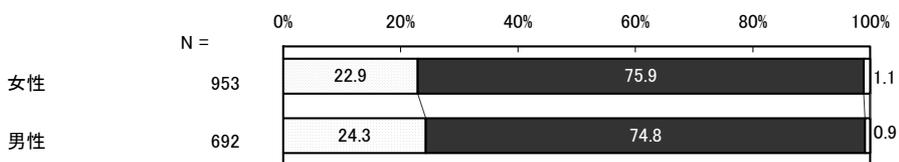
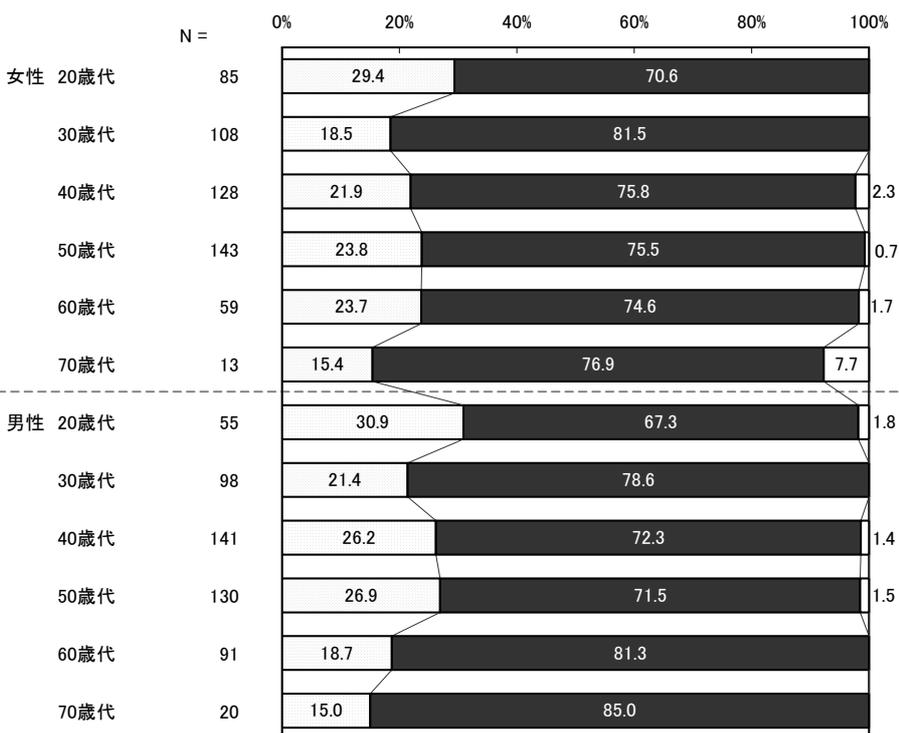


図 性・年代別でみる職場での男女差別の有無



問 27 問 26 で男女差別が「1. ある」と答えた方におうかがいします。  
 あなたの職場では、どのような男女差別がありますか。(あてはまるものすべてに○)

職場での男女差別の内容については、「仕事内容に差別がある」の割合が最も高く 56.4%となっており、次いで「賃金・昇給に差別がある」の割合が 40.2%、「昇進・昇格に差別がある」の割合が 30.9%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「仕事内容に差別がある」、「賃金・昇給に差別がある」、「昇進・昇格に差別がある」、「能力の評価に差別がある」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「賃金・昇給に差別がある」、「昇進・昇格に差別がある」、「能力の評価に差別がある」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「仕事内容に差別がある」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の 60 歳代で「賃金・昇給に差別がある」の割合が高くなっています。また、男性の 20 歳代で「仕事内容に差別がある」の割合が高くなっています。

図 職場での男女差別の内容

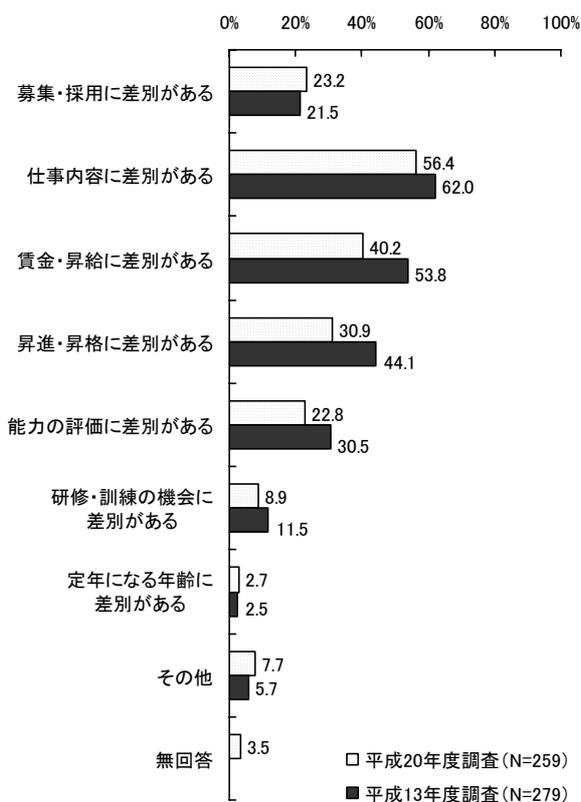


図 性別でみる職場での男女差別の内容

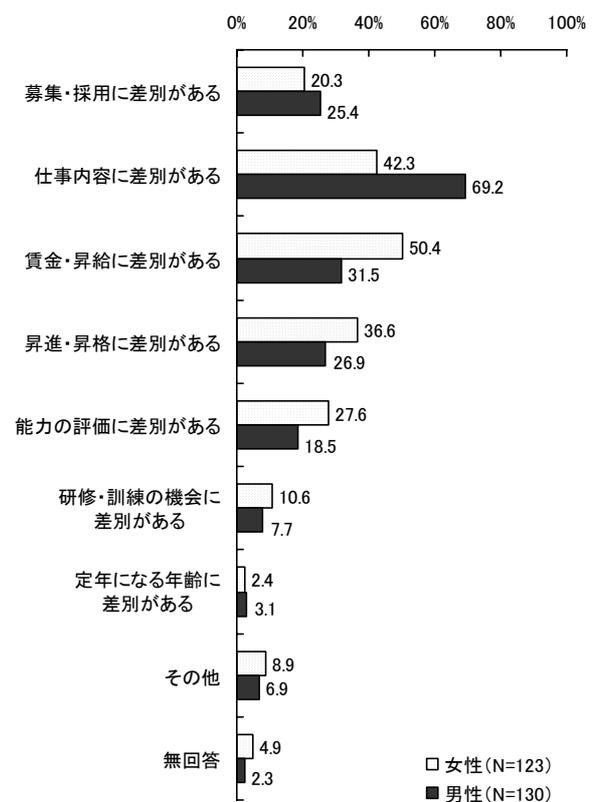
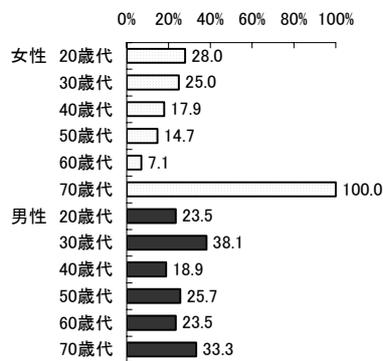
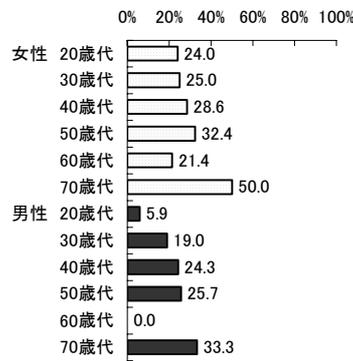


図 性・年代別でみる職場での男女差別の内容

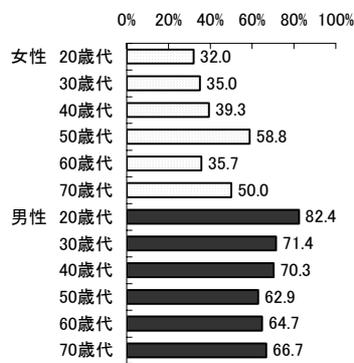
募集・採用に差別がある



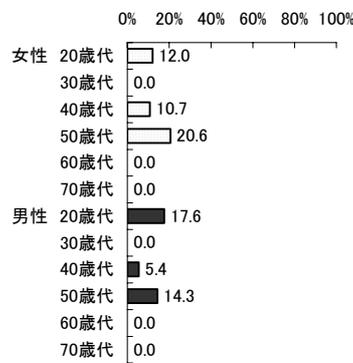
能力の評価に差別がある



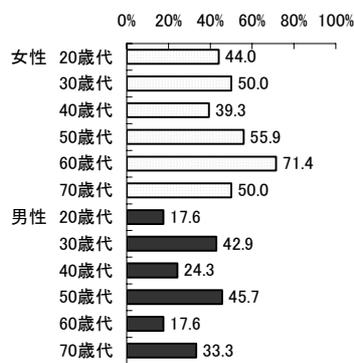
仕事内容に差別がある



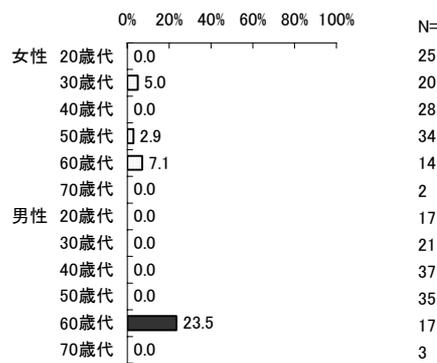
研修・訓練の機会に差別がある



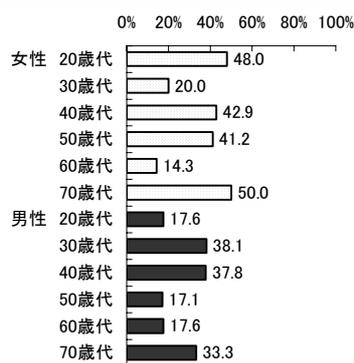
賃金・昇給に差別がある



定年になる年齢に差別がある



昇進・昇格に差別がある



**問 28 あなたは、職場の男女差別の原因はどこにあると思いますか。**  
**(あてはまるものすべてに○)**

職場の男女差別の原因については、「男・女という性別によって役割が違うという意識」の割合が最も高く 47.1%となっており、次いで「肉体的・体力的な差」の割合が 41.7%、「女性は結婚や出産、育児のために働き続けにくい」の割合が 40.5%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、全ての項目で割合が低くなっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「職場での男性の女性観」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「肉体的・体力的な差」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の 20 歳から 40 歳代で「女性は結婚や出産、育児のために働き続けにくい」の割合が高くなっています。また、男性の 40 歳代以上で「男・女という性別によって役割が違うという意識」の割合が高く、5 割以上を占めています。

図 職場の男女差別の原因

図 性別でみる職場の男女差別の原因

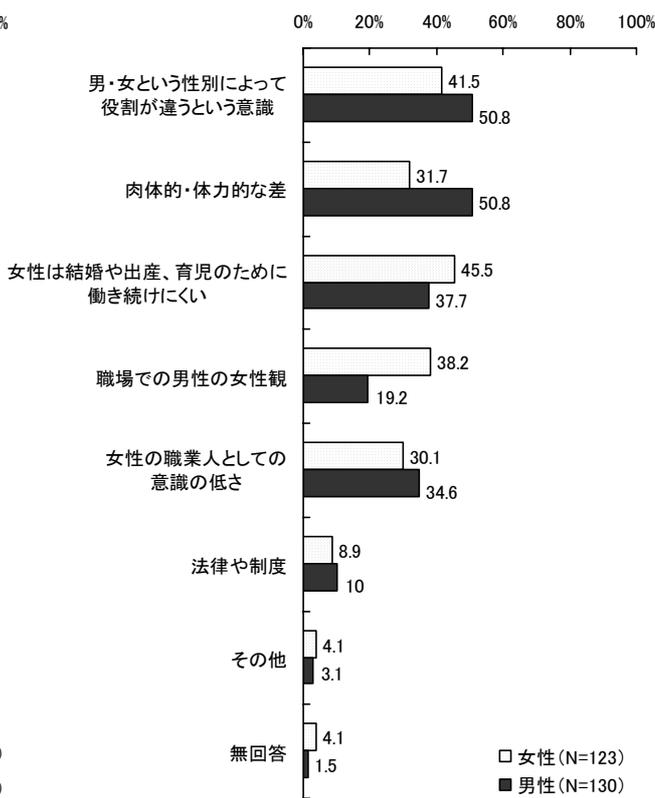
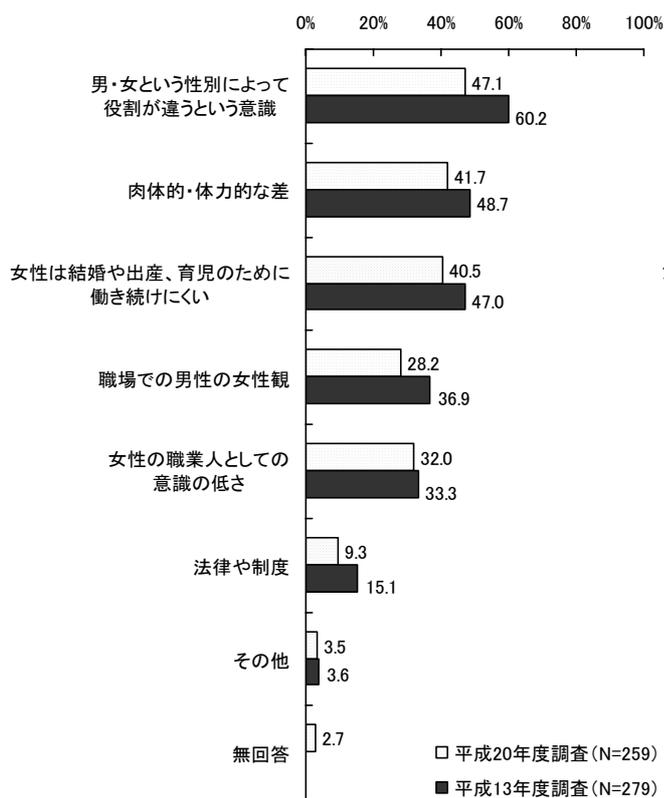
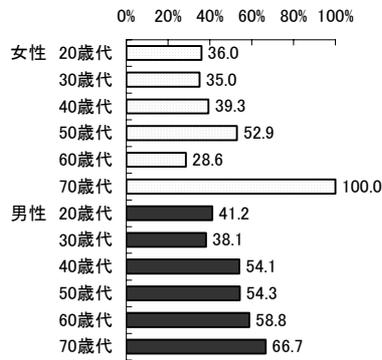
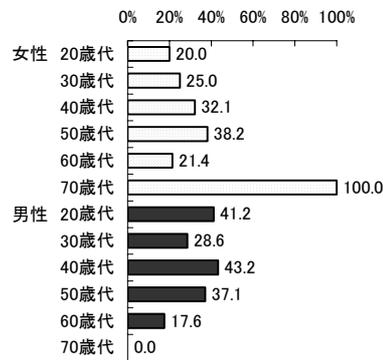


図 性・年齢別でみる職場の男女差別の原因

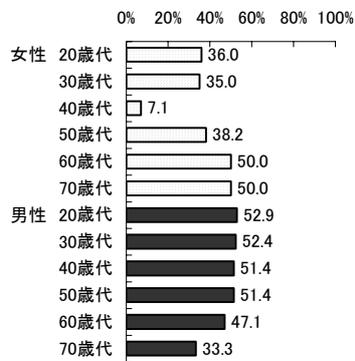
男・女という性別によって役割が違うという意識



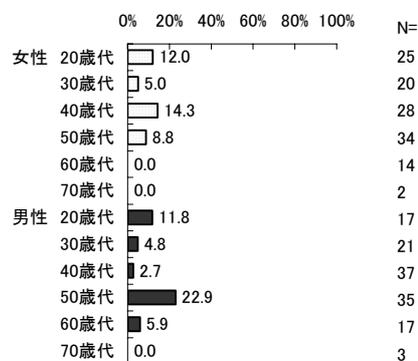
女性の職業人としての意識の低さ



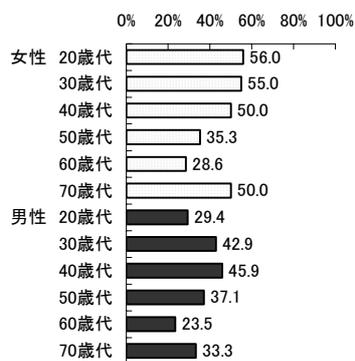
肉体的・体力的な差



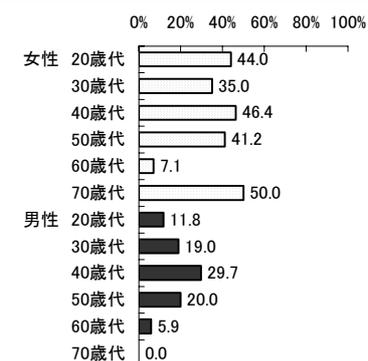
法律や制度



女性は結婚や出産、育児のために働き続けにくい



職場での男性の女性観



問 29 問 25 で「2. 働いていない」と答えた方におうかがいします。  
 あなたが働いておられないのは、主にどのような理由からですか。  
 (〇は3つまで)

働いていない理由については、「定年のため」の割合が最も高く 33.9%となっており、次いで「健康上の理由から」の割合が 19.9%、「家事に専念したいから」の割合が 17.9%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「定年のため」、「働きたいが年齢制限があり働けないから」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「育児に手がかかるから」、「家事に専念したいから」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「定年のため」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の 30 歳代で「育児に手がかかるから」の割合が高くなっています。また、男性の 40 歳代、50 歳代で「健康上の理由から」の割合が高くなっています。

図 働いていない理由

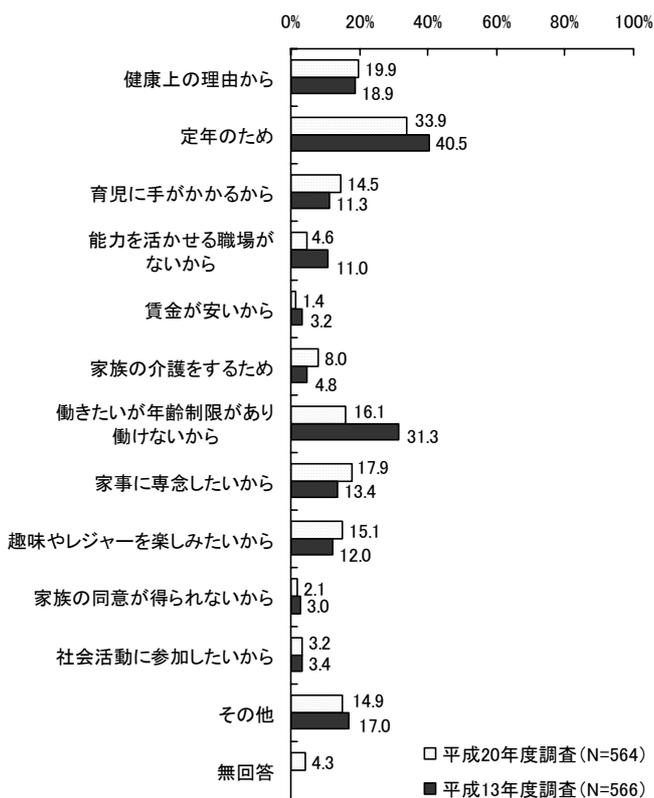


図 性別でみる働いていない理由

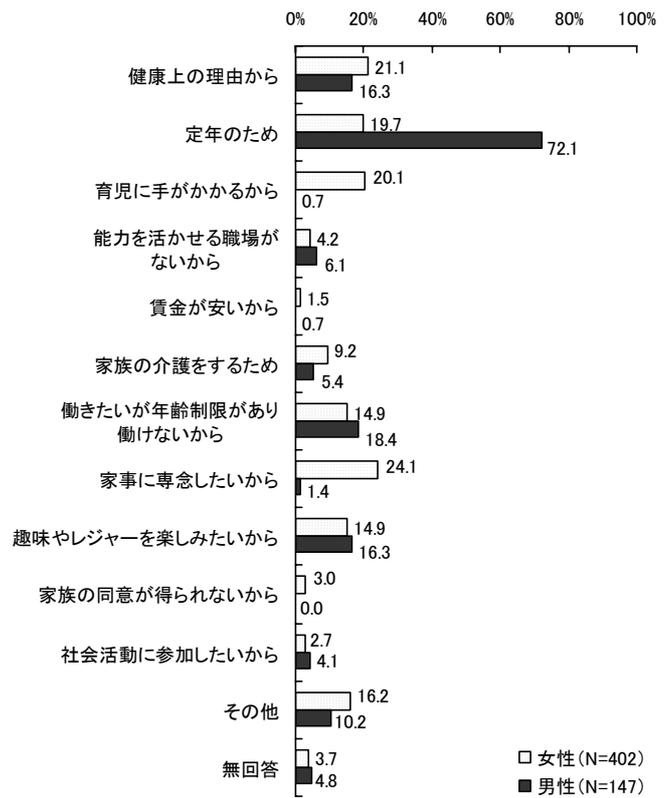
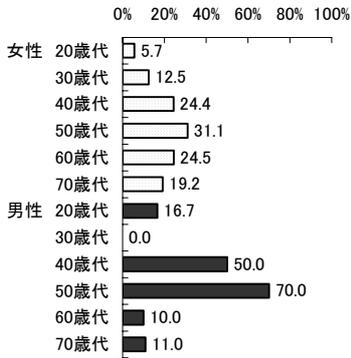
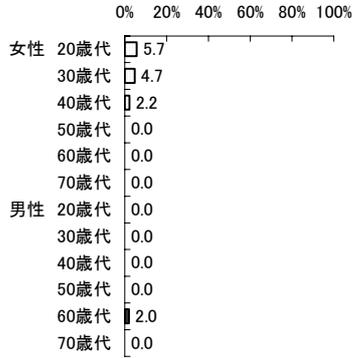


図 性・年代でみる働いていない理由

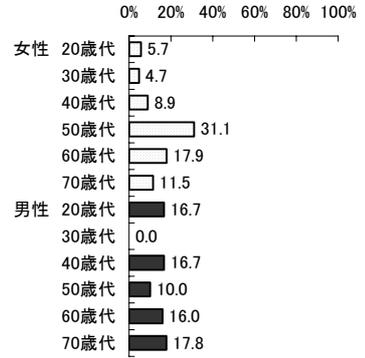
健康上の理由から



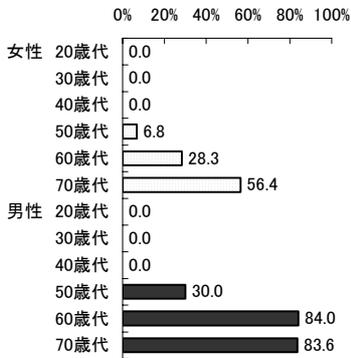
賃金が安いから



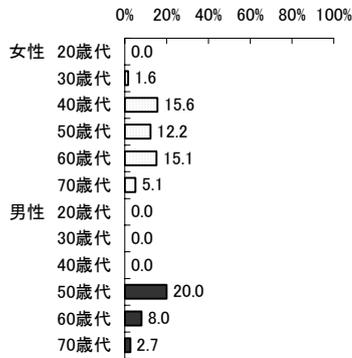
趣味やレジャーを楽しみたいから



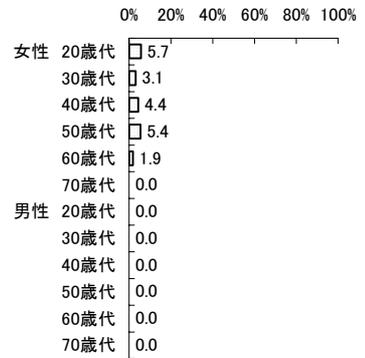
定年のため



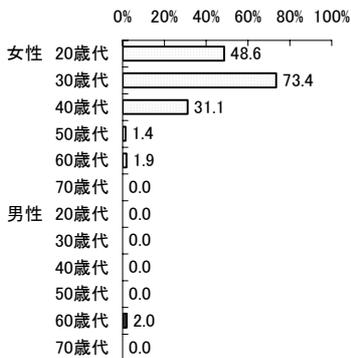
家族の介護をするため



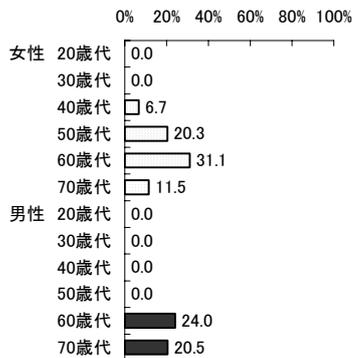
家族の同意が得られないから



育児に手がかかるから



働きたいが年齢制限があり働けないから

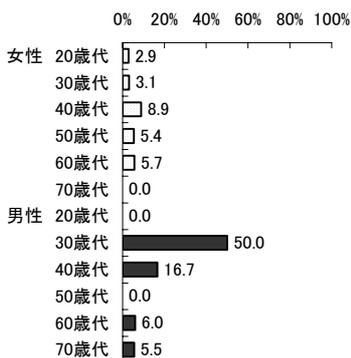


社会活動に参加したいから

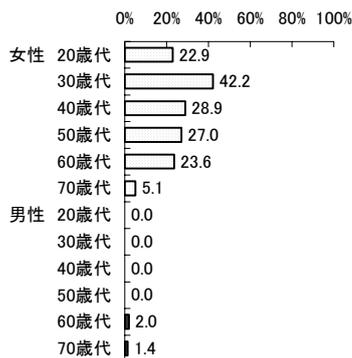


N= 35  
64  
45  
74  
106  
78  
6  
2  
6  
10  
50  
73

能力を活かせる職場がないから



家事に専念したいから



## (8) セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）について

問 30 あなたは、次にあげることがらを、セクシュアル・ハラスメントといますか。  
(1～14のそれぞれ1つに○)

分野別でみると、ほとんどの分野で「少し思う」「非常に思う」を合わせたセクシュアル・ハラスメントと思う人の割合が高くなっています。特に、他の分野に比べ「性的関係を強要される」「性的な内容の手紙を送られたり、電話をされる」、「わざと体に触られる」、「性的な噂を流される」、「他の人がセクハラと思われる行為を受けているのを見て不快に感じる」ではセクシュアル・ハラスメントと思う人の割合が高く、8割以上を占めています。また、他の分野に比べ「女の子」、「男の子」などと呼ばれる」では「全く思わない」「あまり思わない」をあわせたセクシュアル・ハラスメントと思わない人の割合が高くなっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「性的魅力をアピールするような服装や振る舞いを見せられる」、「性的なからかいや冗談などを言われる」、「食事などに執拗に誘われる」、「裸や水着姿のポスターなどを職場に貼られる」でセクシュアル・ハラスメントと思う人の割合が高くなっています。

図 セクシュアル・ハラスメントと思うか（平成20年度調査）

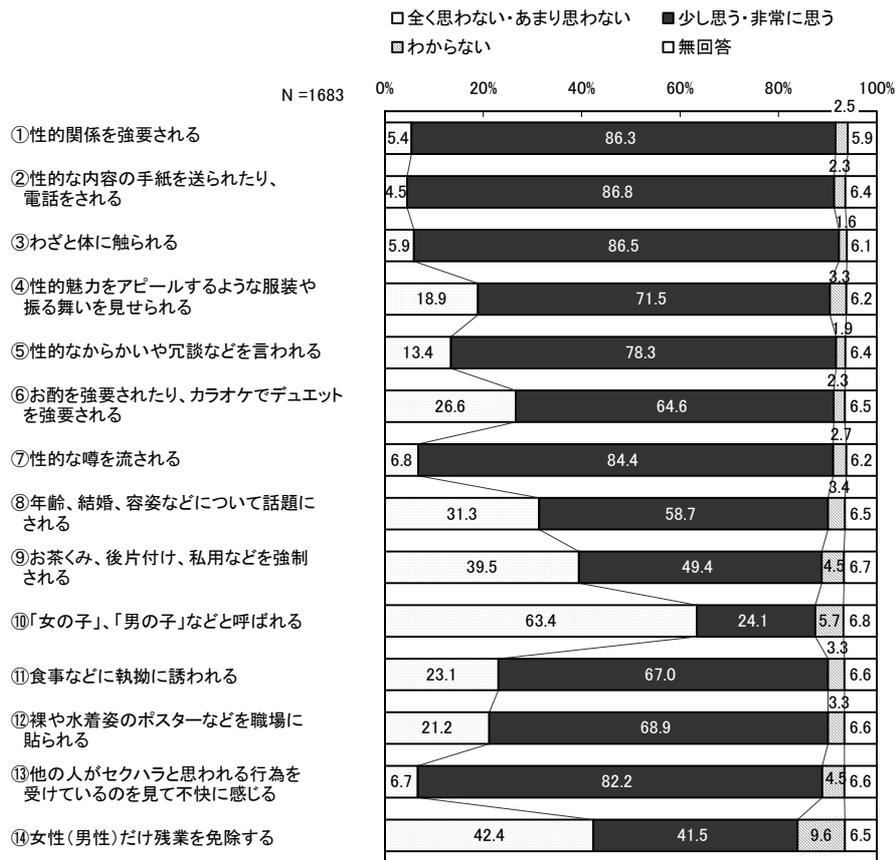
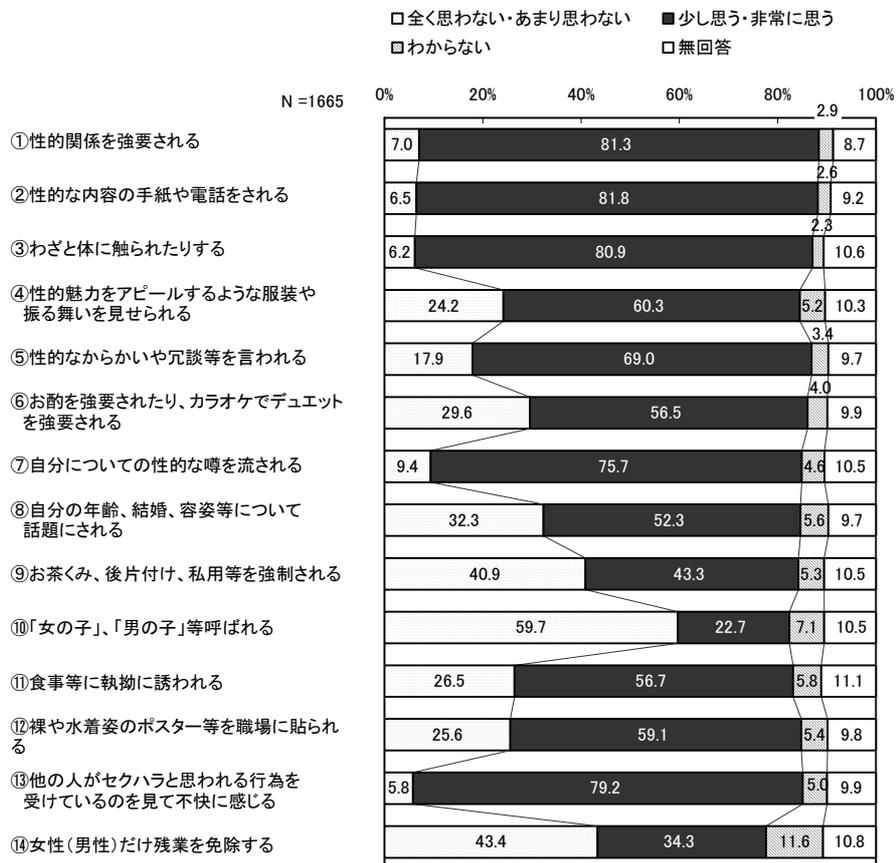
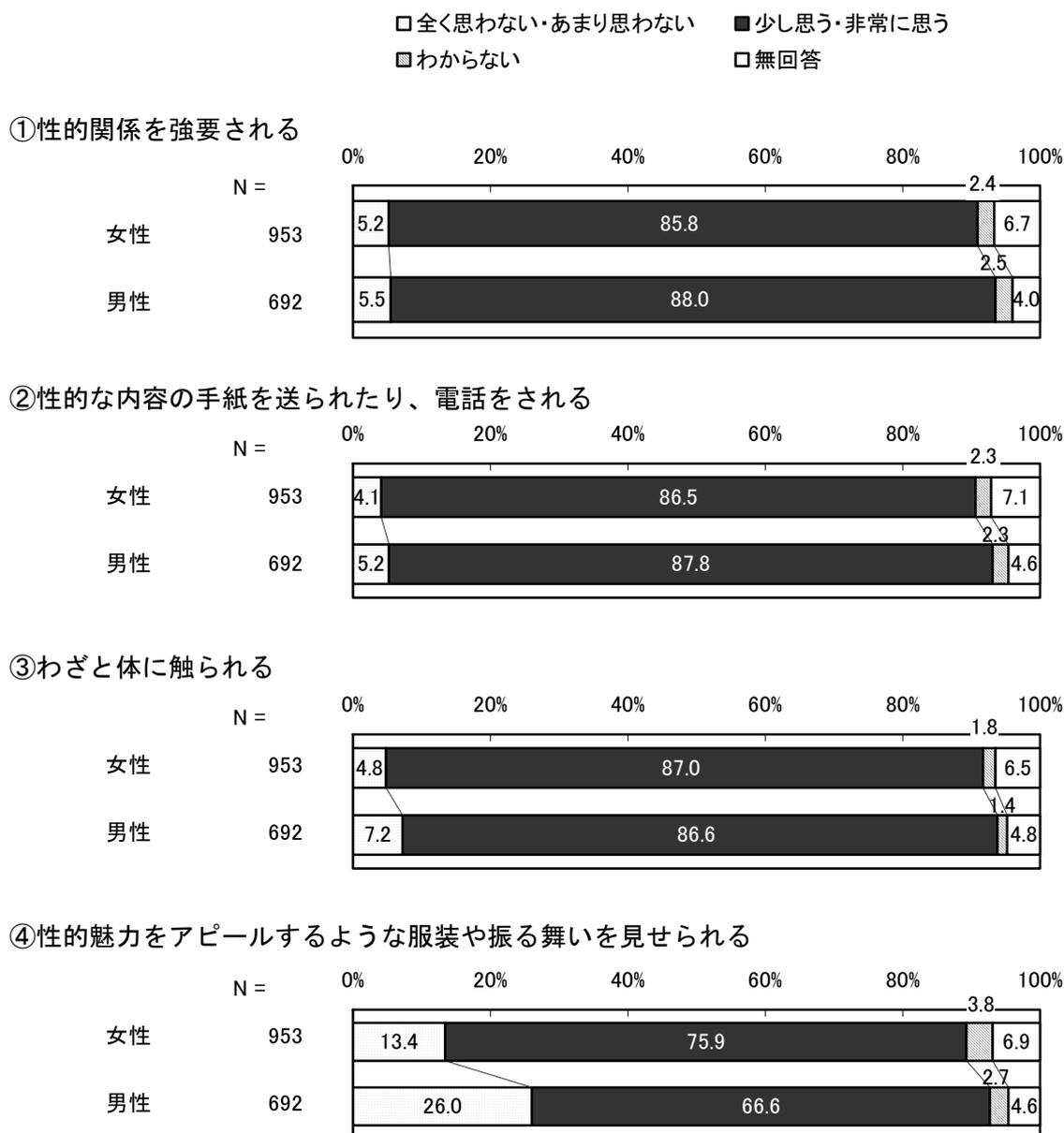


図 セクシュアル・ハラスメントと思うか（平成13年度調査）



性別でみると、「性的魅力をアピールするような服装や振る舞いを見せられる」では男性に比べ女性でセクシュアル・ハラスメントと思う人の割合が高くなっています。その他の分野では、性別による大きな差異はみられません。

図 性別でみるセクシュアル・ハラスメントと思うか

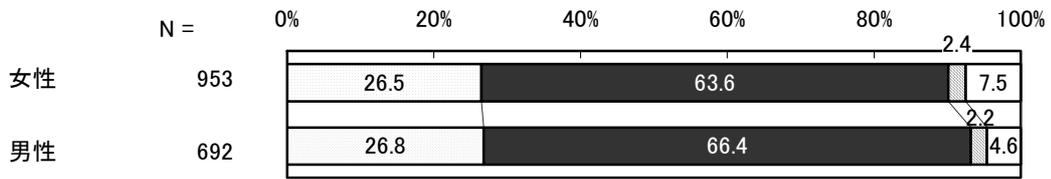


全く思わない・あまり思わない     少し思う・非常に思う  
 わからない     無回答

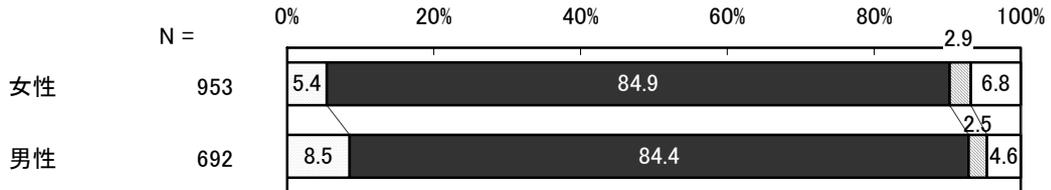
⑤性的なからかいや冗談などと言われる



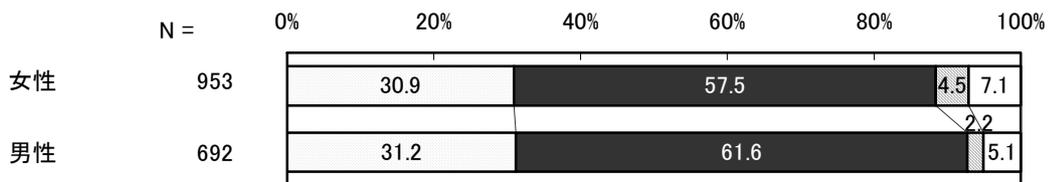
⑥お酌を強要されたり、カラオケでデュエットを強要される



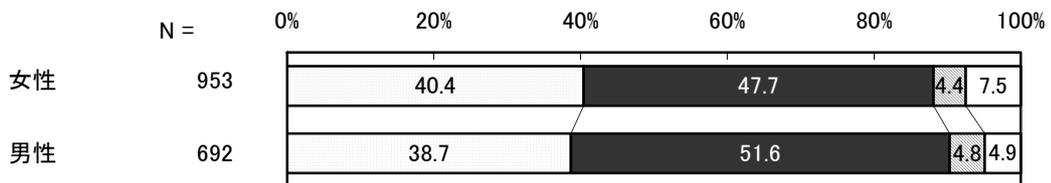
⑦性的な噂を流される



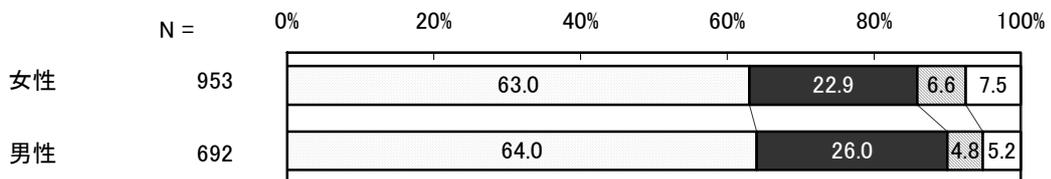
⑧年齢、結婚、容姿などについて話題にされる



⑨お茶くみ、後片付け、私用などを強制される

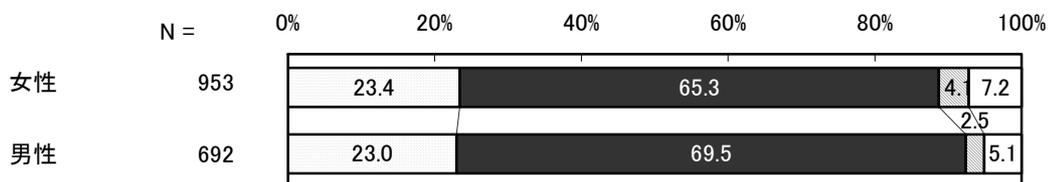


⑩「女の子」、「男の子」などと呼ばれる

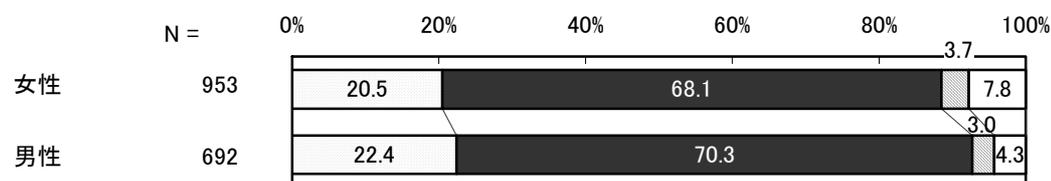


□ 全く思わない・あまり思わない    ■ 少し思う・非常に思う  
 □ わからない    □ 無回答

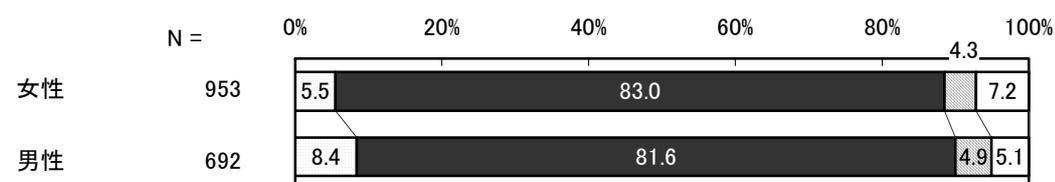
⑪ 食事などに執拗に誘われる



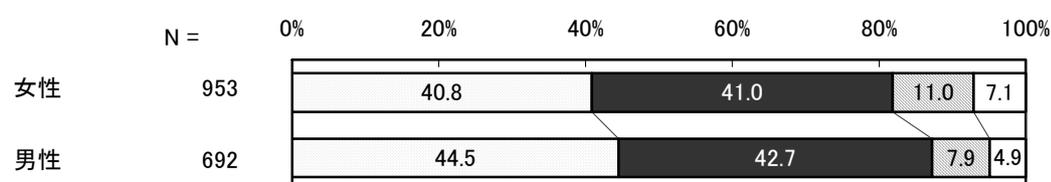
⑫ 裸や水着姿のポスターなどを職場に貼られる



⑬ 他の人がセクハラと思われる行為を受けているのを見て不快に感じる



⑭ 女性（男性）だけ残業を免除する

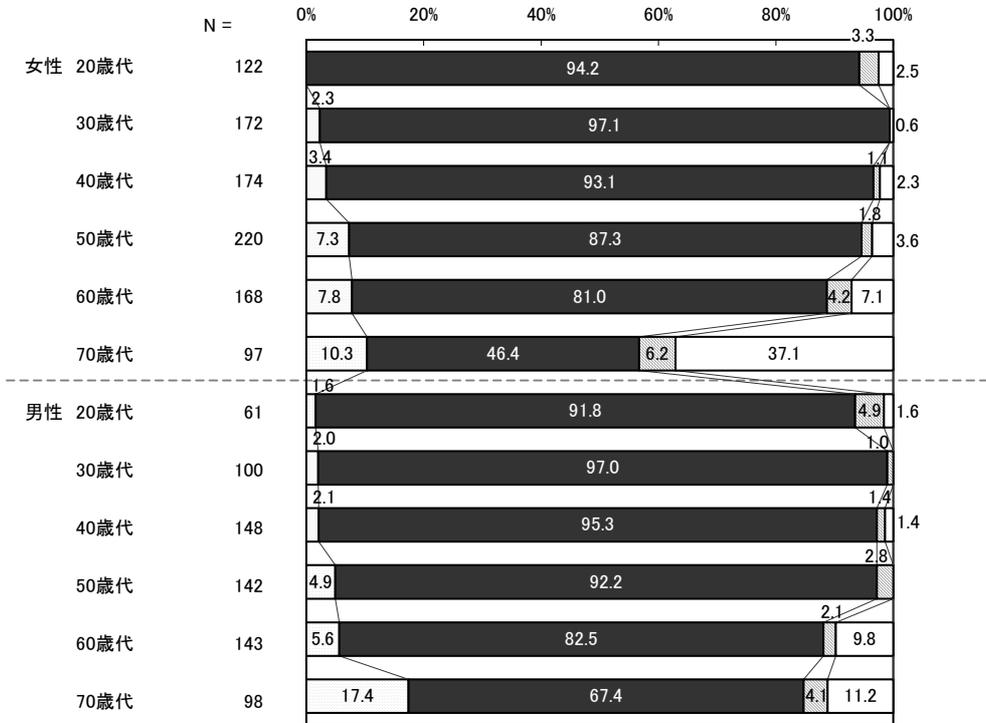


性・年代別でみると、全ての分野で、男女ともに70歳代に比べ60歳代以下でセクシュアル・ハラスメントと思う人の割合が高く、特に、「性的関係を強要される」、「性的な内容の手紙を送られたり、電話をされる」、「わざと体に触られる」、「性的なからかいや冗談などを言われる」、「性的な噂を流される」、「他の人がセクハラと思われる行為を受けているのを見て不快に感じる」では8割以上を占めています。

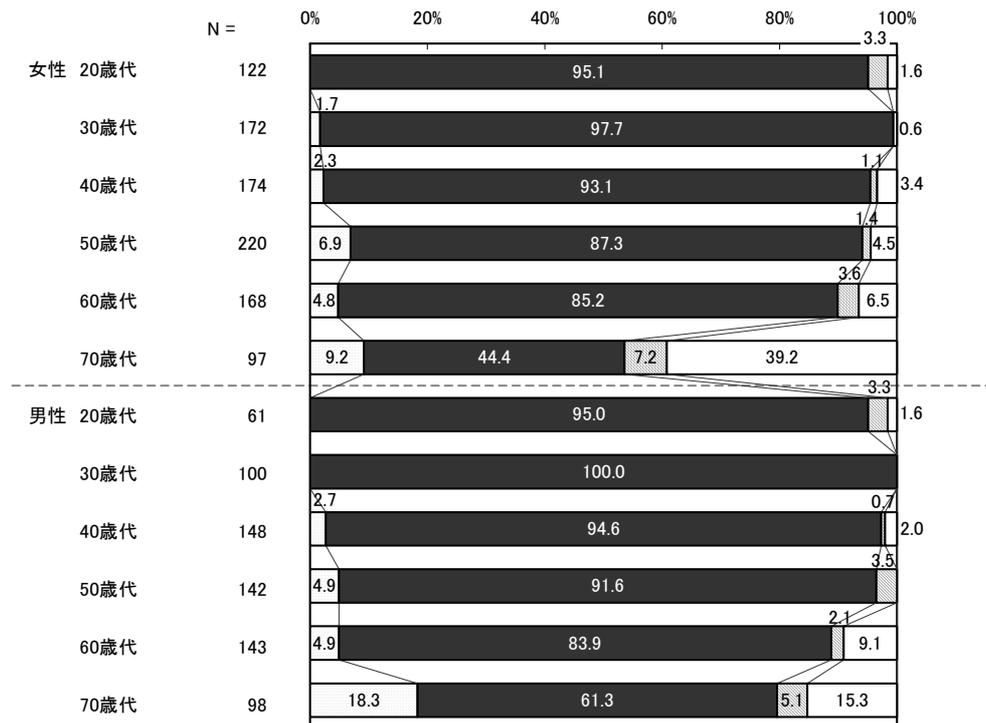
図 性・年代別でみるセクシュアル・ハラスメントと思うか

□ 全く思わない・あまり思わない    ■ 少し思う・非常に思う  
 □ わからない    □ 無回答

①性的関係を強要される

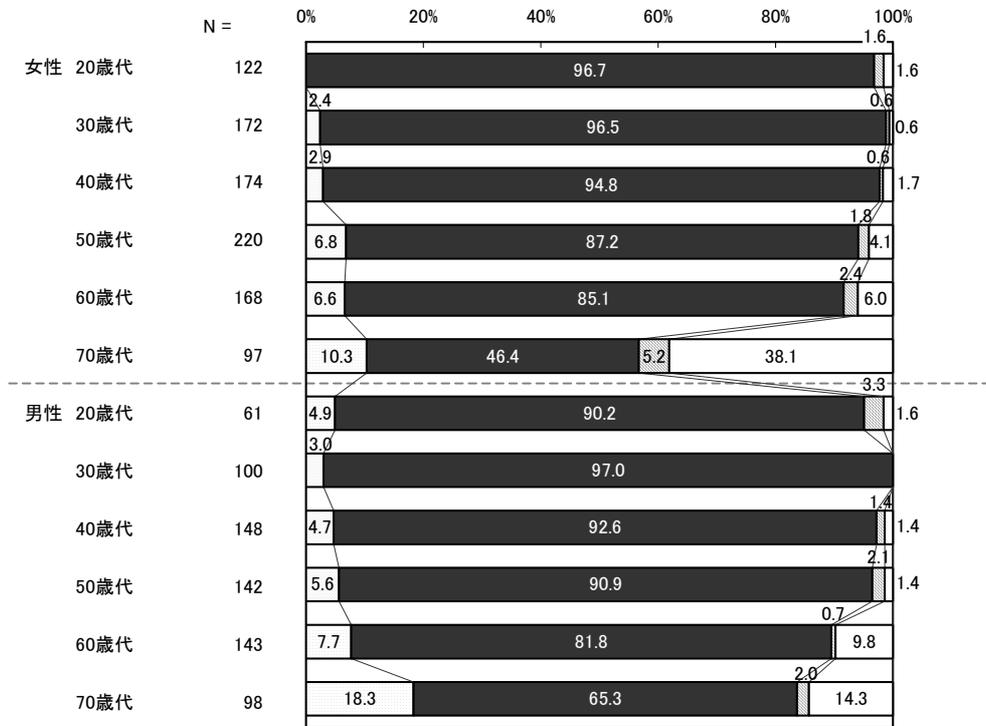


②性的な内容の手紙を送られたり、電話をされる

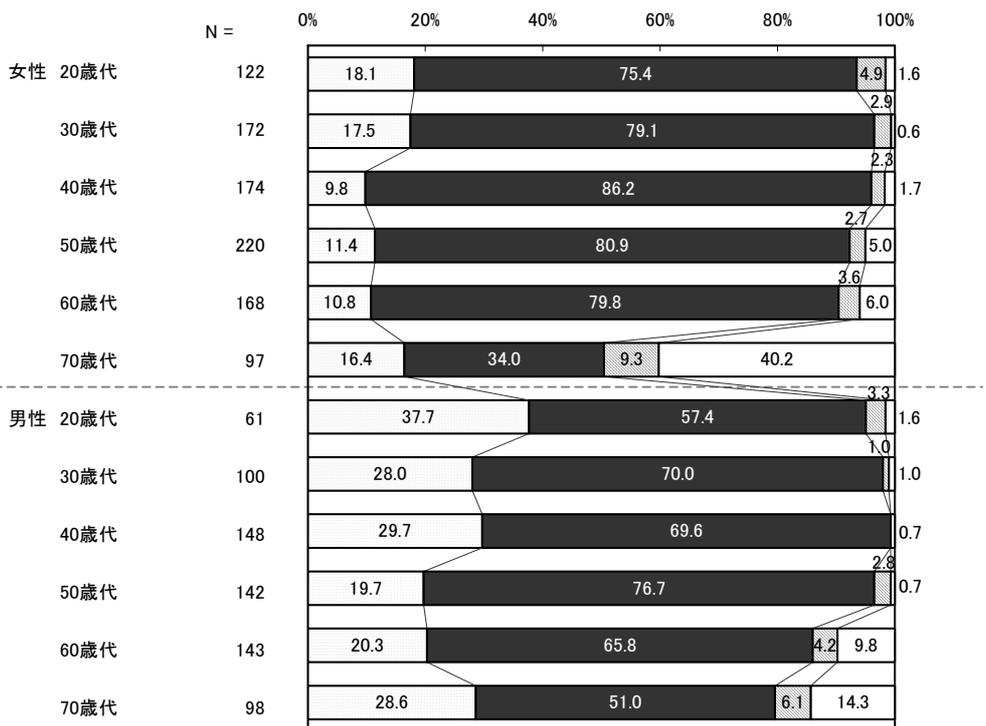


□全く思わない・あまり思わない ■少し思う・非常に思う  
□わからない □無回答

③わざと体に触られる

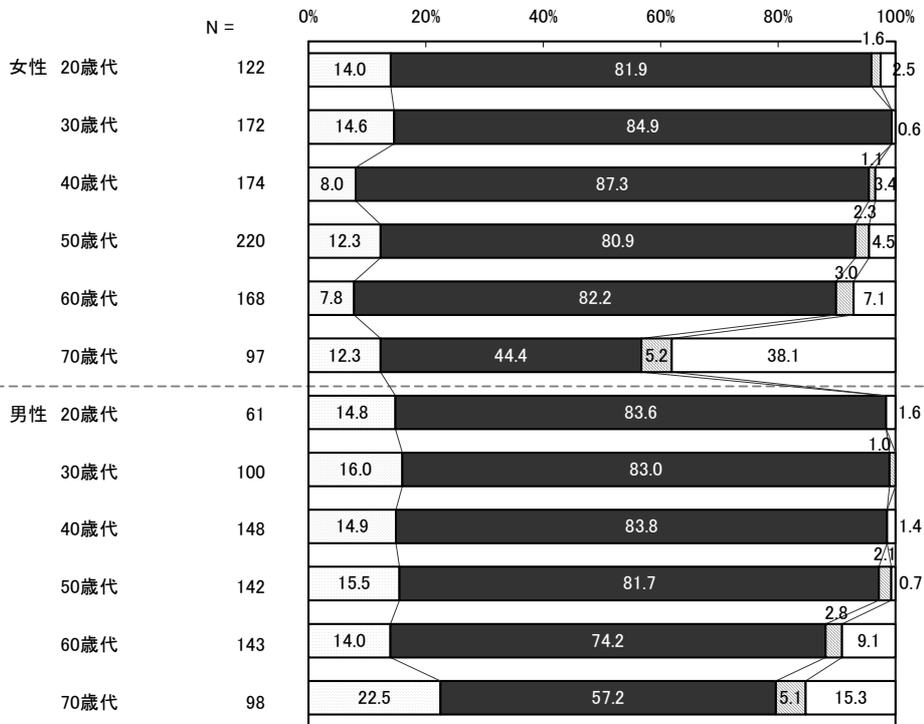


④性的魅力をアピールするような服装や振る舞いを見せられる

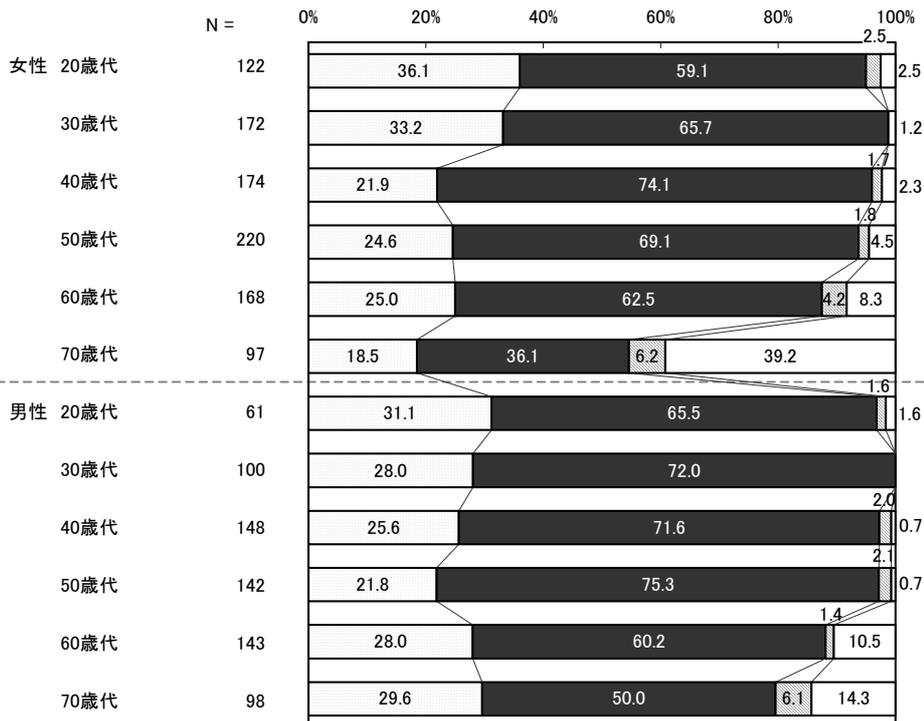


□ 全く思わない・あまり思わない    ■ 少し思う・非常に思う  
□ わからない    □ 無回答

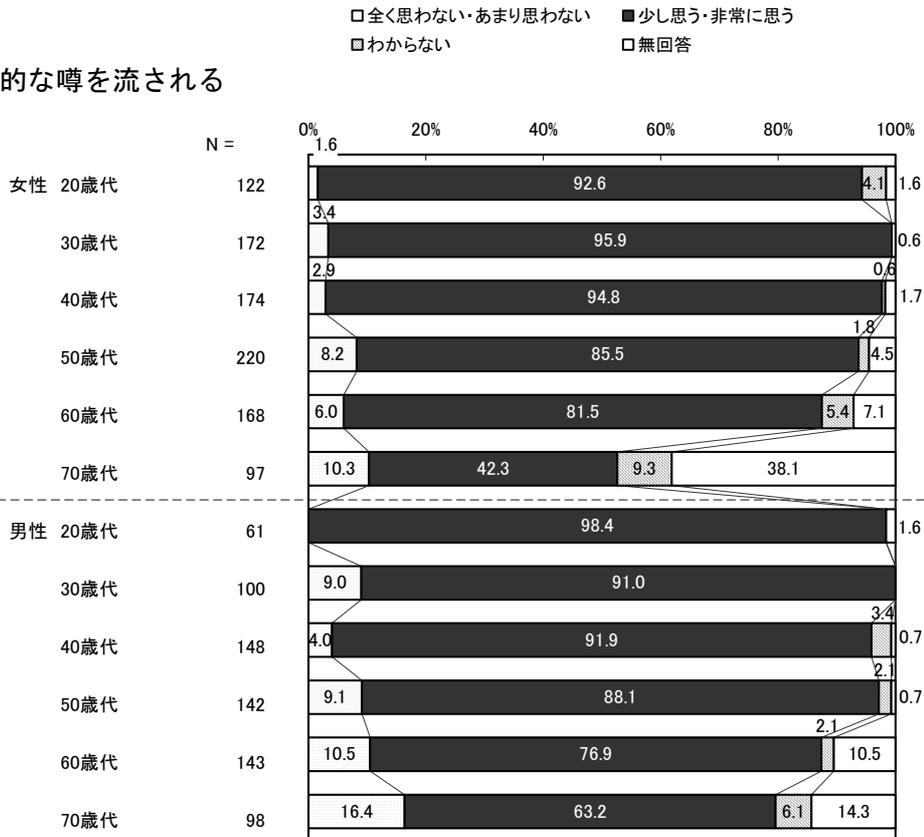
⑤性的なからかいや冗談などを言われる



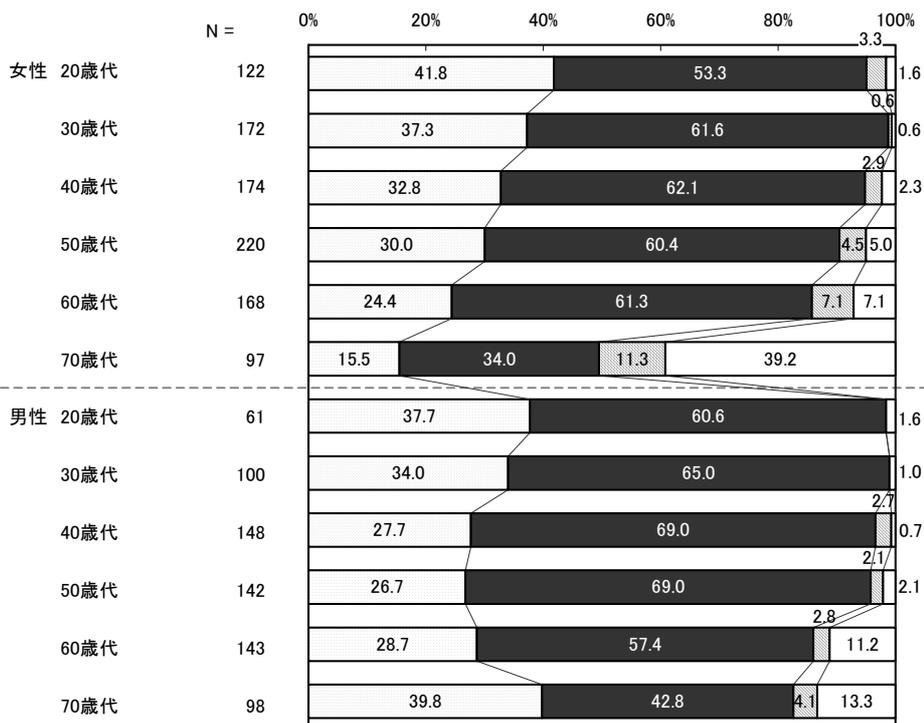
⑥お酌を強要されたり、カラオケでデュエットを強要される



⑦性的な噂を流される

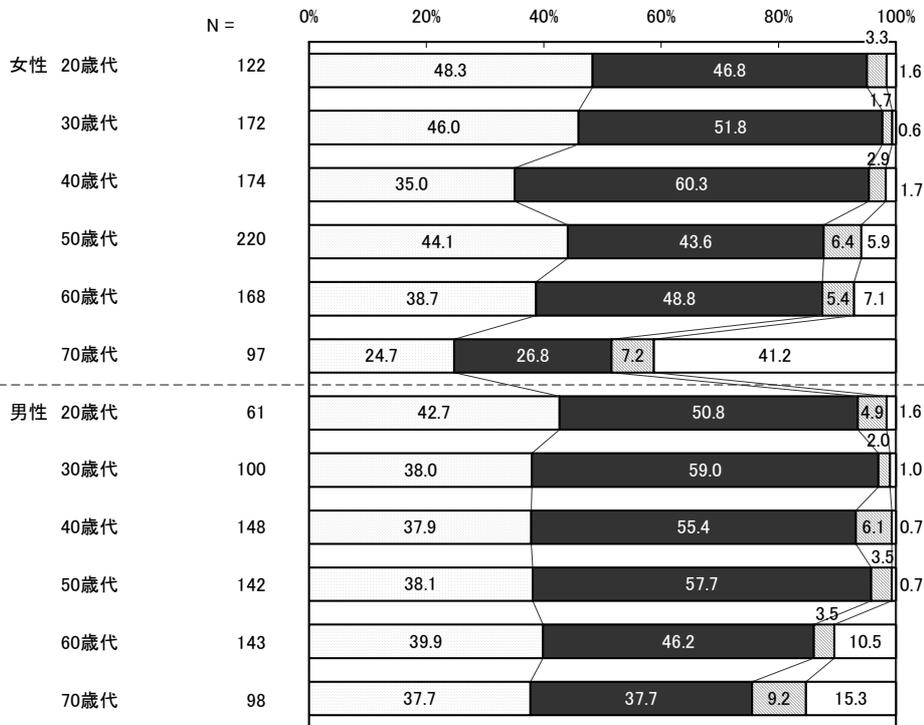


⑧年齢、結婚、容姿などについて話題にされる

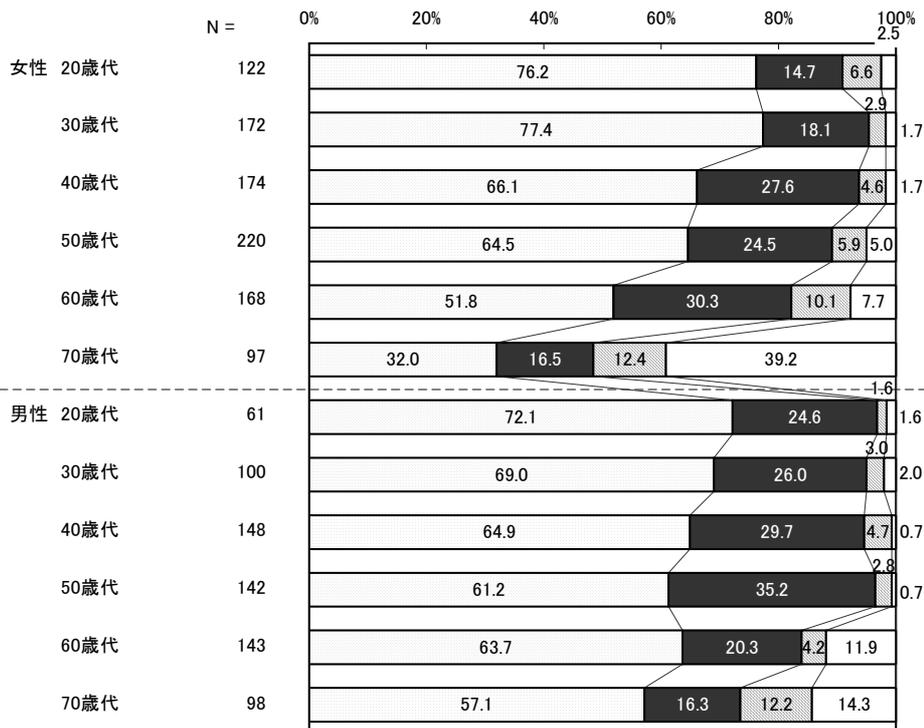


□全く思わない・あまり思わない ■少し思う・非常に思う  
 □わからない □無回答

⑨お茶くみ、後片付け、私用などを強制される

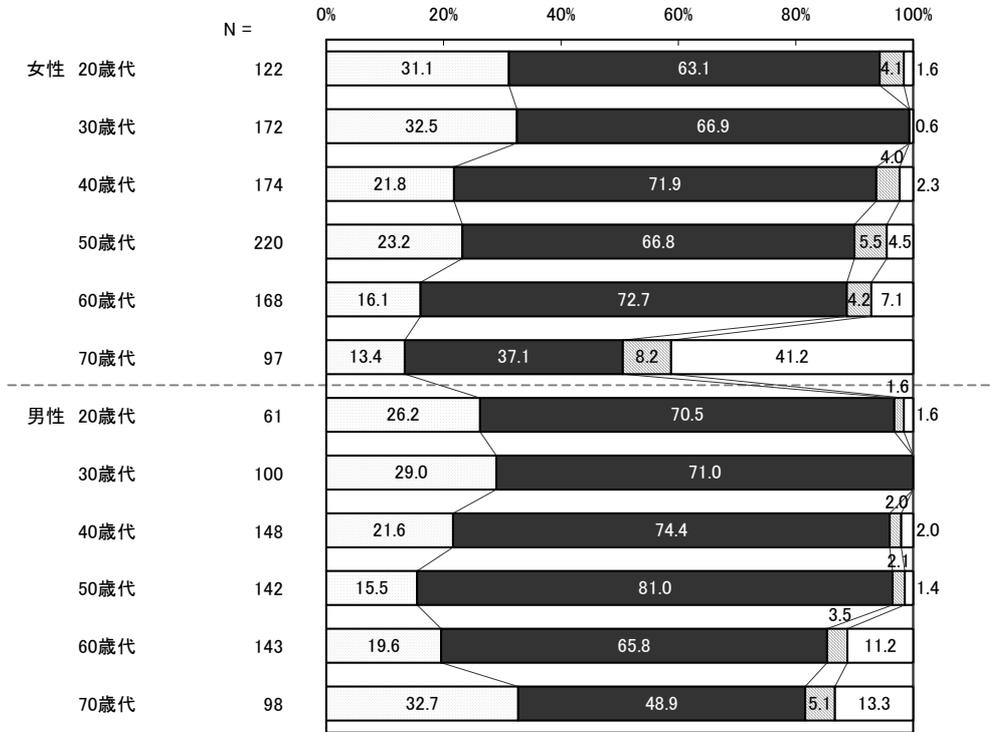


⑩「女の子」、「男の子」などと呼ばれる

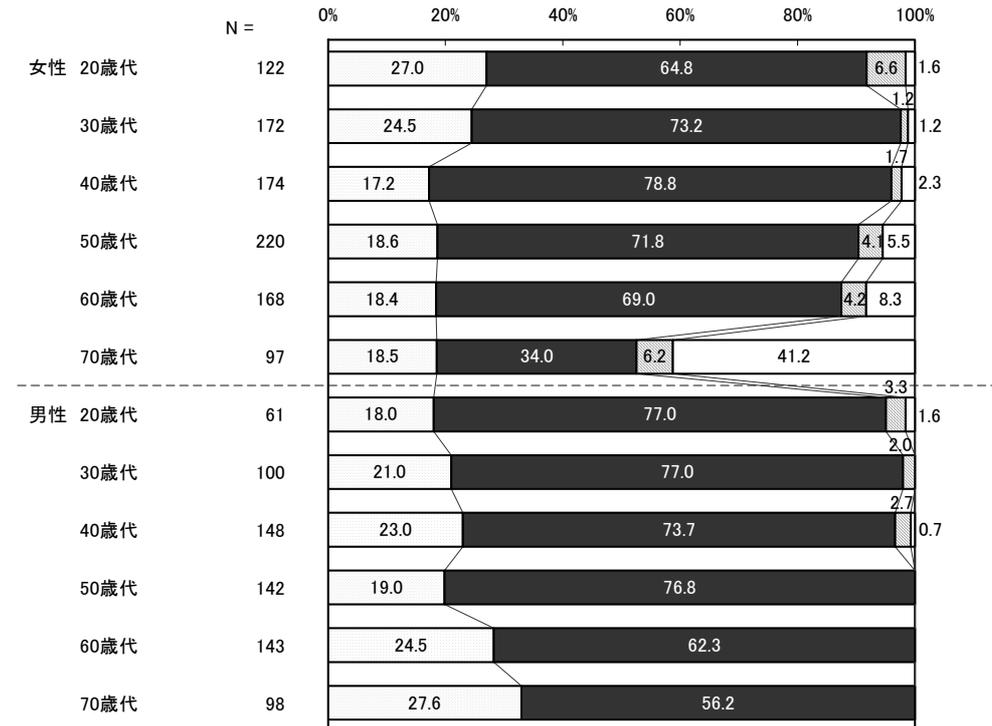


全く思わない・あまり思わない     少し思う・非常に思う  
 わからない     無回答

⑪ 食事などに執拗に誘われる

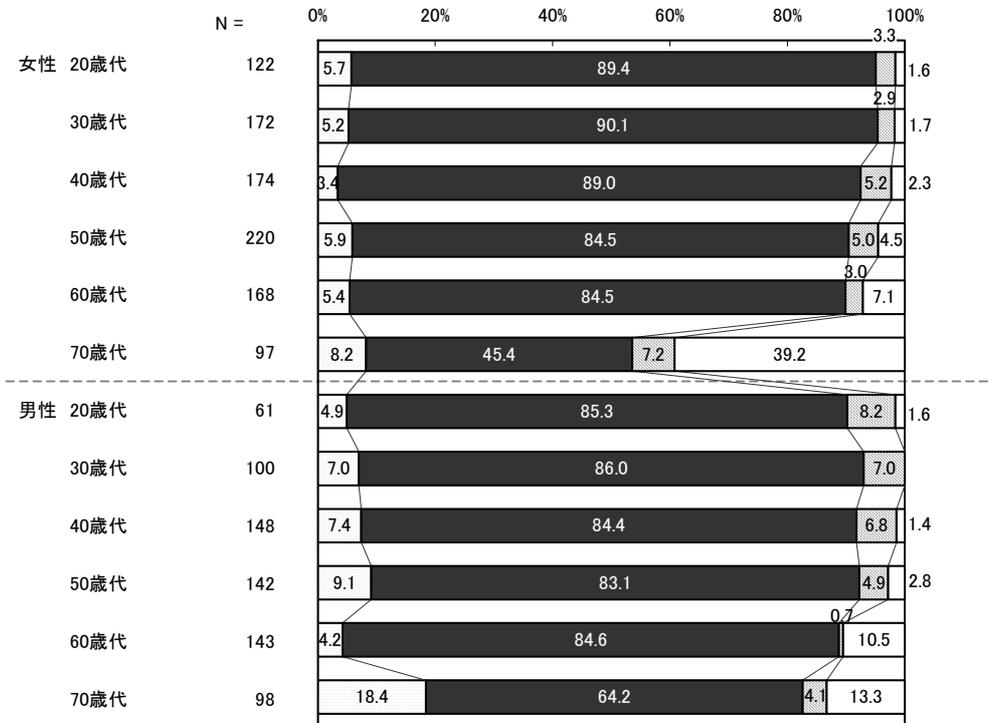


⑫ 裸や水着姿のポスターなどを職場に貼られる

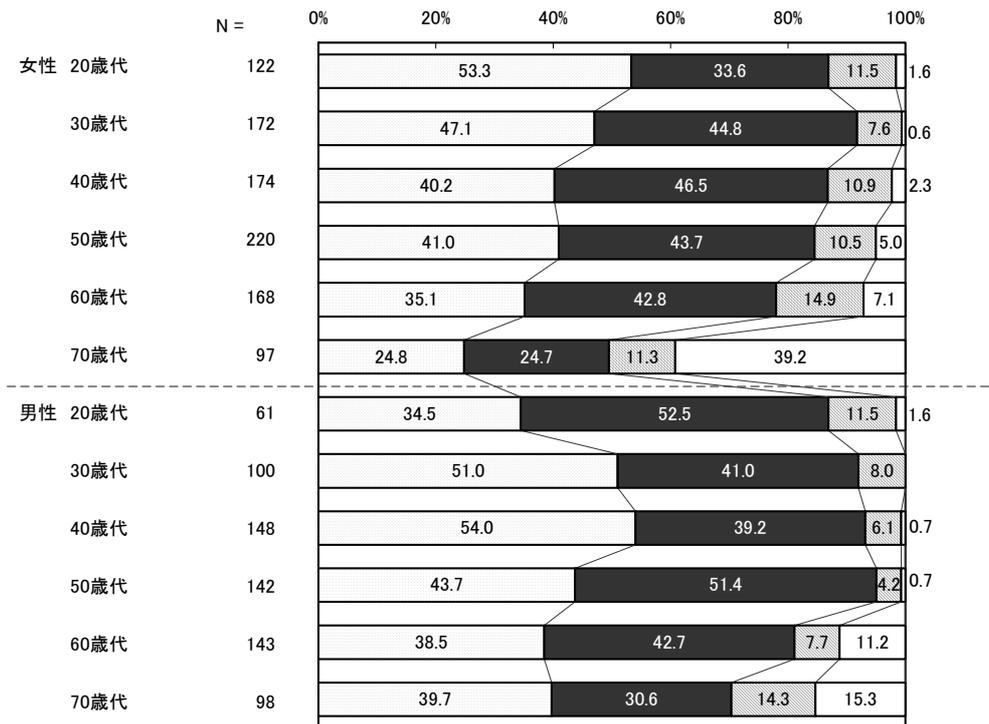


□ 全く思わない・あまり思わない    ■ 少し思う・非常に思う  
 □ わからない    □ 無回答

⑬他の人がセクハラと思われる行為を受けているのを見て不快に感じる



⑭女性（男性）だけ残業を免除する



**問 31 あなたは、これまでにセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。**

セクシュアル・ハラスメントの経験の有無については、「受けたことがある」の割合が 15.2%、「受けたことがない」の割合が 79.0%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別で見ると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、30 歳代の女性で「受けたことがある」の割合が最も高くなっています。

図 セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

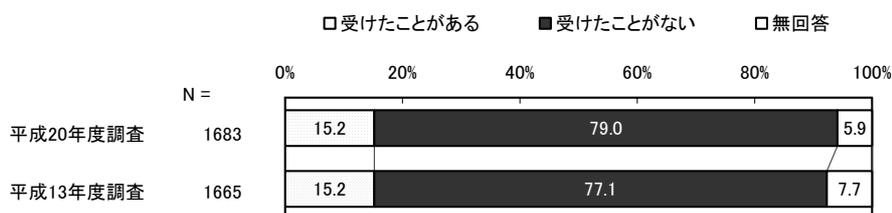


図 性別でみるセクシュアル・ハラスメントの経験の有無

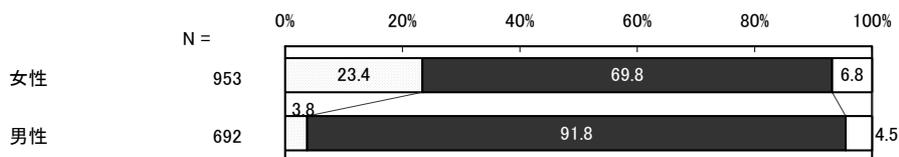
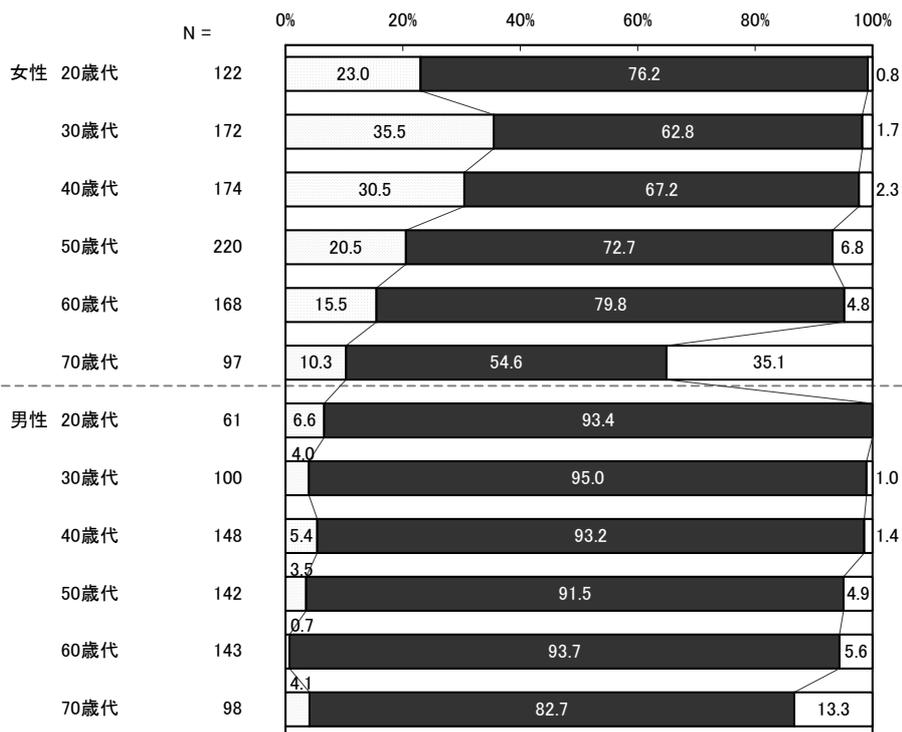


図 性・年代別でみるセクシュアル・ハラスメントの経験の有無



問32 問31で「1. 受けたことがある」と答えた方におうかがいします。  
 あなたは、セクシュアル・ハラスメントに対して、どのように対処しましたか。  
 (あてはまるものすべてに○)

セクシュアル・ハラスメントの対処については、「我慢した」の割合が最も高く 61.6%となっており、次いで「友人や同僚に相談した」の割合が 30.2%、「相手に苦痛であると言った」の割合が 25.5%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

性別でみると、男性に比べ女性で「仕事や学校を辞めた」、「友人や同僚に相談した」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「我慢した」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の50歳代で「我慢した」の割合が低く、20歳代、50歳代で「友人や同僚に相談した」の割合が高くなっています。男性の年代別については、有効回答数が少数であり、統計上の信頼度が確保できないためコメントは差し控えます。

図 セクシュアル・ハラスメントの対処

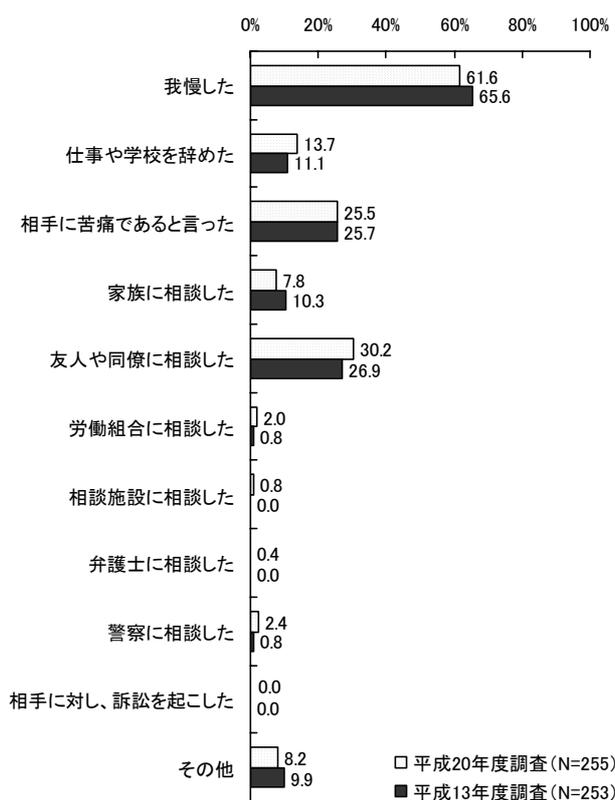


図 性別でみるセクシュアル・ハラスメントの対処

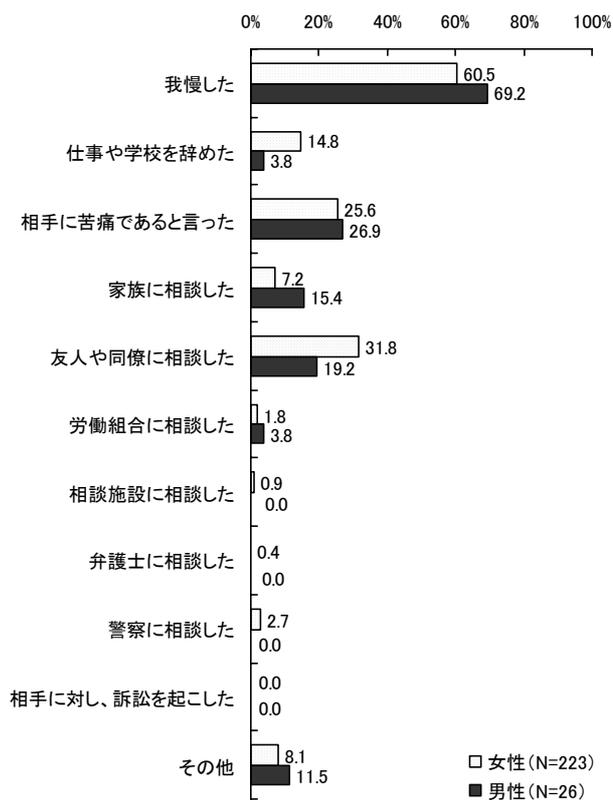
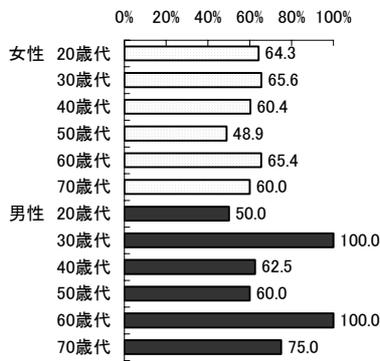
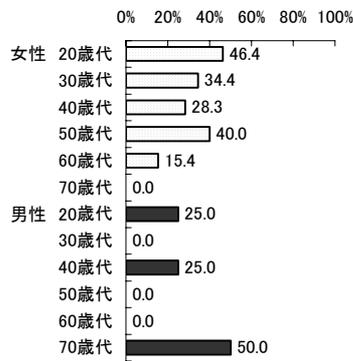


図 性・年代でみるセクシュアル・ハラスメントの対処

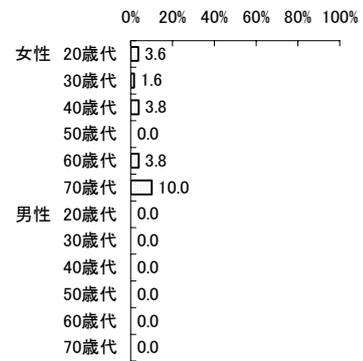
我慢した



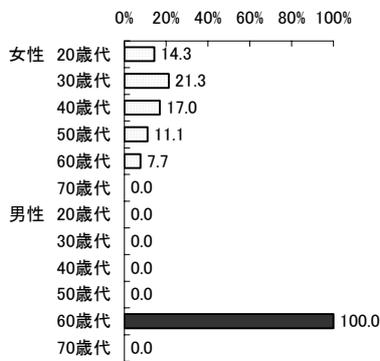
友人や同僚に相談した



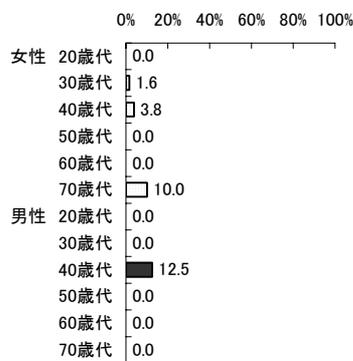
警察に相談した



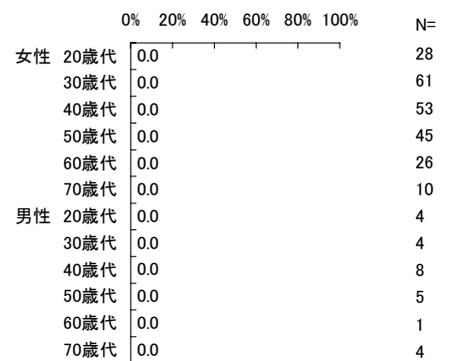
仕事や学校を辞めた



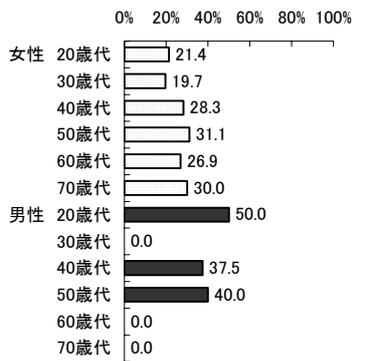
労働組合に相談した



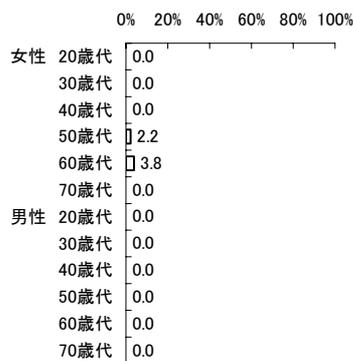
相手に対し、訴訟を起こした



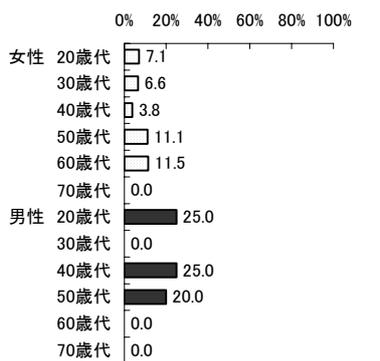
相手に苦痛であると言った



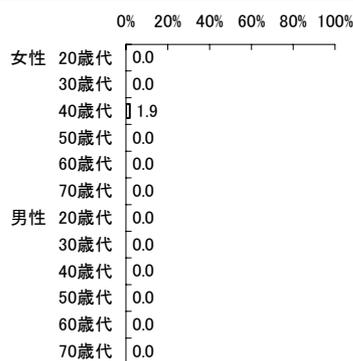
相談施設に相談した



家族に相談した



弁護士に相談した



**問 33 あなたは、セクシュアル・ハラスメントを防止するために、どのような対策が必要だと思いますか。(〇は2つまで)**

セクシュアル・ハラスメントを防止するための対策については、「事業主が対策に取り組む」の割合が最も高く 45.9%となっており、次いで「自分の言動に対しそれぞれが自覚する」の割合が 32.6%、「相談機関を設置する」の割合が 27.1%となっています。

性別でみると、男性に比べ女性で「事業主が対策に取り組む」の割合が高くなっています。

性・年代別でみると、女性の 30 歳代、40 歳代で「事業主が対策に取り組む」の割合が高く、60 歳代で「被害者が毅然と対応する」の割合が高くなっています。また、男性の 30 歳代で「事業主が対策に取り組む」の割合が高く、20 歳代で「法律的に規制を作る」の割合が高く、50 歳代で「自分の言動に対しそれぞれが自覚する」の割合が高くなっています。

図 性別でみるセクシュアル・ハラスメントを防止するための対策

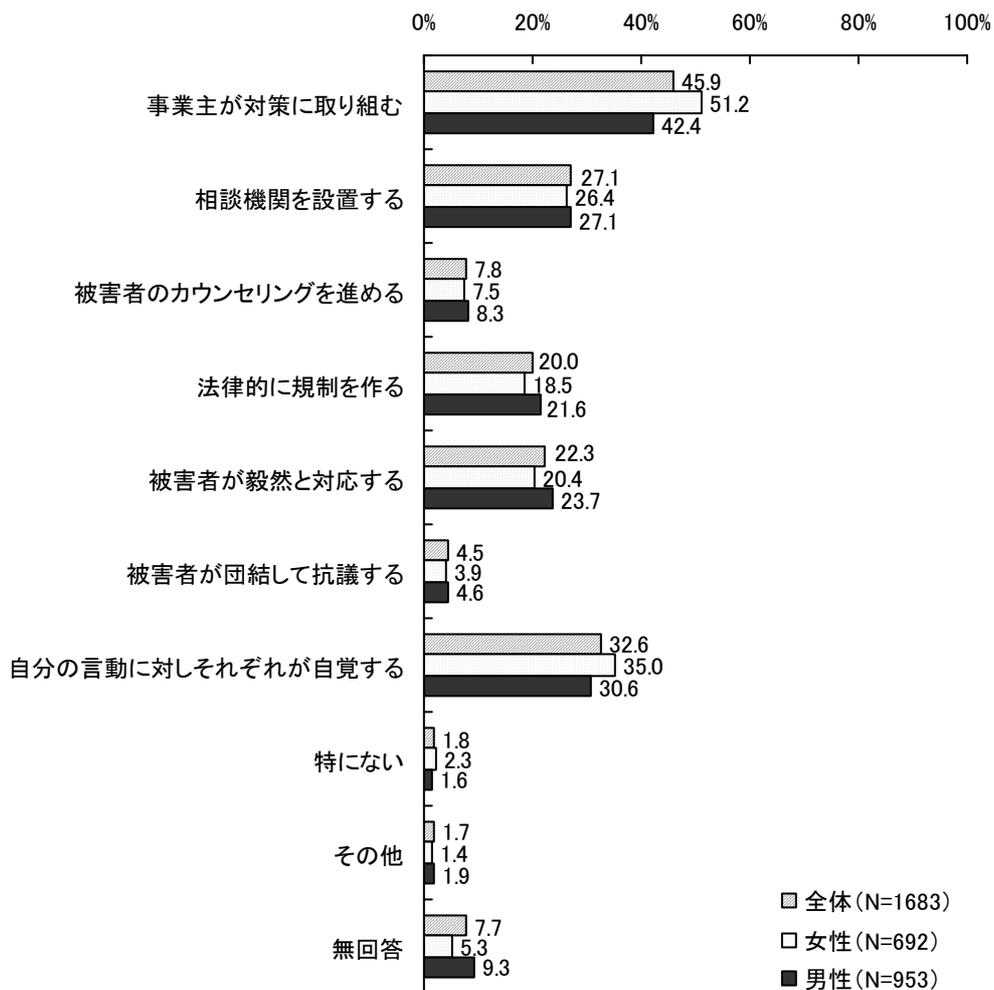
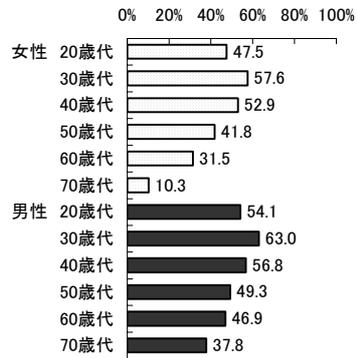
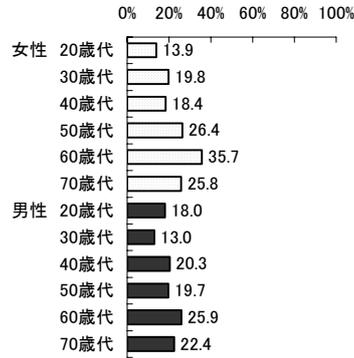


図 性・年代別でみるセクシュアル・ハラスメントを防止するための対策

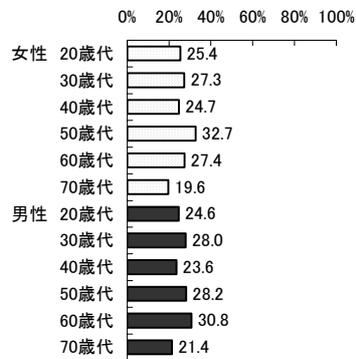
事業主が対策に取り組む



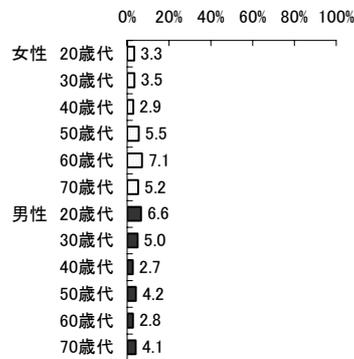
被害者が毅然と対応する



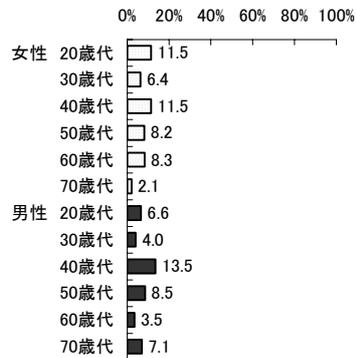
相談機関を設置する



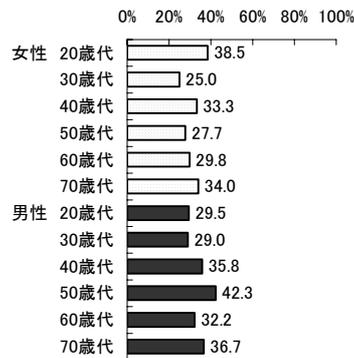
被害者が団結して抗議する



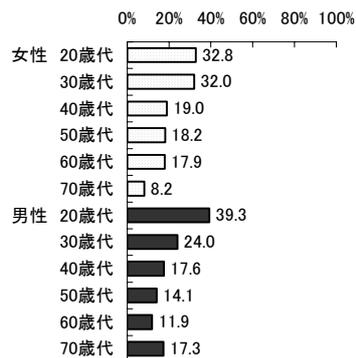
被害者のカウンセリングを進める



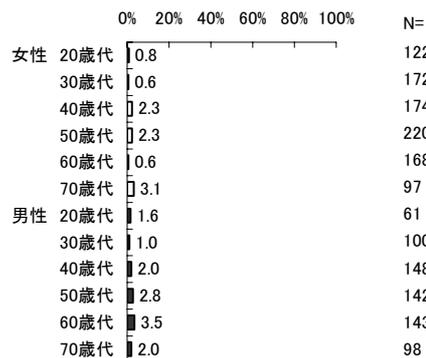
自分の言動に対しそれぞれが自覚する



法律的に規制を作る



特にない



## (9) 男女共同参画全般について

### 問 34 あなたは、女性が仕事をもつことについてどのようにお考えですか。(1つに○)

女性が仕事を持つことについては、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」の割合が最も高く 37.7%となっており、次いで「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が 28.3%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が高く、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の 40 歳代以下で「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が高くなっています。また、男性の 30 歳代、40 歳代で「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい」の割合が高くなっています。

図 女性が仕事をもつこと

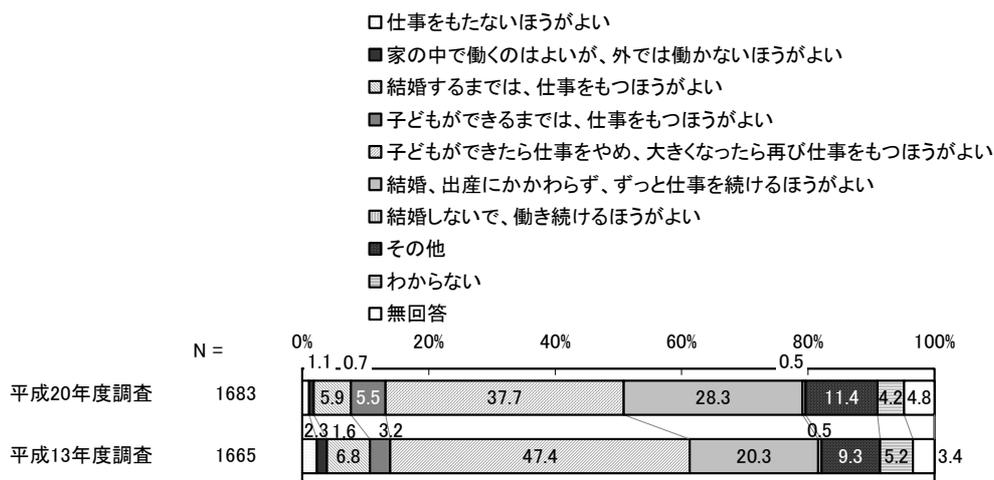


図 性別でみる女性が仕事をもつこと

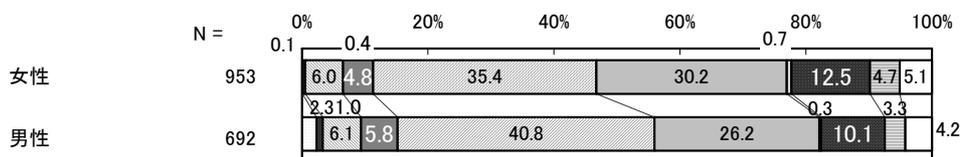
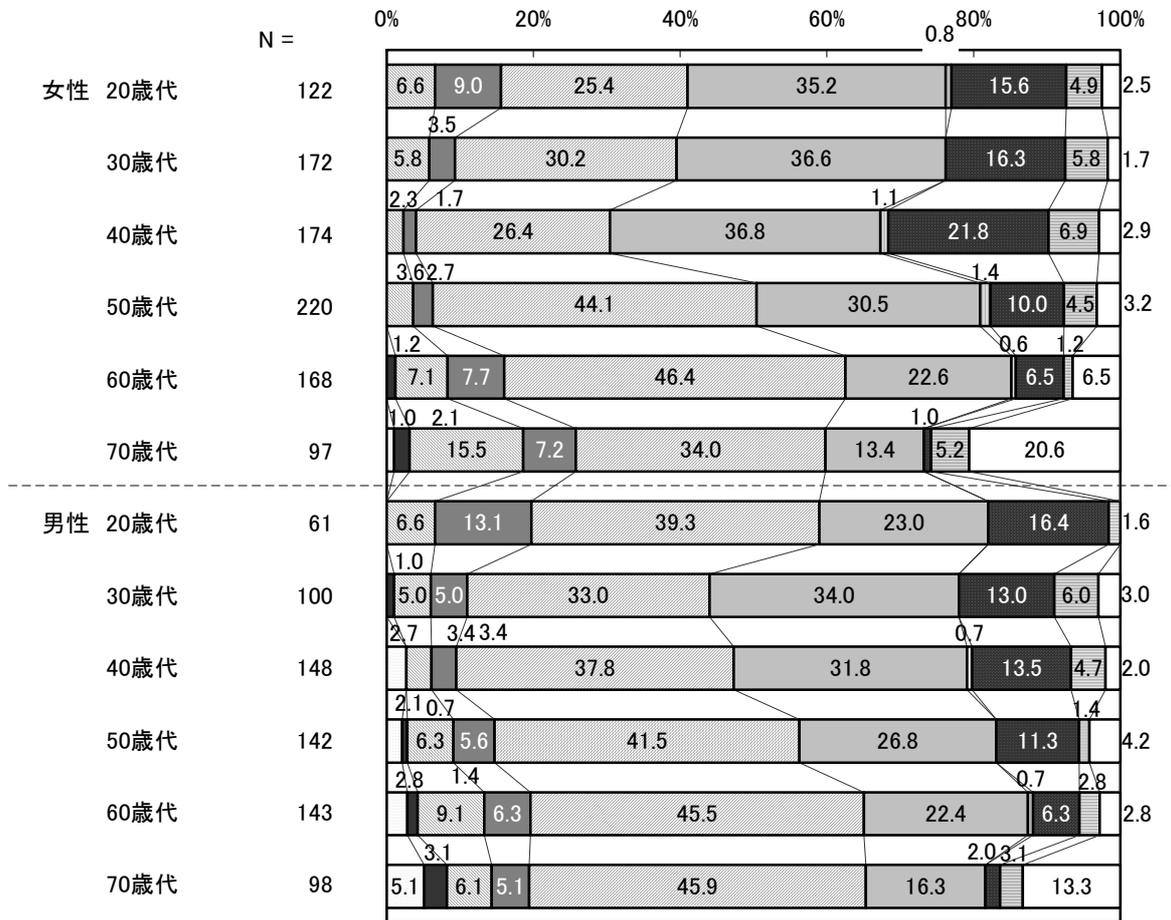


図 性・年代別でみる女性が仕事をもつこと

- 仕事をもたないほうがよい
- 家の中で働くのはよいが、外では働かないほうがよい
- 結婚するまでは、仕事をもつほうがよい
- 子どもができるまでは、仕事をもつほうがよい
- 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい
- 結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるほうがよい
- 結婚しないで、働き続けるほうがよい
- その他
- わからない
- 無回答



**問 35 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどう思いますか。**

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の人の割合が41.2%、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”の人の割合が42.7%となっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”の人の割合が低くなっています。

性別で見ると、女性に比べ男性で「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の人の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性の40歳代で「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の人の割合が低くなっています。また、男性の20歳代、40歳代で「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた“反対”の人の割合が高くなっています。

図 「男は仕事、女は家庭」という考え方

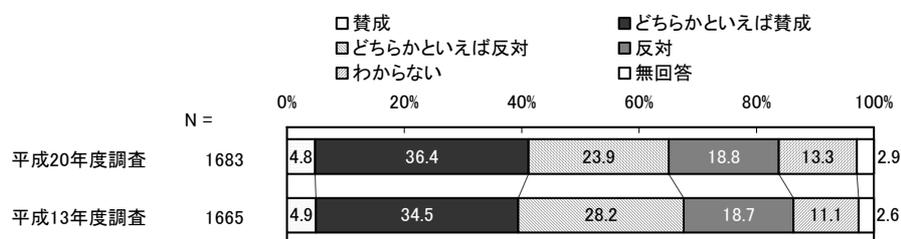


図 性別でみる「男は仕事、女は家庭」という考え方

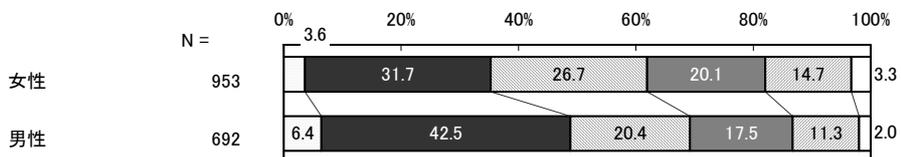
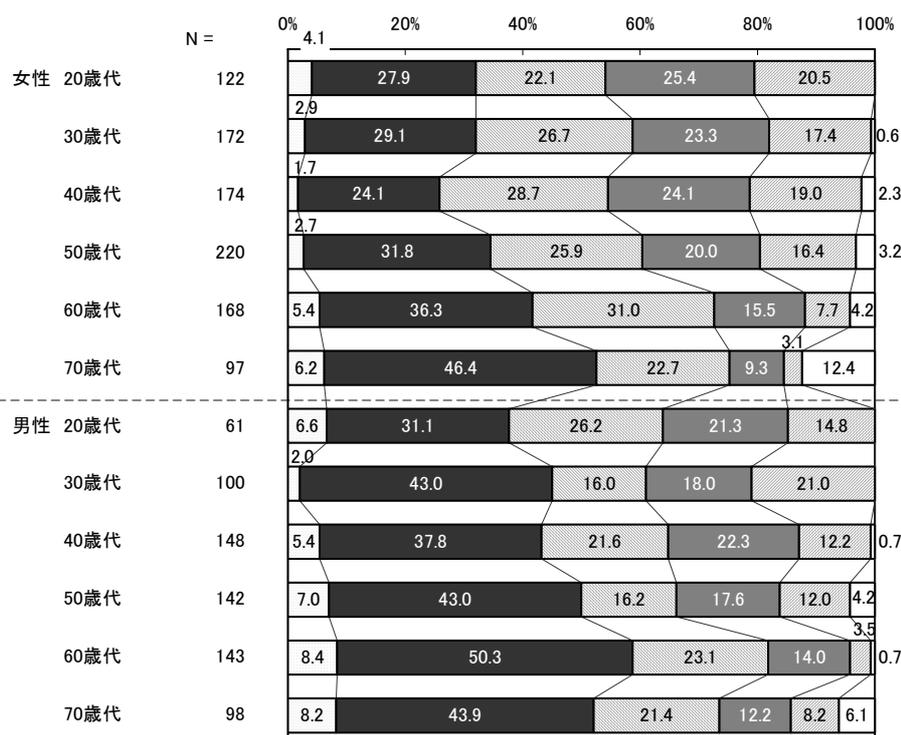


図 性・年代別でみる「男は仕事、女は家庭」という考え方



**問 36 あなたは、次にあげるような分野で男女の立場が平等になっていると思いますか。(1～6のそれぞれ1つに○)**

分野別で見ると、他の分野に比べ「学校教育」、「地域活動」では「充分平等になっている」「ある程度平等になっている」を合わせた男女平等になっていると思う人の割合が高く、5割以上を占めています。また、他の分野に比べ「しきたりや習慣」では「あまり平等になっていない」「全く平等になっていない」を合わせた男女平等になっていないと思う人の割合が高く、約6割を占めています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、大きな差異はみられません。

図 男女の立場が平等になっているか（平成20年度調査）

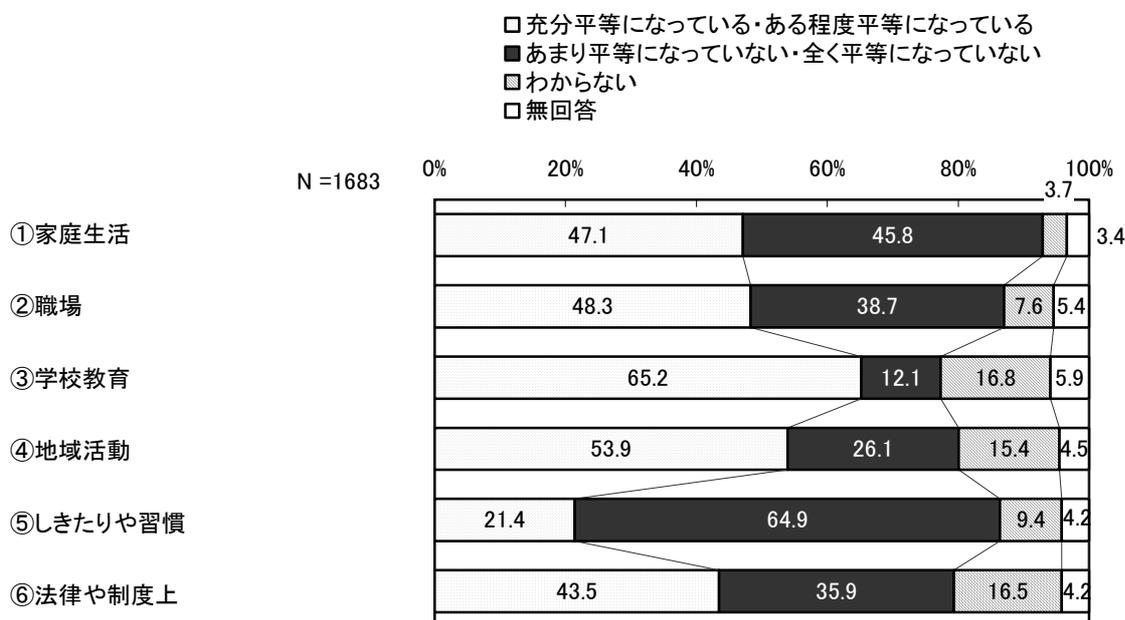
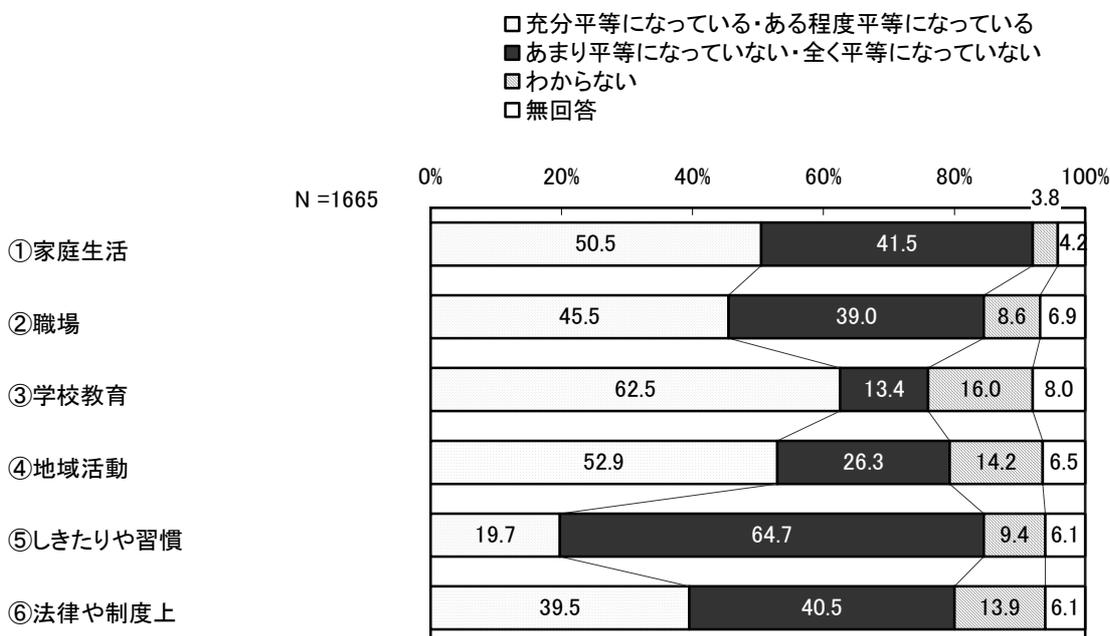
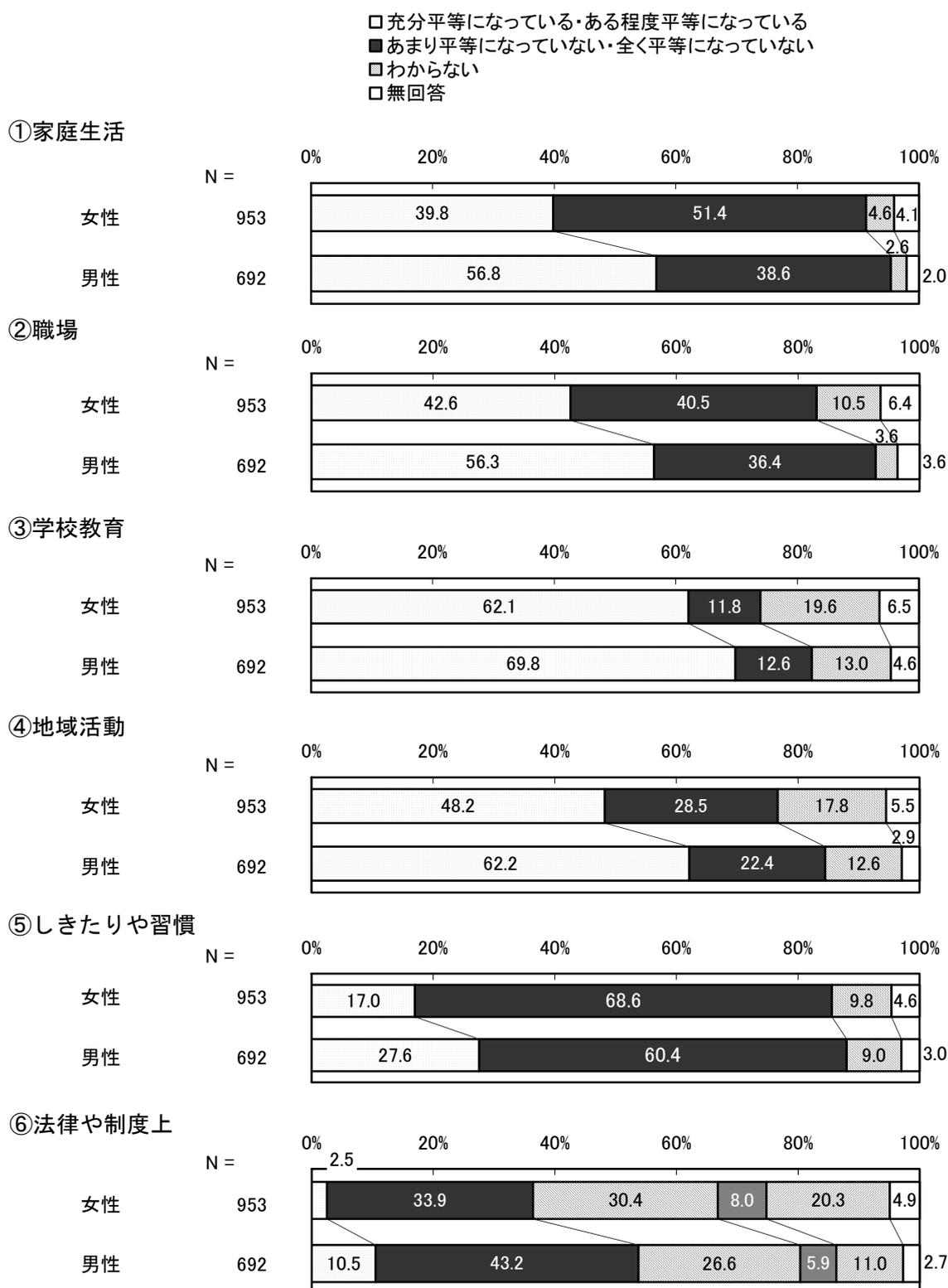


図 男女の立場が平等になっているか（平成13年度調査）



性別でみると、全ての分野で、女性に比べ男性で男女平等になっていると思う人の割合が高くなっています。一方で、「家庭生活」、「職場」、「地域活動」、「しきたりや習慣」では男性に比べ女性で男女平等になっていないと思う人の割合が高くなっています。

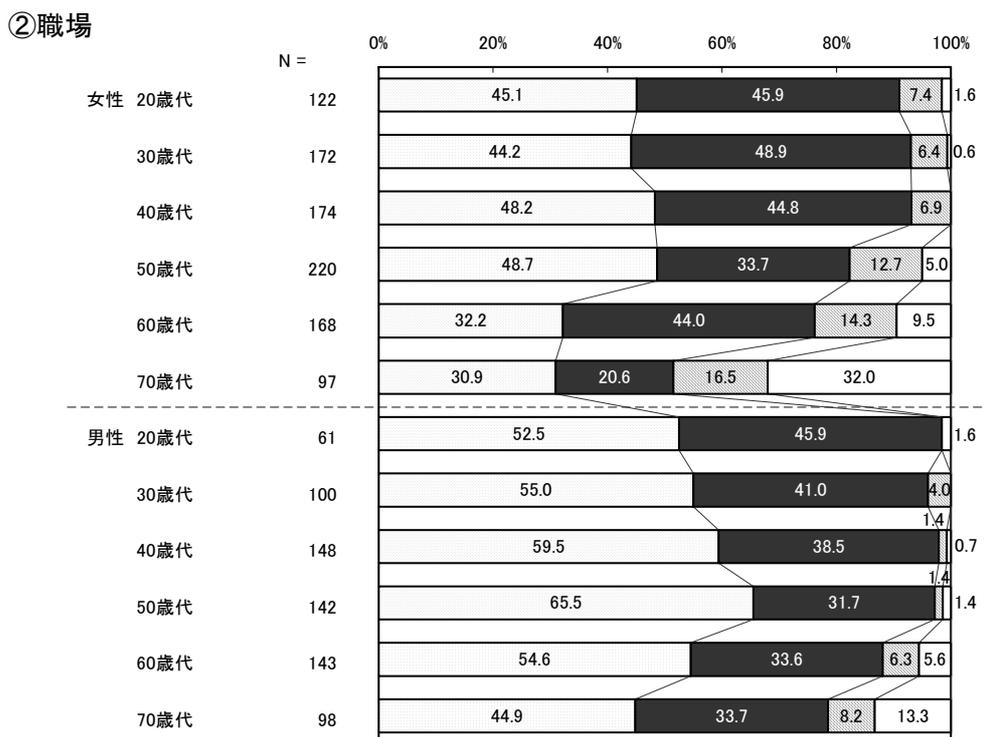
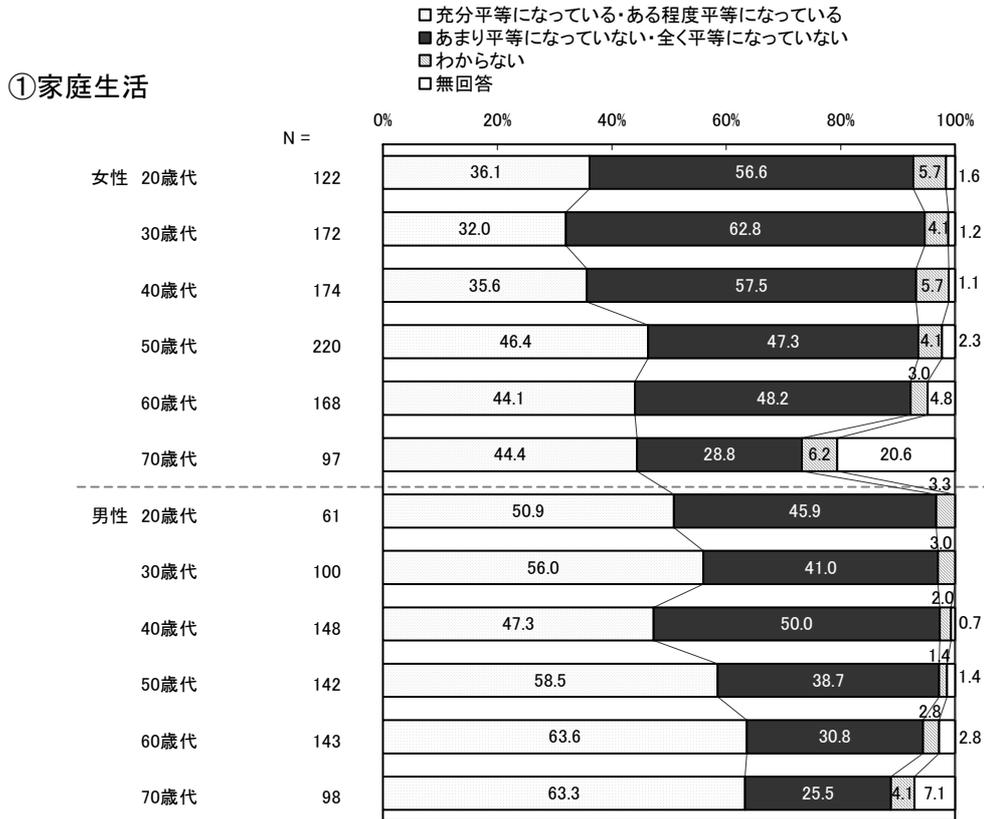
図 性別でみる男女の立場が平等になっているか



性・年代別でみると、「家庭生活」では男女ともに40歳代以下で男女平等になっていないと思う人の割合が高くなっています。

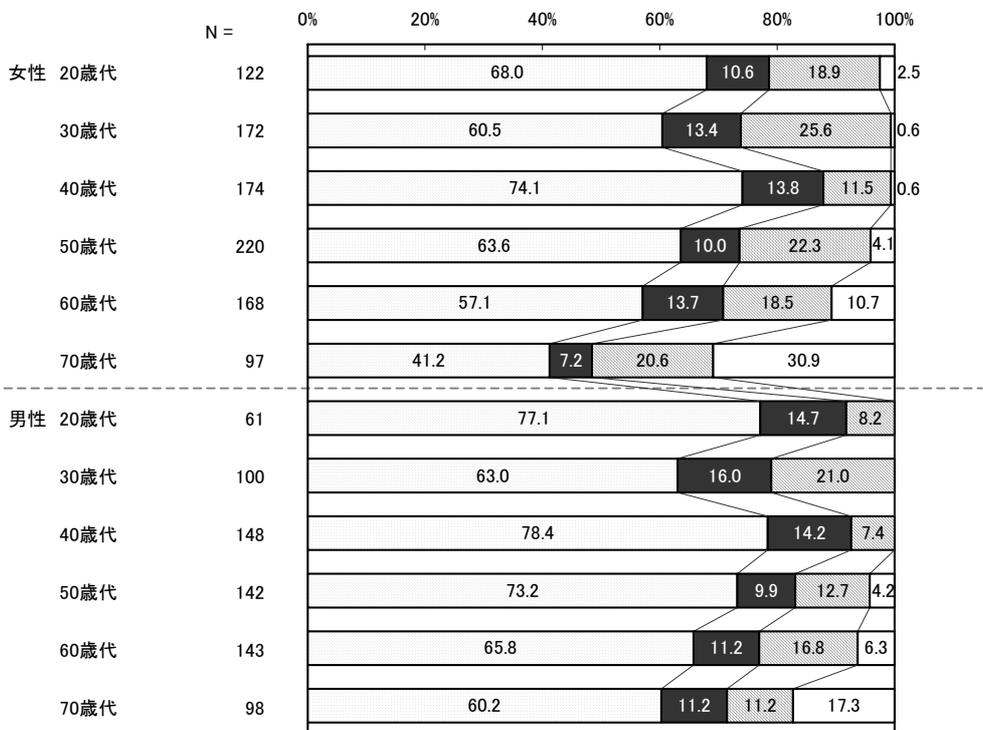
「職場」、「しきたりや習慣」では他の年代に比べ女性の60歳代以下で、「法律や制度上」では20歳代から40歳代で男女平等になっていないと思う人の割合が高くなっています。

図 性・年代別でみる男女の立場が平等になっているか

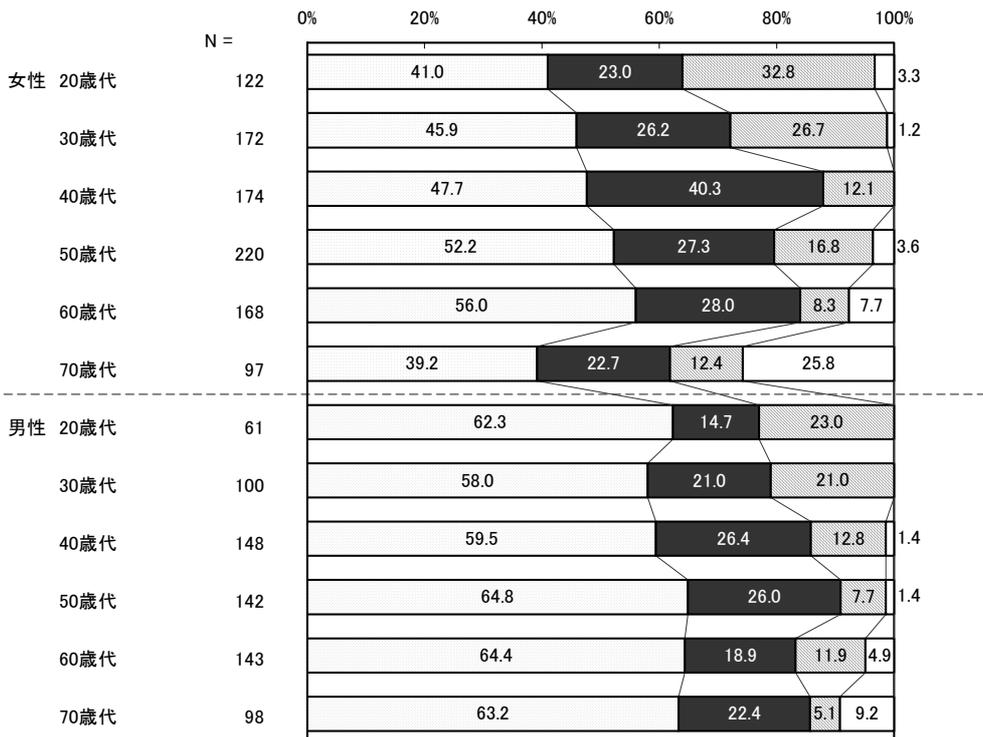


□ 充分平等になっている・ある程度平等になっている  
 ■ あまり平等になっていない・全く平等になっていない  
 ▨ わからない  
 □ 無回答

③ 学校教育

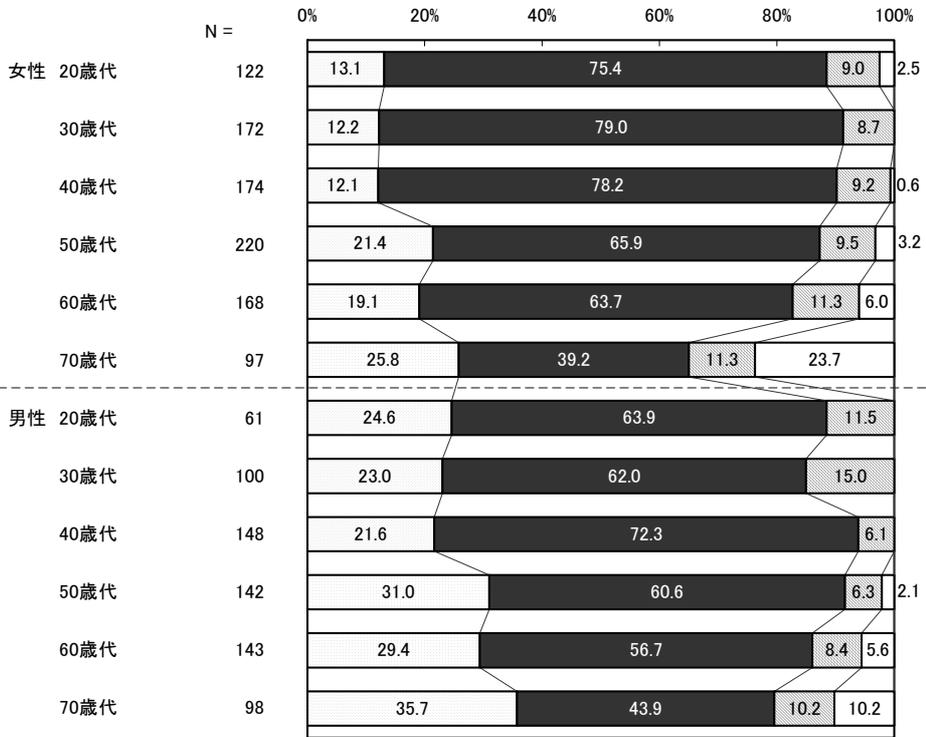


④ 地域活動

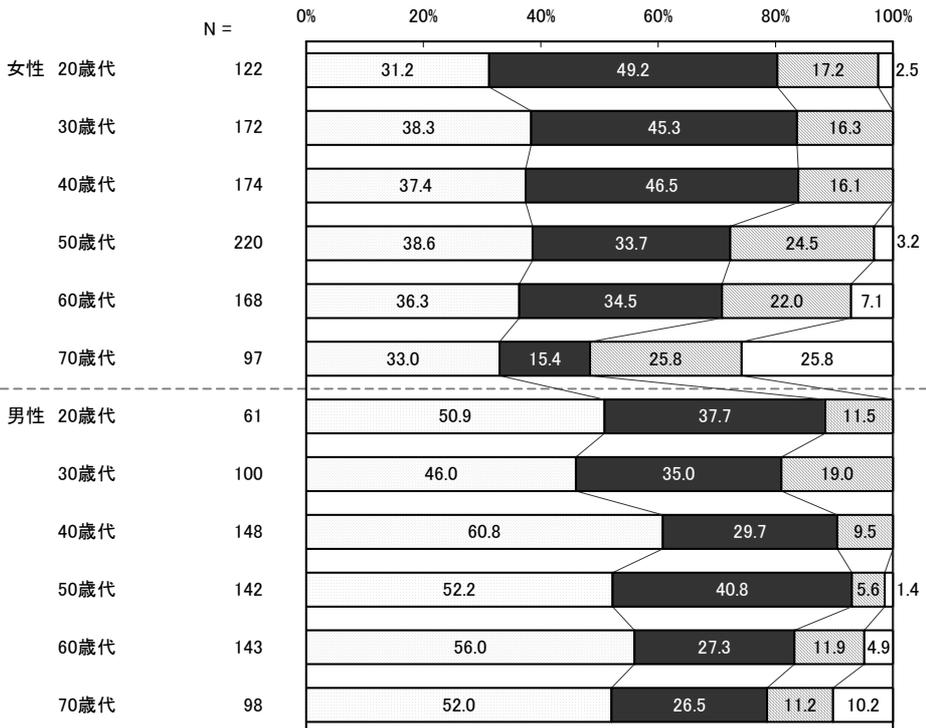


□ 充分平等になっている・ある程度平等になっている  
 ■ あまり平等になっていない・全く平等になっていない  
 □ わからない  
 □ 無回答

⑤ しきたりや習慣



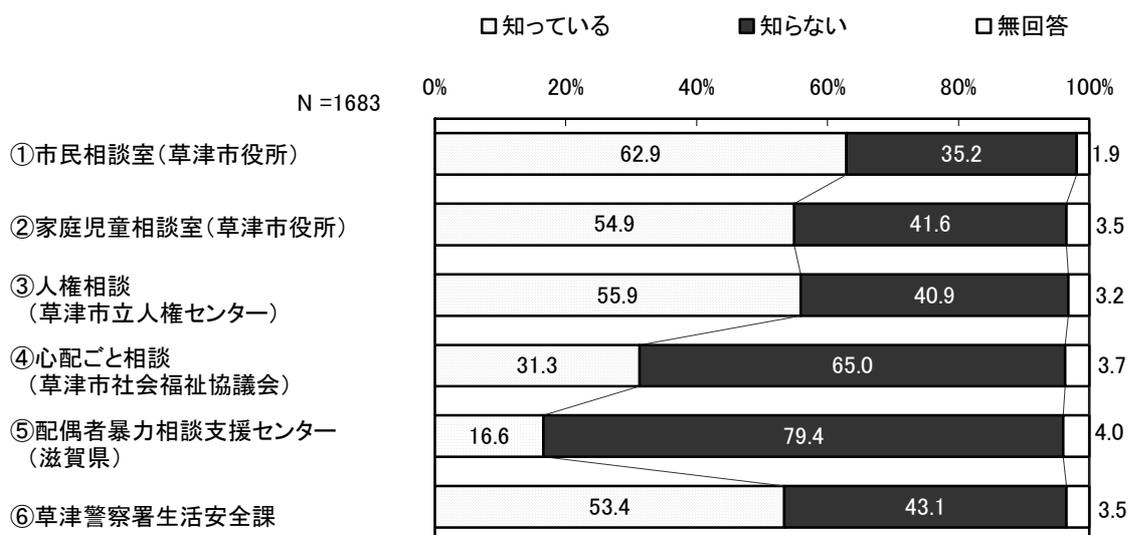
⑥ 法律や制度上



問 37 あなたは、次の相談窓口を知っていますか。(1～6のそれぞれ1つに○)

各相談窓口の周知状況については、他の窓口 비해「配偶者暴力相談支援センター(滋賀県)」、「心配ごと相談(草津市社会福祉協議会)」で「知っている」の割合が低くなっています。

図 相談窓口の周知状況

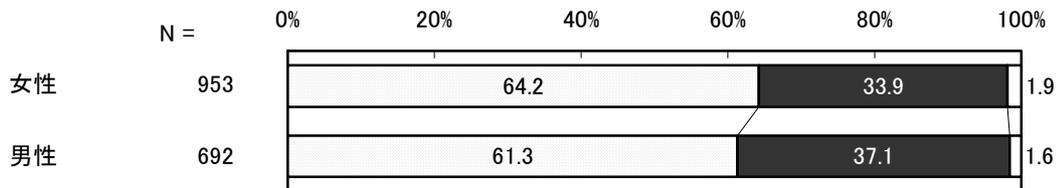


性別でみると、「草津警察署生活安全課」では女性に比べ男性で「知っている」の割合が高くなっています。その他の窓口では男性に比べ女性で「知っている」の割合が高くなっています。

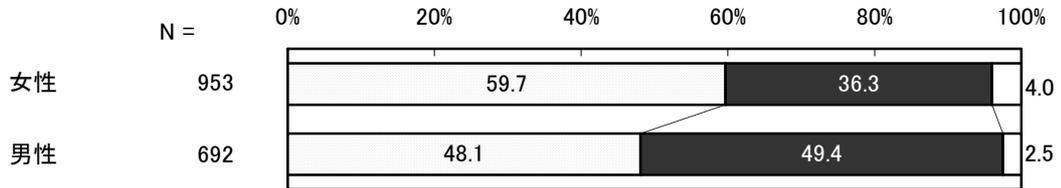
図 性別でみる相談窓口の周知状況

□知っている      ■知らない      □無回答

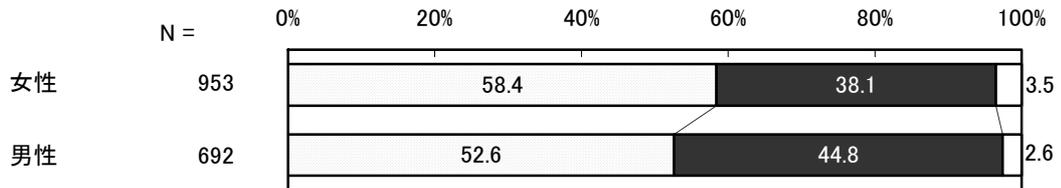
①市民相談室（草津市役所）



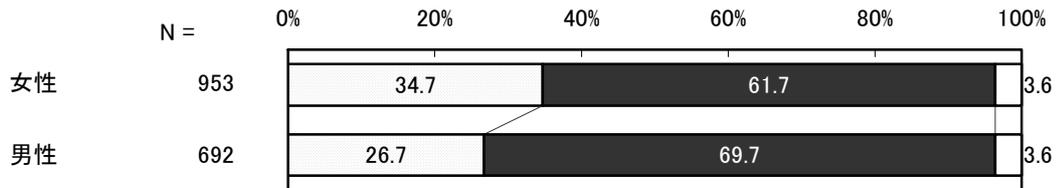
②家庭児童相談室（草津市役所）



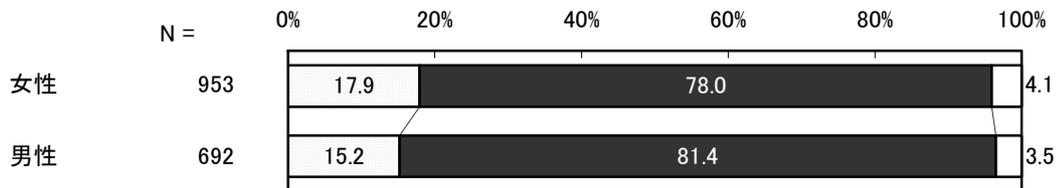
③人権相談（草津市立人権センター）



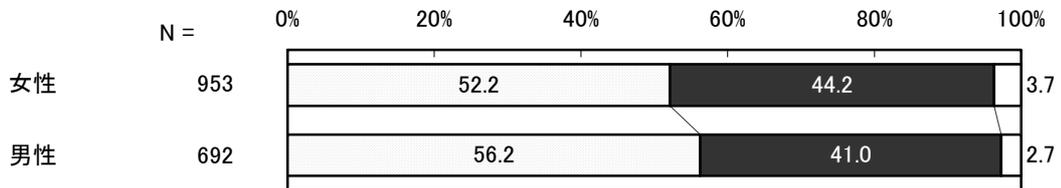
④心配ごと相談（草津市社会福祉協議会）



⑤配偶者暴力相談支援センター（滋賀県）

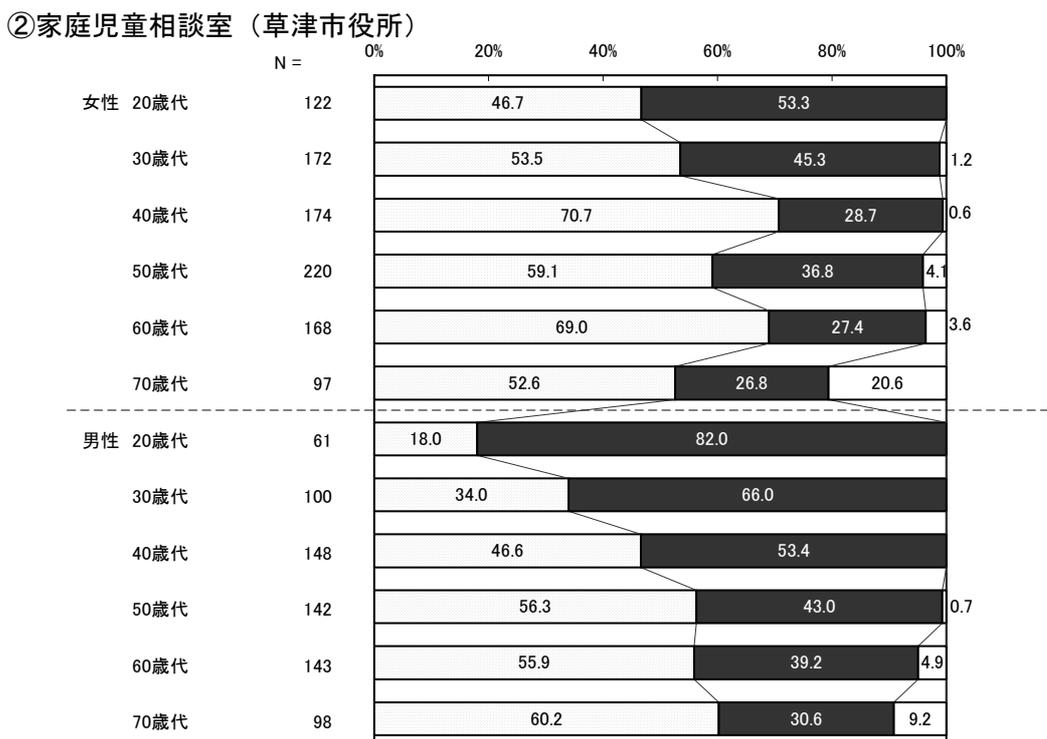
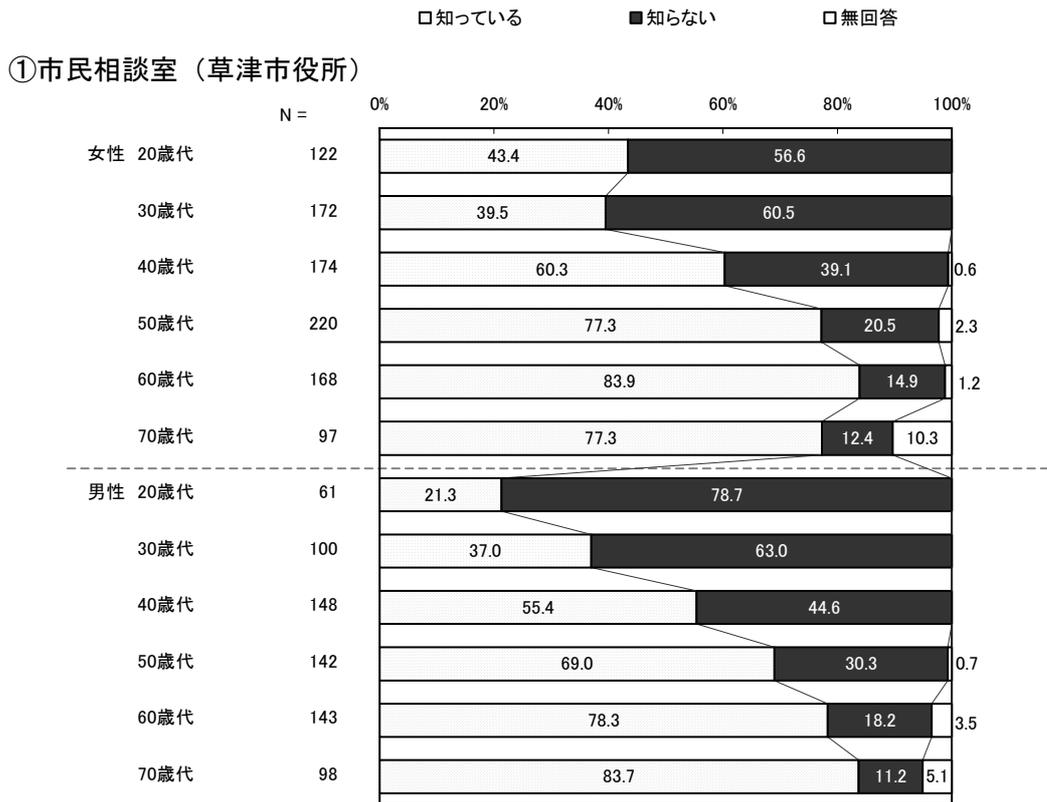


⑥草津警察署生活安全課



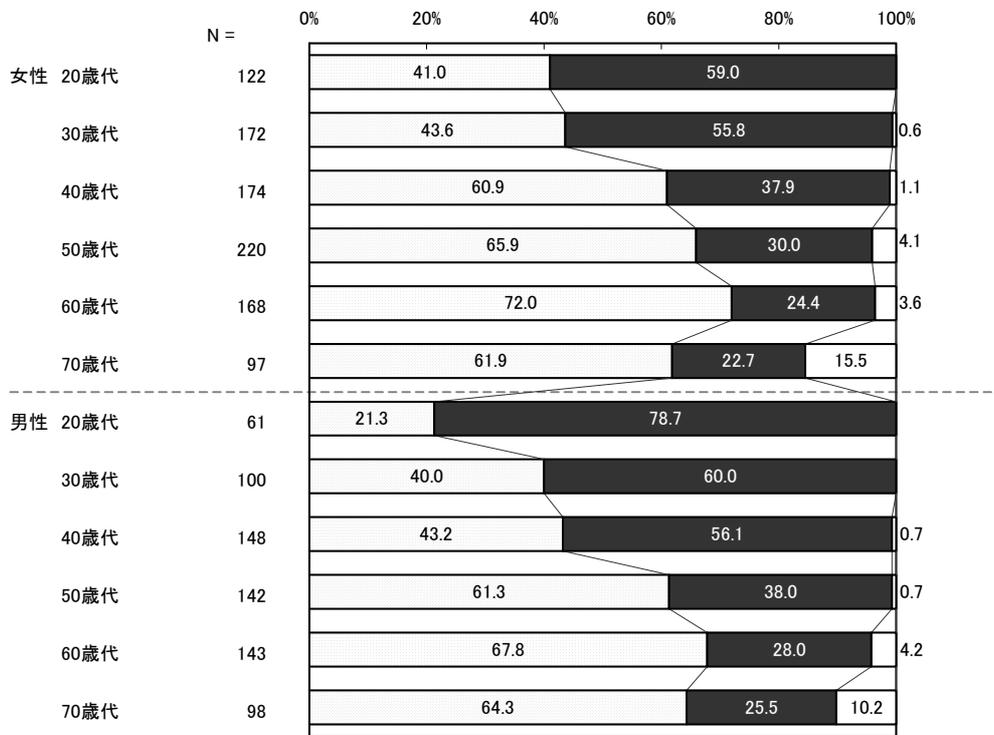
性・年代別でみると、「市民相談室（草津市役所）」、「家庭児童相談室（草津市役所）」、「人権相談（草津市立人権センター）」、「心配ごと相談（草津市社会福祉協議会）」、「草津警察署生活安全課」では男女ともに20歳代、30歳代で「知っている」の割合が低くなっています。また、「配偶者暴力相談支援センター（滋賀県）」では男女ともに60歳代以上で「知っている」の割合が高くなっています。

図 性・年代別でみる相談窓口の周知状況

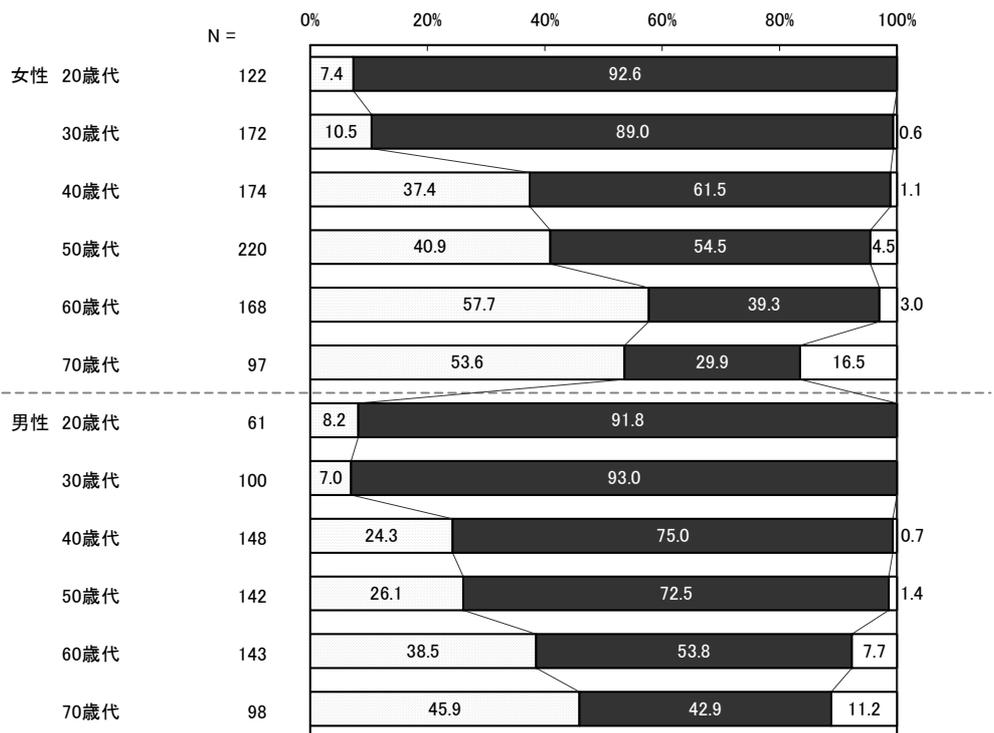


□知っている      ■知らない      □無回答

③人権相談（草津市立人権センター）

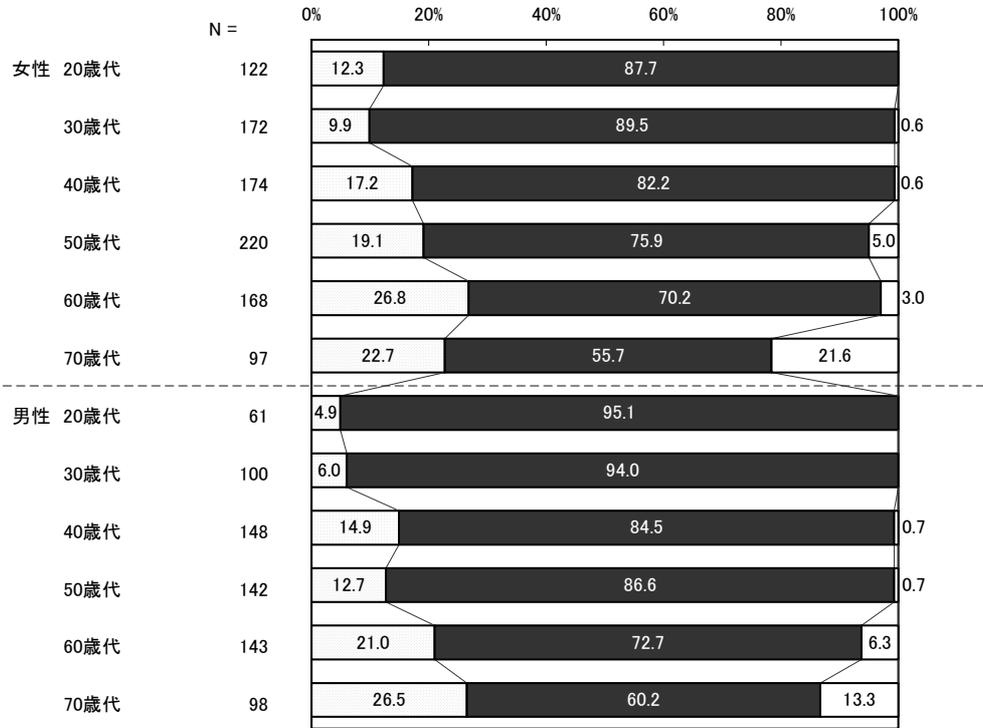


④心配ごと相談（草津市社会福祉協議会）

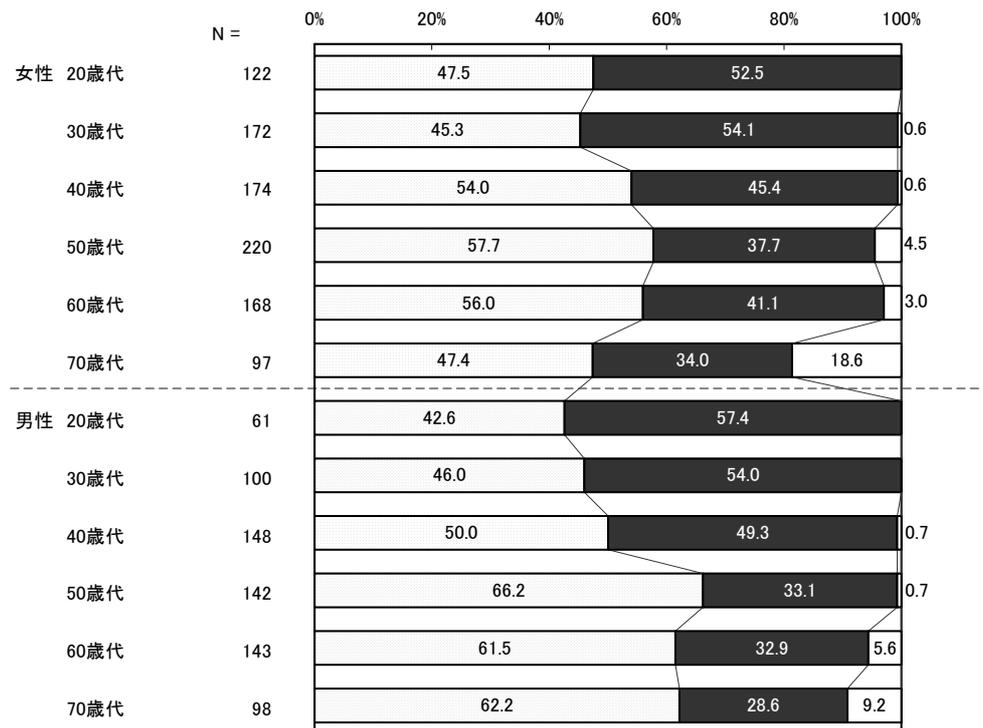


□知っている      ■知らない      □無回答

⑤配偶者暴力相談支援センター（滋賀県）



⑥草津警察署生活安全課



**問 38 次の言葉について、知っていましたか。(1～10のそれぞれ1つに○)**

各言葉の周知状況については、他の言葉に比べ「草津市男女共同参画推進計画『女(ひと)と男(ひと)のパートナープラン・くさつ』」、「女子差別撤廃条約」、「エンパワーメント」、「ジェンダー」、「家族経営協定」で「知らなかった」の割合が高くなっています。

また、平成13年度調査結果と比較すると、「男女共同参画社会基本法」、「ジェンダー」で「知らなかった」の割合が低くなっています。また、「ドメスティック・バイオレンス」で「知っていた」の割合が高くなっています。

図 言葉の周知状況 (平成20年度調査)

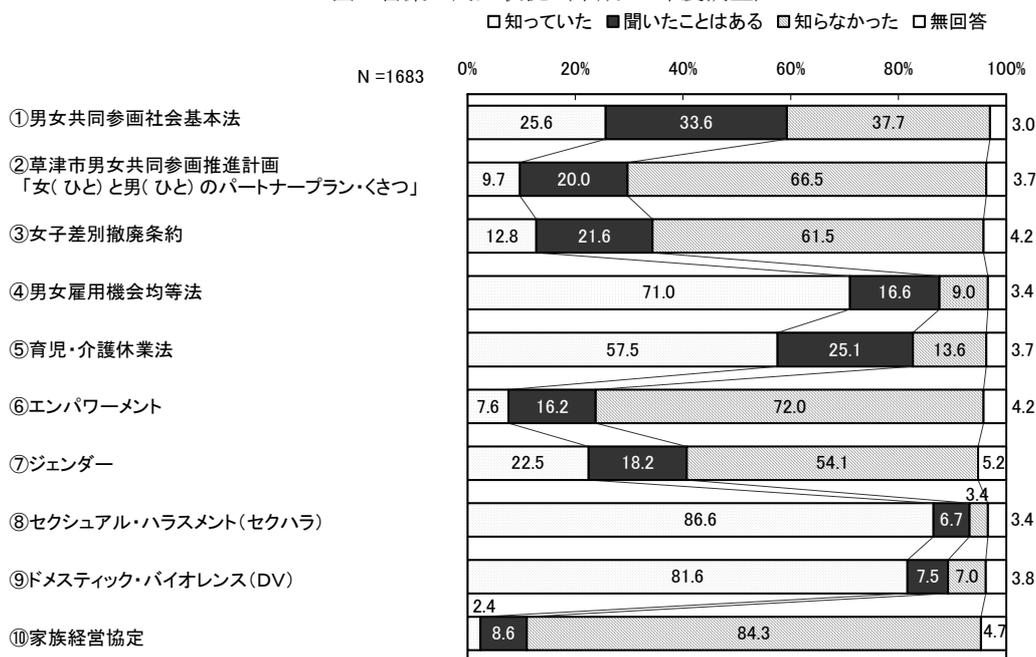
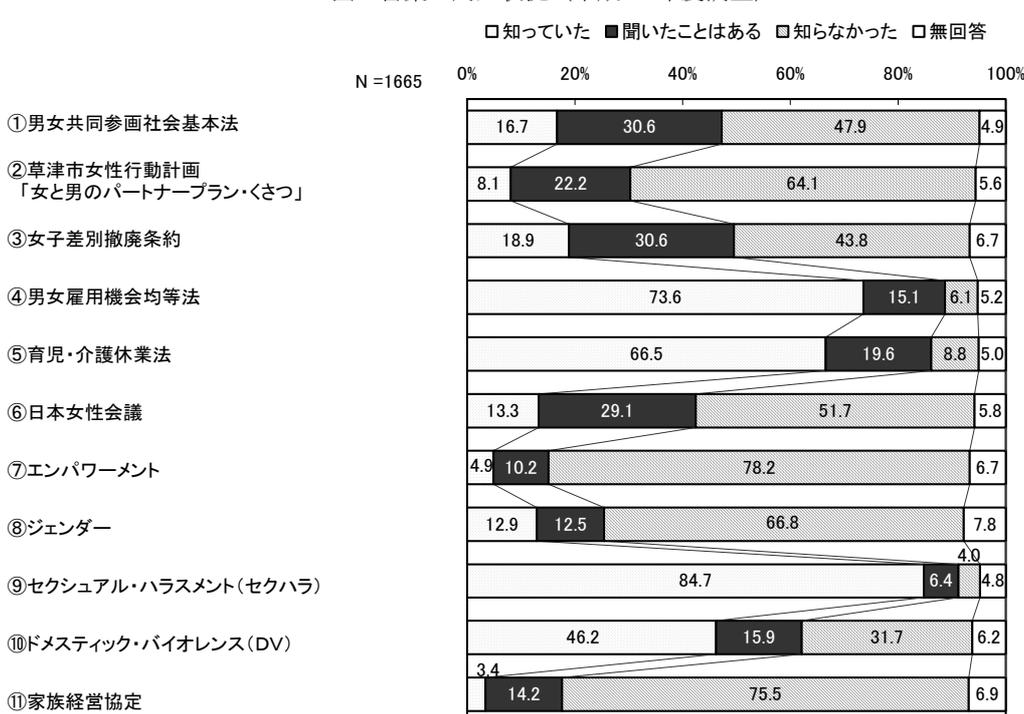


図 言葉の周知状況 (平成13年度調査)

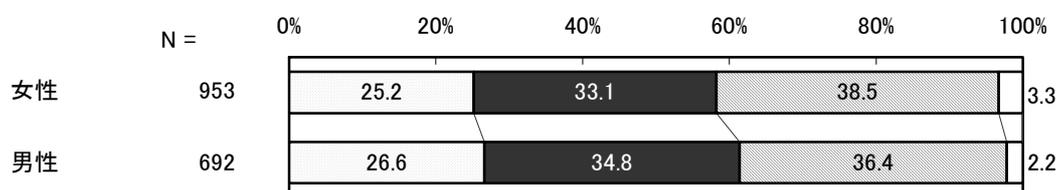


性別でみると、「草津市男女共同参画推進計画『女（ひと）と男（ひと）のパートナープラン・くさつ』」では女性に比べ男性で「知らなかった」の割合が高く、「男女雇用機会均等法」では女性に比べ男性で「知っていた」の割合が高く、「育児・介護休業法」、「エンパワーメント」では女性に比べ男性で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。

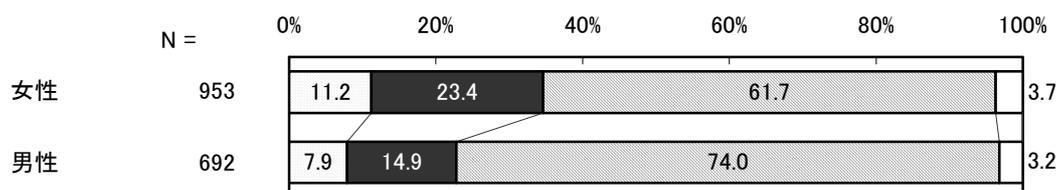
図 性別でみる言葉の周知状況

□知っていた ■聞いたことはある ▨知らなかった □無回答

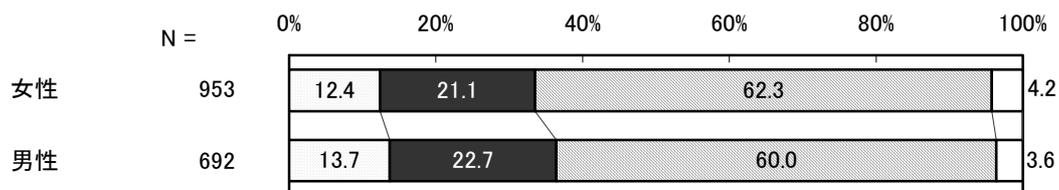
①男女共同参画社会基本法



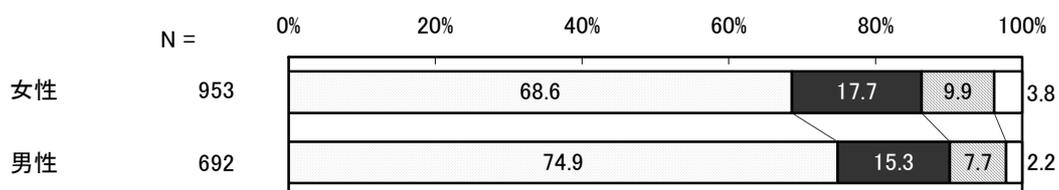
②草津市男女共同参画推進計画「女（ひと）と男（ひと）のパートナープラン・くさつ」



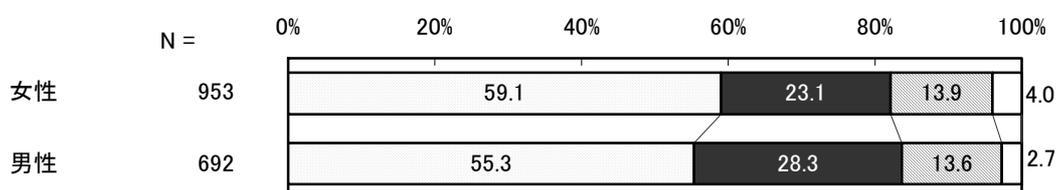
③女子差別撤廃条約



④男女雇用機会均等法

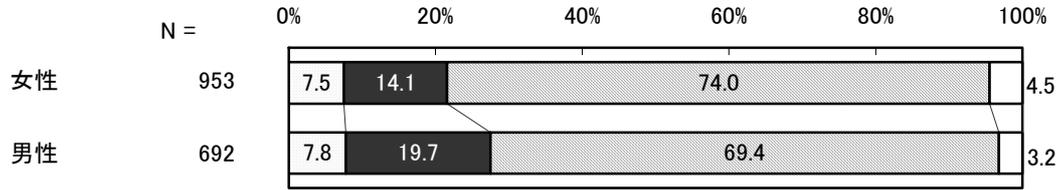


⑤育児・介護休業法



□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

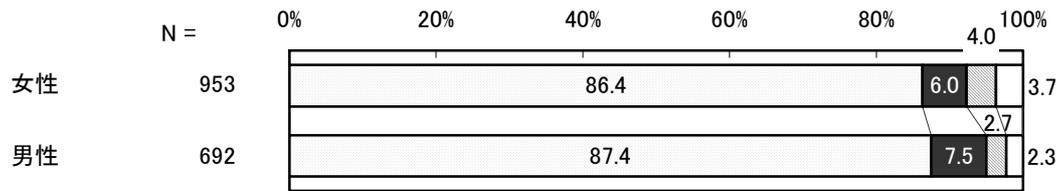
⑥エンパワーメント



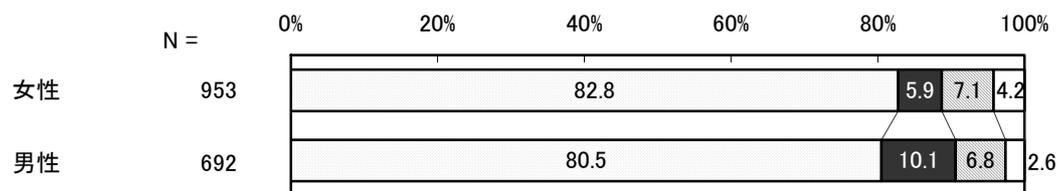
⑦ジェンダー



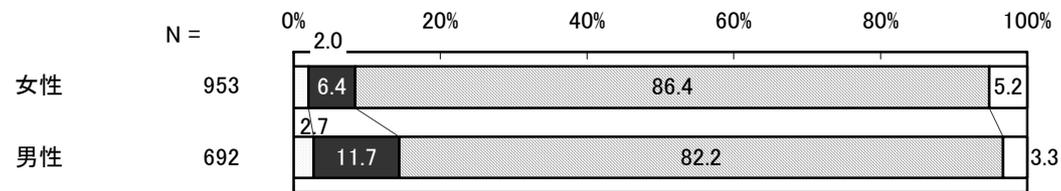
⑧セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）



⑨ドメスティック・バイオレンス（DV）



⑩家族経営協定



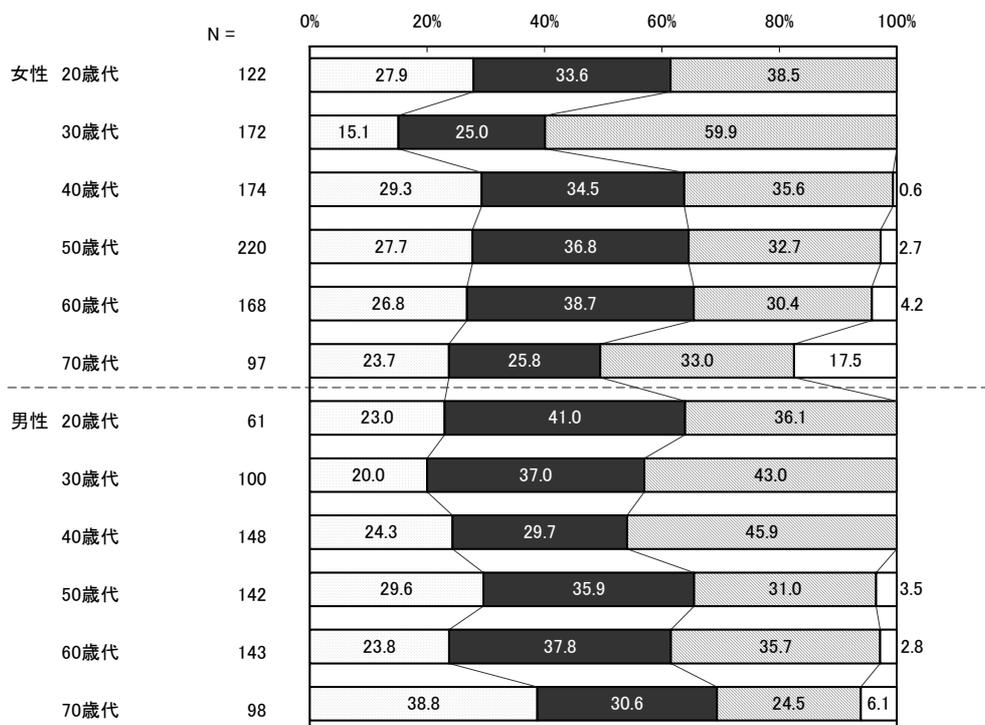
性・年代別でみると、「男女雇用機会均等法」では女性の40歳代以下で、「育児・介護休業法」では50歳代以下で、「ジェンダー」では40歳代以下で、「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」では60歳代以下で「知っていた」の割合が高くなっています。

また、「男女雇用機会均等法」では男性の60歳代以下で、「育児・介護休業法」では40歳代以上で、「ジェンダー」では20歳代で、「セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」では60歳代以下で「知っていた」の割合が高くなっています。

図 性・年代別でみる言葉の周知状況

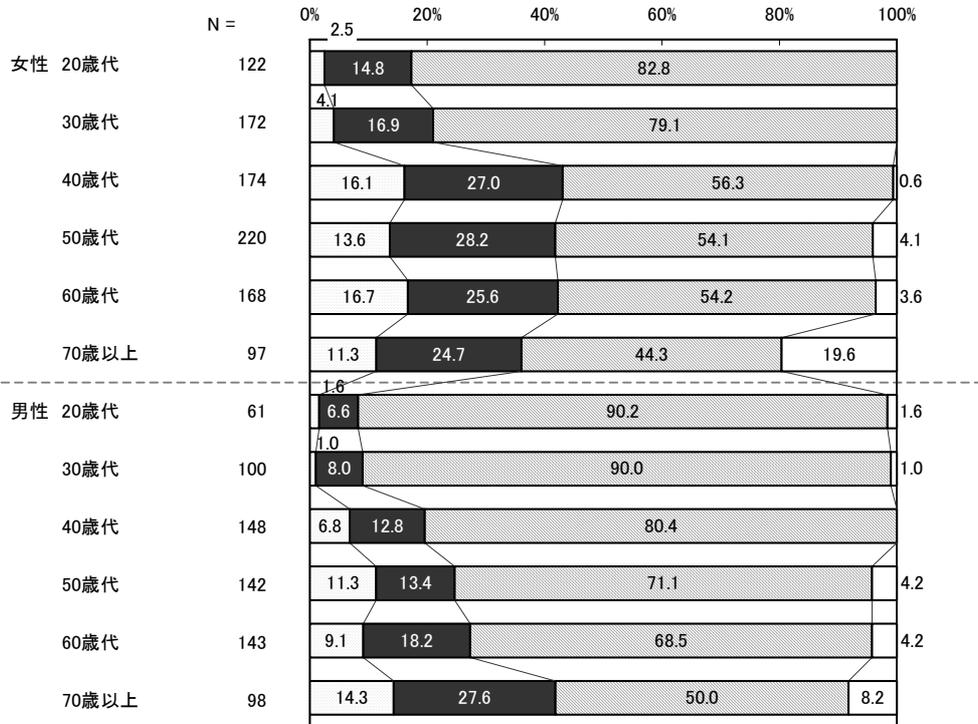
□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

①男女共同参画社会基本法

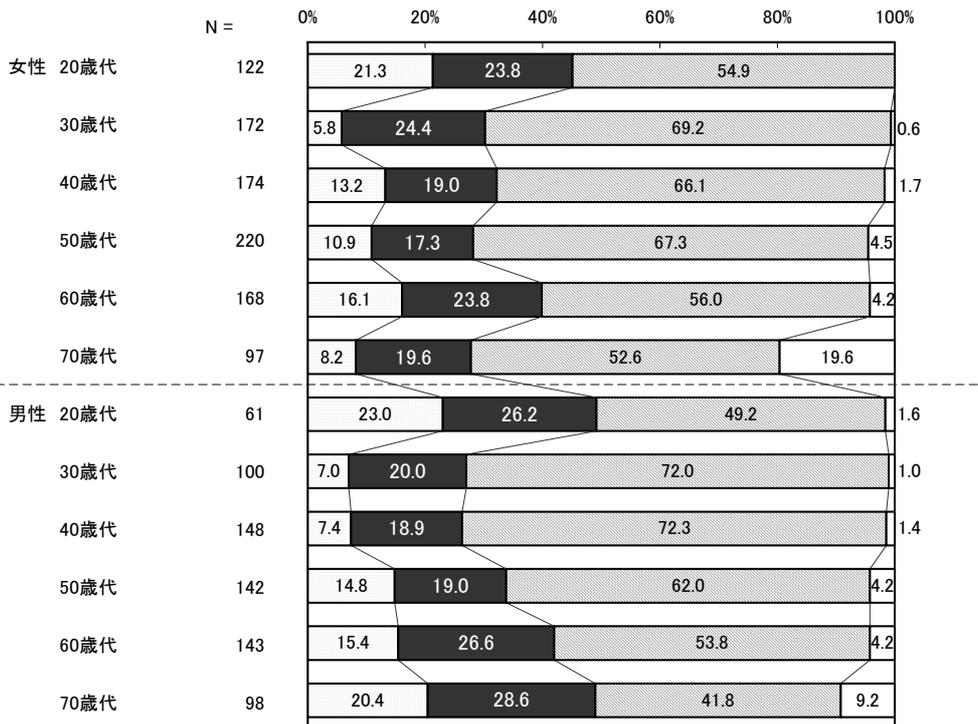


□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

②草津市男女共同参画推進計画「女（ひと）と男（ひと）のパートナープラン・くさつ」

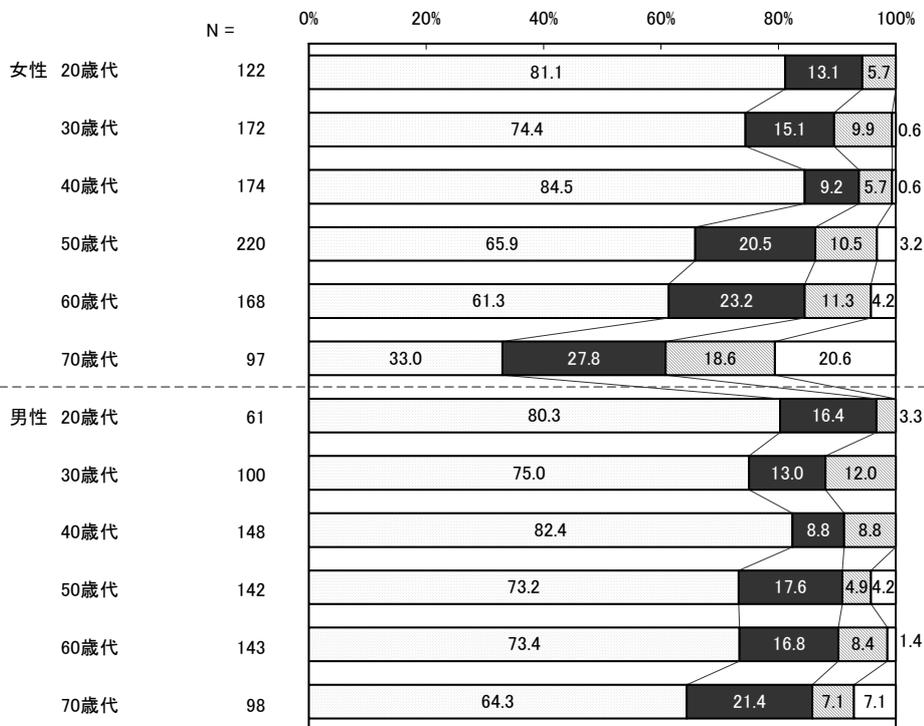


③女子差別撤廃条約

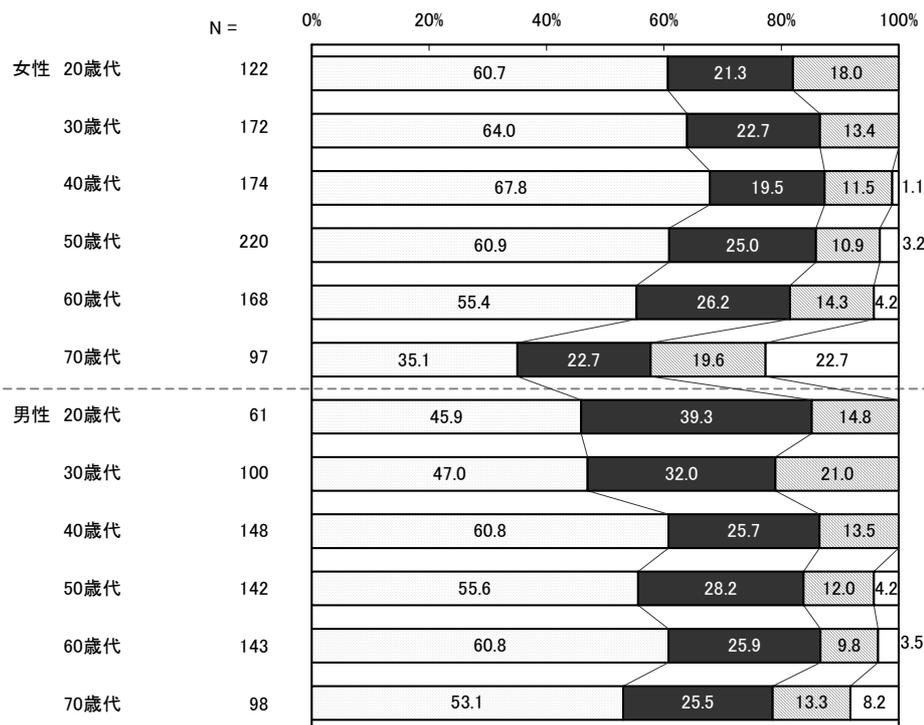


□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

④男女雇用機会均等法

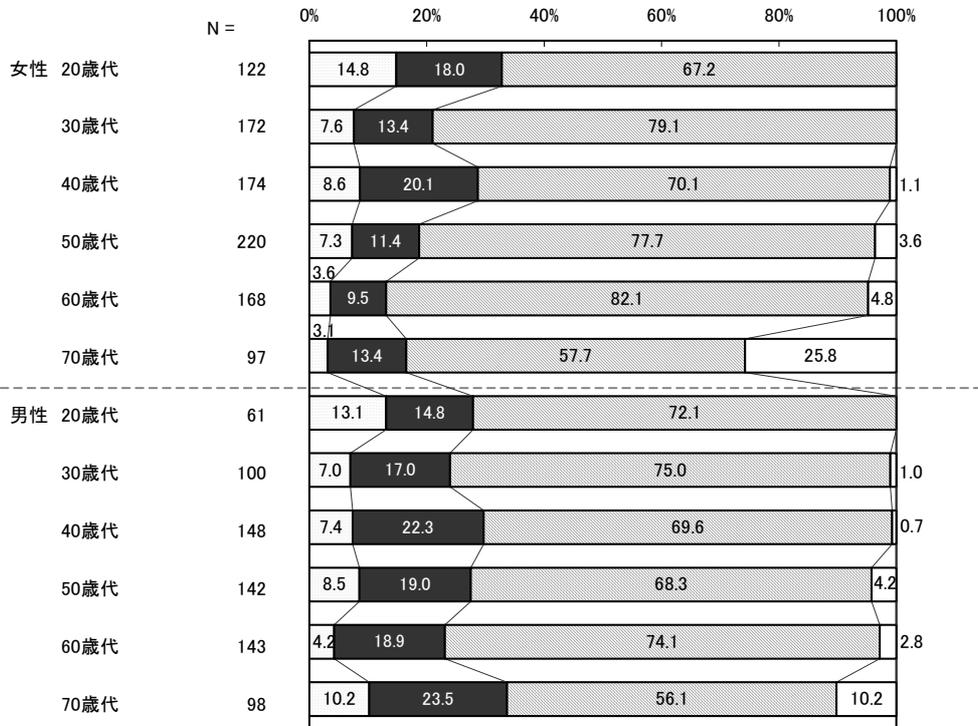


⑤育児・介護休業法

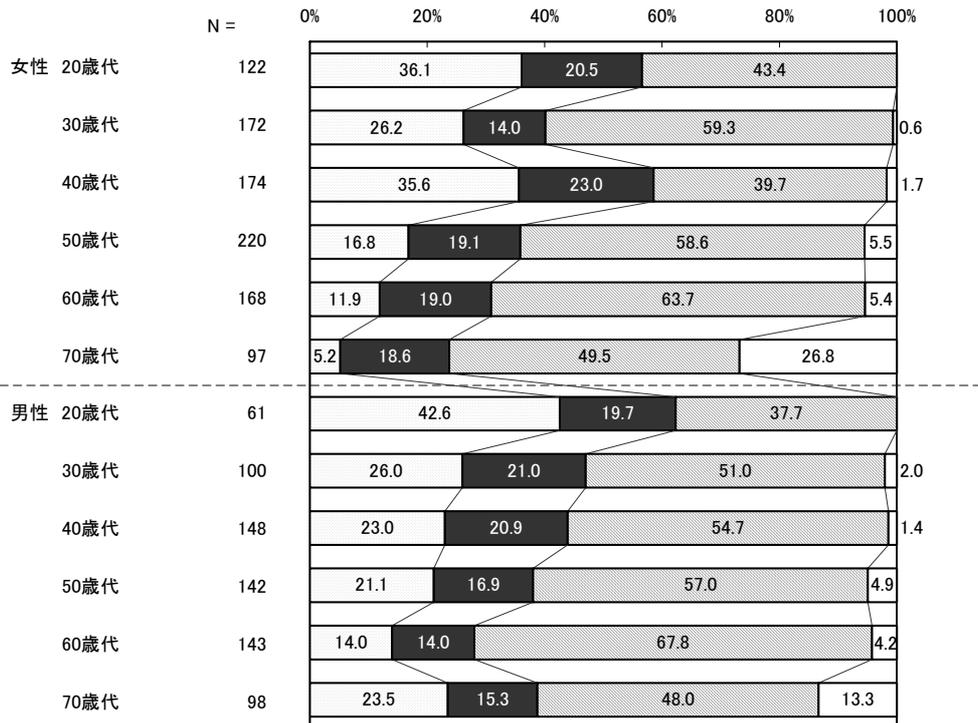


□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

⑥エンパワーメント

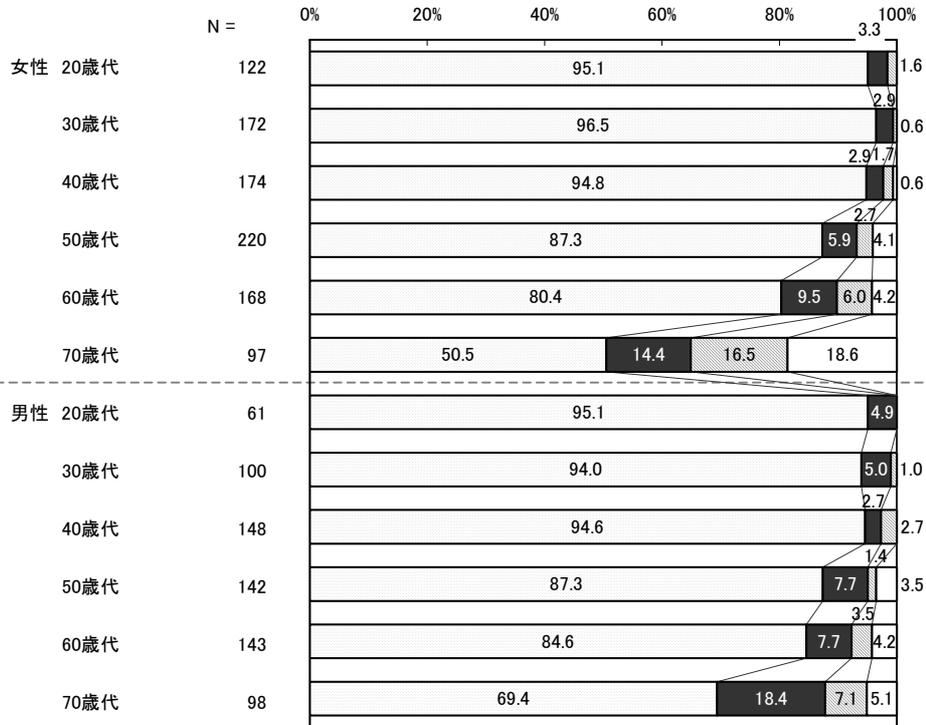


⑦ジェンダー

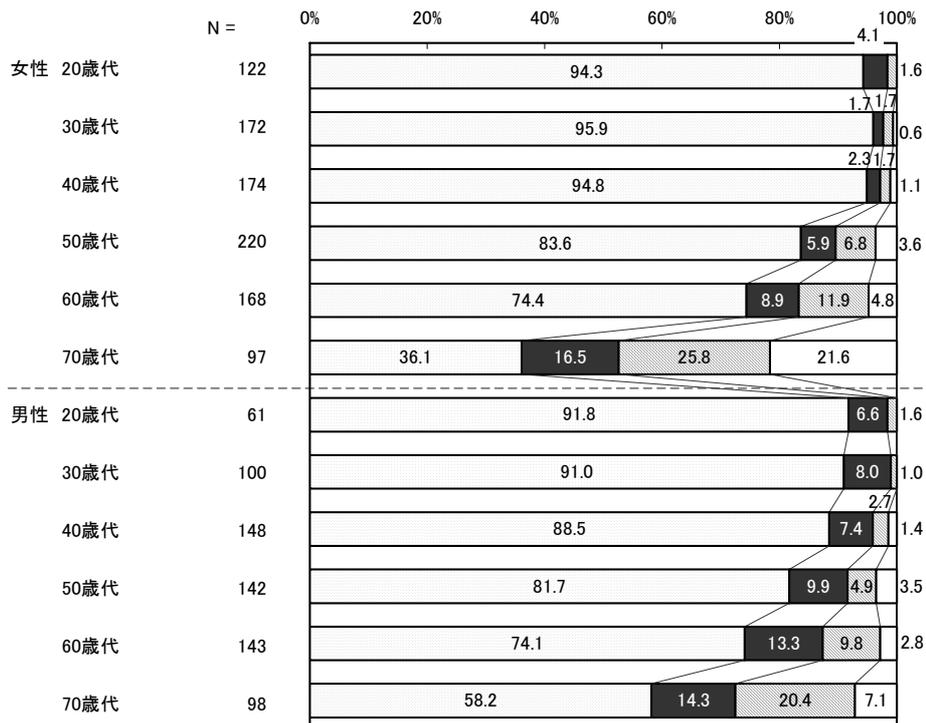


□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

⑧セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）

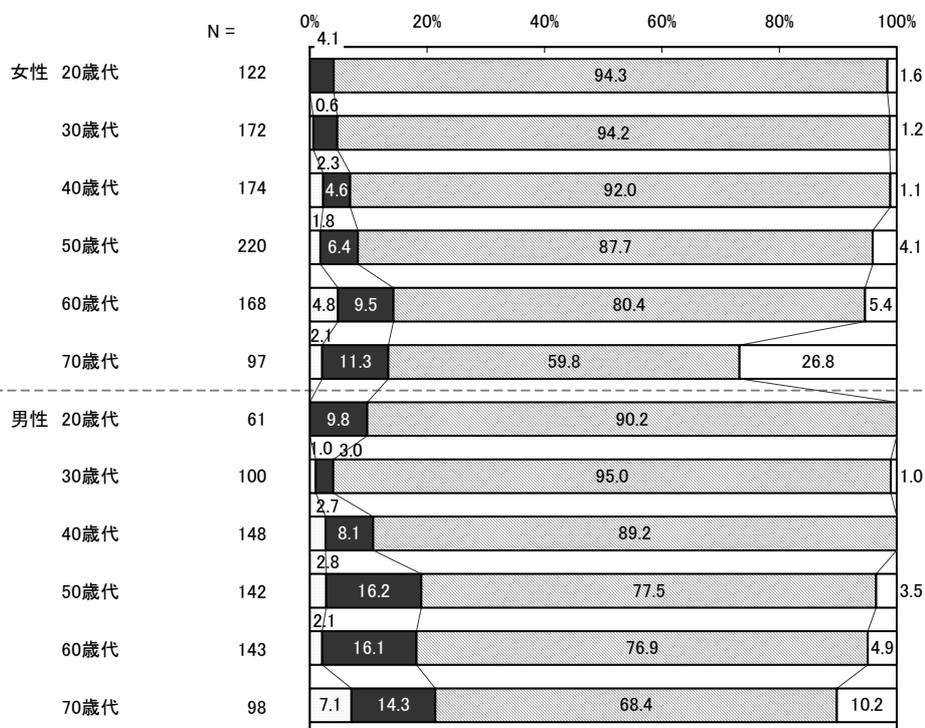


⑨ドメスティック・バイオレンス（DV）



□知っていた ■聞いたことはある □知らなかった □無回答

⑩家族経営協定



**問 39 男女共同参画社会の実現に向けて草津市が今後特に力を入れるべきだと思うものはどれですか。(〇は3つまで)**

男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべきものについては、「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」の割合が最も高く 62.6%となっており、次いで「学校教育の中で、男女平等や男女の共同参画についての教育を進める」の割合が 34.2%、「働く場での男女格差を無くすよう事業主などに対して働きかける」の割合が 32.1%となっています。

また、平成 13 年度調査結果と比較すると、「市の政策・方針を決定する審議会の委員などに、女性を多く登用する」の割合が低くなっています。

性別で見ると、男性に比べ女性で「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」、「男性も、保育・家事・介護などができるよう、経験・学習する場を設ける」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「男女が共に参画する地域活動、ボランティア活動を促進する」の割合が高くなっています。

性・年代別で見ると、女性で年齢が高くなるにつれて「働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる」、「男性も、保育・家事・介護などができるよう、経験・学習する場を設ける」の割合が低くなる傾向にあります。また、男性の 20 歳代で「働く場での男女格差を無くすよう事業主などに対して働きかける」の割合が高く、40 歳代から 60 歳代で「学校教育の中で、男女平等や男女の共同参画についての教育を進める」の割合が高くなっています。

図 男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべきもの

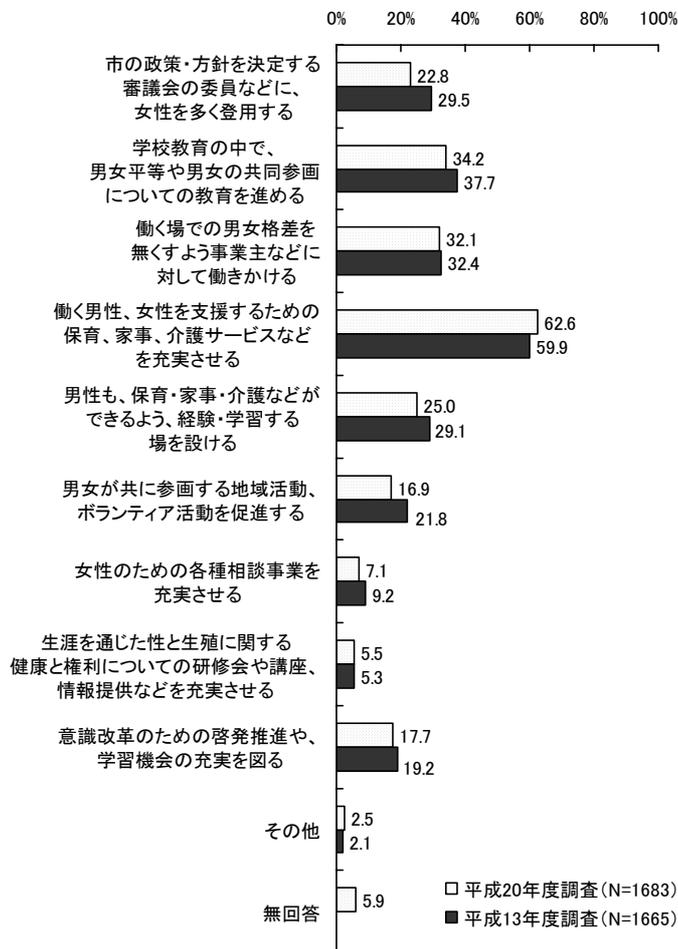


図 性別でみる男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべきもの

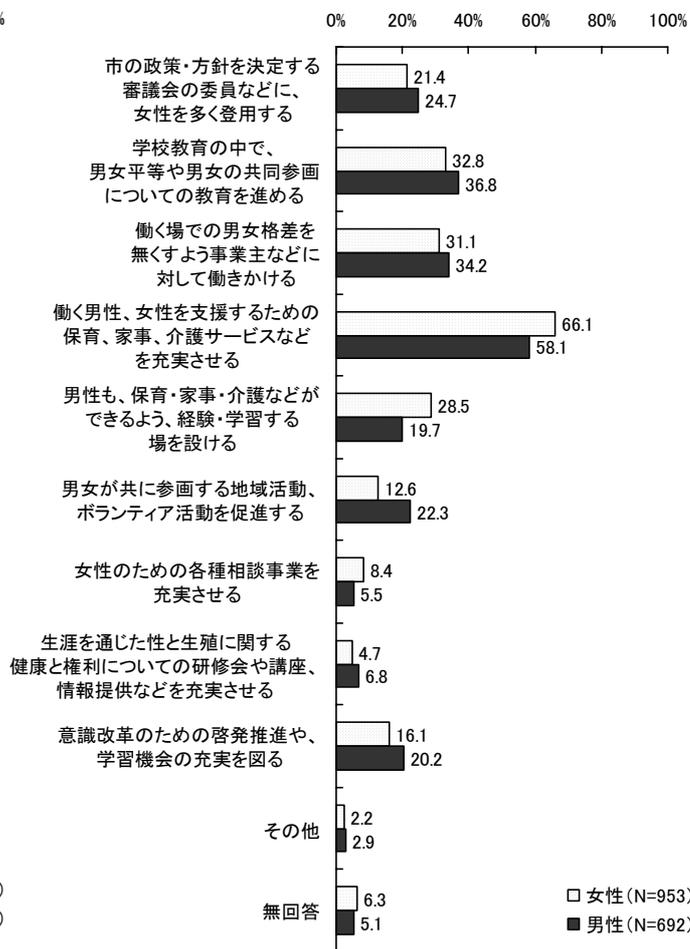
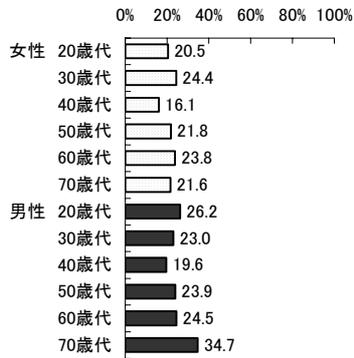
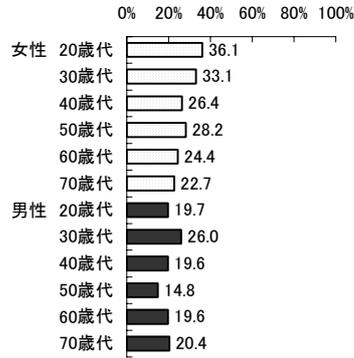


図 性・年代別でみる男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべきもの

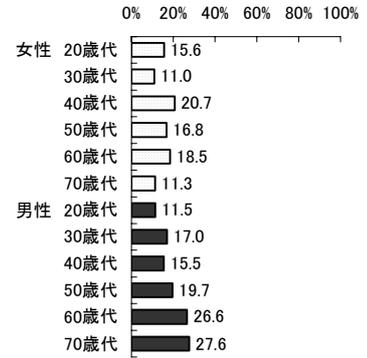
市の政策・方針を決定する審議会の委員などに、女性を多く登用する



男性も、保育・家事・介護などができるよう、経験・学習する場を設ける

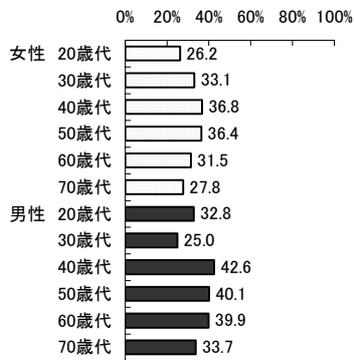


意識改革のための啓発推進や、学習機会の充実を図る

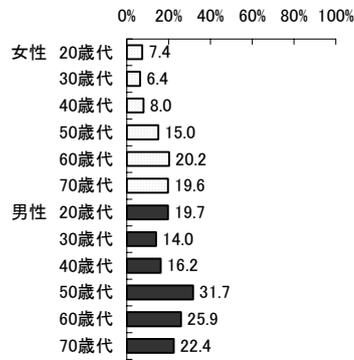


N=  
122  
172  
174  
220  
168  
97  
61  
100  
148  
142  
143  
98

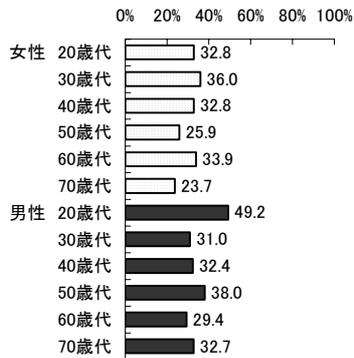
学校教育の中で、男女平等や男女の共同参画についての教育を進める



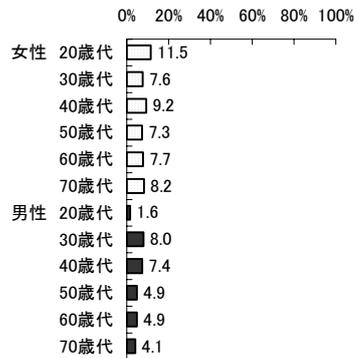
男女が共に参画する地域活動、ボランティア活動を促進する



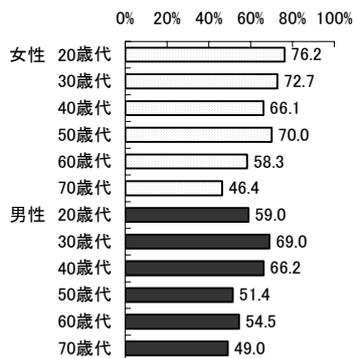
働く場での男女格差を無くすよう事業主などに対して働きかける



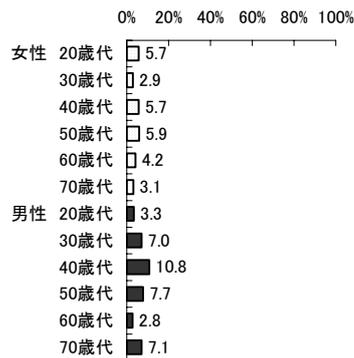
女性のための各種相談事業を充実させる



働く男性、女性を支援するための保育、家事、介護サービスなどを充実させる



生涯を通じた性と生殖に関する健康と権利についての研修会や講座、情報提供などを充実させる



問 40 「草津市男女共同参画推進条例」（平成 21 年 4 月 1 日施行）の制定を受けて、新たな草津市男女共同参画推進計画を策定する予定ですが、市が実施する施策などに関してのご意見やご希望がありましたら、ご自由にご記入ください。

#### ①家庭生活について

- ・「父子家庭」「男性が親を介護する家庭」等、仕事を持つ男性が女性の力が得られない状況で子どもや親の面倒をみる場合でも、公的な支援が受けられて、また外部より女性方の保育・食事・介護等の協力が得られるシステム・仕組みができればと希望しています。一度、ご検討願います。  
(男性 50 歳代)
- ・社会や家族皆ができることを助け合って生活できるように皆でがんばる事です。  
(女性 50 歳代)
- ・家族に病人がいる場合はなかなか家庭から出にくい場合があります。若い夫婦では小さい子どもなどがいるので参加しにくいと思います。(男性 60 歳代)
- ・政治、社会で男性も家事、保育、介護ができ、生活できるようにしてもらいたいです。生活ができれば男女共同参画社会は実現していくように思います。まずはお金です。お金があれば男女共同参画社会は実現すると思います。(男性 60 歳代)
- ・問 39 の 4 を特に充実していただきたいです。(男性 30 歳代)
- ・男女平等だから何でも男性と女性とやらなければならないことはないと思います。その家庭で話し合っただれぞれができることをやるのが一番よいことだと思います。何時でも不平・不満はいけません。仲良く暮らしましょう。(男性 70 歳代)
- ・市主催の男性のための料理教室など家事のサポートができるようなセミナーを積極的に開いてほしいです。(男性 20 歳代)
- ・これまでアンケートの設問でも回答しましたが、会社員として働いている立場から申し上げますと、男性も、少しでも家事や育児、介護等にもっと、積極的になってほしいです。そのため、男性にももっと家事、育児、介護等の大切さを知ってほしいですし、できるようになってほしいと思います。  
(女性 20 歳代)
- ・専業主婦ですが、家事、育児をすることはとても大切なことですし、金銭的に困難な状況になるまでは、働こうとは思いません。働く女性の支援ばかりが取り上げられますが、そのことで専業主婦（無職）であることが恥ずかしいこと、楽をしているというイメージを与えられているように思います。働く女性への支援も大切だと思いますが、大切なことは家族が協力して生活できていること、夫婦で話し合いができていることも大切なのではないのでしょうか。(女性 30 歳代)

#### ②子育て支援について

- ・子育て中の若い夫婦が安心して働けるよう、各地区での支援が望まれます。(女性 60 歳代)
- ・まだまだ男性は仕事中心で、女性は経済的問題のために仕事をしていても、家事や保育所の送迎をして当たり前という考えが 60 代前後（それ以上）の男女の中ではあると思います。保育所送迎も間に合わないと思ながらの女性の仕事（特に専門職）、疲れていても家事をしなくてははいけません。女性のストレスはとても強いです。子どもを増やしてほしいというなら、育児をしながら仕事をしていかなければならない女性の気持ちをもう少し考えてほしいです。生活費も厳しいです。そして関係ないかもしれませんが、0 歳～3 歳の保育料を（6～7 万円/月）下げてほしいです。ひどいと思いませんか。(女性 30 歳代)
- ・育児しながらでも働ける環境づくりに本気で取り組んでもらいたいです。(男性 40 歳代)

- ・女性の人生の中で出産、子育てが最大のポイントだと思います。出産、子育てを不安なくできるよう、自治体としての取り組みを希望します。琵琶湖を活かした環境での子育ては、財産になると思います。(女性 50 歳代)
- ・少子化対策としても企業が保育所をつくるべきです。それなら男性も育児に参加しやすいです。遅くまで働かせることはありません。(男性 30 歳代)
- ・3 年幼稚園など、子育て支援の充実を望んでいます。現状では高い保育料を稼げるほどの仕事に就くチャンスが少ないし、また、意欲ありません。(女性 30 歳代)
- ・主として、今の幼児や児童に力を入れ、多角的に行政として援助してください。(男性 50 歳代)
- ・女性が生涯仕事を続けていけるように、育児保育や夜間保育を行う施設を充実させてほしいです。(女性 20 歳代)
- ・共働き家庭に対する支援、サービス、例えば病児保育施設や保育時間の延長、介護支援等に力を入れてほしいです。(男性 30 歳代)
- ・今は厳しい社会(状況)の中で若い人たちが結婚していくには夫の給料だけではやっていけないので女の人も働かなければなりません。家庭・育児を夫が協力したら、女の人も働きながら育児・家事をするので負担が軽くなるので夫の会社もそれが理解できるようにしてほしいです。そうすればストレス・うつ病もなくなるのではないのでしょうか。今は厳しくなってきているので、高齢者の件も大事ですが若い夫婦たちも子どもを産み育てておられます。テレビで育児放棄・子ども虐待などありますが、国は頼りにならないので、市の方で一足早く見抜いて、何とか小さな子どもがひどい目に会わないようにしてください。育児のノイローゼ、うつ病にならないように協力してもらえよう市から何らかの対策をお願いします。(女性 40 歳代)
- ・保育園や一時保育サービスを増やし、子育て中の女性が働きやすい環境を作してほしいです。(女性 30 歳代)
- ・子育てをしやすくするような環境づくりが必要です。保育所の民営化には反対です。公的な施設はむしろ増やすべきです。(女性 40 歳代)
- ・子どもが病気の時十分に介護できるような社会の理解が得られることを希望します。(女性 60 歳代)
- ・女性が男性と同様に地域活動(仕事も含む)に参加する為には、育児、家事への援助者が必要。ファミサポ(NPO法人)や民間の子ども預かり(Kids Room や託児所)を利用しやすくしてもらいたい(公的援助)。例えば、金沢市では、未就学児は、私立、公立保育園での一時預かりが250円/1時間で受けられます。就学児は、私立の保育園でも学童を受け入れてもらえ(1万円/1か月)、家事援助も250円/1時間でした。(女性 40 歳代)
- ・働く人のための保育サービスなどの環境整備にお金を使ってください。また、男女共同参画の施策の議論や情報を広く発信して、皆が関心を持つようにしてください。なるべく具体的に決めてもらうことを希望いたします。(男性 20 歳代)
- ・問1~6は育児に関する市からのアンケートでも同じような質問にお答えしました。私の妻は保育所の今後について考える市民会議に参加させていただいていますが、男女共同の視点からも、保育についてご支援、ご意見をいただきたいと思います。保育が健康福祉部なので少し疑問を感じます。女性の就労は地域の財源(財産)でもありますので、もっと重視してほしいです。妻の同期は出産で皆仕事を辞めています。諦めるのは本人のせいだけではありません。「保育を要する児童」を預かってもらえて、よく働けるまちに住んでいると言えるにはまだ少し足りないことがあります。病時、病後も対応できる保育施設は4時半までと、正社員では休まざるを得ない状況もありますし、教育や病院との連携がとれていない感もあります。男女共同参画からもぜひ声をかけていただき、「まちづくり」の規模で取り組んでくださいますよう、お願いいたします。(男性 30 歳代)

- ・女性が働きながら、安心して子育てできるように、認可保育園（24時間）や小児科等を増やしてほしいです。現在、パートで働いていますが、保育園が18時や19時までなら、仕事を辞めなければいけません。仕事が終わるのは21時前になることもありますので、24時間の認可保育園が近くにあれば、仕事も続けられます。小児科もほとんどの小児科が平日の19時までなので、安心して出産できません。もっと病院と医院との連携をして、地域医療等を充実させてほしいです。（女性 30歳代）
- ・小さい子どもがいても、女性が働くために支援してほしいです。特に保育料が高すぎて職場復帰しにくい現状があるので、それだけでも平等に働けない状態になっていると思います。平等に働けると、平等に家事をし、平等に育児をするようになっていくのに、と思っています。（女性 20歳代）
- ・24時間対応の保育所の整備が必要です。早急な整備をお願いします。（男性 40歳代）
- ・子育てに関する支援をより厚くしてもらいたいです。安心して共働きができる市にしていかなければなりません。（男性 30歳代）
- ・直接関係ないかもしれませんが、妻が育休を2年取ろうとしたら、保育園の下の子が1歳になるまでしか上の子を預けられないと、1年での職場復帰、または退園を求められました。聞くと保育園も待機児童などの問題を抱えていてやむを得ないようですが、国の方針と草津市の実態が合っていないのは困ります。（上の子は今度4歳児で、1年間幼稚園に預けたとしても、5歳児で母親が職場復帰した時に保育園は定員がいっぱいで戻れる保証はありません。）（男性 30歳代）

### ③ドメスティック・バイオレンスについて

- ・DVや母子家庭などの支援を充実・周知させ、皆が暮らしやすい市になってほしいです。（女性 30歳代）
- ・問4からのドメスティック・バイオレンスの回答は私の娘のことです。（稼ぎ先で田舎なのでまだまだ男尊女卑です。）よろしく願いいたします。条例の内容を郵送してください。お願いします。（女性 70歳代）
- ・家の中の暴力について、厳しく廃止すべきです。（男性 40歳代）
- ・地域のおじい様たちに教育が必要です。嫁は物ではない、あなたの所有物ではない（妻も同様）ということを理解させ、行動を改めてもらうにはどうすればよいのでしょうか。他にも、青年団なるものもわかりません。囲碁って何に使うのでしょうか。囲碁はけっこう高いし、年齢によって小グループがあり、古くからいろいろやっていますが、それら全て男性社会で、女性にはありません。現代の若者には、このしきたりについていくのが辛いと感じている人も多いです。（女性 50歳代）

### ④労働について

- ・女性も働きやすい社会にしてほしいです。（男性 30歳代）
- ・社会通念として男女共同参画は受け入れられています。教育という段階はすでに目処がついており、実質的効果のある法令（とその実施）が必要です。特に子どもが3歳～小学生に入学するまでの時期の母親が働きやすい環境を作ってあげることが重要です。また、事業主がそんな母親を雇用するメリットを作ってあげることも、普及には重要です。企業には法人税減税を検討したらどうでしょうか。税金は母親の所得税から入るのだから、トータル的にはデメリットは少ないはずです。（男性 20歳代）
- ・フレックスタイム制の充実した職場を増やしてほしいです。（女性 30歳代）

- ・平日は21時を過ぎないと夫は帰宅しません。子どもたち（8歳男、5歳男）が寝た後です。「週末しか会わないようでは父親とは言えません。そんな接し方で大きくなってから言うことを聞いてもらえなくなったらどうするのか。」と言うと、「会社をクビになっても良ければ早く帰るよ。帰りたくても帰れないのだから仕方がない。」と答えます。おそらくこのような働き方をしている父親はたくさんいるでしょう。事業所への啓発、社会全体への啓発により、夕方の定時で帰宅し、個人的には、今さら毎日定時で帰宅されるとうとうとしいだけなのですが、家族と過ごす（育児をする）のが当たり前の社会にしてもらえたらと思います。草津市から日本全国へ発信していけたらすごいと思います。長年、会社に長時間いることが当たり前になっていたため、家にいないのも当たり前になっており、このような状況になりました。（女性 40歳代）
- ・もっと働く環境について調査して改善して行ってほしいです。それぞれの職場の労働状況を把握して無理のない労働条件にしてほしいです。（女性 20歳代）
- ・求人誌などで性別不問とあっても、実際は事業主の意向で男性のみ、女性のみが採用されるケースが少なくないと思います。このような相談窓口の充実や悪質な事業主への働きかけなどを積極的に実施するような施策を希望します。（男性 40歳代）
- ・特にありませんが、もう少し働きやすいようになってほしいです。私の場合、母子家庭で、私ひとりで3人の子どもを世話していますが、ストレスだけが溜まる一方です。仕事と家事の両立でも、市役所や皆の協力で私たち家族は生きています。でもやはり息子を大学に行かせられるだけのお金もないです。今を生きるのだから精一杯です。そして子どもとの関わりも少なく、会話もなくなります。今書いた意見は主旨が違うでしょうか。（女性 30歳代）

#### ⑤セクシュアル・ハラスメントについて

- ・生物発生、人類発生の原点より生物学上、雌雄、男女の性差があり、太古よりその基盤の中で文化・文明が発展して現在に至っているわけで、男女の役割分担が必然的に生じてきました。現時点において全てを平等にということは無理があります。守らなければならない伝統、文化、行政に委ねたいのは、セクハラ、DV等重大な被害に会っている人に対する相談窓口、救済手助け等の充実を希望します。（男性 50歳代）
- ・セクハラだけでなく、パワハラに対しても意識する必要があります。（女性 50歳代）
- ・年齢が上がるほど、女性蔑視の考え方をする人が多いと思います。特に、女性が少ない職場の管理職には、セクハラ研修等を実施していくような施策を行ってほしいです。男性が多い職場では、セクハラ被害を訴えても、女性のわがままととられ、全く改善されず、泣き寝入りをしている状態です。（女性 20歳代）

#### ⑥男女共同参画全般について

- ・自治会役員に女性登用率の目標を挙げます。（女性 40歳代）
- ・人間として男女は平等ですが、役割は違うので全てが男女平等になるのはおかしいと思います。（女性 20歳代）
- ・なんでも平等にしたらいいいというものでもないと思います。男性と女性とでは体の仕組みが違うように、できることとできないことは必ずあるので、あまりに平等を押し付けられてもいかなものでしょうか。（女性 40歳代）
- ・共同参画は違いを認め、互いの基本的な特徴を活かし、より良い社会をつくることで、アメリカでも男女別のクラスの試みが始まっています。平等優先でなく、様々な場面で能力が発揮できる環境を提供するのが行政の役割だと思います。性の役割を基本に、互いを尊重する人間の生涯の幸せを創って、争いのない社会造りに導いて行ってください。命の教育が最も重要です。（男性 50歳代）
- ・私は学生なのであまり「男女～」を実感する機会がありません。（女性 20歳代）

- ・男女平等という意識がおかしいです。男と女、それぞれの役割があつてしかるべきです。  
(男性 40 歳代)
- ・自分の子どもは自分が育てる、他人に任せると立派な子どもに育ちません。男女差別はできるだけない方がよいですが、男女の区別は必要だと思います。介護もできるだけ、家族で見守ってけるとよいと思います。長男だからと押し付けるのはおかしいです。(女性 60 歳代)
- ・同姓でも平等でない世の中なのだから、男女という意識ではなく、1 人の人間・命としてお互いを尊重することが大切だと思います。(女性 50 歳代)
- ・企業は、ボランティア活動ではないので、女性でも男性でも仕事をがんばる必要があると思います。その中で、子どもを持つ家庭は誰かが主担当になると 1 日の限られた時間の中で仕事に力を注ぎきけることはやはり難しいです。家族の主担当になると、仕事が主ではられません。そうするとある程度企業の中での評価が下がるのは仕方ないと思います。家庭の主担当は女性になることが多いですが、男性になった時に企業の中で男性の評価が下がるのは 1 つの世帯としてもどうなのでしょう。か。(女性 30 歳代)
- ・意味も名前も聞いたことがありません。もっと市民が知るような活動をしなければ何事をする必要がないし、このアンケートをする意味がありません。ただの自己満足です。税金を使ってするのなら、男女を言う前に個人一人一人の平等を考えてほしいです。結局、知っている者だけが得をする社会は変わらないのではないのでしょうか。(男性 50 歳代)
- ・男女平等はよいことで決して悪いことではありませんが、だからといって女性が無理して男性と同等な立場、仕事をする必要はありません。男性には適していない、女性が適していることもたくさんあります。大いに、発揮すべきです。男女、お互いに認め合い、助け合って共同することが真の男女共同参画推進であると思います。(女性 50 歳代)
- ・男女差別とよく言われますが、男の人の力にはかなわない、女性でしかできないことというのは絶対にあります。例えば、職安で求人募集は男女の記入がある方がよいと思います。何もかもというのは少し違うような気がします。(女性 40 歳代)
- ・男女差別と大きく騒ぎすぎだと思います。相手を思いやる気持ちが大事ですし、男性、女性と能力に違いはあまりないと思います。能力だけを見れば平等でいいと思いますが、やはり男らしさ、女らしさは失ってほしくないです。この考えは一つ間違えば差別だととられます。別に差別だと思つてはいません。(男性 40 歳代)
- ・男女とも各人の権利を主張するばかりでなくお互いに許しあえる社会、ルール作りが必要です。  
(男性 50 歳代)
- ・共同参画はよいことですが、職場などで話をすると、女性社員は権利を主張する割に自分のスタンスを持たない、あるいは、大して何もしないのに意見ばかり言う、という方が多く見受けられます。もちろん男性にもいます。こういった人たちがさらに上のランクの給与、職位を求めたとしても無理です。それを捉えて、男性に比べて優遇されていない、というような考えがこの共同参画の取り組みで変に助長されないことを祈ります。(男性 30 歳代)
- ・ウーマンリブのように女性が男性化するのではなく、女性の持つ女性らしさも大切にした上での平等を期待します。何でも対等というのではなく、それぞれの特性を行かした上で、お互い補うことでうまくいくと思うので、そこを混同しないでいただきたいです。(男性 50 歳代)
- ・行き過ぎた男女平等は、無意味だと思います。男女の違いをそれぞれが認識し、お互いを敬うような社会になってほしいものです。(男性 30 歳代)
- ・男女に関することは、本当に難しいです。体力・肉体的な差は、何ともしがたいのは、厳然たる事実ですからずっと考え、問い続けるしかないのかなと思っています。また、このようなことを一生懸命に取り組めるのは、100 年に 1 度といわれる不況と言われても、食べていける生活ができていくからだと思います。日本、滋賀県、草津市にいて幸せです。ありがたいです。(女性 40 歳代)

- ・男だからとか女だからとかではなく、意欲のある人や、必要のある人について支援するのがよいです。やはり、男の役割や女の役割は必ずあるので、互いに尊重しあえる社会がベストだと思います。(男性 30 歳代)
- ・役所は人権等、法律上の平等は進めるべきだと思いますが家庭内の事情まで立ち入ったアンケートをとるのは誤っていると思います。男女は本質的に異なる特性を持っており、それを無視して何でも同じにすれば平等と考えるのは大きな誤りだと思います。男女が互いに権利を主張しあうより補い合い、支えあう関係が望ましいです。夫婦であれば互いに認めあう仲になります。亭主関白であろうが、かかあ天下であろうが他人がどうこういう問題ではありません。(男性 70 歳代)
- ・「女性の登用」について、「女性」という理由だけで登用すべきではないと思います。本来ならば「能力」で登用すべきで、「女性」という理由で登用しても数合わせにしかないし、「女性」を差別しているのと同じだと思います。私は女性ですが、女性の側の意識ももっと変わるべきです。共同参画は女性の優遇ではないはずです。日本人の女性は少女のまま大人になっているように思います。男性なら能力、実力で得るべきことを「女性」というだけで得てはいけないと思います。男女の違いは必ずあります。全く男女が同じはずはありません。家事は女性という意味ではなく、男性・女性について述べるのではなく、それぞれの個人の能力で判断すべきで、女性を全て同じものとして見てほしくはないです。男女ではなく個人、能力で判断すべきです。よって「女性」の登用とせず、「能力のある個人」の登用としてほしいです。能力のない女性でも登用するのであればそれはおかしいと思います。このアンケート自体無意味です。女性であっても男性であっても個人が幸せならそれでよいのではないのでしょうか。(女性 40 歳代)
- ・小さな頃からの環境を変えないかぎり、男女共同（平等）は現実的に難しいです。体力的な差などもあり、ある程度男女の差は付けた方が、お互い気を使わずよいと思います。(男性 30 歳代)
- ・性差が問題ではなく、人として相手を尊ぶことが求められるのではないのでしょうか。特に男女とする（分けるというか、表に出す）必要性を感じません。(性別不明 年齢不明)
- ・男女は元々同じ人間であっても身体つきも表面も違います。何か大きな男と女の違いをまず自覚しなければなりません。違いを知って、男のできること、女のできることをしっかり身に付けてから平等を言ってほしいです。平等であってもこれは平等（選択権）でいいけれども、何でもかんでも女性がでしゃばって女性の意識の低さがあまりにも目につきます。私も含めて反省しているのですが、女性はもっと利口な人になってほしいです。(女性 60 歳代)
- ・何もかも自由で平等というのは言葉の意味を取り違える人も多いと思います。中学生までの教育で、してよいことと悪いこと、自分が果たさなければいけない社会的責任など、また、公共のマナー等社会生活で最低限守っていかねばならない事柄の教育等の充実をしてください。制度上で自由であるとか、平等であるとか、行政が声を上げて下々まで意識が浸透していないと、今の何でも OK、他人に迷惑かけても OK の社会のままだと思います。男女同権もそんな上に築き上げられたらよろしいかと思います。(男性 40 歳代)
- ・男女平等って何ですか。男と女で適した物事があるはずですが。男と女が張り合っても意味がありません。男は男、女は女でお互いに尊敬していればよいと思います。そのような状態に持っていくべきだと思います。家事は外での仕事と同じく重要な仕事です。(男性 30 歳代)
- ・男女は平等であることが望ましいです。しかし、男性だからできること（例、力仕事など）女性だからできること（細かい事務的なこと）など、決して差別ではなく、資質的なものもあると思います。この部分を抜きにした平等が今叫ばれているように思います。(女性 40 歳代)
- ・問 39 の①のように「女性を多く登用する」というのではなく、能力に応じて登用すればよいのではないのでしょうか。このような質問をされる市の考え方を変えていただきたいです。(女性 50 歳代)
- ・60 歳になったばかりです。私共の年齢の時代には男は仕事、女は家事という風潮で育て、子育て、家事、仕事を一人でやって来て体を潰してしまい、通院中です。今になって少しは女の仕事（家事、育児）が大変だということがわかってきたかどうか知りませんが、あまりにも女性を軽視しているとしか言えません。やはり子どもの頃からの家庭や学校での男女共同参画を望みます。(女性 60 歳代)

- ・結局は、その人本人の問題であると思います。私の祖母は私が台所に立つことを助けてくれませんが、祖母にとってはそれがよいことなのだと思います。男女がという考え方をなくすことが一番だと思っています。(男性 20 歳代)
- ・偏見がなく人間として「らしさ」が相方を活かし、お互いに品性、品格を助けるのでないかと考えます。広義で男女不平等などとは考えません。(男性 70 歳代)
- ・差別と区別の棲み分けをきちんとすべきだと思います。何でも違いを差別としてしまえば、結局女性が暮らしにくい社会になってしまうように思います。男と女とは身体も心も作りが違うのだから、お互いが支えあえる社会を実現してほしいと思います。また仕事に関しては、職種によってそれぞれ特性があるので、何もかもを一つの器で考えるのは難しいと思います。私は平等な社会より、暮し易く支えあえる社会を実現してほしいです。それが幸福な社会ではないでしょうか。(女性 40 歳代)
- ・男女平等は、憲法でも示されている通りですが日本独特の古くからの風土もある程度、重んじるべきだと思います。男女が平等に参画できる条件を整えるとよいと思いますが、人としてのモラルを向上させる教育をすべきです。(男性 40 歳代)
- ・よくわかりませんが、私は、男女は平等ではないと思います。女の立場で言わせてもらおうと男の人には、やはりかなわないし、女は子どもを産んで育てることが一番の使命だと思います。仕事を持つ女の人がいてもよいですが、やはり両立は難しく、その分誰かに迷惑をかけたり、特に主人に対して、「私も働いているのだから」などと言ったりして家庭のバランスが崩れます。主人に養ってもらっていることに感謝して、尊敬して、そしたら子どもも父の存在を軽くすることもないし、まともに育ちます。私も前は仕事を持っていましたので、経験から言わせてもらいます。昔ながらのことが、やはりよいこともあります。世の中だんだんおかしくなってきた 1 つは女が強すぎることで。(女性 30 歳代)
- ・男女平等とは言っても、体力も力も違うので、その人の能力を活かしたらよいと思います。男女の前に 1 人の人間としてみてもらいたいと思います。男だから、女だからではなく、その人にとってはどうかという見方がよいと思います。(女性 30 歳代)
- ・「男女」「男女」と強調すること、差別があると強調することが一番の男女差別だと思います。個別の性別として、肉体的特徴も大きく分かれているのですから、個体の性別として有効な部分を最大に伸ばし、難しい部分を別の性別の人間がカバーしていくとは考えられないのでしょうか。男性は女性にはなれないし、女性もまた同様です。性別という身体的特徴がなぜあるのかという基本的な要因を除いた最近の「男女平等」「男女共同」の議論に疑問を感じます。(性別不明 30 歳代)
- ・女性と男性には生物学的に大きな違いがあります。それは、単に子どもを産むことができるか否かということではなく、考え方、行動、価値基準など、脳の働きとして異なる傾向があります。現在の社会の仕組みは、今まで「男性が外で働く」という概念をもとに作られてきています。その中で女性を労働力として必要とする時代に変化していくのであれば、男女間の違いに対する理解が不可欠であると感じます。男女共に、甘やかすことではなく、お互いの能力について考え方について、違いを知り、その上で個々の仕事のあり方を考えていくべきだと感じます。決して、男女を同じ扱いにするということのみが、「平等」ではないと思います。(女性 20 歳代)
- ・草津市にとって、男女共同参画の何が不十分で達成によってどのようなメリットがあるのか具体例を挙げてほしいです。特に女性自身が共同参画に何を望み、何を望んでいないのか抽象的な概念でなく、市民の声を掲載してほしいです。(男性 20 歳代)
- ・女性が少し不利なことに対して、このようなアンケートがあるのは間違っていないですか。何か言ったら女性のためとか、女性に対して、などと言われますが、いろいろなところで女性も優遇されているところもあると思います。それに対してはどう思いますか。納得のいくような答えを出してください。(男性 30 歳代)
- ・私、76 歳です。○を付けた所は自分のしてきたことだけです。田舎では男女平等とは程遠いです。これから少しでも利にかなうような生活ができればと思います。(女性 70 歳代)

- ・実現に向けて形式的にしましたではなく、真に実行され、市民一人一人までの意識づけになるように望みます。数年前ですが、出初め式の際、市長が「〇〇の妻として」と功労を労っておられたのはショックでした。まだまだ年配の方の中には、女性を男性の付属物とみなしている方も多く、女性を慰めものにしてあります。そういう意識の人が多くいることは悲しいことです。私はその被害を受けましたが町内会では全く相手にされず、女性役員や民生委員の方からも触られるのは当たり前と言われショックでした。今では、町内会活動が恐ろしくてできません。私のような被害者が1人も出ませんように願います。(女性 40歳代)
- ・特にありませんが、女性の方々の全体の意識を変えることも必要ではないでしょうか。男女共同参画について意識の高い方とそうでない方では、大きな差があるように思いますし、また、意識の高い方は少ないと思います。女性の中には、少なからず、自分の問題として捉えた場合、男女共同参画は、女性の方にそれなりに責任と義務が発生しますから。(男性 40歳代)
- ・昔から日本は、男の後ろを女が歩くような風習があるので、女性が表舞台に立つのは、少なからず反発があります。女性の社会進出が悪いとは言いませんが、それにより、少子化に拍車がかかっているのは間違いないと思います。難しい問題だとは思いますが、男が女を見下すのも、フェミニスト連中が差別だなんだと騒ぎたてるのも、両方くだらなく思えます。身体的・体力的に異なるのはどうしようもないので、お互いの意見、意思を尊重できる社会が望ましいです。(男性 20歳代)
- ・男女差別と区別の考え方を明確にすべきです。男女の役割が異なる点があることを考えるべきです。男女共同(同じ)でなければいけないことを考えるべきです。(男性 40歳代)

#### ⑦男女共同参画の推進について

- ・地域にはいろいろな人材が眠っています。行政だけが掲げる美しい謳い文句の計画に、どれだけ共感したり行動してくれたりする人を開発するか、待つのではなく地に足をつけた行動が必要だと思います。条例を活かすには、細かく具体的に自らの行動指針、また行動を發起させるような行動力や人材が必要だと考えます。魅力的であれば、現実的であれば、人も集まり、自由な発想もでき、1つでも行動は達成されると期待できます。(女性 50歳代)
- ・これから成長社会を担っていく小学生・中学生には、男女の身体的な特徴による区別(一般的に男性と女性では、女性の方が力が弱いなど)と、差別(女性だけに特別な更衣室を設けるなど)の違いを明確に理解してほしいです。そのために学校での授業は工夫してほしいと思います。幼い頃にできた意識は大人になっても残るものだと思いますので、基本的なことを学習する小学生・中学生の子どもたちの意識に注力してほしいです。(女性 20歳代)
- ・枠にはめない、企画化しない、緩やかな流れの中で幅広く進めていくべきです。施策だと思うので、男性も女性も子どもも高齢者も皆が幸福になる社会をめざしてほしいです。日本の中で草津は住みやすいと言われるようにがんばってください。(女性 50歳代)
- ・社会(管理職、事業主など)がしっかりと男女共同参画の趣旨を実行するよう啓発することです。理解したと実行しているとは異なることが、同和教育で重々承知されていることです。現実的には人間の奥深い所を改良するには、小学校・中学校からの学校教育で実行することが大切です。小学校・中学校でパワハラ・セクハラが教員同士・教員と子ども間に起こっていないか検証してスタートすべきです。市役所内でも大丈夫ですか。(男性 50歳代)
- ・草津市広報にお年寄りでも見てわかるような絵等を入れ、理解しやすいものを作成してほしいです。(女性 50歳代)
- ・市が施策を実施しても、市民が知らなければ意味がないので自らが興味を持つよう意識改革するだけでなく、自然と施策が情報として入るような対策を検討してほしいです。(男性 30歳代)
- ・障害者や作業所の人たちのふれあいをもっとしてほしいです。男女共同参画を他の人にもわかってほしいです。(女性 20歳代)
- ・草津市に住んで3年になりますが、以前にいた土地よりずっと男と女の差別が多いように感じます。女性の意識も低いように思うので、是非、活発な活動を期待しています。(女性 50歳代)

- ・実施する施策の内容、目的、あるいは手段、方法等について子どもから老人まで全市民にわかりやすくPRしてほしいです。(男性 60歳代)
- ・難しい問題だと思います。価値観の変化と種の繁栄という観点からも、社会学者や法律家、生物学者などの専門家と十分協議、議論して、すばらしい自治体をめざしてください。本当によい社会(人としてあるいは生物として)とは一体どのような社会なのでしょう。(男性 30歳代)
- ・子どもの教育に当たり前にそれぞれ平等という教育とそれを教える先生への指導が必要です。食育を子どもの時から、また親にも教えるべきです。(男性 20歳代)
- ・学校教育は差別と区別をきっちり教えるべきです。チャンス(機会)は平等であるべきですが能力・努力・格差は必ずあります。そこをいかに共存させるかでしょうか。何でも差別と言い出すと何もできないし、弱者ばかりが得をする社会にもなりかねません。(男性 30歳代)
- ・海外で音楽通りがあるように琵琶湖湖岸を音楽通りにし、ジャンルにこだわらず音楽で差別の啓発を行うべきです。ヨーロッパ並みにできた場合、人が集まる町、草津市が注目されるはずです。(男性 40歳代)
- ・形式的な会合や研修会ではなく、活動面や行動面を行事として積極的に取り入れていくべきでしょう。(男性 70歳代)
- ・皆が目に触れることができる広報のやり方を考えてほしいです。(男性 40歳代)
- ・男女共同参画社会の実現に向け、一人一人が気楽に参加できる集いを設けてもらいたいと思います。(女性 50歳代)
- ・内容をわかりやすく、市民に説明する機会を設けてください。(男性 20歳代)
- ・一番効果があるのは初めから、特に小学生までに正しい教育をすることだと思います。即効性はありませんが、確実に世の中が変わると思います。草津市行政に期待します。(男性 40歳代)
- ・男子だから、女子だからでなく、同じ視点でものを考え、発言でき、実行できる環境を作ることから始めるべきだと思います。(男性 70歳代)
- ・よりよい未来に向け、過去にとらわれず進んでください。(女性 20歳代)
- ・母子家庭への支援に比べて父子家庭への支援が少ないと聞きます。父子家庭への支援を母子家庭と同様に厚くすること、それも男女平等ではないでしょうか。草津市の人権に関する考え方を広報などで見ていると「差別はなくすべき」とか「大安、仏滅などはおかしい」などありますが、差別は当然なくすべきですが、その他は1つの意見に縛られずに自由に広く論議していくことが大事ではないでしょうか。差別は皆なくしたいと思っていますが、なかなかなくなるのはなぜか、本当に深く探ってほしいです。表面的に「やめましょう」「だめです」だけでは変わらないと思います。(女性 30歳代)
- ・推進計画等を進めるためには主に意識改革や啓発活動、学習機会等は20、30、40歳代の人たちを主に計画すべきです。(50代、60代等高齢者は時期喪失で長期的展望計画とすべきです。)(男性 60歳代)
- ・子どもを育てていますが、学校に行っている間は男女平等となっていますが、社会に出ると、そうではなくそのギャップが激しいと思います。学生にも会社等で、職場体験を増やし、現実を感じてほしいです。(女性 40歳代)
- ・いろいろなことを実施する必要性はあまりないと思います。実施することにより税金を使い、無駄が生じるからです。自然に任せて、どうしても必要なものやどうしても必要なことにお金を使ってほしいと思います。男女平等、男女共同参画を推進して、いい面も悪い面も生じると思います。平和になり、平等になりすぎて現在の乱れた世の中になっているのかもしれない。(女性 60歳代)

- ・市がプライバシーの問題にどれだけ踏み込めるでしょうか。DV・セクハラが表に出ない場合が多く、申告して明らかになる場合がほとんどです。また、企業が関係する雇用・育児・介護については企業に余裕がなくなり、時代に並行して悪化するのではないのでしょうか。市のサポートの限界を感じます。(男性 50 歳代)
- ・市民(私の)意識が不足しているのが問題ですが、よりわかりやすい啓発活動をお願いします。また一方でバランスの良い施策も必要と感じます。(男性 60 歳代)
- ・仮名言葉の文書が物事の理解を弱める主因ではないでしょうか。あまりにもカタカナ言葉が多すぎ理解されず公報等も読まれずにいるのではないのでしょうか。(男性 70 歳代)
- ・男性・女性それぞれ個人には個性と特性があり、男だから、女だからといっても適応性があるかが問題であり、男女関係なく、選択の自由を第一に考えるべきだと思います。選択の自由の範囲が難しく、義務としてのすべきことは、責任を持ってさせることです。権利と義務を明確に示すことも大切だと思います。最近、権利主張が強く、義務を忘れていていると思います。ボランティアに参画することも社会生活を営む上での一種の義務だと思うし、学校教育(小学校・中学校)の中で、十分教育・指導する方がよいと思います。(男性 50 歳代)
- ・草津市がよりよくなるようにがんばってください。学校教育の中で子どもたちに小さい頃から正しく意識づけすることが大事だと思います。学校教育にとっても期待しています。男女の性差は、実際科学的にも証明されていますし、そのへんの特徴をふまえて小学校・中学校・高校の間にその時代(発達段階)に合った意識づけができればよいと思います。何でも男女平等というステレオタイプの考え方は現実にはそぐわないと思います。(女性 40 歳代)
- ・日常生活においてまだまだ女性に対するいろいろな形での差別があることを常に感じています。問 39 の市が特に力を入れるべきだと思うのはどれも重要なポイントで、意識改革はそう簡単なことではないと思われませんが、少しずつでも前進していったらいいと思っています。(女性 60 歳代)
- ・学校教育で男女平等を教えるのは難しいです。元々、男女の体力の差などがあり、「男は男らしく、女は女らしく」という考え方は、ある程度必要だと思います。しかし、男だから、女だからという差別は間違っていると思いますので、その辺をどう教育するかです。(性別不明 年齢不明)
- ・まず「男女共同参画社会基本法」とは何かを啓発するべきです。その存在すら知らない市民が大多数であると推測されます。その反応・反響で次の手立てを考えるべきです。(男性 50 歳代)
- ・教育・研修など、学習することによって人はそれまでの認識を変えることは可能であり、学習機会の充実を図ることは大事だと思います。(女性 40 歳代)
- ・狙いを明確にしてほしいです。推進してどうなるのでしょうか。どうなっていくのか具体的に示してほしいです。(男性 30 歳代)
- ・身近な自治会活動が隣近所で推進がなかなか困難なように思われますが、自治会の中に条例などに関して位置付けて、人材学習の必須とする(同和のように)とか、同和環境の委員会を設ける自治会があるので、男女共同の推進員を同和のように設けます。推進員やリーダー養成をし、組織化することで市全体での推進をします。(女性 60 歳代)
- ・ぜひとも、市民が男女共同参画の意識改革を高めるべく取り組み・機会を(セミナー他)多く設けてほしいです。問 39 の答えに(10. その他に)あげた施策の実施を条例にあげてほしいです。(女性 60 歳代)
- ・多くのメディアを活用して、取り組みについて広報してほしいです。一部の市民だけでなく、多くの市民に考えてほしい問題だと考えます。(男性 30 歳代)
- ・この条例についての内容など、詳しいことがわからない方が多くいると思います。実施するまでに策定する趣旨やプランなどを市民に知らせていく必要があるのではないのでしょうか。(女性 40 歳代)

- ・「男女共同参画」という言葉は法的またはいかにも官制用語であり、もっとソフトにまた若者にアピールする用語やシンボルになるものはないでしょうか。(草津市で作って全国に広めることはできないでしょうか。)(男性 60 歳代)
- ・若い世代は、子どもの頃から男女共同参画社会についての教育を受けているので固定観念はそれほど強くないと思います。それにも関わらず、男女共同参画が建前論のように聞こえるとしたら、それは支援の拡充が進んでいないためだと思います。今後は、啓発よりも現実の支援体制の整備に重点を置いてもらいたいと思います。(女性 20 歳代)
- ・決定事項や推進の様子をなるべく早く知りたいです。(性別不明 年齢不明)
- ・同和問題もそうですが、男女共同参画のための研修会や学習会などは、とても無意味だと思います。(男性 30 歳代)
- ・市民が参加するイベントで広報活動を行い、意識しやすいようにしたり、街中、目の付くところに PR ステッカーなどを用い、広く知らせるとよいと思います。(女性 40 歳代)
- ・まず、世間に知ってもらうことが必要だと思います。アンケートが来たから知ったくらいで、情報がなかったため、具体的なことはわからないままでした。まだまだ男女間での見えない差別があると思います。家庭環境が一番影響あるでしょうし、どうしても小さい頃からの男女観は変えられないので難しいかもしれません。(女性 20 歳代)
- ・市の広報などを通じて、推進計画の内容を示し、定期的の実績や新たな問題などを示してほしいです。また、諸内容に関するアンケート用紙を添付して送るなど、民意が少しでも反映できる仕組みも考えてほしいです。(男性 50 歳代)
- ・現在、日曜日の月末においての講習会が多いので、どこかで平日にするなり、土曜日を使って、日曜日の集会は避けて頂きたいです。(男性 40 歳代)
- ・税金を使って、市の自己満足な施策にならないようにしてください。市役所の上層部、また教育機関の上層部には、女性を「接待の対象」としか見ていない管理職がたくさんいます。(名前を挙げたいくらいです。)まず、市の足元から正すべきではありませんか。(男性 40 歳代)
- ・いくら表面的に法律等で平等をめざしても、世の中のほとんどの大人とその影響を受ける子どもたちは、本質的に古い考えのままだと感じています。小学校 2 年生くらいまでの子どもが持つ、本当に人間の内側から湧き出てくる純粋なものを大人が殺してしまわないように、子どもと接する人、また教育に携わる人は細心の注意で子どもを育てていく、皆がそういう意識を持ち、人間というものを考えられれば、法律などどうでもよいように思います。(女性 20 歳代)
- ・男性に意識を促すだけでなく、女性にも男女平等の意識をつける政策をすべきだと思います。就労面や、出産・育児・家事の面での男女不平等の問題は社会進出をしたい女性にとっては弊害になっており、改善すべき問題だと思いますが、一方で、男女の役割分担(すみわけ)がある方が暮らしやすいと思っている女性も未だに多いはずで、本当の意味で「男女共同参画」をめざすなら、男性はもちろん、女性にも意識づけをする必要があります。私は女性ですが、女性だけでなく、男性にも各種相談窓口を設けたりしてあげてほしいと思います。いろいろな考えが男性にも女性にもあるので、どの道を選ぶのが正解と言えるかは難しいですが、男女ともに多様な生き方を選択できる社会になってほしいです。(女性 20 歳代)

## ⑧男女共同参画推進計画について

- ・この条例が無駄にならないような取り組みを願っています。(女性 30 歳代)
- ・市が実施する施策は具体的にいつ決まり、どんなメンバーで、どんな内容が決まろうとしているか見えてきません。またあることも知りませんでした。知ろうと思ってないのも問題ですが、なぜか身近に感じられません。これが一つの課題ではないかと思っています。(男性 50 歳代)

- ・条例の制定を知りません。計画の策定を予定とのことですが、市民への周知徹底が十分なのでしょうか。(知らないのは私だけですか。) うち、ホームページを見られませんが、申し出はたぶんしません。お互い(市と市民)これでよいのでしょうか。現状では、個人的に関心を持ってません。(女性 40歳代)
- ・草津市男女共同参画推進計画の策定は希望し、期待します。最後に人として男らしさ・女らしさを忘れないように啓発推進できればよいと思っています。(女性 50歳代)
- ・男女共同参画という観点で施策を考えると、男性または女性どちらかに対しての優遇・規制になってしまいます。男女共同参画でなく市民全員参画となるように、多くの職業や家庭環境、個人の能力などの構成要素を組み合わせた、市民一人一人がよりよく生活できるような施策をつくってほしいです。(男性 40歳代)
- ・抽象的な計画・活動とならないよう、(市民一人一人が、自分たちのこととして考えられるよう)実際に進められることを策定し、成果が得られる「簡単なこと」や「身近なこと」から、スタートすることが大切ではないでしょうか。机上の空論は、市民にとっては他人事になります。(女性 50歳代)
- ・積極的に市民全員に浸透する施策の実施をよろしくお願いします。(男性 40歳代)
- ・女性が差別される傾向が多いのですが、条件によっては男性が差別されたり、セクハラやDVを受けたりすることもあります。男性への配慮も計画の中に含んでほしいです。(男性 40歳代)
- ・転入したばかりではございますが大変興味好感のある推進計画だと思います。草津市が平和で豊かな町になるとても喜ばしいことです。私たちも積極的にいろいろな活動に参加させていただきたいと思っています。(女性 50歳代)
- ・若い男性が参加できる推進計画を策定してほしいです。若い女性が多く参画し、常識外れの者(1部片寄った考え方)の人たちの集まりになる場合に、教育のねじれが女性の非常識の結果で世の中の歪みを生んでいます。(男性 70歳代)
- ・女性の権利を押し上げる施策は結構ですが、男性の権利を押し下げる施策については不要だと思います。(男性 20歳代)
- ・実効のあるものにしてください。(男性 70歳代)
- ・計画の策定は男女、老若などのバランスを取ったメンバーで実施すべきだと思います。(男性 40歳代)
- ・新しいことに取り組み、始めることも大事なことだと思いますが、一方、行政改革にも徹底的に取り組んでいただき、目に見える形の実績を見せていただきたいです。(男性 50歳代)
- ・条例を制定したり、計画を作ったりするのはよいことだと思いますが、具体的効果が見られるのか疑問です。作成することで形はできた、という満足感を得るだけにならないように役所の方はがんばってほしいと思います。(女性 30歳代)
- ・具体的な計画をもっとアピールすることが必要です。知らない人も多いと思います。(女性 50歳代)
- ・どこかの政党のように、履き違えた平等意識は害悪となります。特に問5を見てぞっとしました。行政が率先して行うべきはインフラ整備です。公務員のように恵まれた環境(現実として男性が育休をとれる環境など)を民間でどうつくっていくか、意識改革はあくまで、その中の一施策であるということを強く自覚していただきたいです。(男性 30歳代)
- ・形だけ、あるいは口先だけで言ったり、なぞるだけでは何も変わることはありません。意識レベルを変えないことには、同じところをぐるぐる回るだけです。市が実施する施策に希望があるとしたら、バリバリ仕事ができます。例えば女性、意見をあまり言えない女性、若い女性などで新たに計画を立てられた上で、行動力のある看板に立てる男性の協力を得て、男女共同ですばらしいものを作ってほしいです。(女性 40歳代)

- ・策定はよいのですが、それを強要しては意味がありません。(男性 30 歳代)
- ・良い施策を期待します。(男性 30 歳代)
- ・草津市、男女共同参画推進条例の制定にあたり、制定委員により多くの女性を参画させて頂きたいです。条例制定後の運用が大事であり、女性の目、耳、感覚で推進してほしいです。  
(男性 70 歳代)
- ・男らしさ、女らしさ、一方的に否定せず、男女の特性を認めあい、互いにその人格と役割を認めることを基本にしてほしいです。「家族の絆」、「生活の知恵」など日本の伝統と文化及び地域的特性を破壊しないようにしてほしいです。草津市の条例を読みましたが、「美しき誤解」を招きそうです。国の「共参」基本法の本質は、フェミニズムに沿った極めて偏った内容だと思います。山口県宇部市の男女共同参画条例のような基本理念で進めてほしいです。(男性 60 歳代)

## ⑨男女共同参画推進条例について

- ・条例の内容が確認したいと思いますので、送付してください、お願いします。(女性 60 歳代)
- ・「草津市男女共同参画推進条例」の制定を知りませんでした。この条例と言いますか、市が実施する施策について知ってしまうような施策をお願いします。そして、この条例についても、知ってしまえるようなサプライズをお願いします。どうもありがとうございました。(男性 30 歳代)
- ・条例を策定するのは非常によいことだとは思いますが、条例がどのように運用されて私たち市民の生活を変えてくれているのか、全く目に見えず、実感できません。策定したからには必ず実行して、目に見える形で結果を出し、わかりやすく報告してほしいです。(女性 20 歳代)
- ・この条例の内容をよく知りません(なぜ、いつ、どうしてできたのでしょうか。)どの位の予算案で進めるのかも耳に入って来ません。(男性 60 歳代)
- ・男女それぞれに特性があり、男女同権には限度があると思います。条例自体に賛同しかねます。  
(女性 50 歳代)
- ・「草津市男女共同参画推進条例」第 12 条について、市政全般に渡って、組織的にジェンダーの視点を持った上記 12 条が深く行き渡って推進されることを希望します。「草津市男女共同参画推進条例」第 23 条について誰もが利用、訪れやすい交通の便の良い所に拠点整備されることを希望します。若い人にとってセンターは必要だと思います。(女性 60 歳代)
- ・条例名が長く、浸透しにくいのではないのでしょうか。もう少し誰にでもわかりやすいネーミングはないのでしょうか。企画倒れにならないようにしてほしいです。今更、私たち熟年夫婦の生活は変わらないでしょうが、若い人々が親世代と違う新しい夫婦関係が築ける社会になってほしいと願っています。そのためにも女性が職業を持ち、子どもたちががんばっている親の姿を見せてほしいので、年齢制限なく女性が働ける場所が増えることを願っています。(女性 60 歳代)

## ⑩市政について

- ・市民税・県民税、その他、滋賀県民、草津市民として働き、納税し生活しているにもかかわらず、県も市も一世帯または個人に対する広報や連絡のお知らせ等が全くありません。自治会費と関連しているのでしょうか。これは大きな過ちだと思います。もっと草津市としては各世帯を大切にしなければ市政からも遠ざかり、しらけてしまいます。それが一番の問題点ではないのでしょうか。もっと関心を持っていただき、草津市を日本のモデル都市として成長するよう、努力すべきです。  
(男性 40 歳代)
- ・ボランティア活動の推進で、市民との輪を広め、温もりある草津市にしてください。  
(男性 60 歳代)
- ・全てに差別のない市政と均衡のとれた市政を望みます。(男性 70 歳代)

- ・関連する仕事の結果、効果が検証できる仕組み、税金の無駄遣いにならないようにしてほしいです。(男性 60 歳代)
- ・市が決定するさまざまな規定や制度などがきちんと実行・反映されているか調査するのもよいと思います。市の職員の皆様はお忙しいでしょうが、大事なことではないかなと思います。(女性 20 歳代)
- ・①滋賀県の現知事嘉田さんをご参考にすることを提案します。理由は辛抱強く男女差の意識が全くありません。当初の目標が段階的に達成されています。嘉田さんの教育レベルは高いです。現在の大阪府知事、京都府知事の行政コンセプトのベクトルが合っています。②立命館大学、大津の龍谷大学との連携はいかがですか。(男性 70 歳代)
- ・行政は他にすべきです。(男性 40 歳代)
- ・①電話相談や、相談窓口が昼間だけでなく、夜間もあるといいと思います。②いろいろなサービスの提供もよいですが、市民がつけたい力を学習できる場を多様な場や時間で充実してほしいです。ネットを使った学習なども効果的ではないかと思います。③父親・母親学級のような親の学習会を出産前、小学校入学前、中学校入学前等に実施してほしいです。これからの子どもたちが人権を尊重する人となるためにまず親の教育から大切にしてほしいです。(女性 40 歳代)
- ・福祉の方にもっと力を入れて予算を組んでほしいです。安心して老後を過ごせるように充実してほしいです。買物などに行くために福祉バスが地域を回ってくるとよいです。(女性 50 歳代)
- ・男女共同よりも、そこまで辿り着けない若者たちがたくさんいると思います。引きこもりや、プータロー等です。しかしこの人たちは、好きでフラフラしているのではなく、人に話せない悩みが一人一人にあるのではないのでしょうか。見た目は普通でも、心の根底には、人との輪に入れないなどいろいろな、小さい時からの心の傷などにきちんと向き合ってくれる心のケアの場を増やす必要があるのではないのでしょうか。そういう人たちが働ける職場も必要です。クリニックでは精神安定剤をくれるそうですが、そういうものではないのです。(このアンケートから外れてすみません。)(女性 50 歳代)
- ・制度を作る以上、成果(費用対効果)の検証をしっかりと行ってください。(男性 60 歳代)
- ・このような施策を行うのは大いに結構ですが、現在(1/10)の世の中の状況を見る限り、そのようなことを今やるべきではないと思います。現状をしっかりと捕らえた上で地方自治体として、まず必要なことを優先するべきだと思います。勇気がいるかと思いますが、一時ペンディング(保留)してみてもどうでしょう。(男性 20 歳代)
- ・同和推進、共同参画、2つのプロジェクトを1つにされたらとも思います。「ピープル」も土曜日、日曜日を使って頂けるよう、開けてもらってください。(男性 40 歳代)
- ・制度、インフラの遅れ、子どもを預ける施設さえありません。(男性 50 歳代)
- ・問37にある相談窓口について、相談窓口があまりにもいろいろと多くあります。(公民館も含めて)公民館の職員も多すぎます。私の地域にある公民館などあれで給料をもらって働いているのでしょうか。それともボランティアでお手伝いをしているのでしょうか。疑問です。給料を支払っているならば税金の無駄遣いです。無駄な施設は即刻廃止すべきです。(公務員の天下り先がなくなるのでしょうか。)(女性 60 歳代)

## ⑪アンケートについて

- ・このようなアンケートをされても、それがどのような結果になり、どのように活用されるかわからなければ意味がないと思います。何らかの形で発表していただきたいです。答えていても、もうひとつぴんときません。3,000人で何人返事が返るかわかりませんが、切手代がもったいないように思います。(女性 50 歳代)
- ・法律(条例)でやるものではありません。このようなアンケートをするお金があるなら弱者対策をすべきです。お金の無駄です。(男性 40 歳代)

- ・難しい問題をお尋ねいただいてびっくりしています。毎日家の中で家事などに追われて、外にもあまり出ません。世情に疎くなっています。満足に解答できなくて申し訳ありません。  
(女性 70 歳代)
- ・アンケート作成をはじめ、この企画にご尽力くださりありがとうございます。集計も大変かと存じますがよろしくお願ひいたします。草津市も旧来の所と新しい住民の方のところとの差が著しくあると思います。その当たり抽出アンケートで満遍なく選ばれているとは思いますが、回答にずいぶん差が出ると思います。なぜですか。(女性 50 歳代)
- ・1～10 項目いずれも重要かつ大切なことです。こんなアンケートは草津市に住んで 20 年有余となりますが初めてです。今頃なぜでしょうか。もっと早くやるべきだったと思います。市においてプロジェクトを組み、是非、推進してください。応援していきます。(男性 70 歳代)
- ・アンケートの質問項目が不完全で適切な回答項目が見つからないものがありました。  
(性別不明 年齢不明)
- ・男女は違うのが当たり前、同じは困りませんか。変なアンケートでした。お役人は暇なのですね。ご苦労様でした。(男性 50 歳代)
- ・難しいアンケートでてこずりました。もっと気楽に答えられるようであれば、回答率も低く、アンケートの意味がありません。アンケートをとったところで、それが施策に影響を与えるのか甚だ疑問です。(女性 30 歳代)
- ・4 の問 12 の設問の仕方は不親切です。(男性 40 歳代)
- ・アンケートの最後に、条例の内容について、なぜ書かないのですか。誰もがパソコンを持っているとは限らないと思いますので、見られないのではないのでしょうか。郵送についても、わざわざ申し出る人も少ないと思います。(女性 40 歳代)
- ・無作為抽出と言いながら、今回も当ててしまいました。手抜きではないのでしょうか。アンケートをどう活かしたか、具体的な施策をどうしたか、きっちり回答者に報告すべきだと思います。残念ながら草津市政には満足していません。(男性 50 歳代)
- ・税金の無駄遣いです。各個自力で解決すべき、自主自立です。(男性 60 歳代)

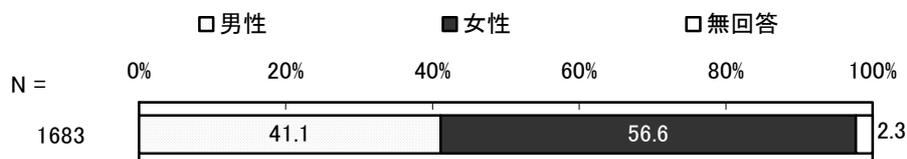
## ⑫その他

- ・あまりありませんが、不景気の中で仕事と家庭、プライベートをとる時間が難しくなってきました。将来明るく暮らしていけるよう、行政がしっかりと取り組んで失敗がないよう責任をもってがんばってください。限られた税金の中でしっかりしてください。(男性 20 歳代)
- ・私は今年 74 歳になります。夫婦とも年を取っていますので介護のことなどが心配です。今後、草津がよりよいまちになりますように、よろしくお願ひいたします。(女性 70 歳代)
- ・自分自身は一人暮らしですが子どもがそばにおり、全く心配なく趣味に没頭している毎日です。住みよき草津のためにご活躍をお祈りしております。電子機器は一切ありませんのでできれば郵送してください。(女性 70 歳代)
- ・①市営の駐輪場を利用している人(特に学生)で「2 人乗り」、「傘さして」の出入りは法律違反なのに市も警察も知らぬ顔です。②迷惑条例をもっと幅広く、厳しく願ひます。③男女差別というと、男性の方が上または強いイメージですが、今の女性は強く、男性を尻に敷く状態です。  
(男性 60 歳代)
- ・現在、南笠東で生活していますが、この辺は大学生が大変多く、夜など、近所の公園で花火をしたり、マンションの部屋で朝方まで騒いだりして、頭が変になりそうな時があります。このまま一生我慢して生活しなければいけないのですか。草津市から、各大学に何か指導の徹底をしてもらえないのですか。(男性 30 歳代)

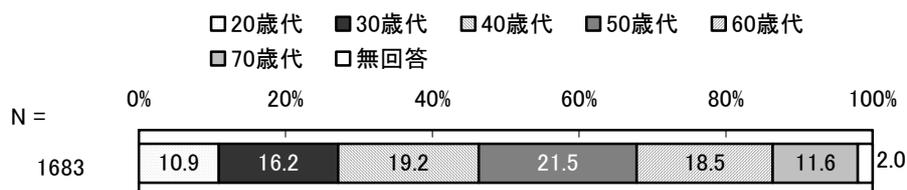
- ・とてもよいことなので、大変うれしいです。事業主などに対して「草津市男女共同参画推進条例」の制定を働きかけてほしいです。私にとって役場のイメージが大変悪いので、役場等からも働きかけてほしいです。5年前ですが、昔引っ越して来てすぐ、手続き中に「新しい住所は覚えておられないのですか」とばかにされ、笑われた嫌な思い出が今も頭に残っています。(若い男性でした。相談委員に見えませんでした。)今もこの対応だと思うだけで、役場のイメージが大変悪いです。本当に信じられません。頭にきています。(私は女性です。)(性別不明 年齢不明)
- ・窓口がいろいろあってもなかなか相談する勇気がありません。また個人情報知られるのが嫌です。(女性 70歳代)
- ・市役所に行くにもバスはないし、巡回バスもなく草津の病院にも行けず、市バスもなく本当に便が悪いです。(南笠東3丁目老人より)(女性 70歳代)
- ・別の話ですが、気になることで「同和」という言葉をなくすことによって、同和問題はなくなると愚考します。同和に対してお金を使うことに反対です。(男性 70歳代)
- ・市窓口、受付は女性に限らず、男性が受付に立っても(入っても)よいのではないのでしょうか。受付嬢でもよいですが、受付爺でもよいのではないのでしょうか。ありがとうございました。私共も参考になり嬉しく思います。(女性 50歳代)
- ・よいと思います。(男性 20歳代)
- ・この計画を推進する前に他人に迷惑をかけない等、もっと住民の意識を高めることが大切です。学校教育も大切ですが、家庭での教育(しつけ)をすることです。仏を作って魂を入れずになります。(男性 60歳代)
- ・不勉強だったので、これから考えます。(男性 70歳代)

## (10) 回答者属性

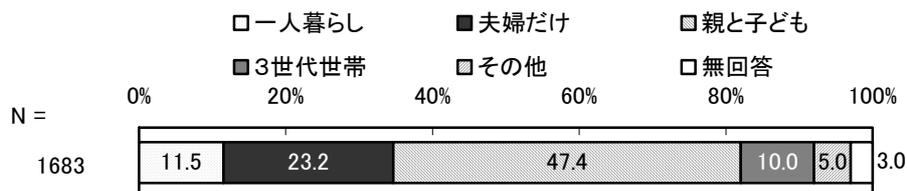
問 41 A あなたの性別は。



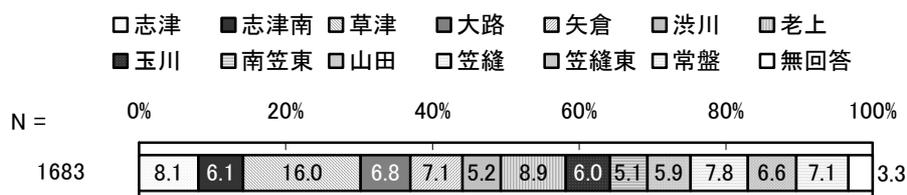
問 41 B あなたの年齢は。



問 41 C お宅の家族構成を次のように分けると、どれにあたりますか。



問 41 D あなたのお住まいの地域はどこですか。



問 41 E あなたは草津市に住んで何年になりますか。

